

第 2 回
國學院大學卒業生調査報告書
(Ⅱ. 詳細)

目 次

第1章 調査結果（詳細）	3
問1 属性.....	3
問2 学修方法	8
問3 学修の成果	22
問4 大学の満足度	43
問5 就業状況	51
問6 学生時代に身についたと思う能力	59
問8 インタビューへのご協力依頼	86
第2章 経年比較.....	89
問2 学修方法	89
問3 学修の成果	103
問6 学生時代に身についたと思う能力	119

第 1 章 調査結果（詳細）

第1章 調査結果（詳細）

問1 属性

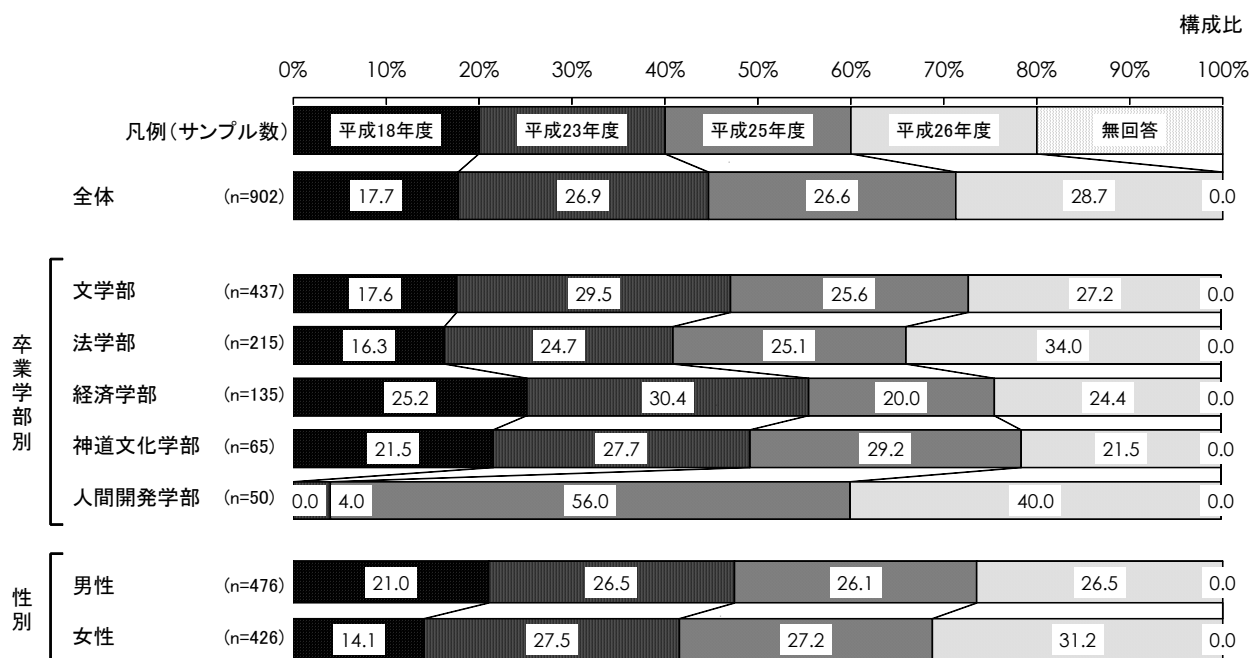
1. 卒業された年度をお答えください。

卒業年度は、「平成26年度」が28.7%と最も多く3割程度を占めている。次いで「平成23年度」（26.9%）と「平成25年度」（26.6%）がそれぞれ26%台で、全体の4分の1程度を占めている。一方、「平成18年度」は17.7%と2割弱にとどまる。

卒業学部別にみると、文学部と経済学部は「平成23年度」、神道文化学部と人間開発学部は「平成25年度」、法学部は「平成26年度」がそれぞれ最も多く、学部により傾向が異なる。また人間開発学部については、「平成18年度」の卒業生は含まれていない。

性別にみると、男性は「平成23年度」「平成25年度」「平成26年度」がそれぞれ26%台とほぼ同じ割合となっている。一方、女性は「平成26年度」が31.2%と3割を占め、他の年度よりも割合が高くなっている。

図表1－1 卒業年度（SA）



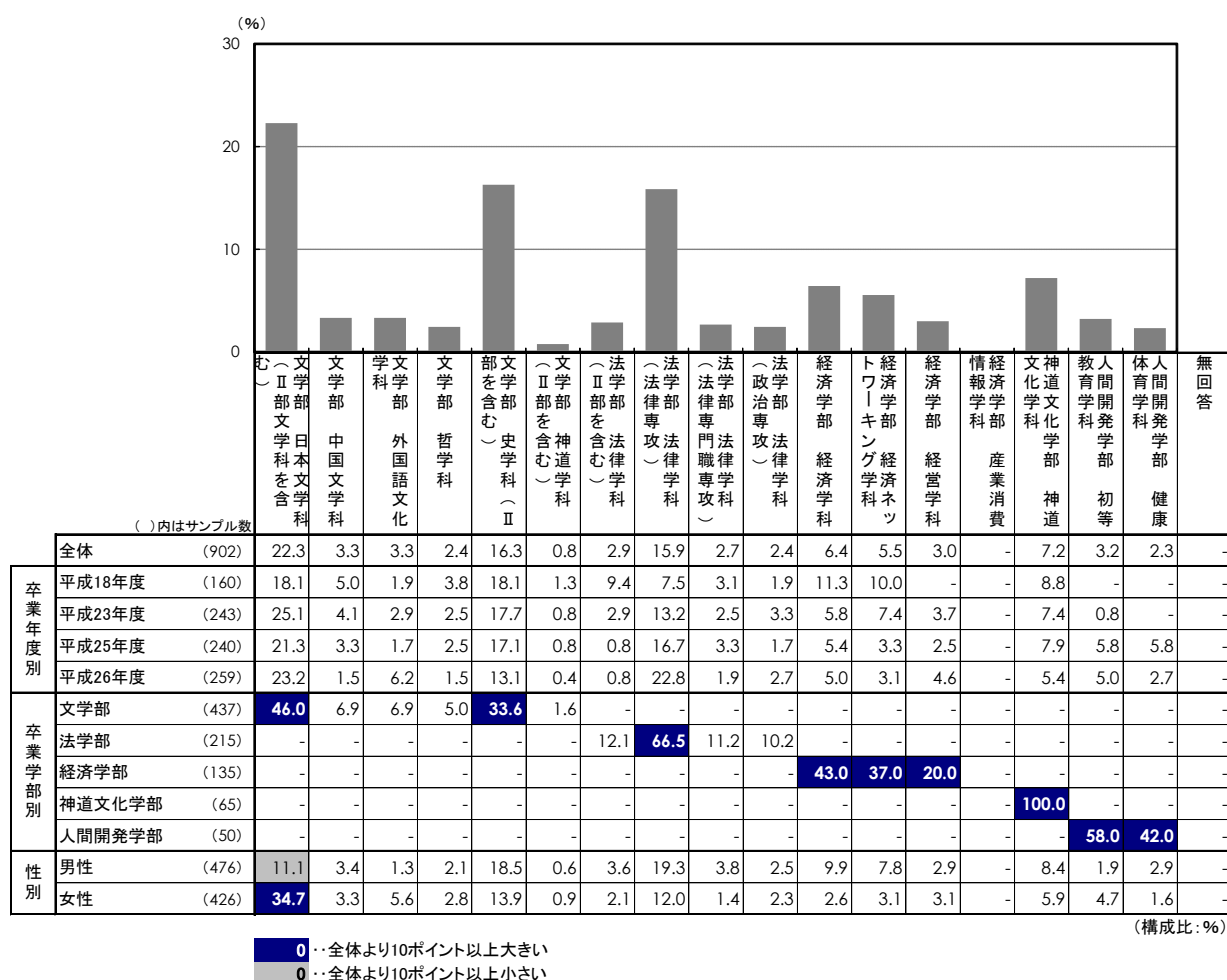
2. 卒業された学部・学科をお答えください。

卒業学部・学科は「文学部 日本文学科（Ⅱ部文学科を含む）」が最も多く 22.3%、次いで「文学部 史学科（Ⅱ部を含む）」が 16.3%、「法学部 法律学科（法律専攻）」が 15.9%などの順となっている。また、「経済学部 産業消費情報学科」は 0%と卒業生からの回答はなかった。

卒業年度別にみると、いずれの年度にも「経済学部 産業消費情報学科」は含まれていないが、その他、平成 18 年度卒業生には「経済学部 経営学科」、「人間開発学部 初等教育学科」、「人間開発学部 健康体育学科」が含まれておらず、年度によって構成が異なる点に注意する必要がある。

性別にみると、男性は「法学部 法律学科（法律専攻）」が 19.3%で最も多く、次いで「文学部 史学科（Ⅱ部を含む）」が 18.5%などの割合が高いのに対し。女性は「文学部 日本文学科（Ⅱ部文学科を含む）」が 34.7%で、全体の 3 分の 1 を超えている。

図表 1－2 卒業学部・学科（SA）



3. 年齢をお答えください。(2017年4月1日現在でお答えください。)

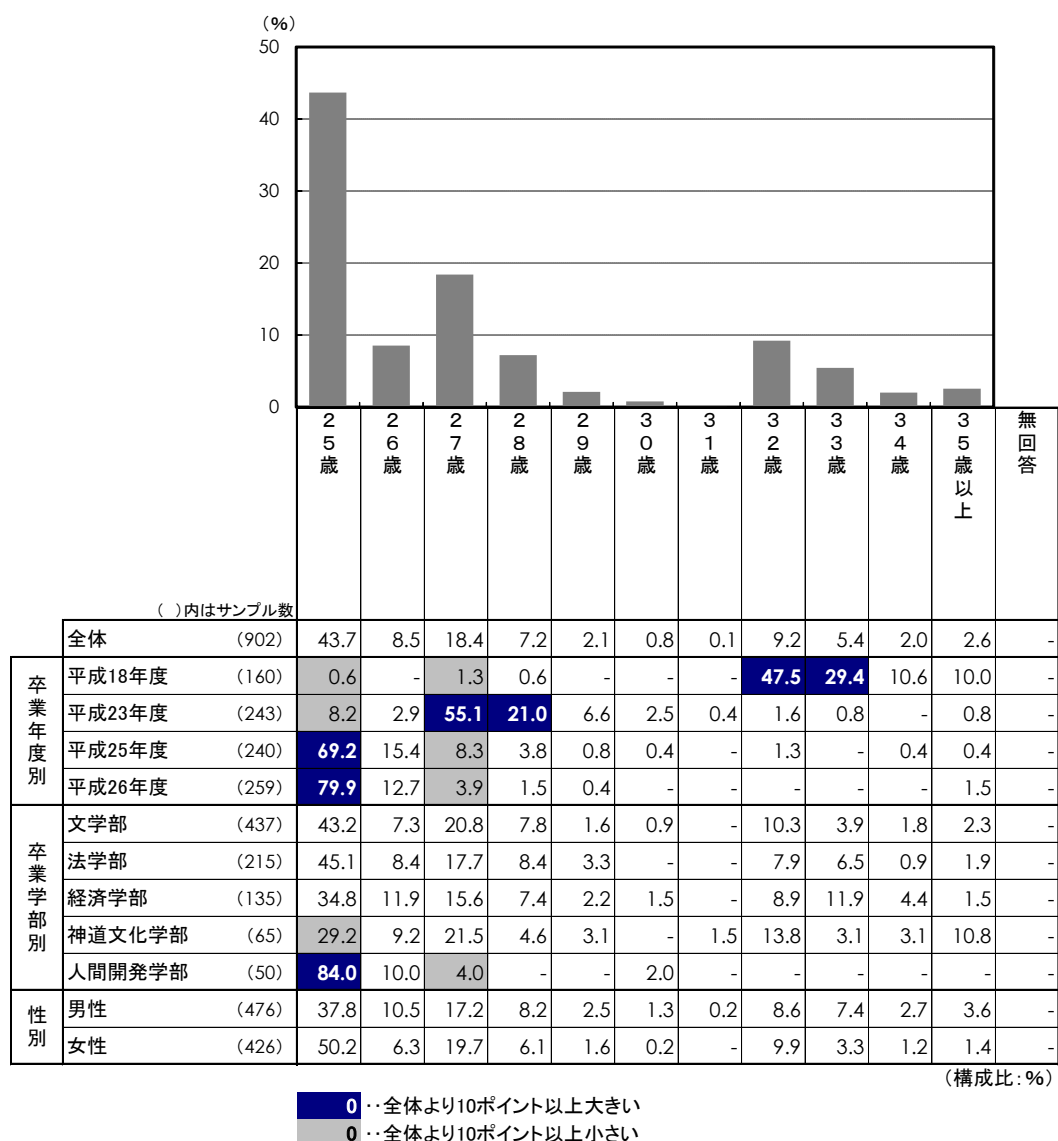
年齢は「25歳」が最も多く43.7%と4割以上を占めている。次いで「27歳」が18.4%と約2割、「32歳」が9.2%で約1割程度をなっている。回答が正規分布しないのは、調査対象者の抽出年度が非連続であることが一因である。

卒業年度別にみると、平成18年度卒業生では「32歳」と「33歳」が多い。同様に、平成23年度卒業生では「27歳」と「28歳」、平成25年度と平成26年度卒業生では「25歳」がそれぞれ多くなっている。

卒業学部別にみると、新設の人間開発学部は「25歳」が84.0%と8割以上を占め、他学部と傾向が異なる。また神道文化学部は、「35歳以上」が10.8%となっており、他学部に比べ年齢が高い傾向がみられる。

性別では、男性、女性ともに「25歳」が最も多く、男性は37.8%、女性は50.2%となっている。

図表1-3 年齢（SA）



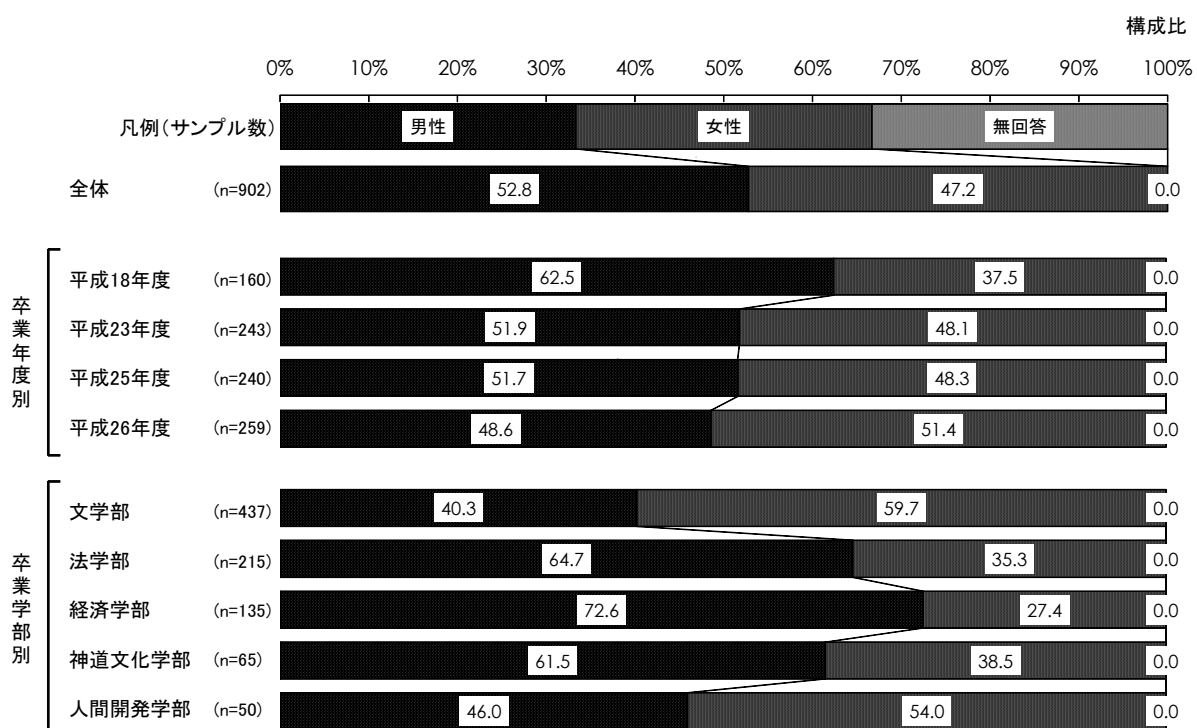
4. 性別をお答えください。(1つ選択)

性別は、「男性」が52.8%、「女性」が47.2%で、男性の回答が女性を上回っている。

卒業年度別にみても、平成26年度は「女性」が「男性」を上回っているが、それ以外の年度ではいずれも「男性」の割合が「女性」を上回っている。

卒業学部別にみると、文学部と人間開発学部は「女性」の割合が「男性」を上回っており、それぞれ59.7%、54.0%となっている。

図表1-4 性別（SA）



5. 現在の居住地をお答えください。

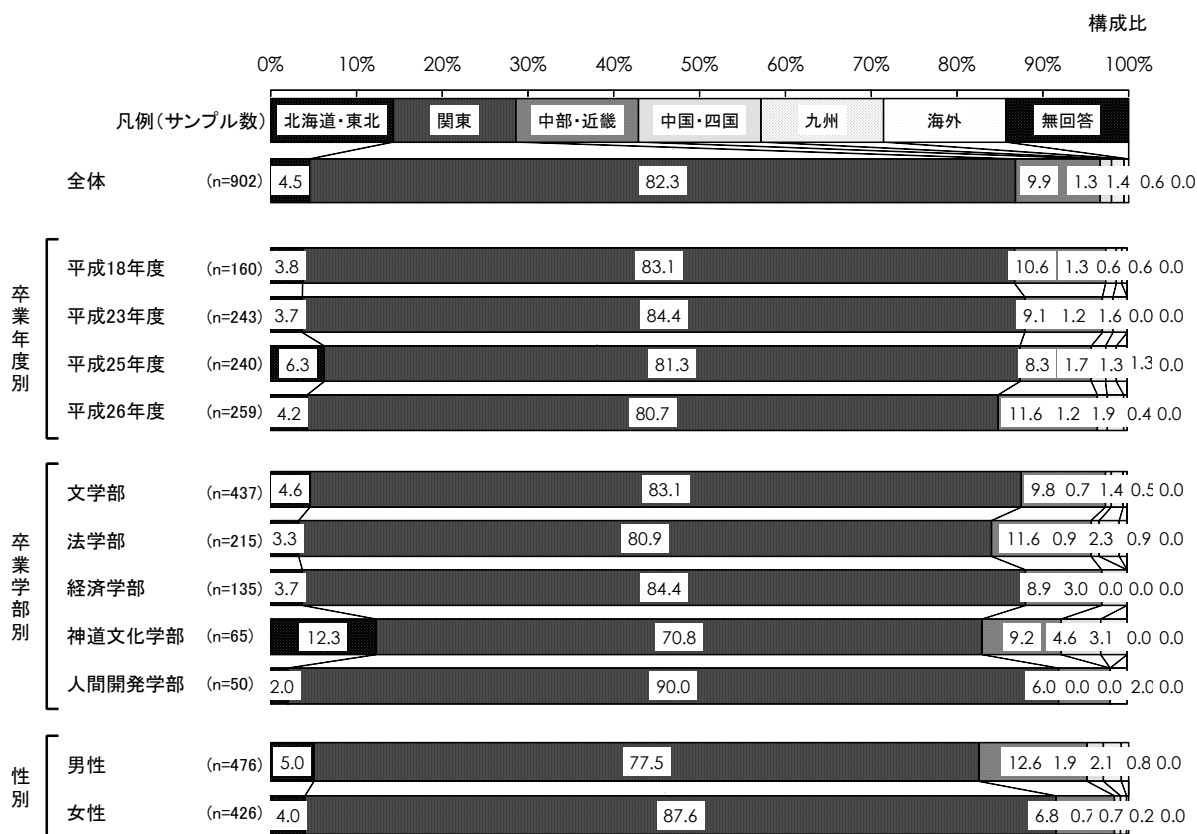
居住地は「関東」が最も多く 82.3%、次いで「中部・近畿」が 9.9%、「北海道・東北」が 4.5% などの順となっている。

卒業年度別にみると、いずれの年度も「関東」、「中部・近畿」、「北海道・東北」の順となっている。

卒業学部別にみると、神道文化学部において、他学部に比べて「北海道・東北」の割合が 12.3% と高いのが特徴である。

性別でみると、男女ともに「関東」、「中部・近畿」、「北海道・東北」の順となっているが、女性の方が男性より「関東」の割合が 10 ポイント程度高くなっている。

図表 1－5 居住地（SA）



問 2 学修方法

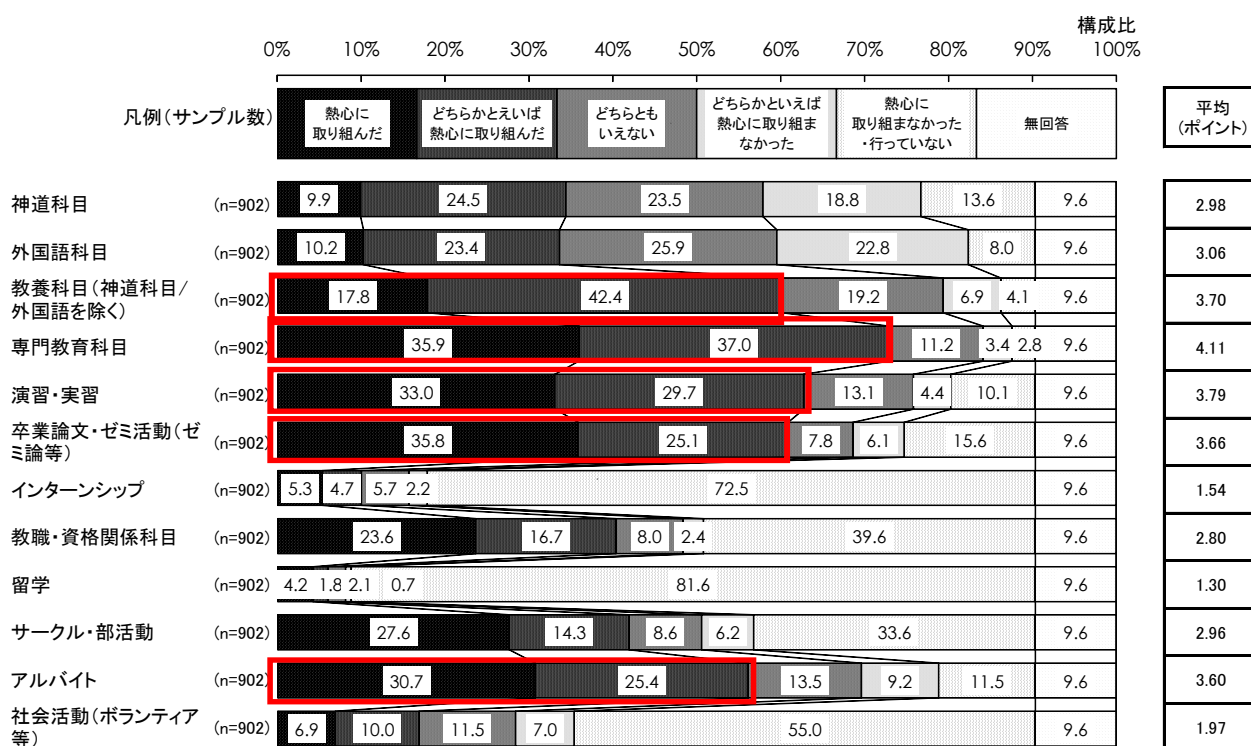
1. 学生時代の学修等への取組状況をお答えください。(それぞれ1つ選択)

科目別に取り組状況をみると、「熱心に取り組んだ」と「どちらかといえば熱心に取り組んだ」を合わせた割合が高いのは、[専門教育科目]が最も高く72.9%、次いで[演習・実習]が62.7%、[教養科目（神道科目/外国語を除く）]が60.2%などの順となっている。

加重平均をみると、最も点数が高いのは[専門教育科目]で4.11ポイント、次いで、[演習・実習]が3.79ポイント[教養科目（神道科目/外国語を除く）]が3.70ポイントなどの順となっている。

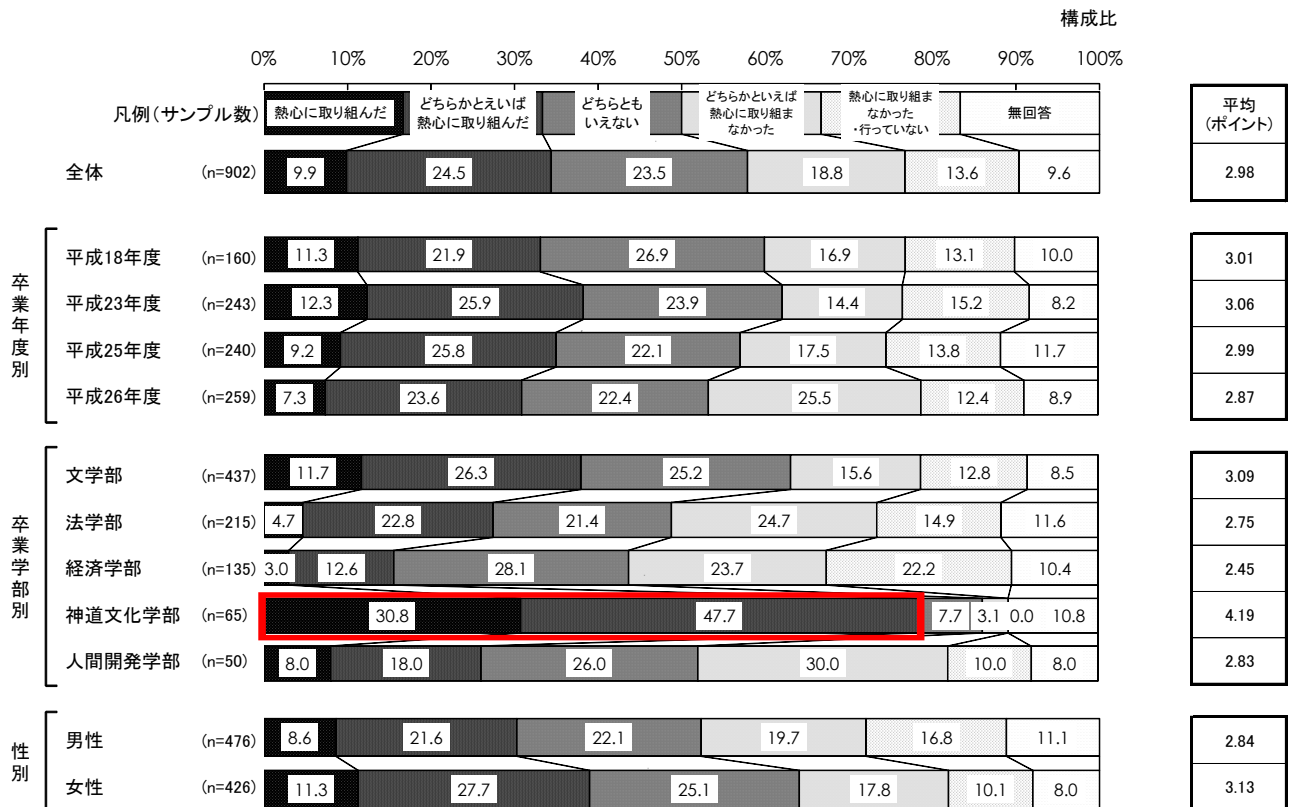
逆に点数が最も低いのは[留学]で1.30ポイント、次いで[インターンシップ]が1.54ポイント、[社会活動（ボランティア等）]が1.97ポイントなどの順となっている。

図表 1－6 取組状況（SA）

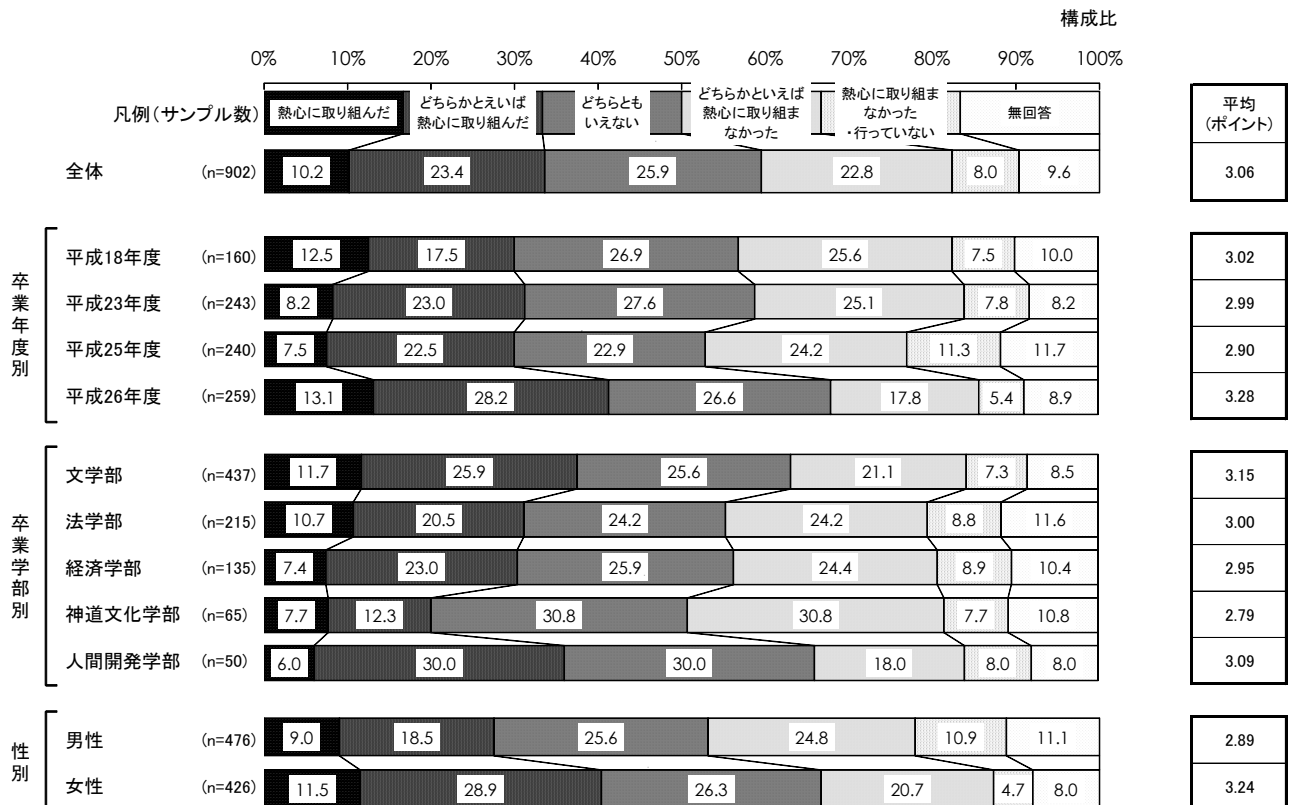


※「熱心に取り組んだ」5ポイント、「どちらかといえば熱心に取り組んだ」4ポイント、「どちらともいえない」3ポイント、「どちらかといえば熱心に取り組まなかった」2ポイント、「熱心に取り組まなかった・行っていない」1ポイントで平均を抽出。

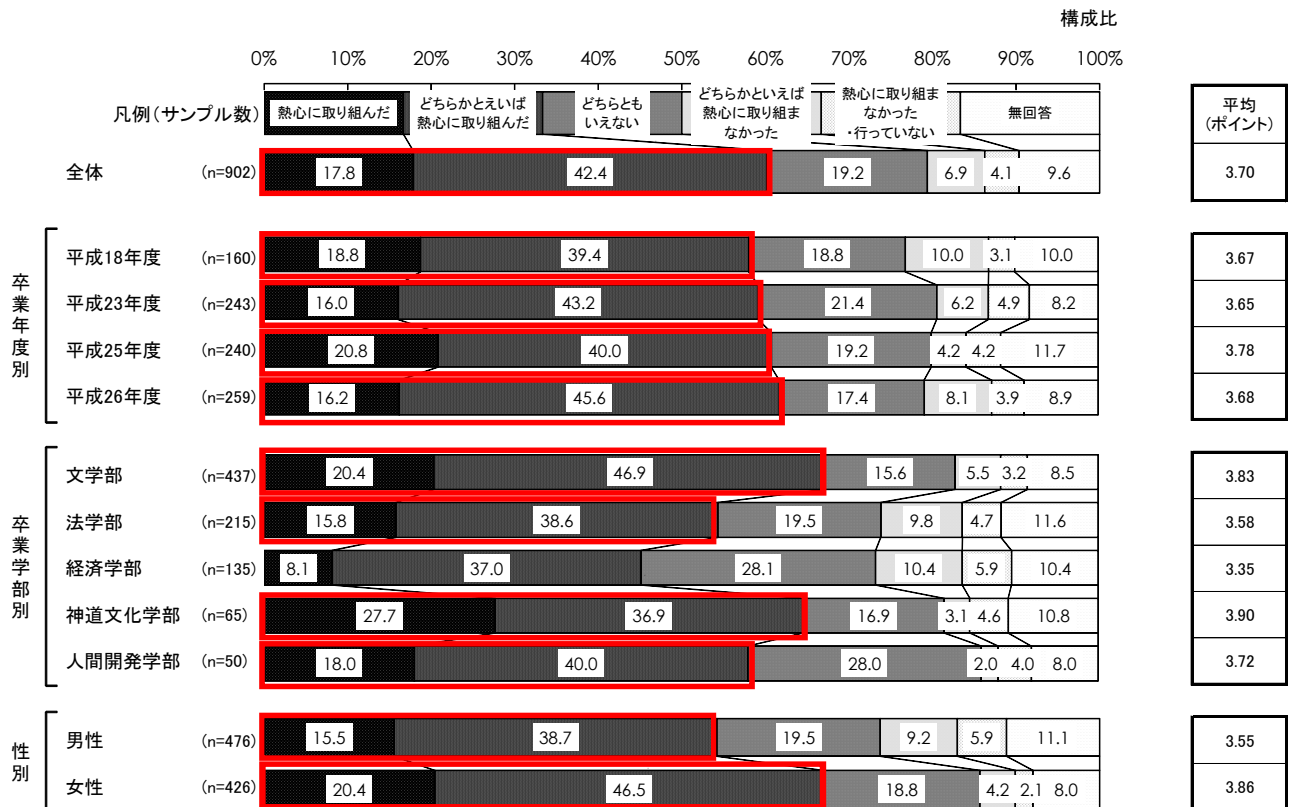
図表 1－7 神道科目（SA）



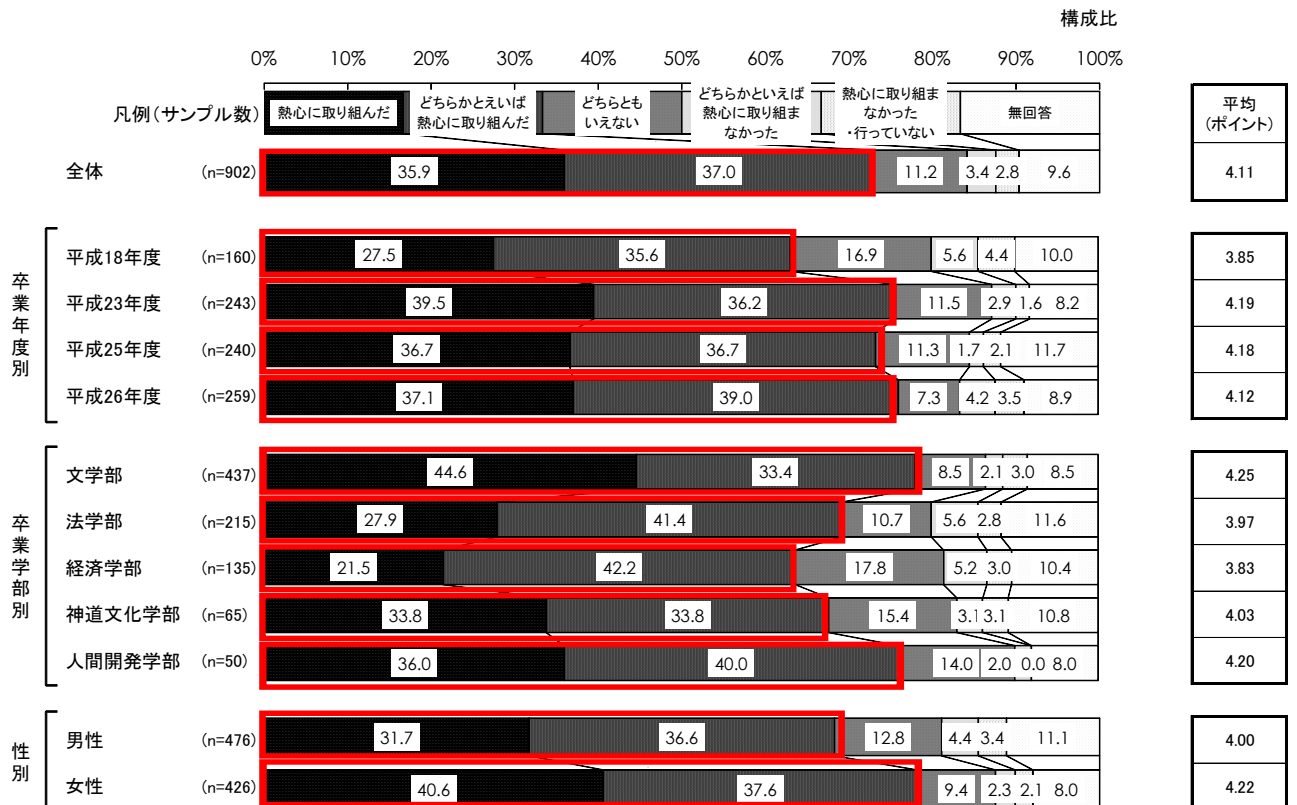
図表 1－8 外国語科目（SA）



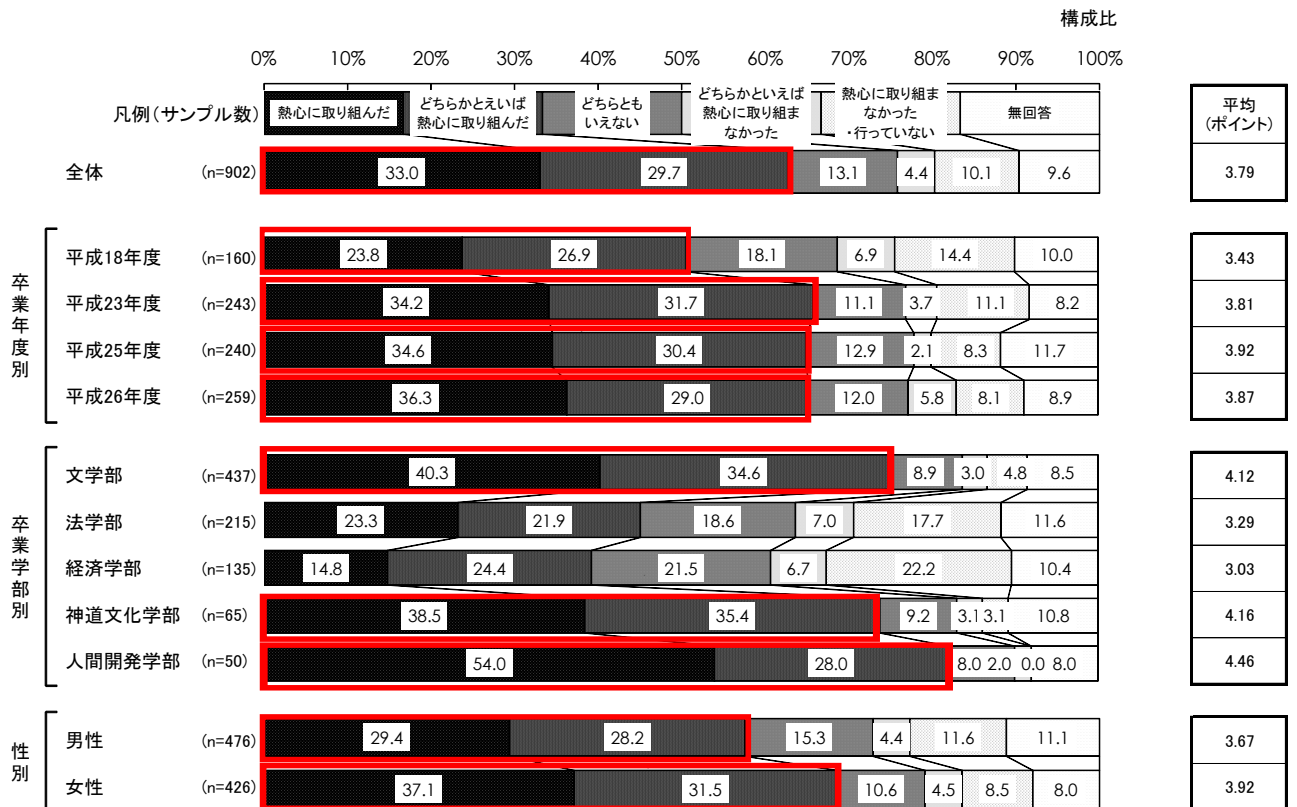
図表 1－9 教養科目（神道科目/外国語を除く）（SA）



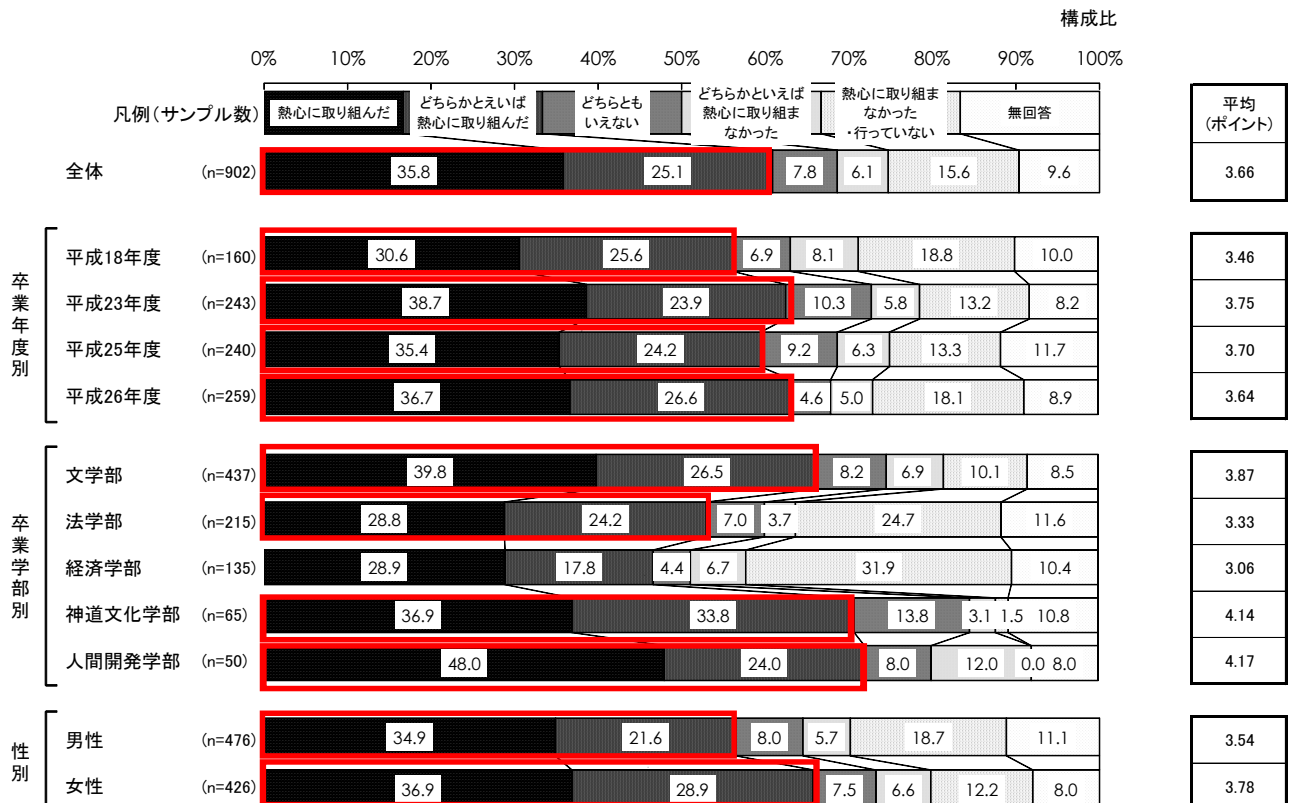
図表 1－10 専門教育科目（SA）



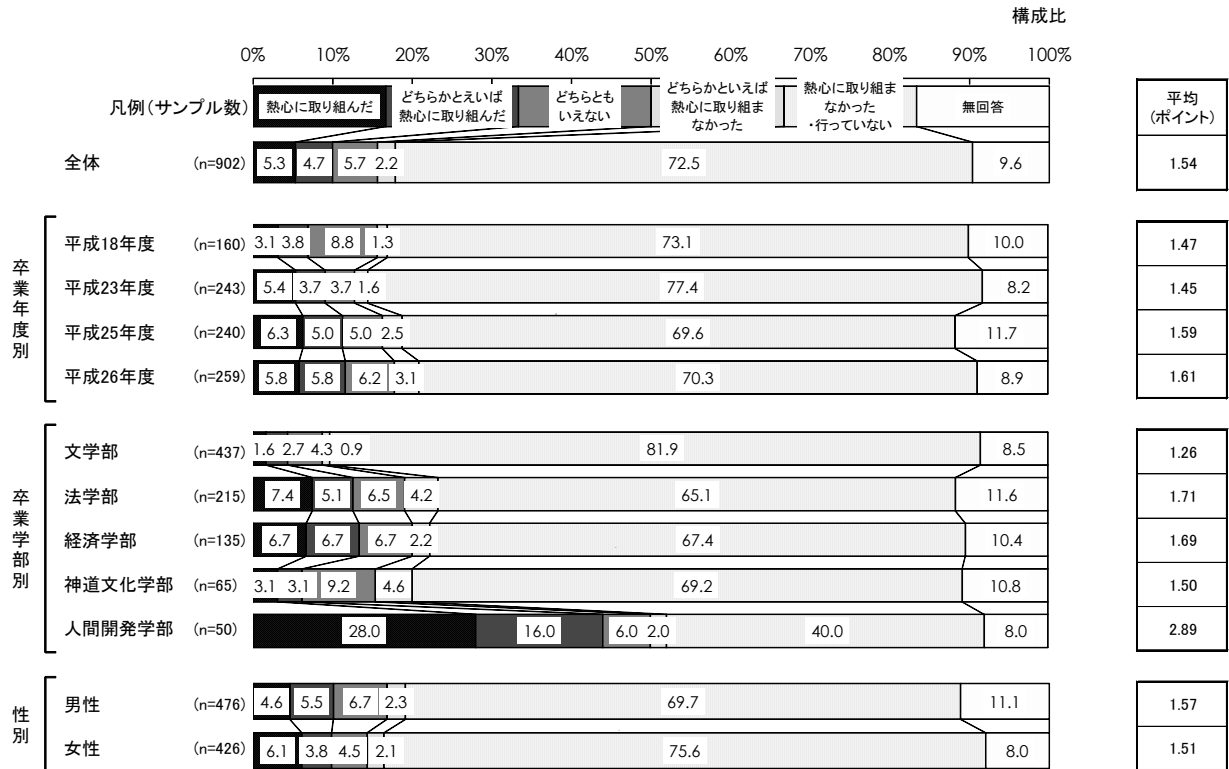
図表 1－1 1 演習・実習（SA）



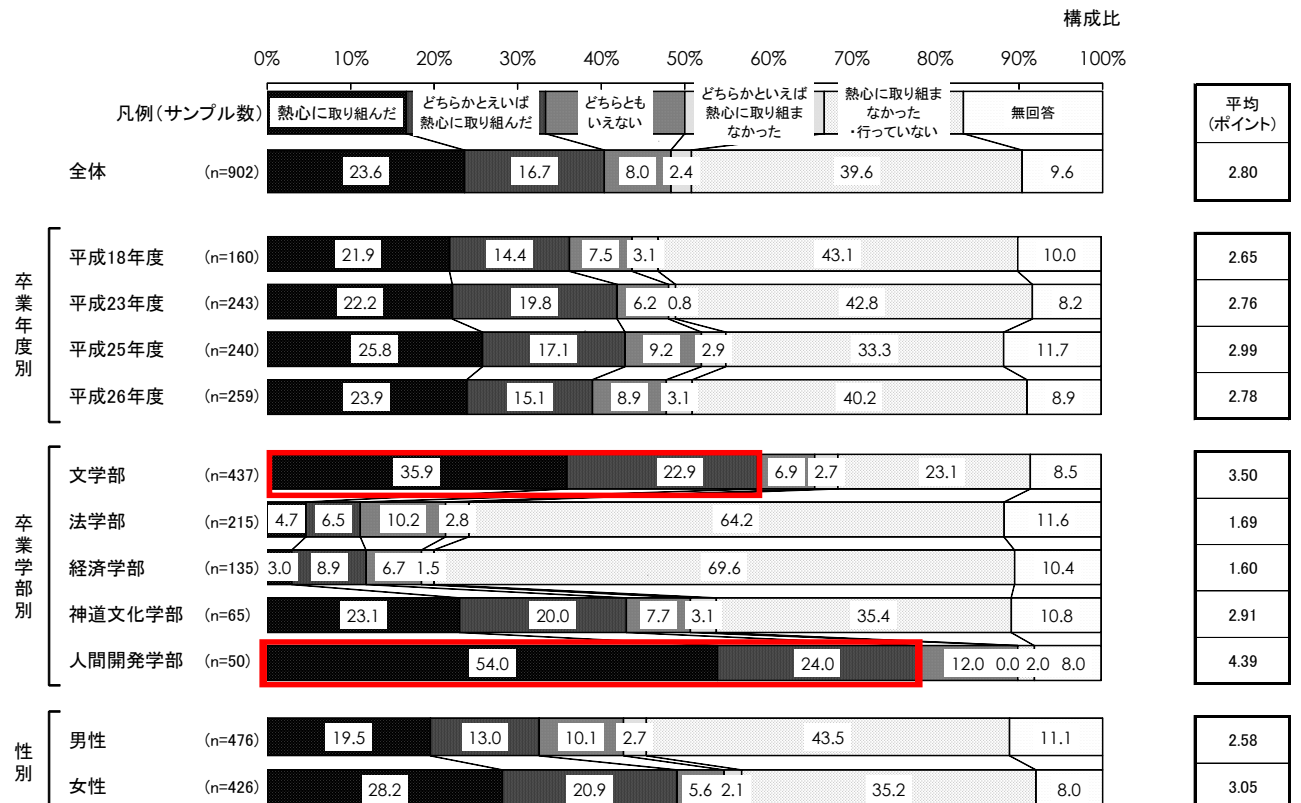
図表 1－1 2 卒業論文・ゼミ活動（ゼミ論等）（SA）



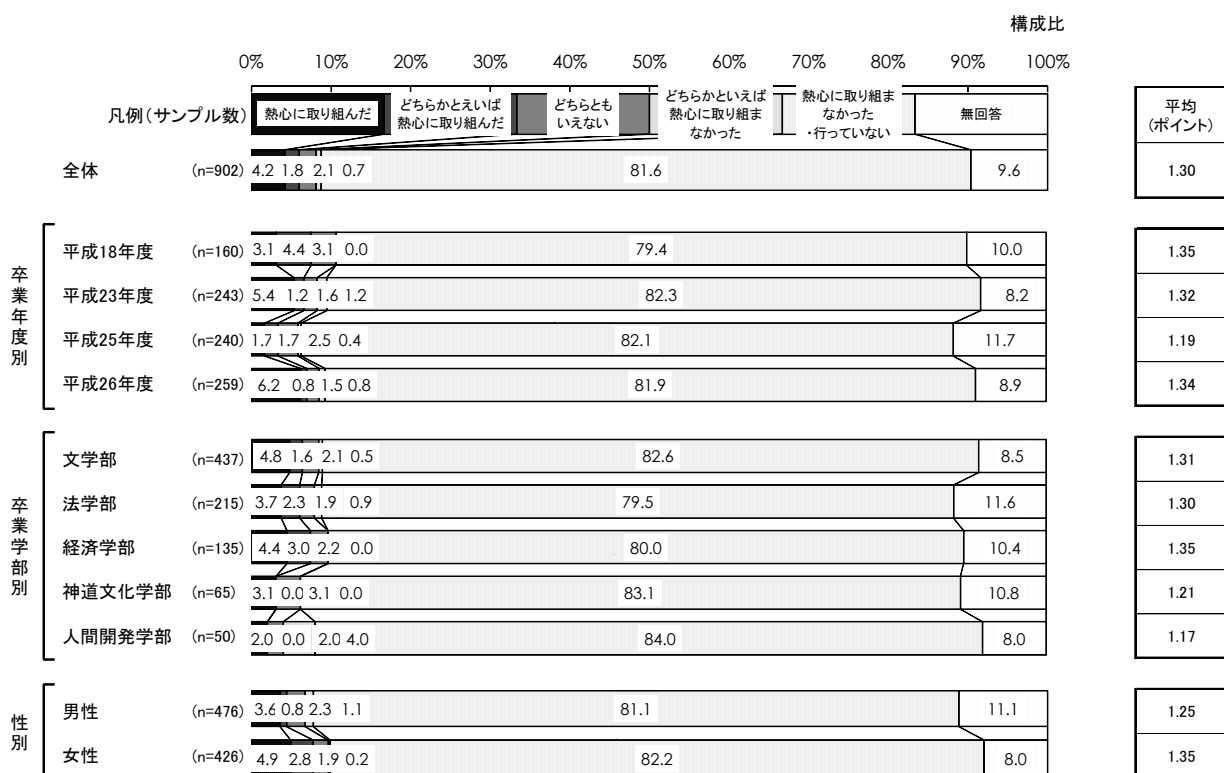
図表 1－13 インターンシップ（SA）



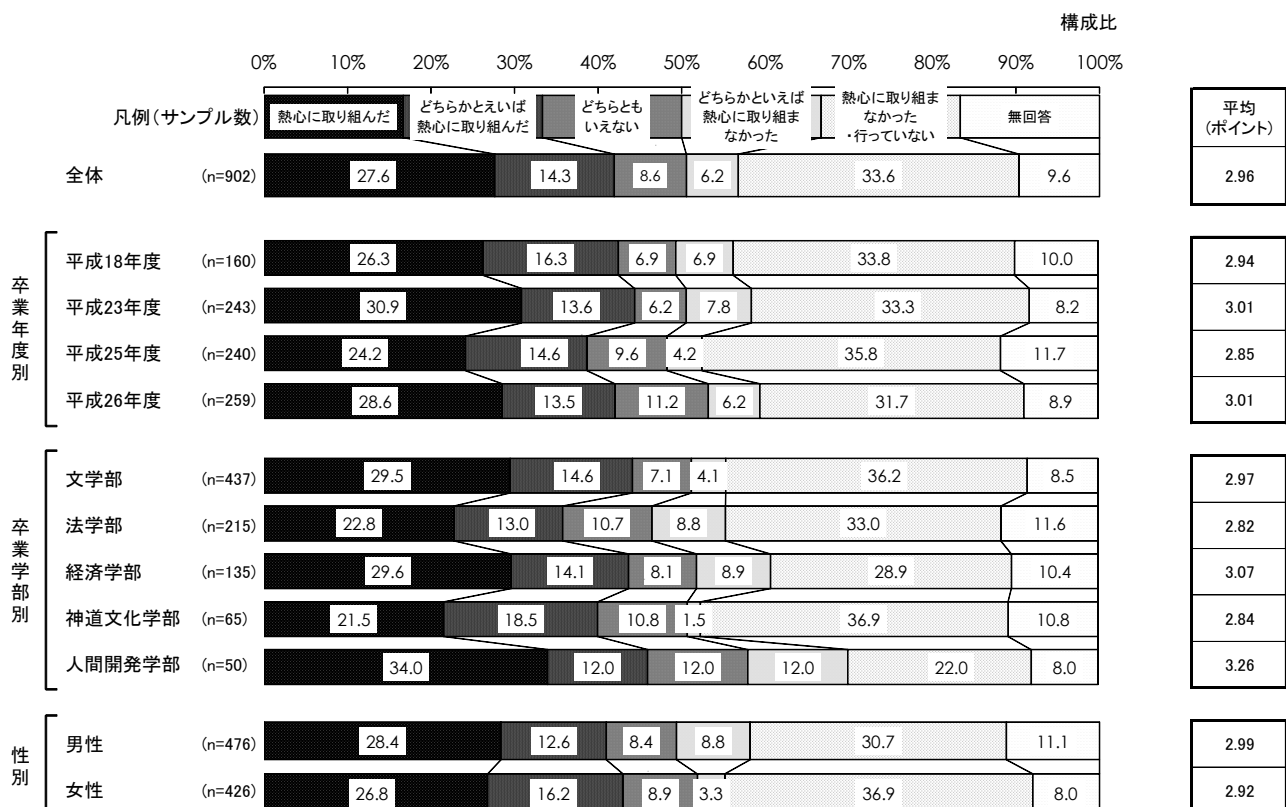
図表 1－14 教職・資格関係科目（SA）



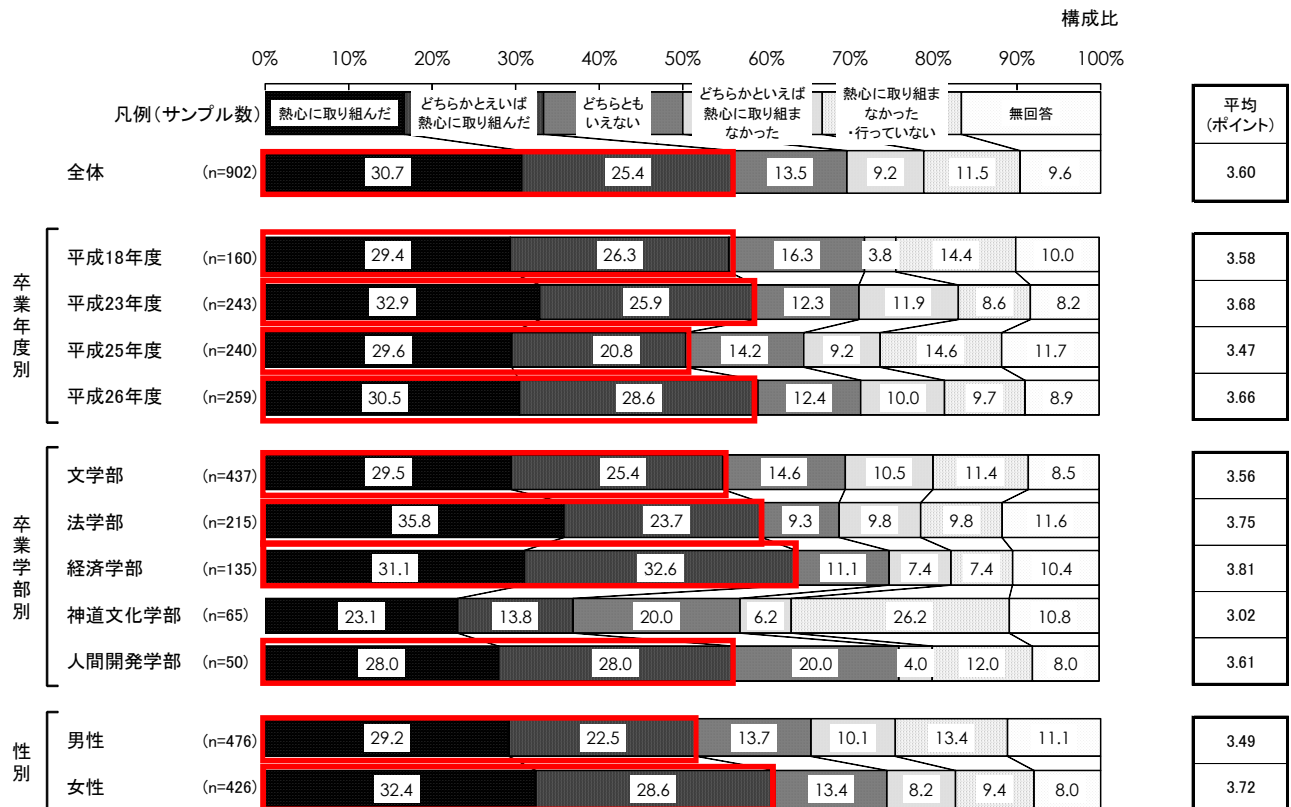
図表 1－15 留学（SA）



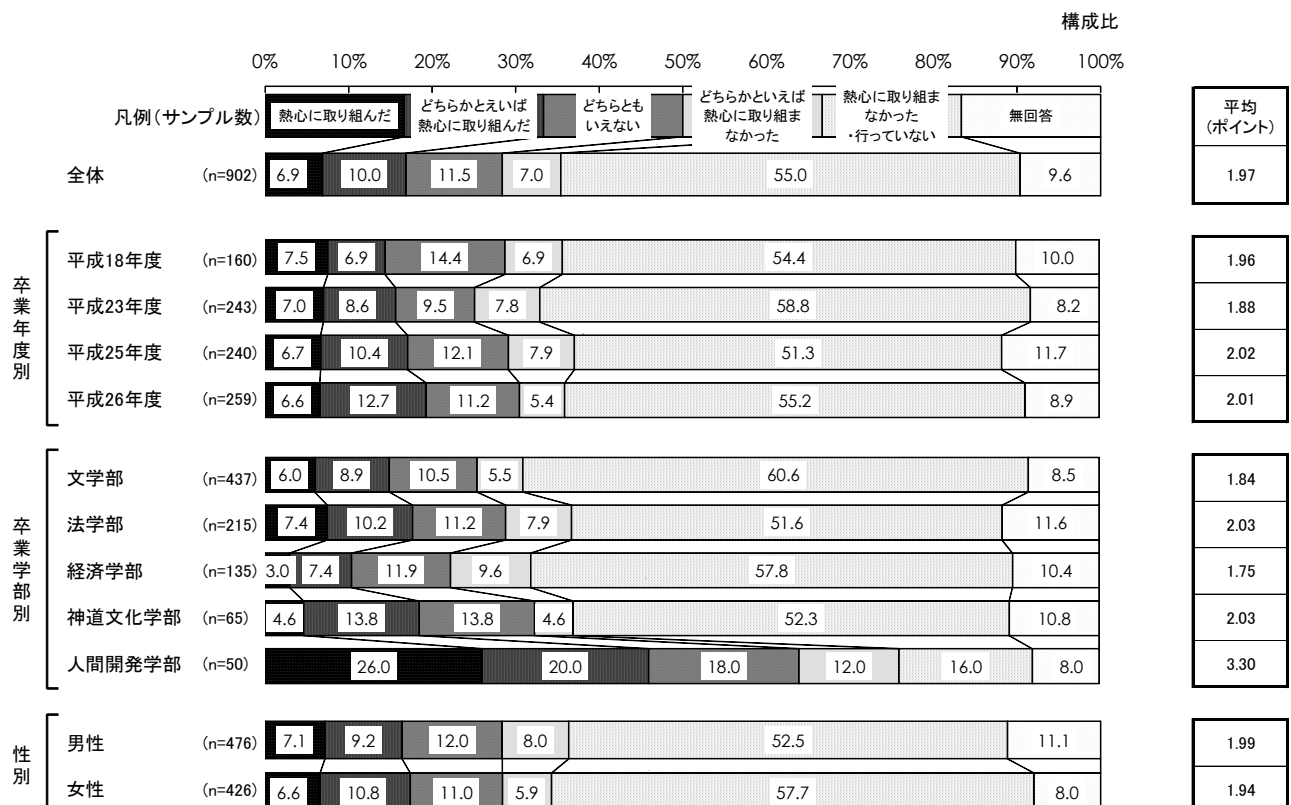
図表 1－16 サークル・部活動（SA）



図表１－１７ アルバイト（SA）



図表１－１８ 社会活動（ボランティア等）（SA）



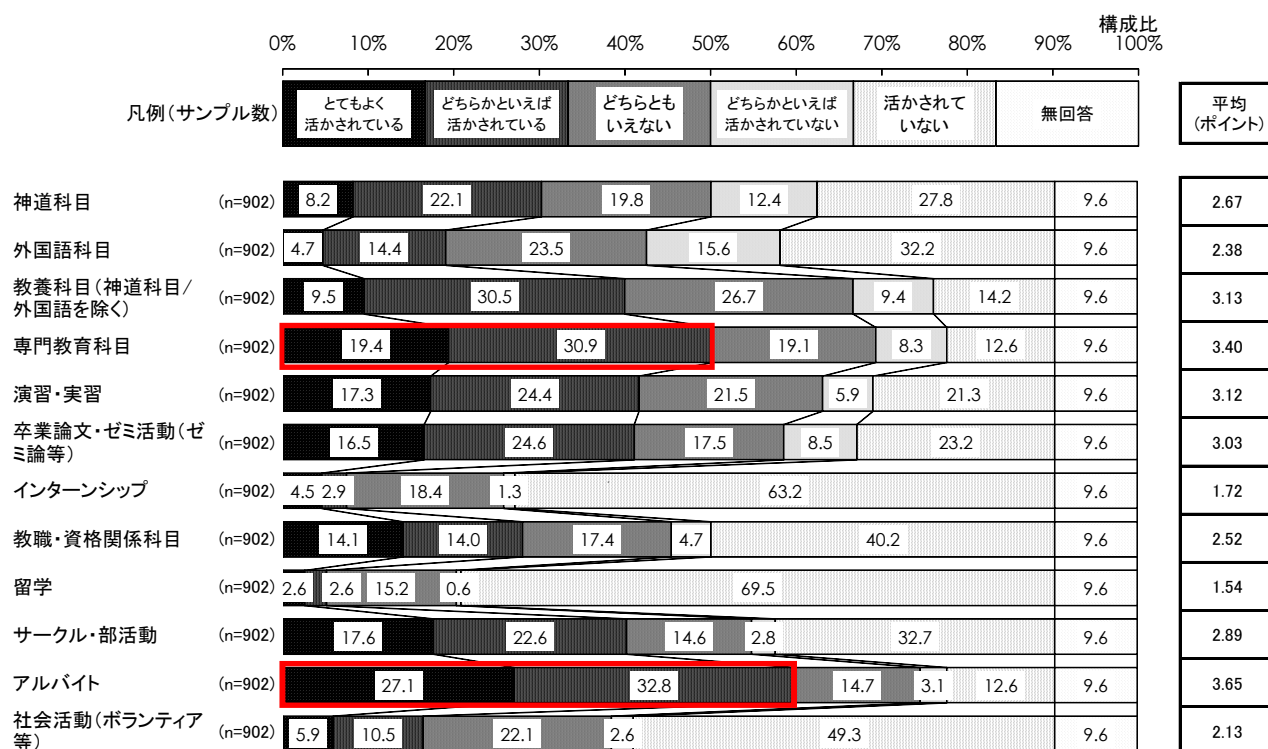
2. 学生時代に学修したことや取り組んだことは、現在の社会人生活でどの程度活かされていますか。（それぞれ1つ選択）

社会人生活での活用の度合いは、「とてもよく活かされている」と「どちらかといえば活かされている」を合わせた割合が高いのは、[アルバイト]が最も高く 59.9%、次いで[専門教育科目]が 50.3%、[演習・実習]と[卒業論文・ゼミ活動（ゼミ論等）]がともに 41.1%などの順となっている。

加重平均すると、最も点数が高いのは[アルバイト]で 3.65 ポイント、次いで[専門教育科目]が 3.40 ポイント、[教養科目（神道科目／外国語を除く）]が 3.13 ポイントなどの順となっている。

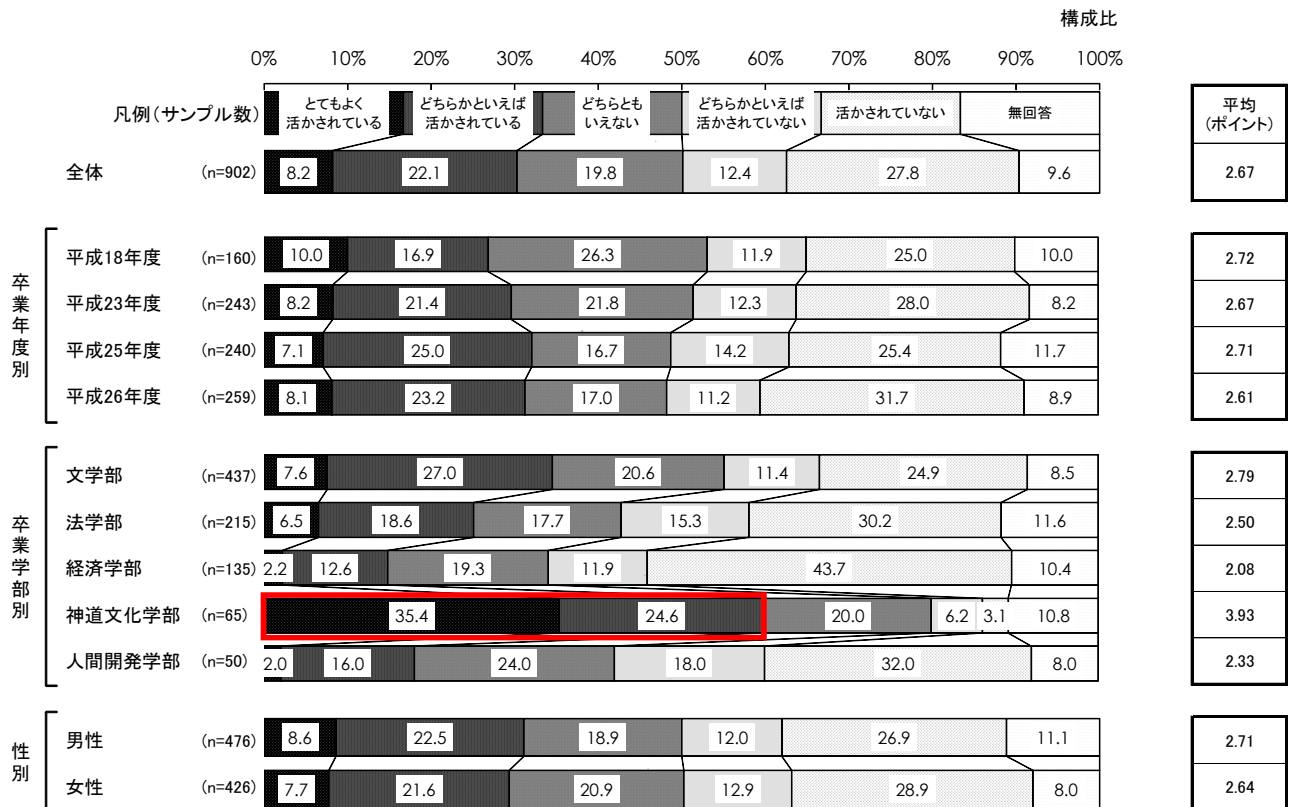
逆に点数が最も低いのは[留学]で 1.54 ポイント、次いで[インターンシップ]が 1.72 ポイント、[社会活動（ボランティア等）]が 2.13 ポイントなどの順となっている。

図表 1－19 現在の社会人生活での活用の度合い（S A）

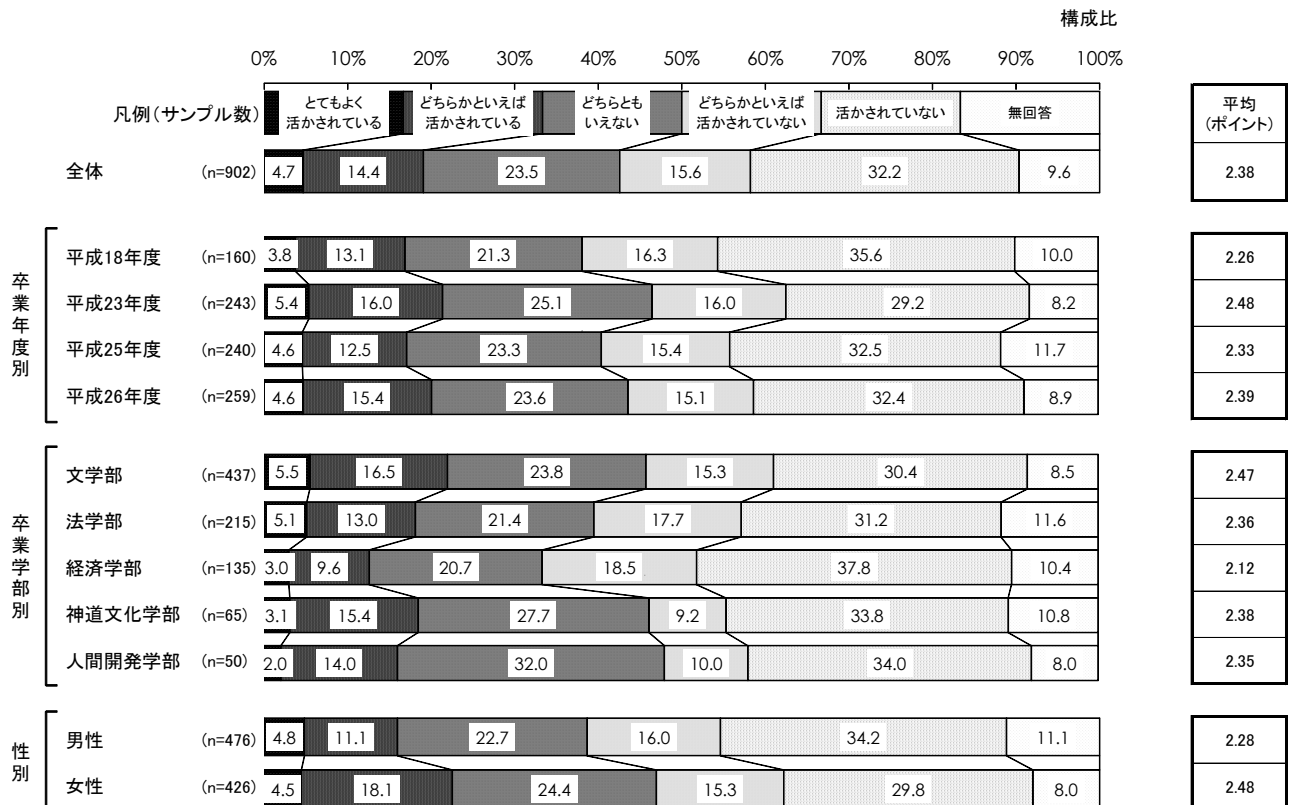


※「とてもよく活かされている」5 ポイント、「どちらかといえば活かされている」4 ポイント、「どちらともいえない」3 ポイント、「どちらかといえば活かされていない」2 ポイント、「活かされていない」1 ポイントで平均を抽出。

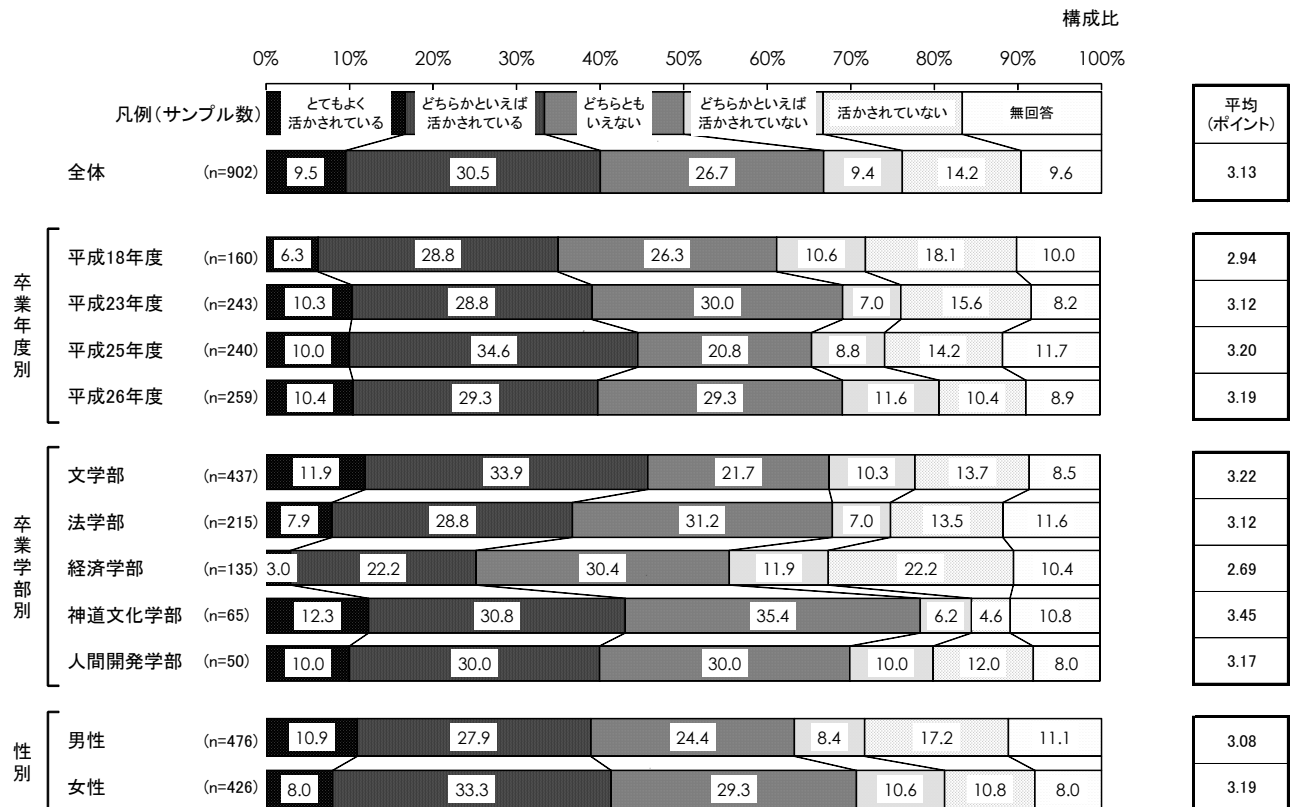
図表 1－20 神道科目（SA）



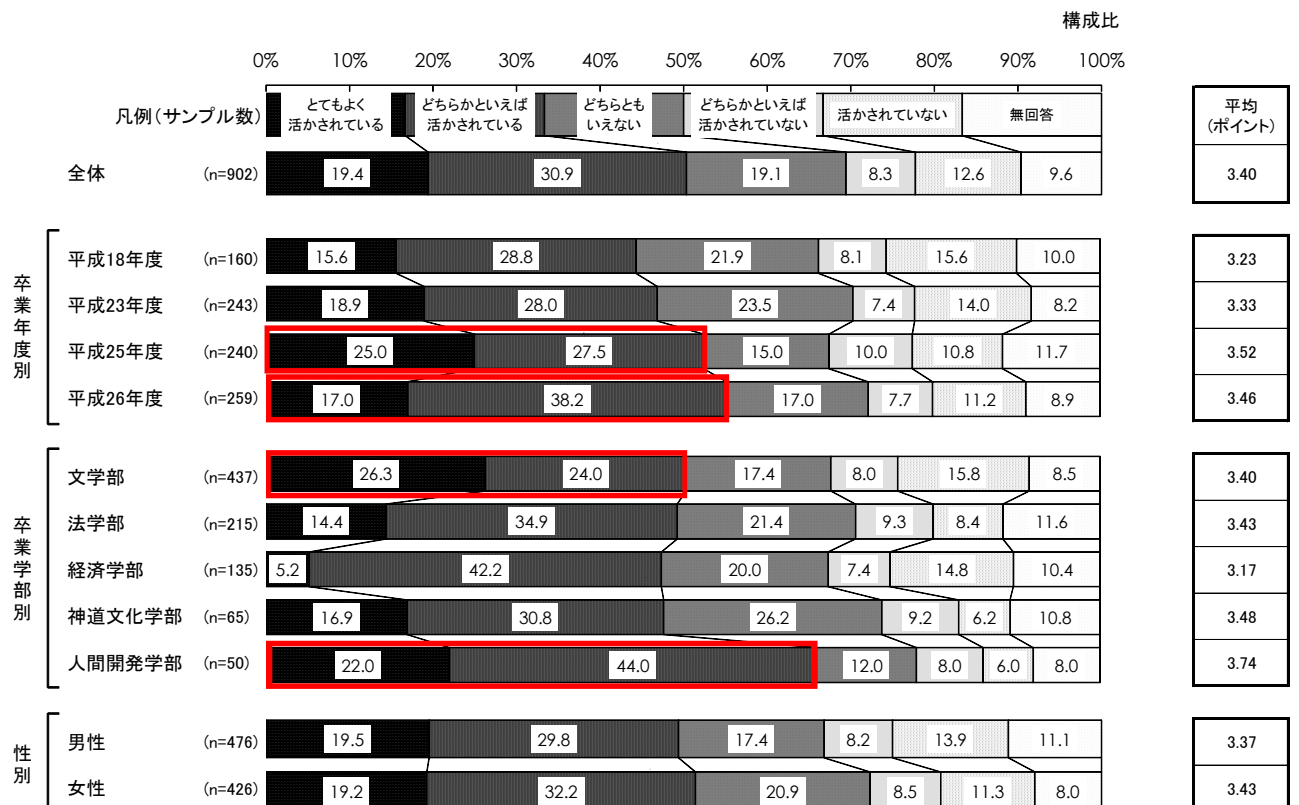
図表 1－21 外国語科目（SA）



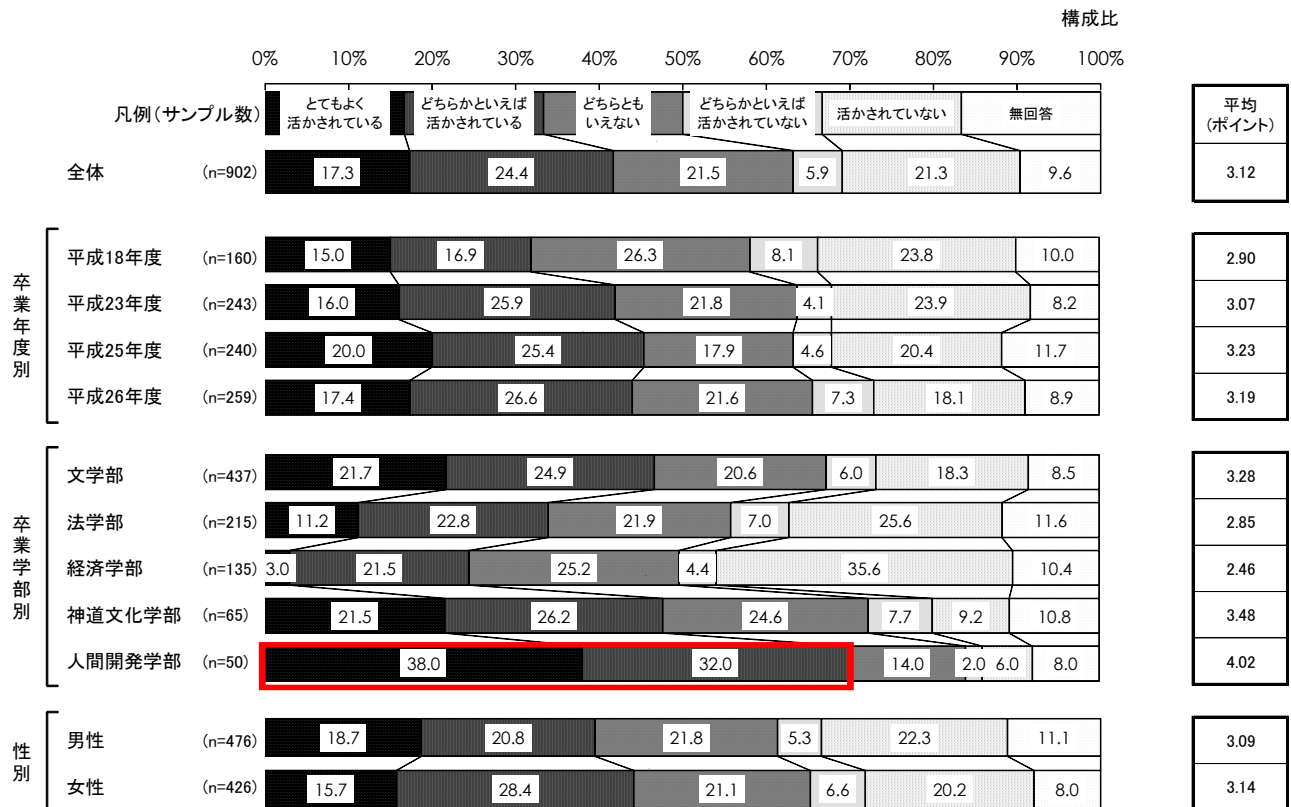
図表 1－2 2 教養科目（神道科目/外国語科目を除く）（S A）



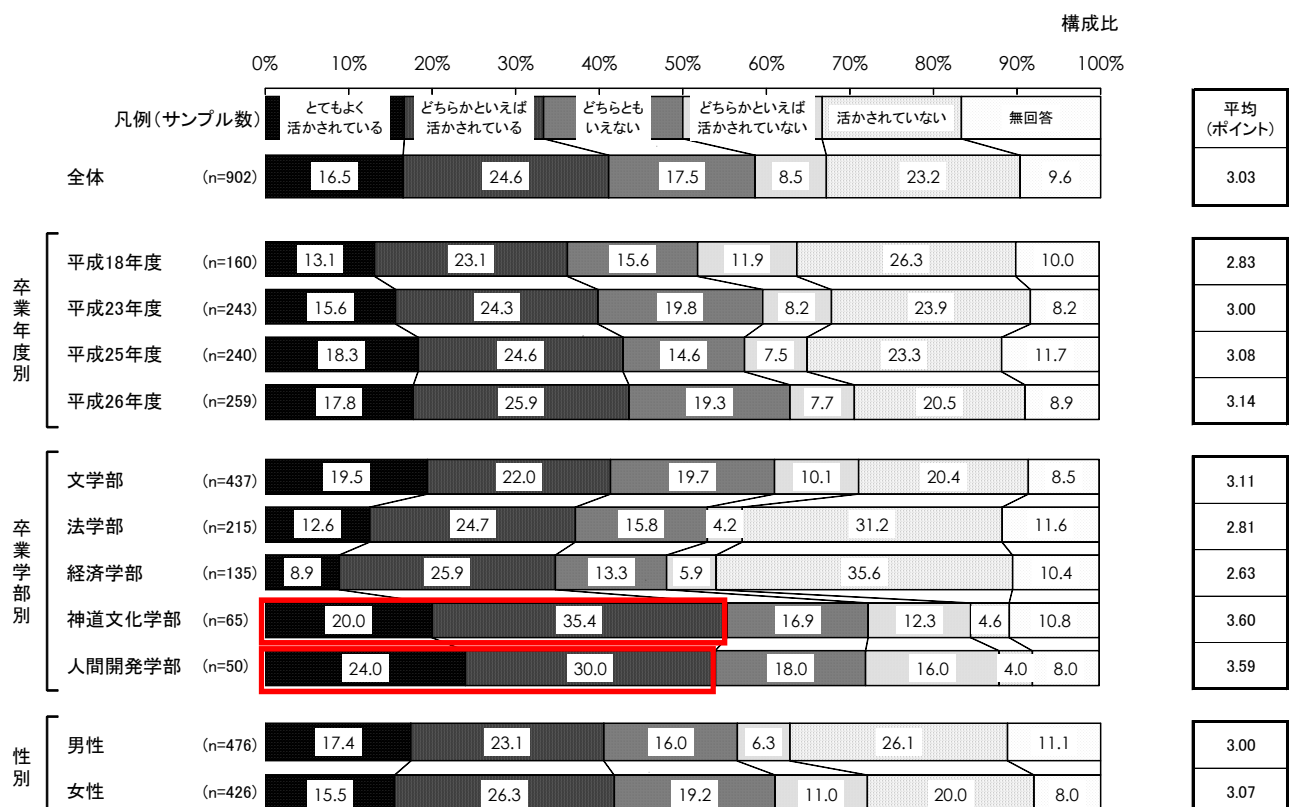
図表 1－2 3 専門教育科目（S A）



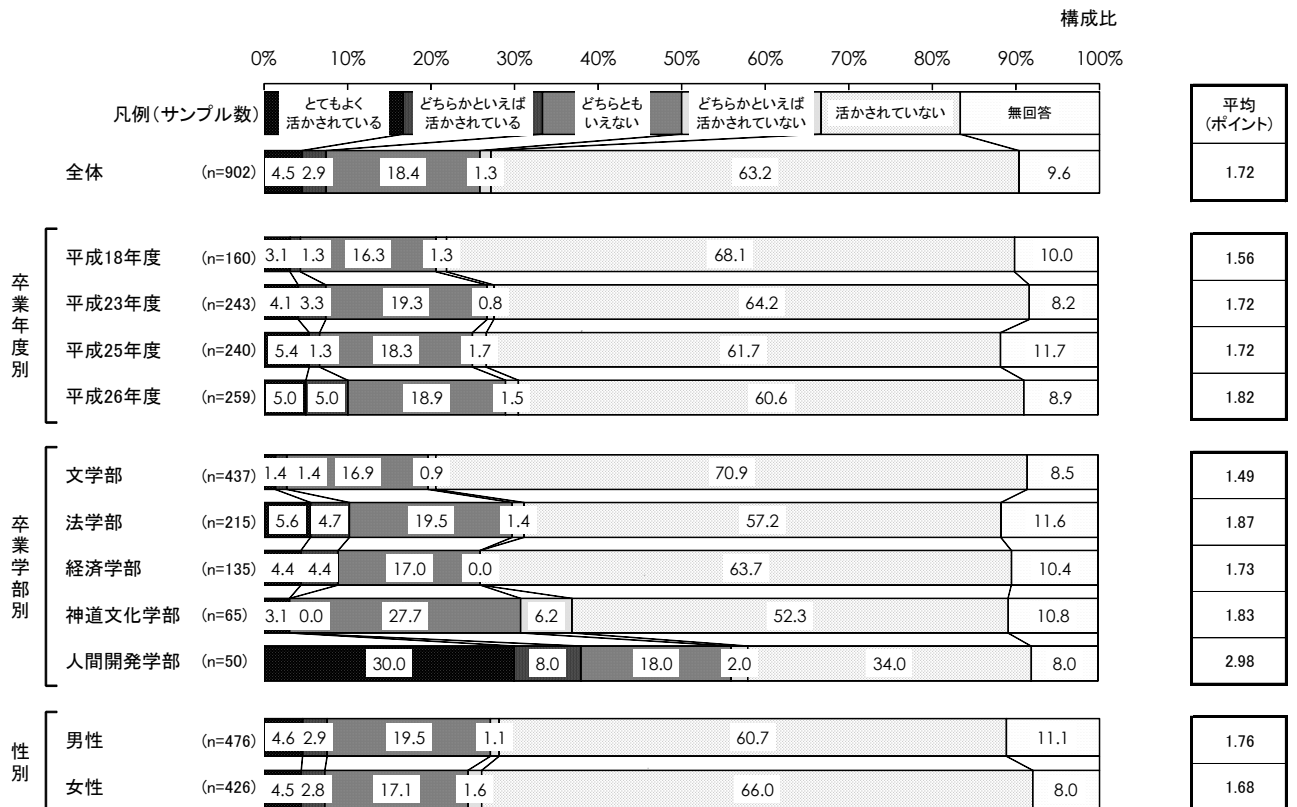
図表 1－24 演習・実習（SA）



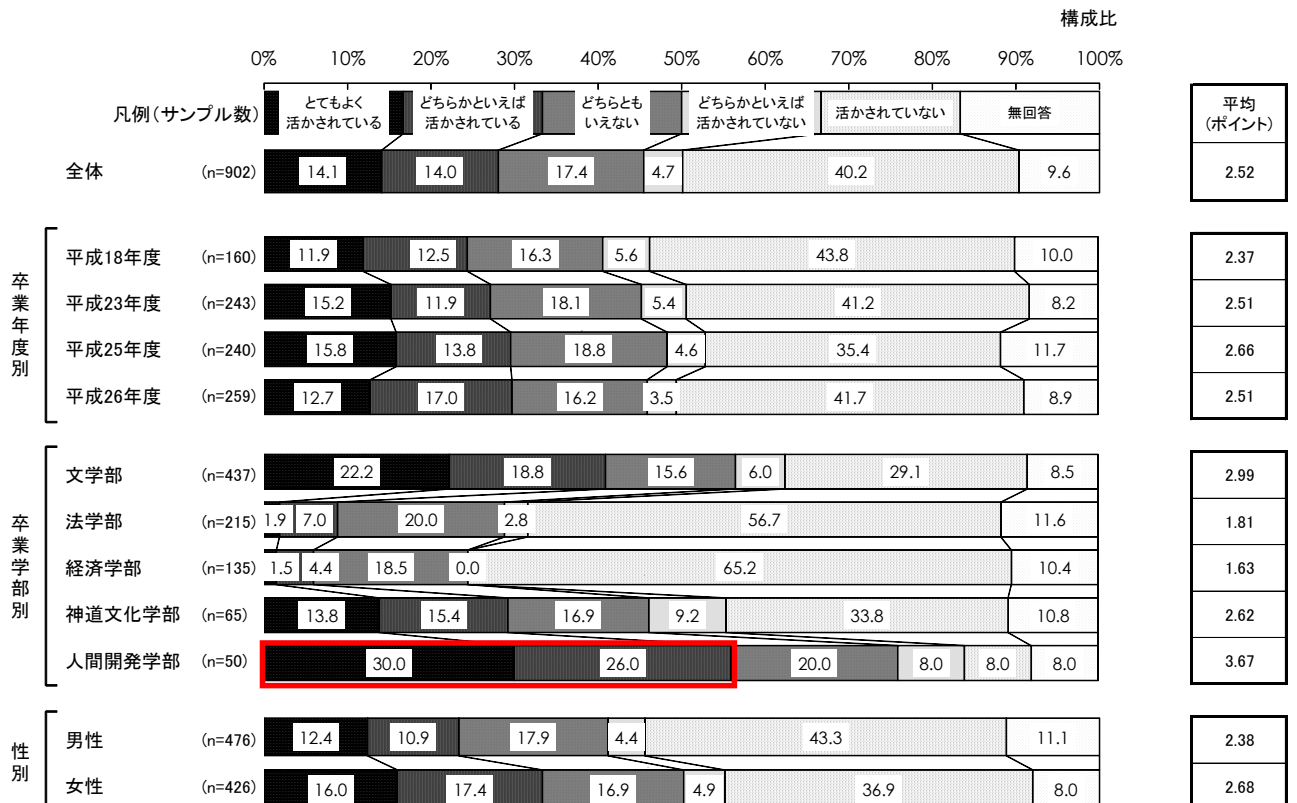
図表 1－25 卒業論文・ゼミ活動（ゼミ論等）（SA）



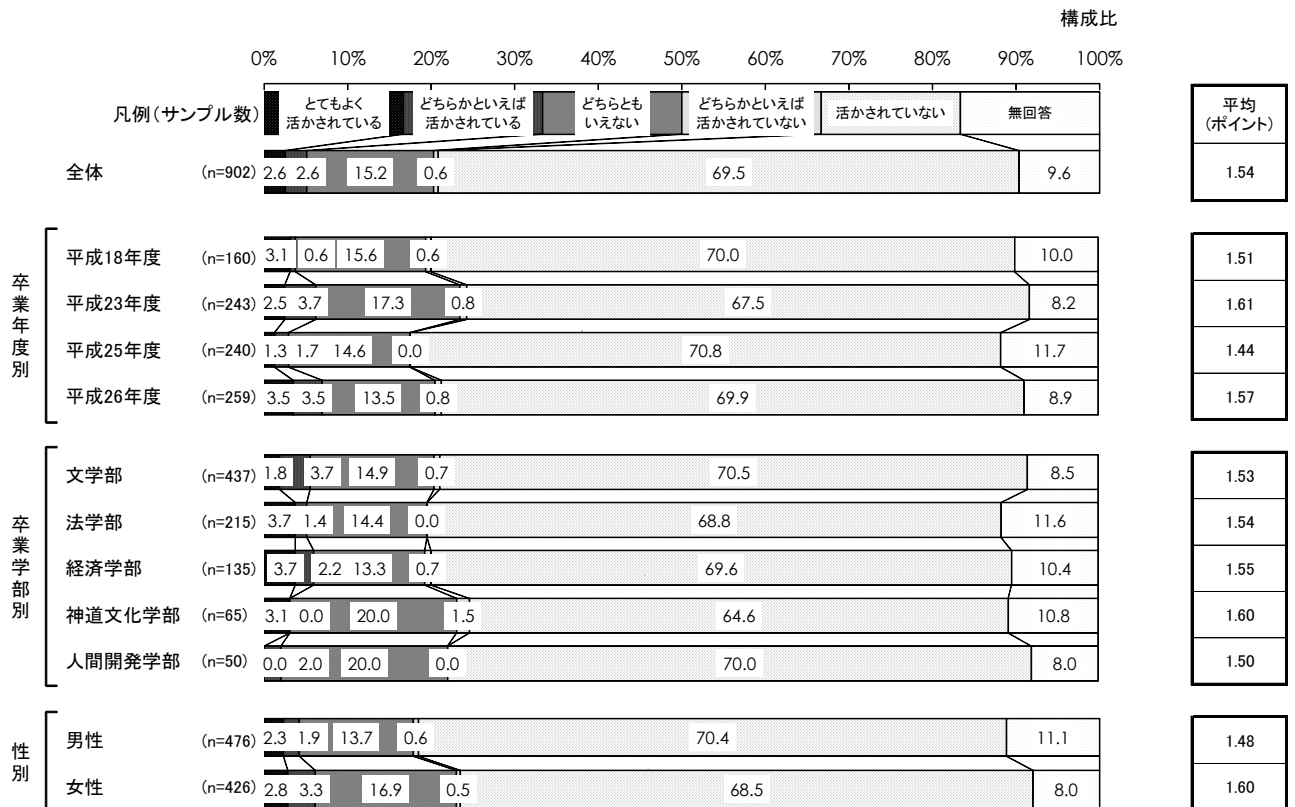
図表１－２６ インターンシップ（ＳＡ）



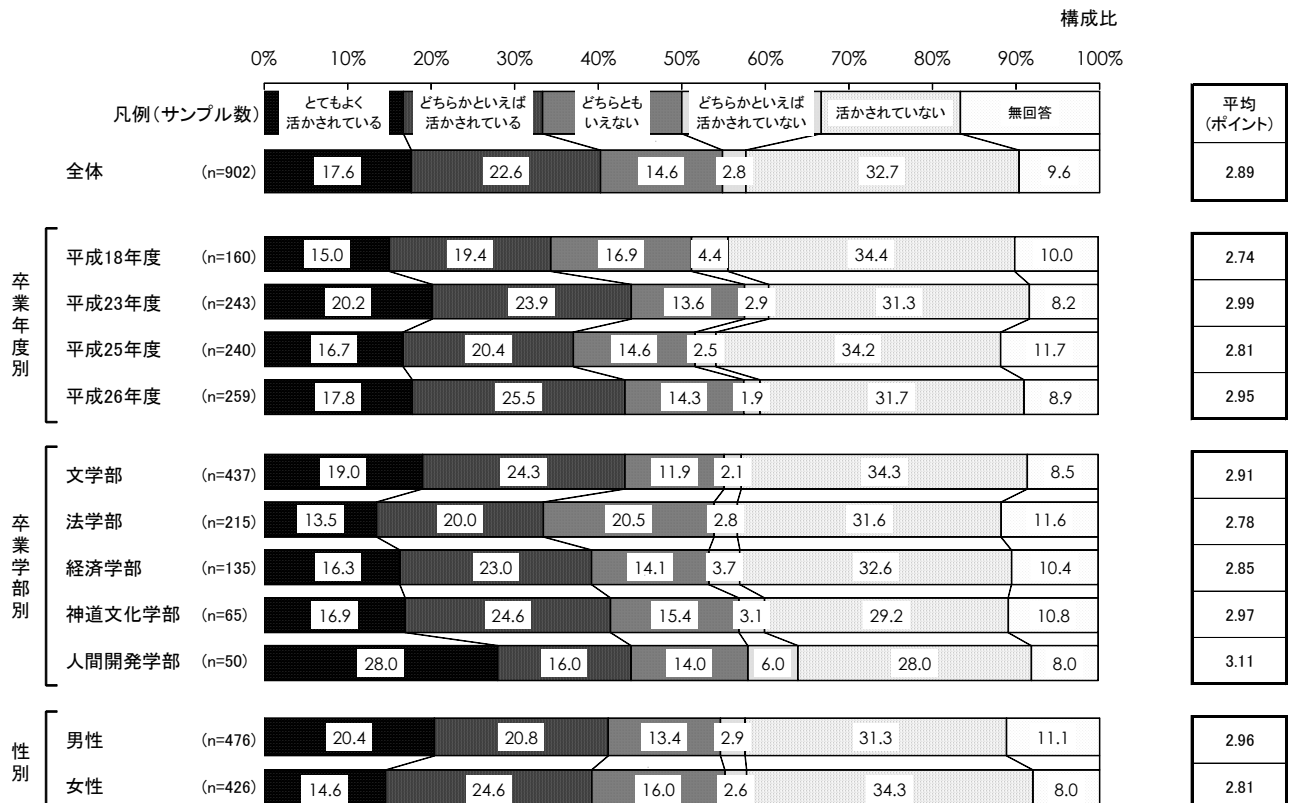
図表１－２７ 教職・資格関係科目（ＳＡ）



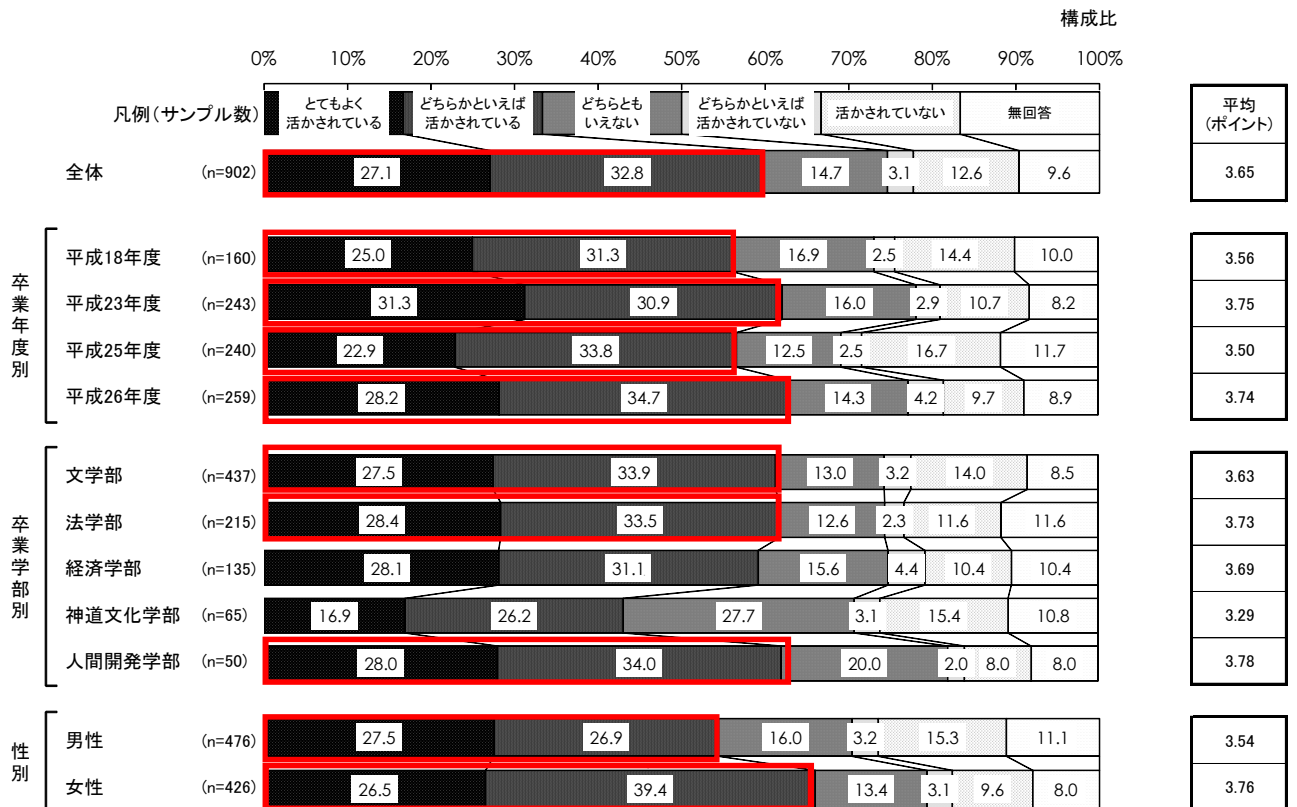
図表 1－28 留学（SA）



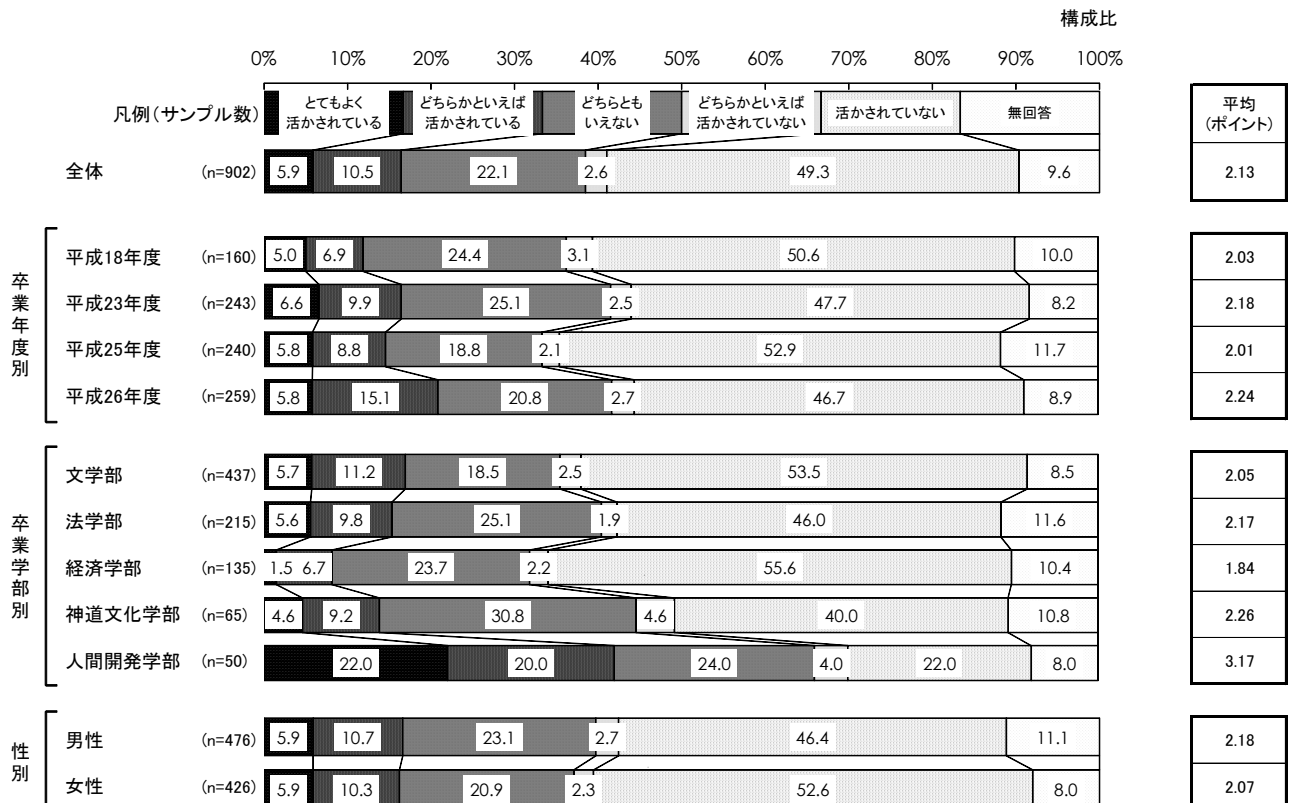
図表 1－29 サークル・部活動（SA）



図表 1－30 アルバイト（SA）



図表 1－31 社会活動（ボランティア等）（SA）



問3 学修の成果

1. 学生時代に身についたことをお答えください。(それぞれ1つ選択)

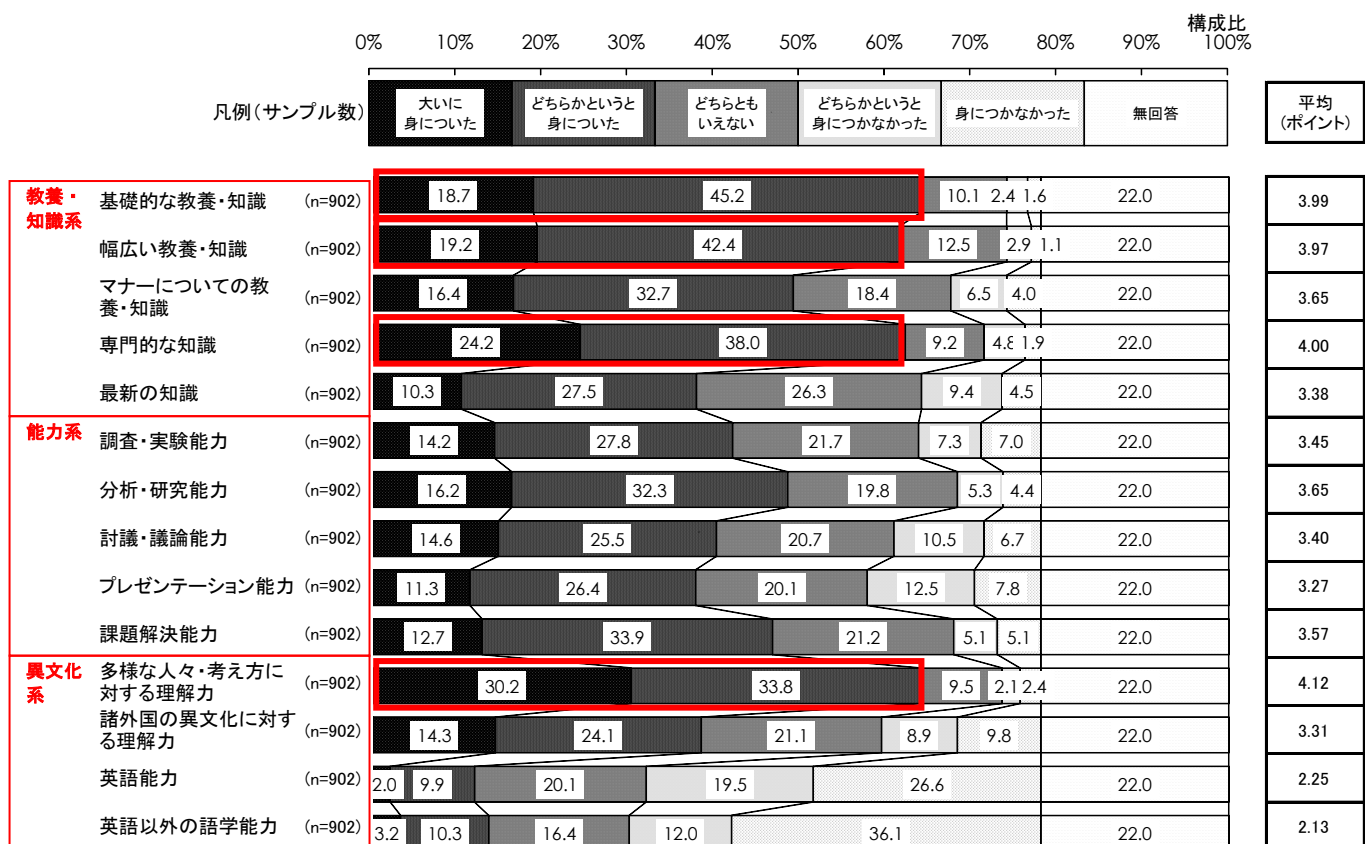
学生時代に身についたことは、「大いに身についた」と「どちらかというに身についた」を合わせた割合が高いのは、[基礎的な教養・知識]が63.9%で最も高く、次いで[多様な人々・考え方に対する理解力]が64.0%、[専門的な知識]が62.2%、[幅広い教養・知識]が61.6%などの順となっている。

加重平均すると、最も点数が高いのは[多様な人々・考え方に対する理解力]で4.12ポイント、次いで[専門的な知識]が4.00ポイント、[基礎的な教養・知識]が3.99ポイントなどの順となっている。

逆に点数が最も低いのは[英語以外の語学能力]で2.13ポイント、次いで[英語能力]が2.25ポイント、[プレゼンテーション能力]が3.27ポイントなどの順となっている。

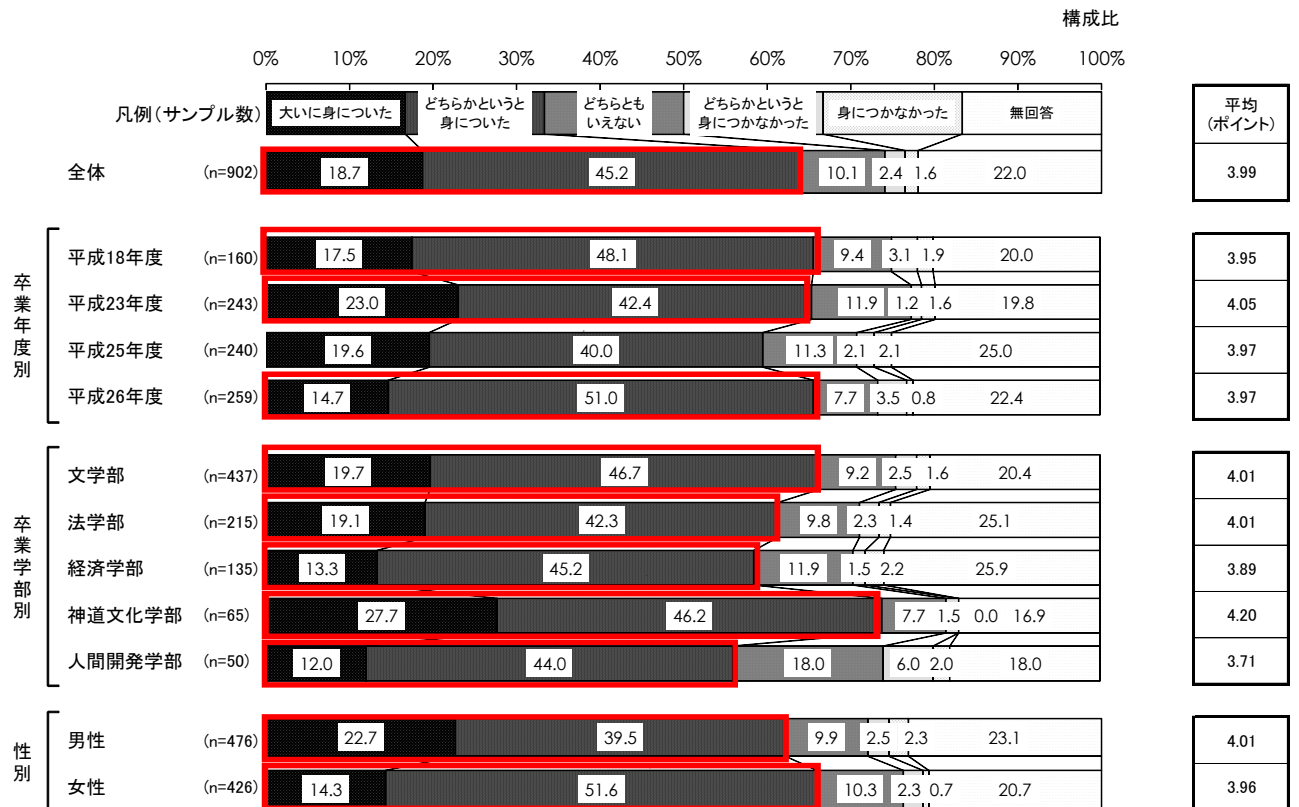
大きな分野でみると、[教養・知識系]は身についたという割合が高い一方で、[能力系]については相対的に低く、また[異文化系]においては語学能力に対する評価が、特に低い傾向がみられる。

図表1-32 学生時代に身についたこと（SA）

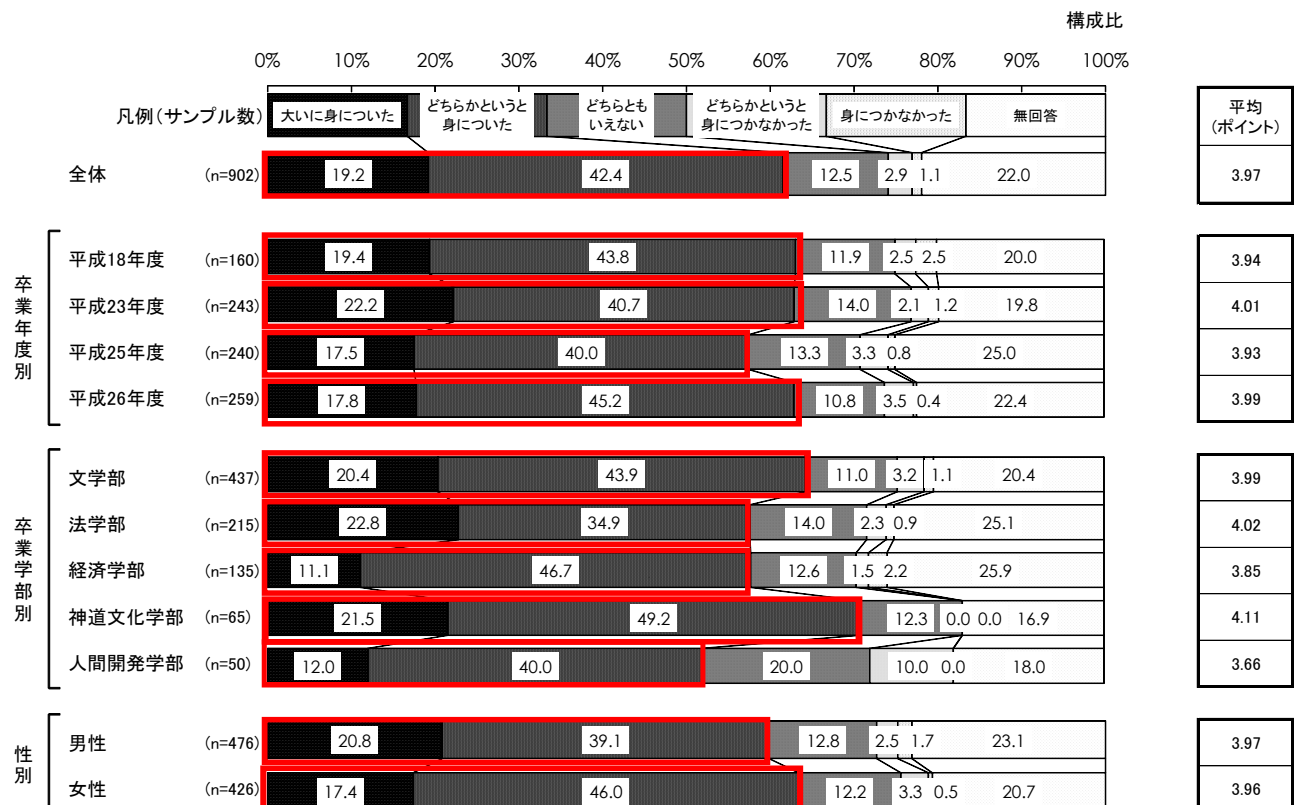


※「大いに身についた」5ポイント、「どちらかというに身についた」4ポイント、「どちらともいえない」3ポイント、「どちらかというに身につかなかった」2ポイント、「身につかなかった」1ポイントで平均を抽出。

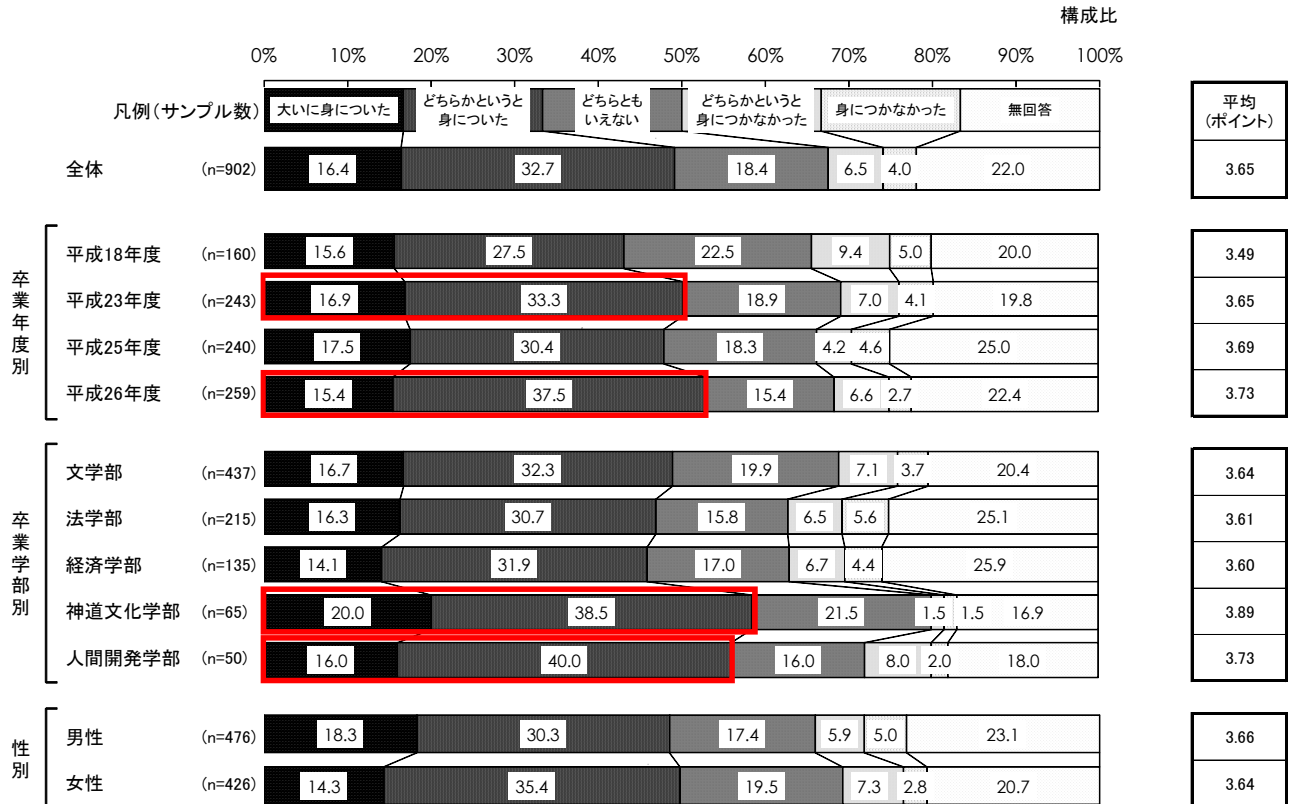
図表 1－3 3 基礎的な教養・知識（SA）



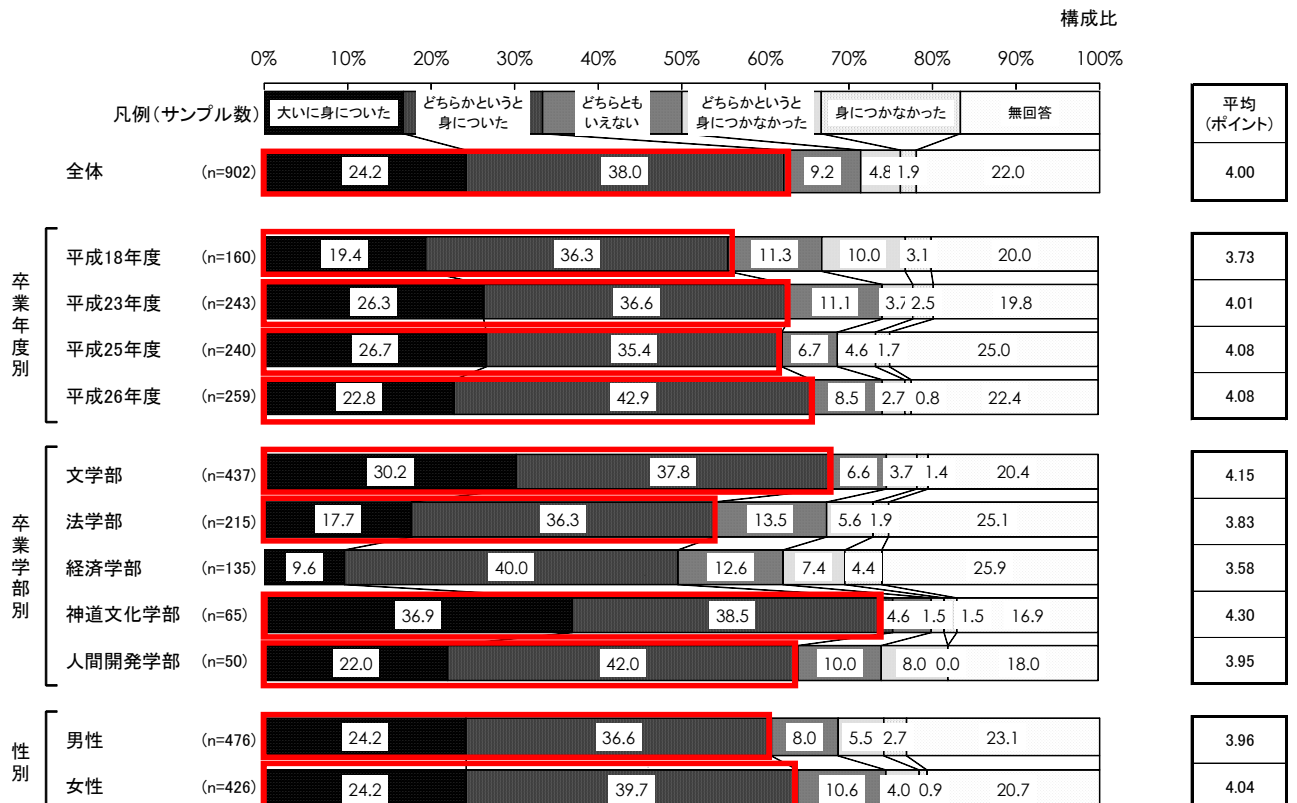
図表 1－3 4 幅広い教養・知識（SA）



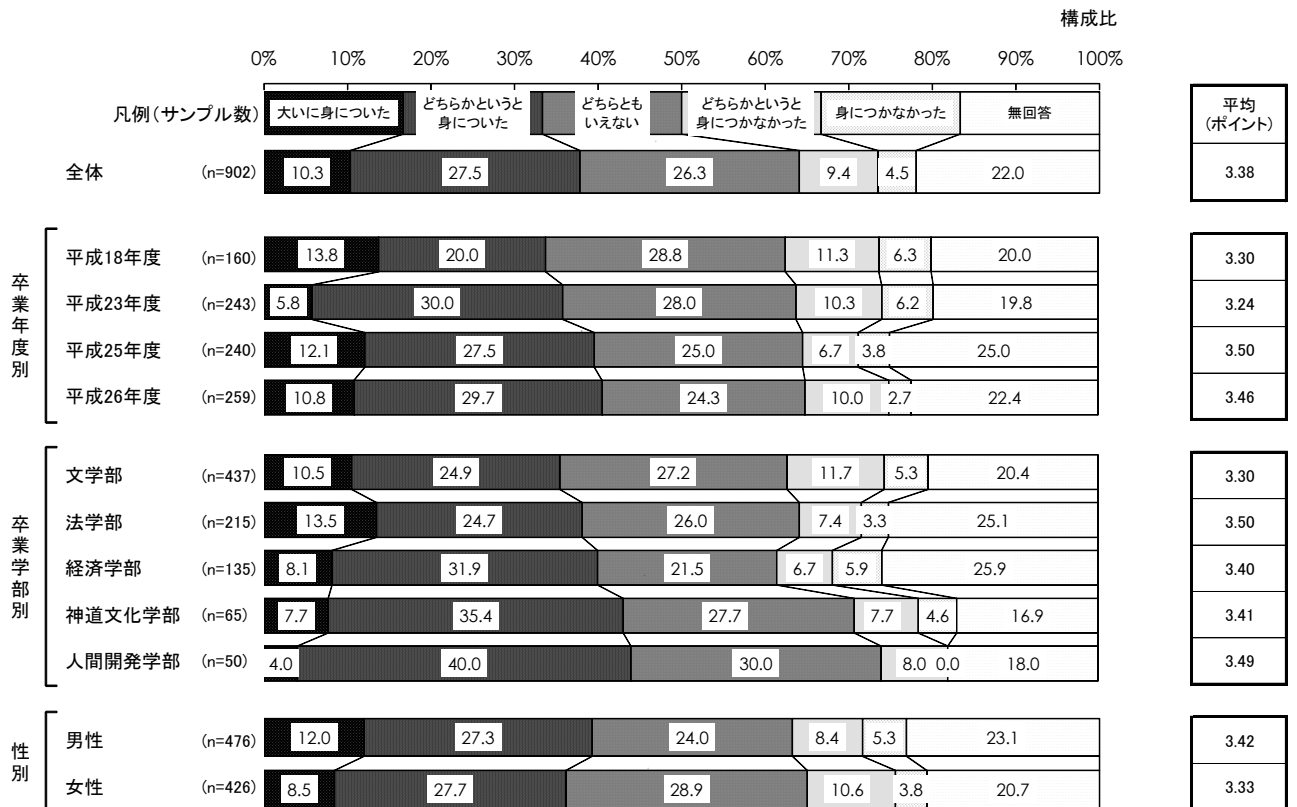
図表 1－35 マナーについての教養・知識（SA）



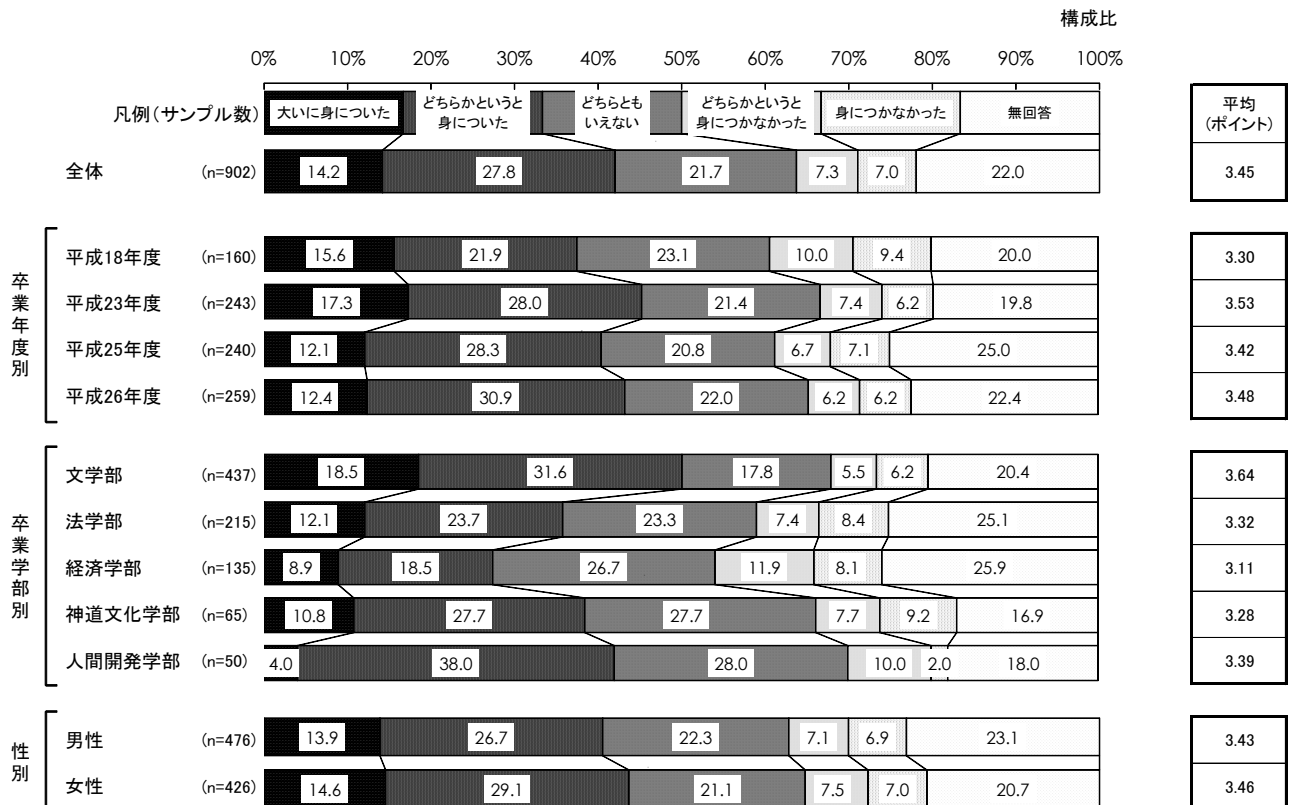
図表 1－36 専門的な知識（SA）



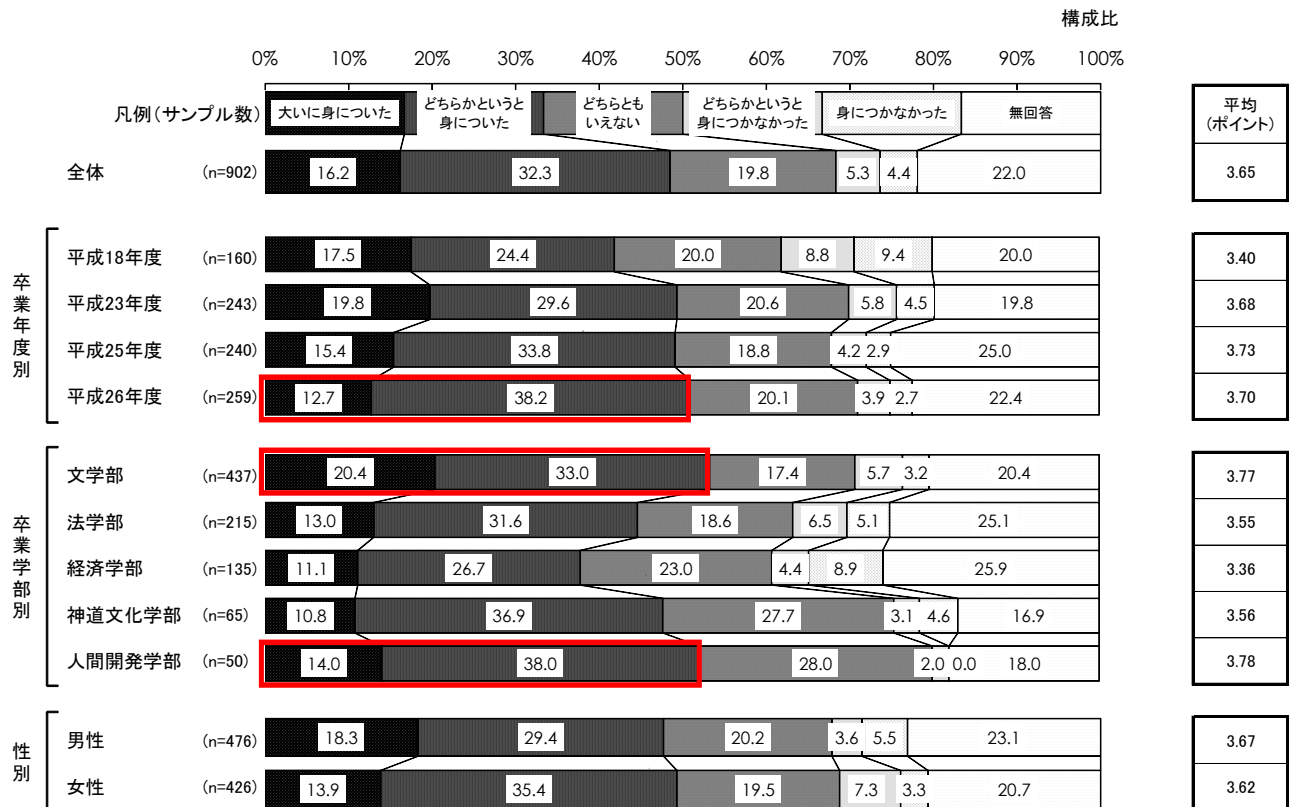
図表 1－37 最新の知識（S A）



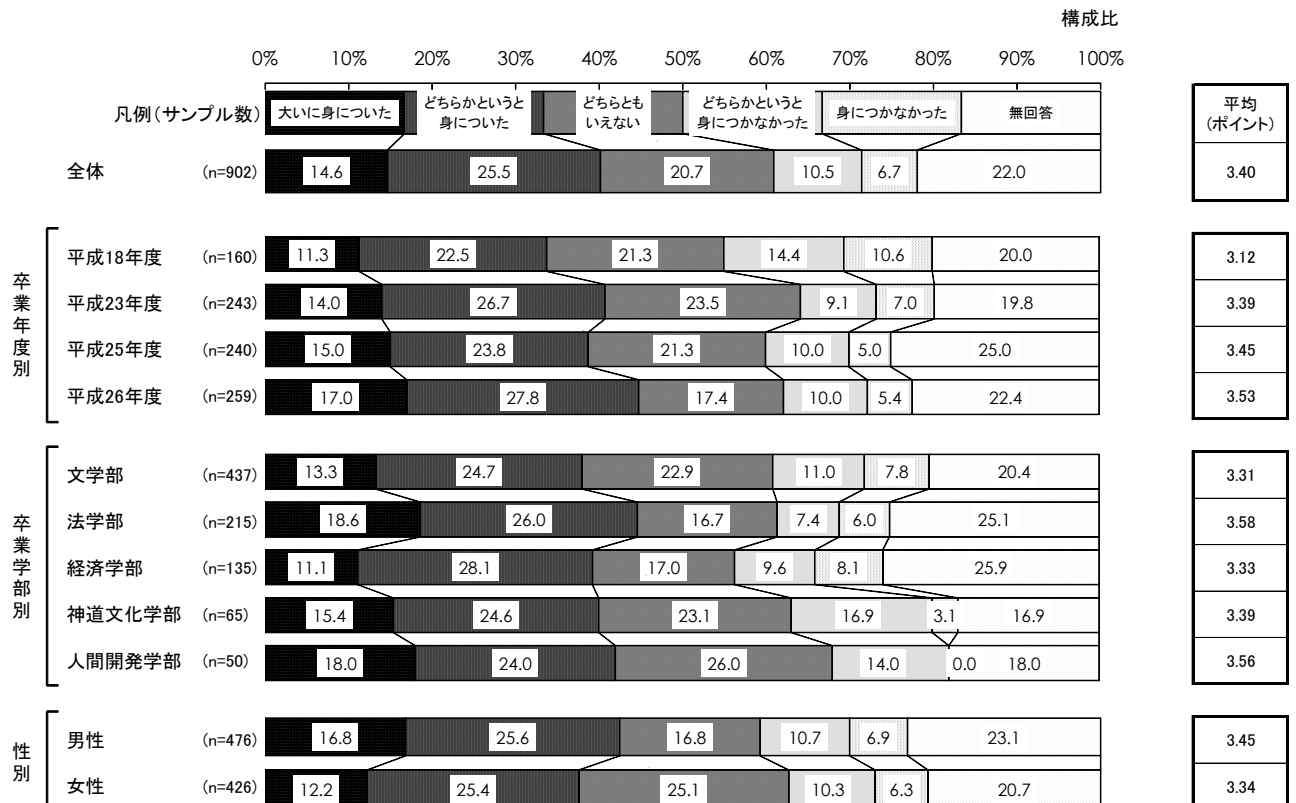
図表 1－38 調査・実験能力（S A）



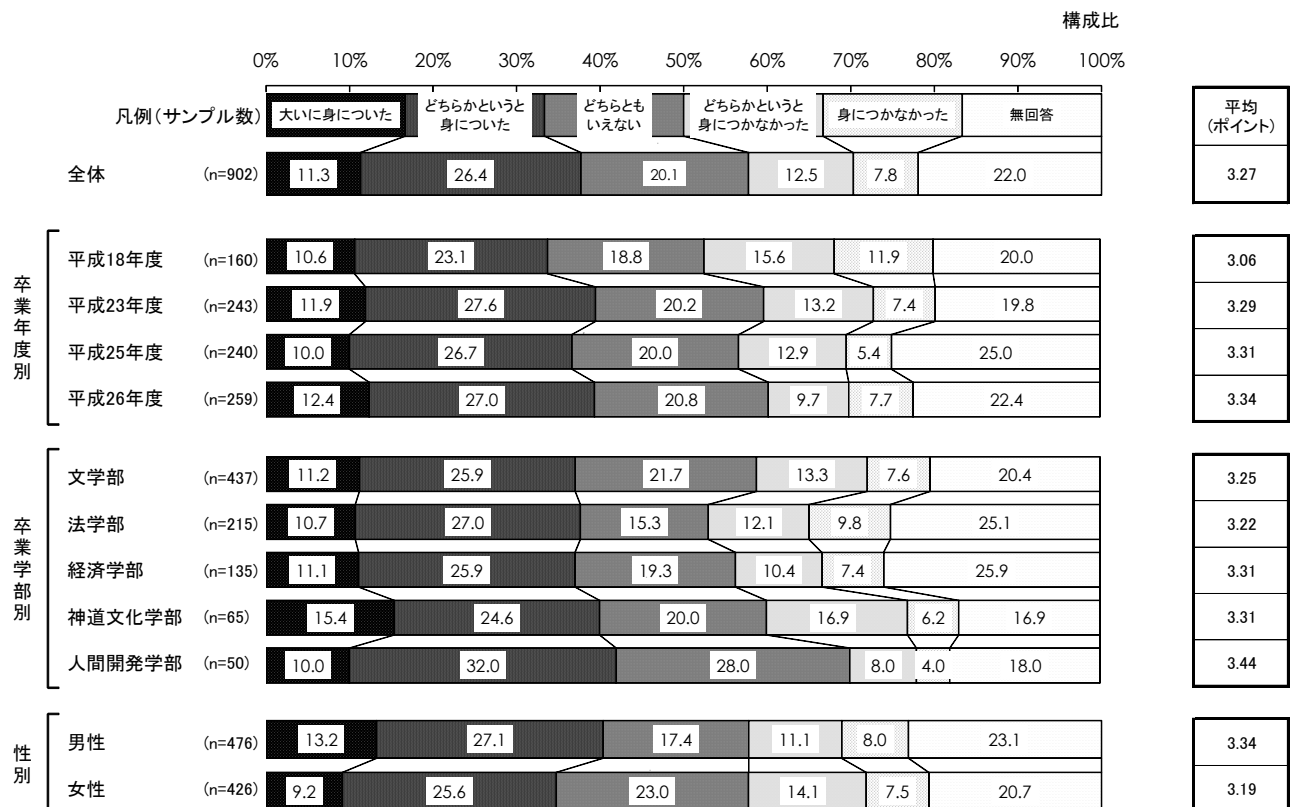
図表 1－39 分析・研究能力（SA）



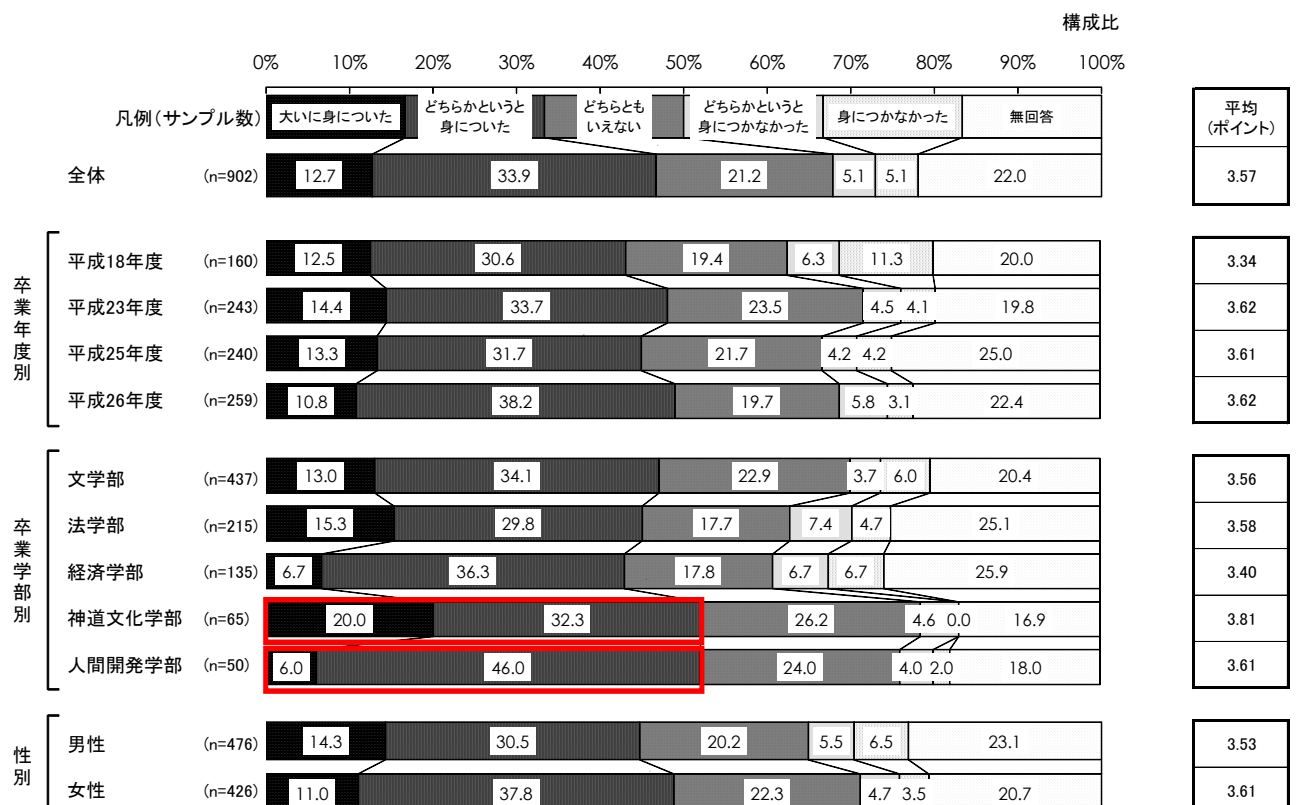
図表 1－40 討議・議論能力（SA）



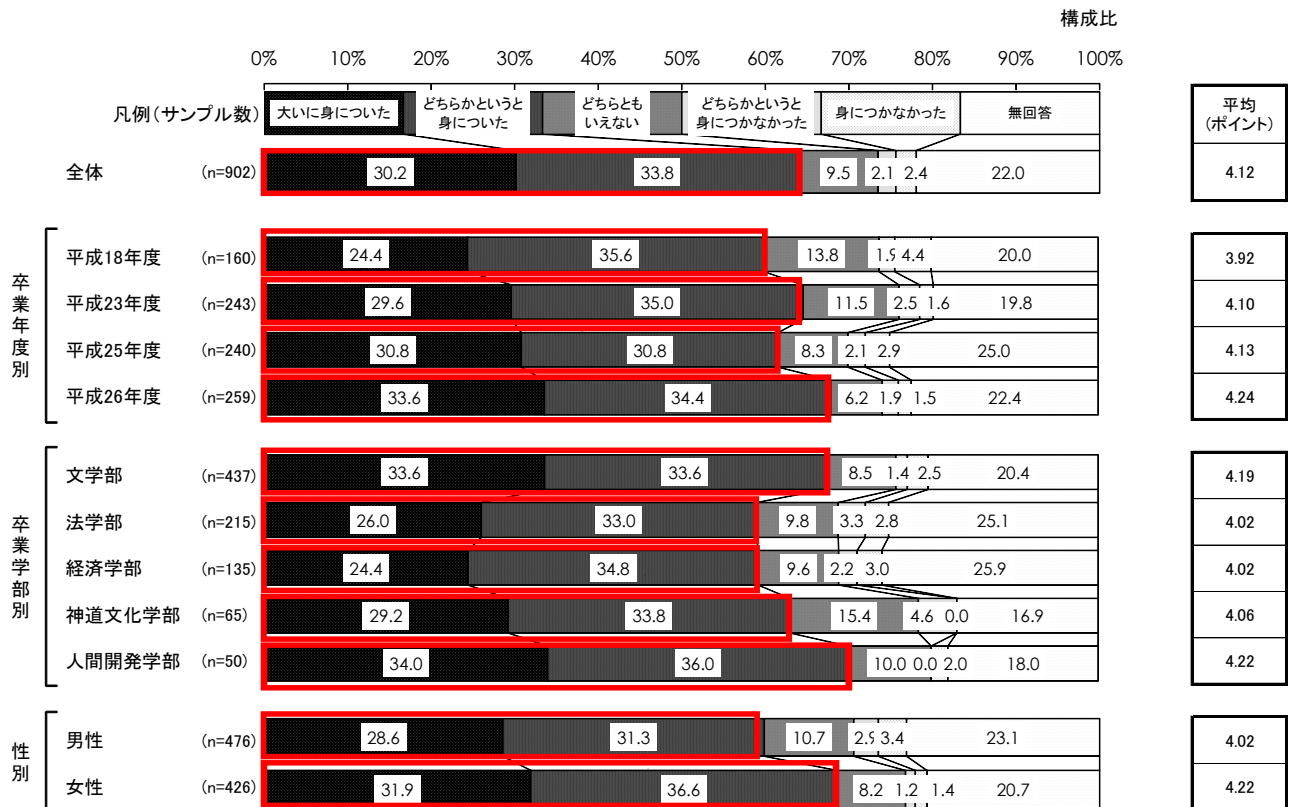
図表 1－4 1 プレゼンテーション能力（S A）



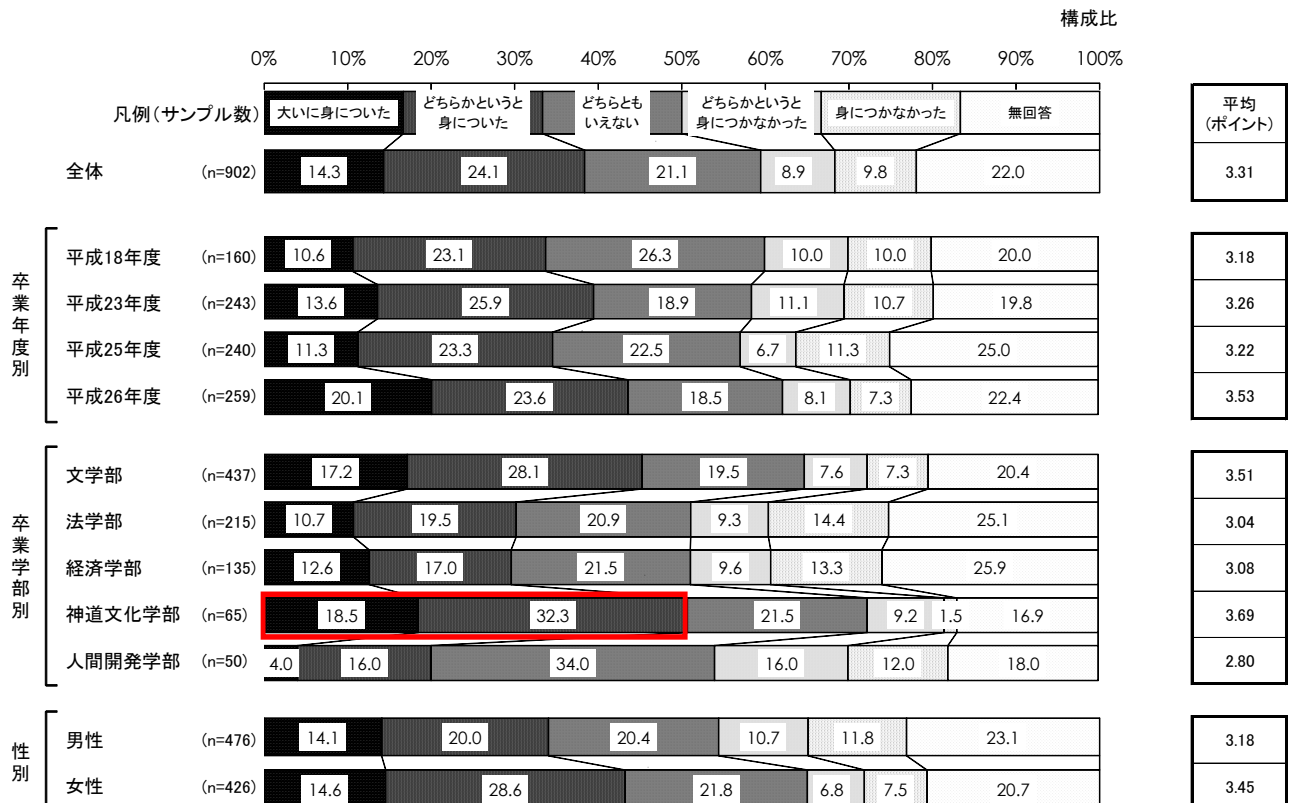
図表 1－4 2 課題解決能力（S A）



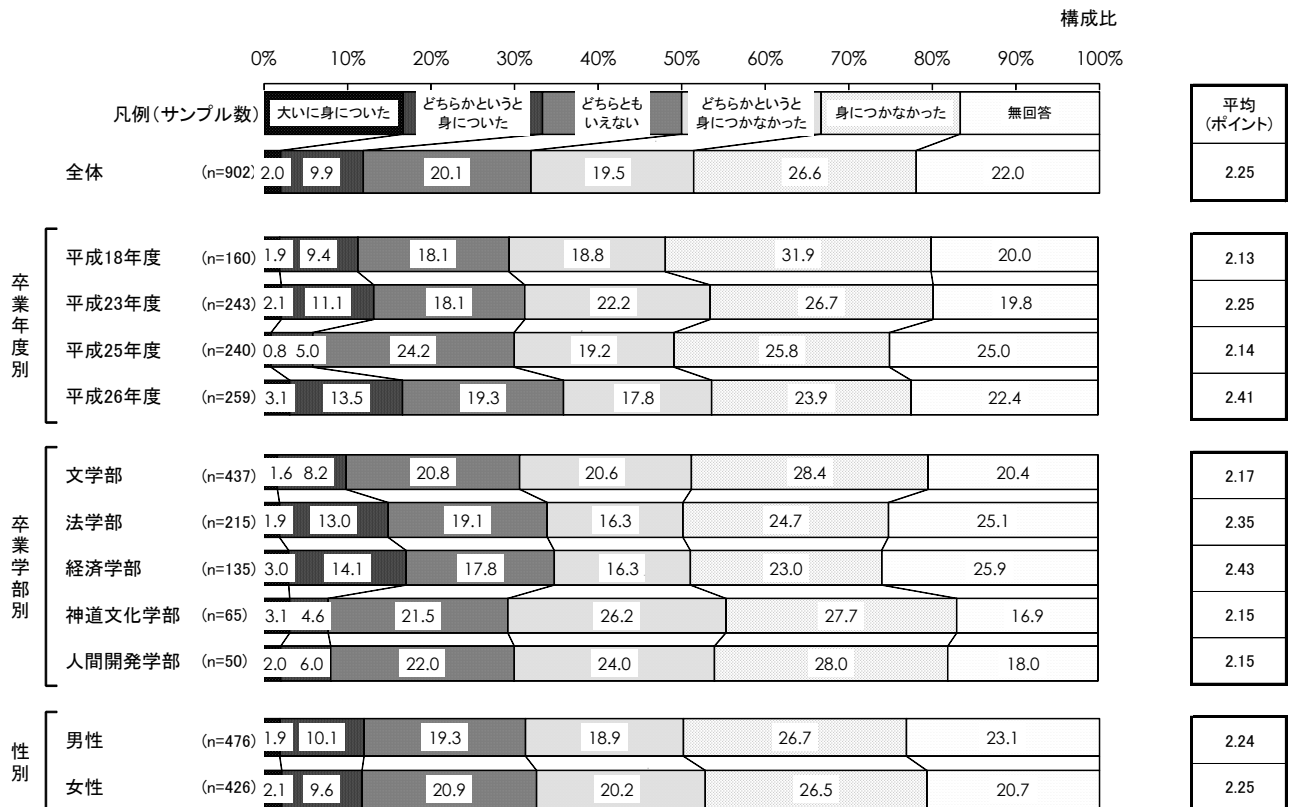
図表 1－4 3 多様な人々・考え方に対する理解力（S A）



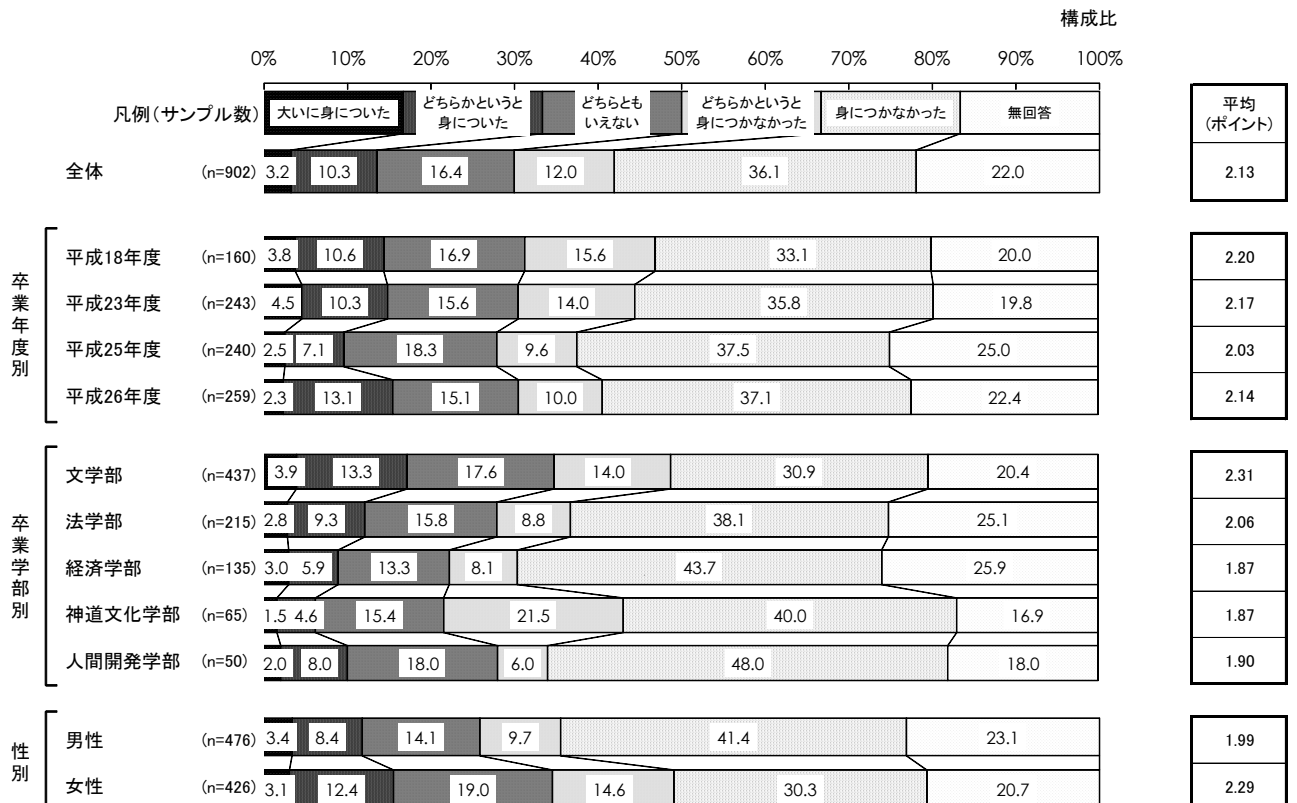
図表 1－4 4 諸外国の異文化に対する理解力（S A）



図表 1－4 5 英語能力（S A）



図表 1－4 6 英語以外の語学能力（S A）



2. 学生時代に修得したと思われる知識や能力のうち、現在に活かされているものをお答えください。(それぞれ1つ選択)

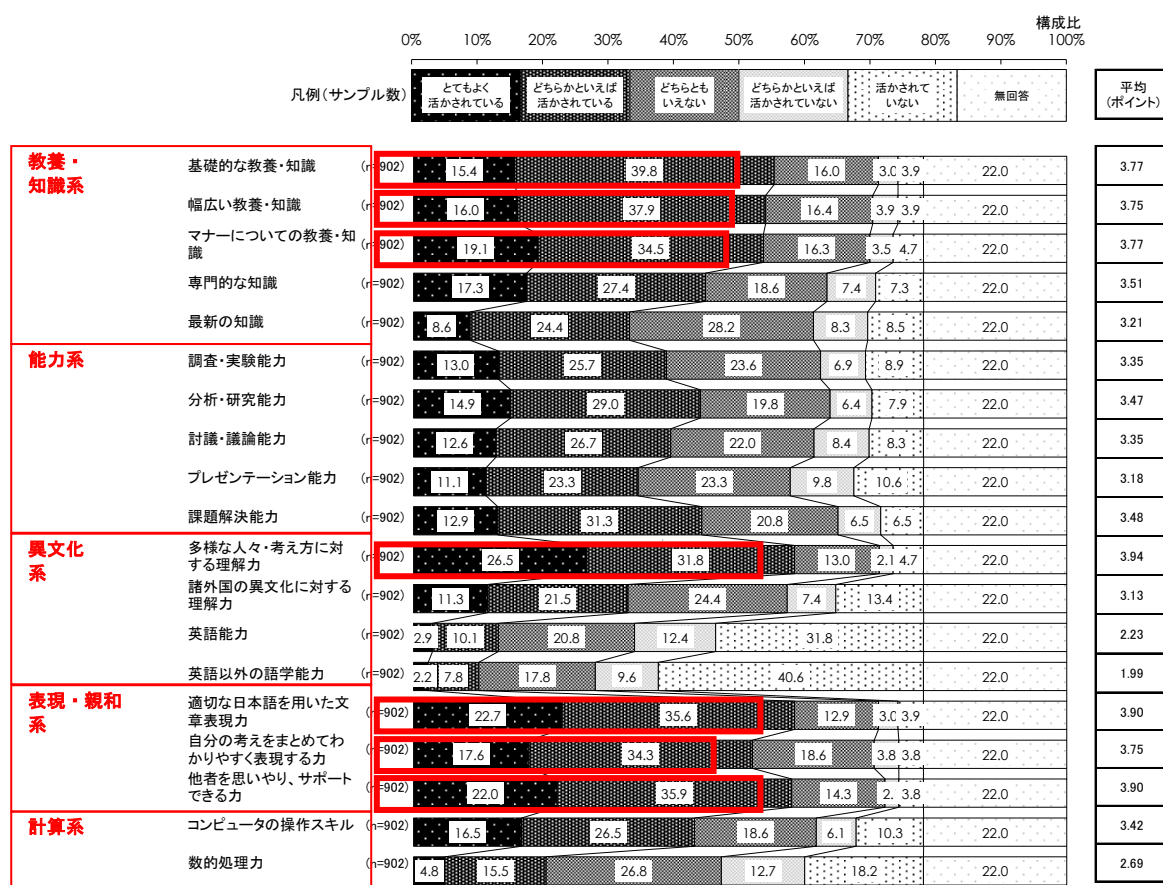
学生時代に修得したことのうち、現在に活かされているものは、「とても活かされている」と「どちらか」といって活かされている」を合わせた割合が高いのは、[多様な人々・考え方に対する理解力]と[適切な日本語を用いた文章表現力]でともに58.3%、次いで[他者を思いやり、サポートできる力]が57.9%などの順となっている。

加重平均すると、最も点数が高いのは[多様な人々・考え方に対する理解力]で3.94ポイント、次いで[適切な日本語を用いた文章表現力]と[他者を思いやり、サポートできる力]がともに3.90ポイントなどの順となっている。

逆に点数が最も低いのは[英語以外の語学能力]で1.99ポイント、次いで[英語能力]が2.23ポイント、[数的処理力]が2.69ポイントなどの順となっている。

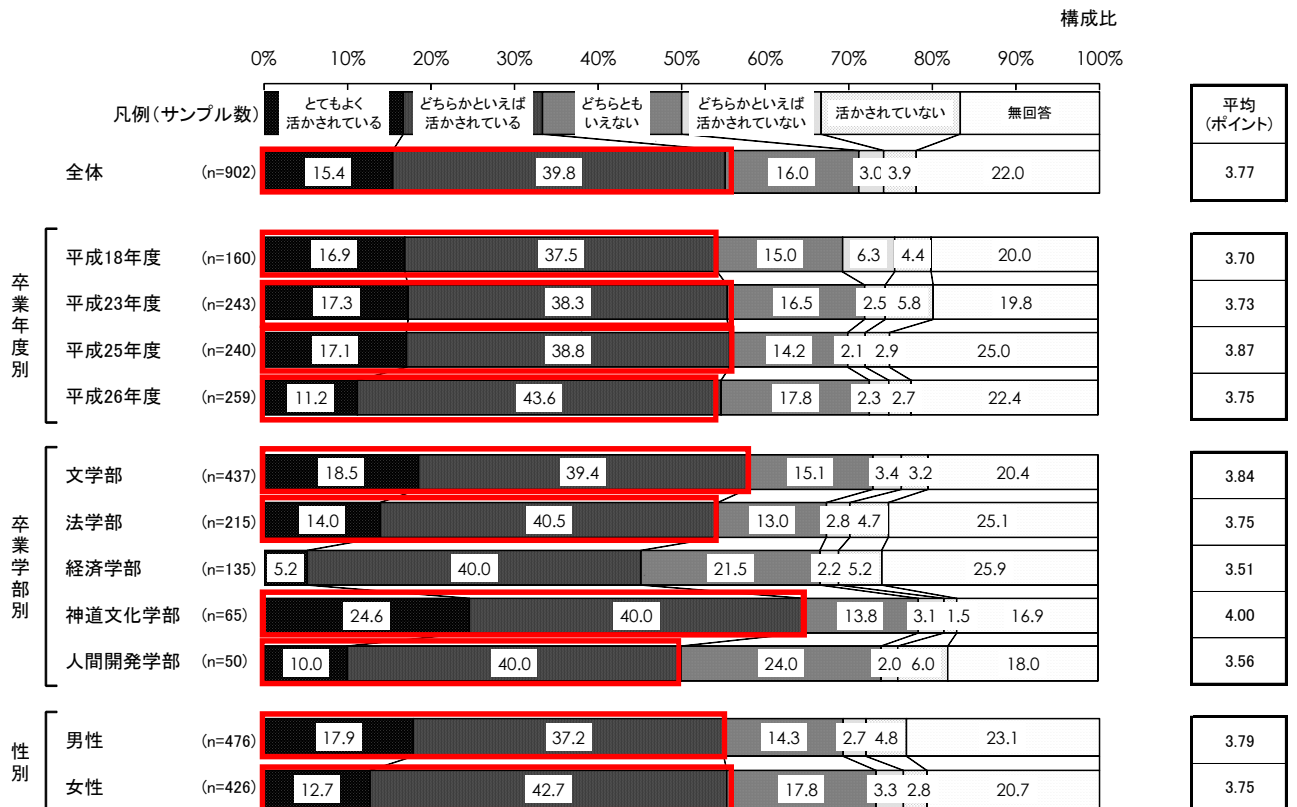
大きな分野でみると、[教養・知識系][表現・親和系]は活かされているという割合が高い一方で、[能力系][計算系]については相対的に低く、また[異文化系]は語学能力が低くなっている。[教養・知識系]、[能力系]、[異文化系]は身につけた知識・能力と同様の傾向であり、学生時代に修得したことが、その後の生活の可能性を広げることを示している。

図表1－47 学生時代に修得したもののうち、現在活かされている知識や能力（SA）

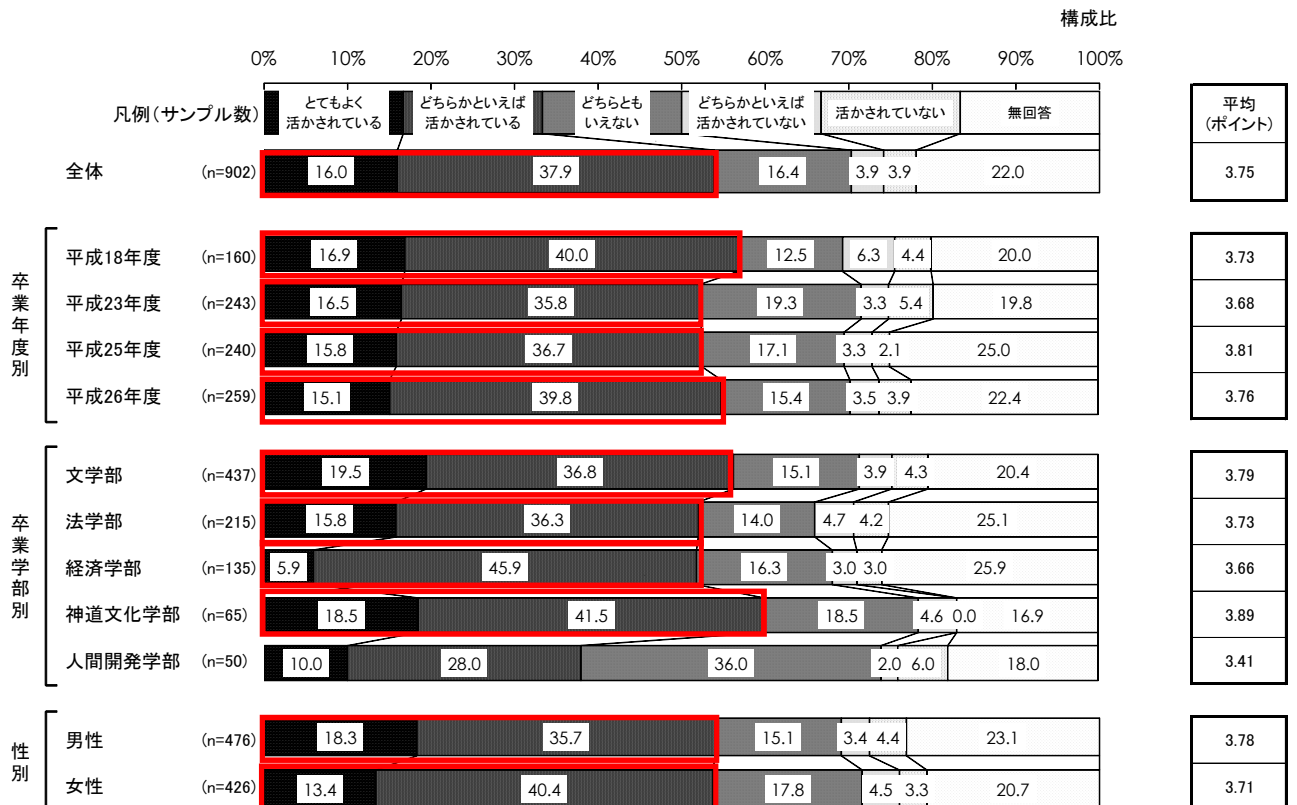


※「とても活かされている」5ポイント、「どちらか」といって活かされている」4ポイント、「どちらともいえない」3ポイント、「どちらか」といって活かされていない」2ポイント、「活かされていない」1ポイントで平均を抽出。

図表 1－48 基礎的な教養・知識（SA）



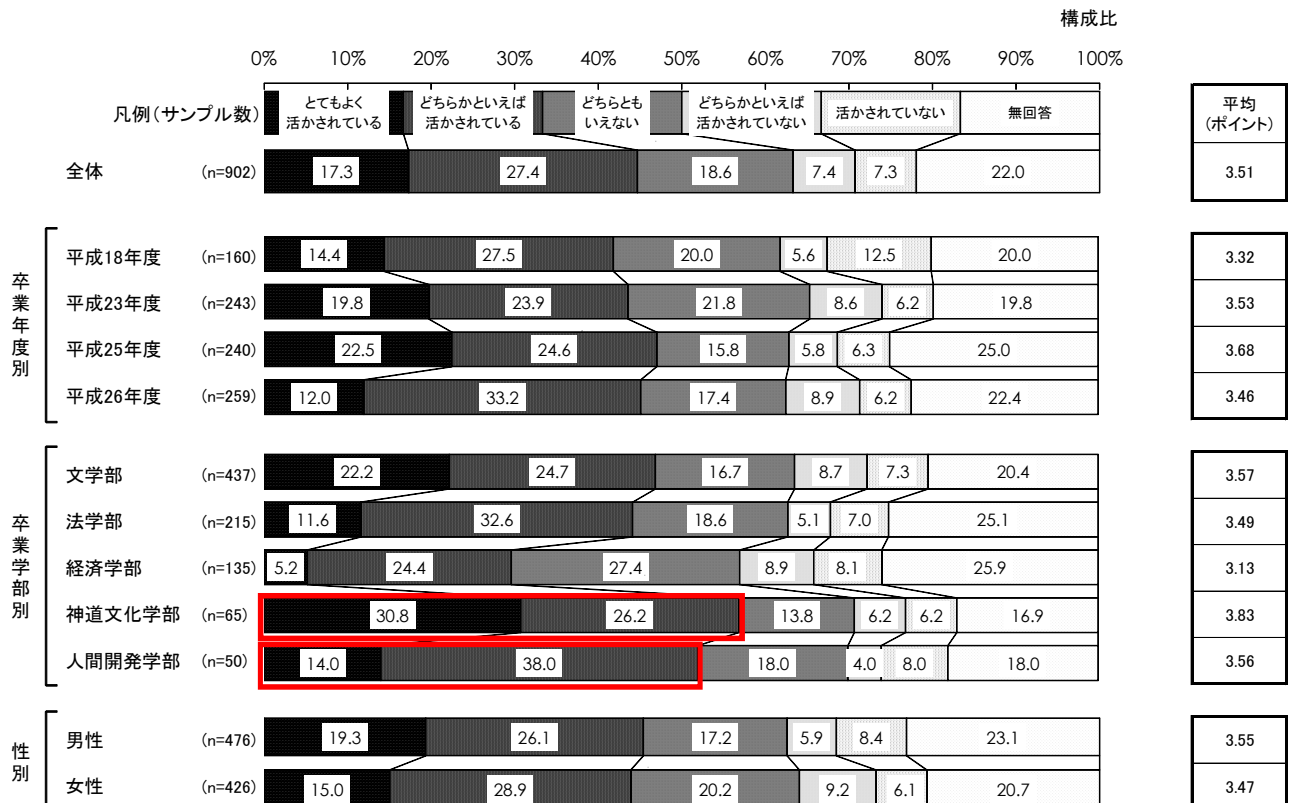
図表 1－49 幅広い教養・知識（SA）



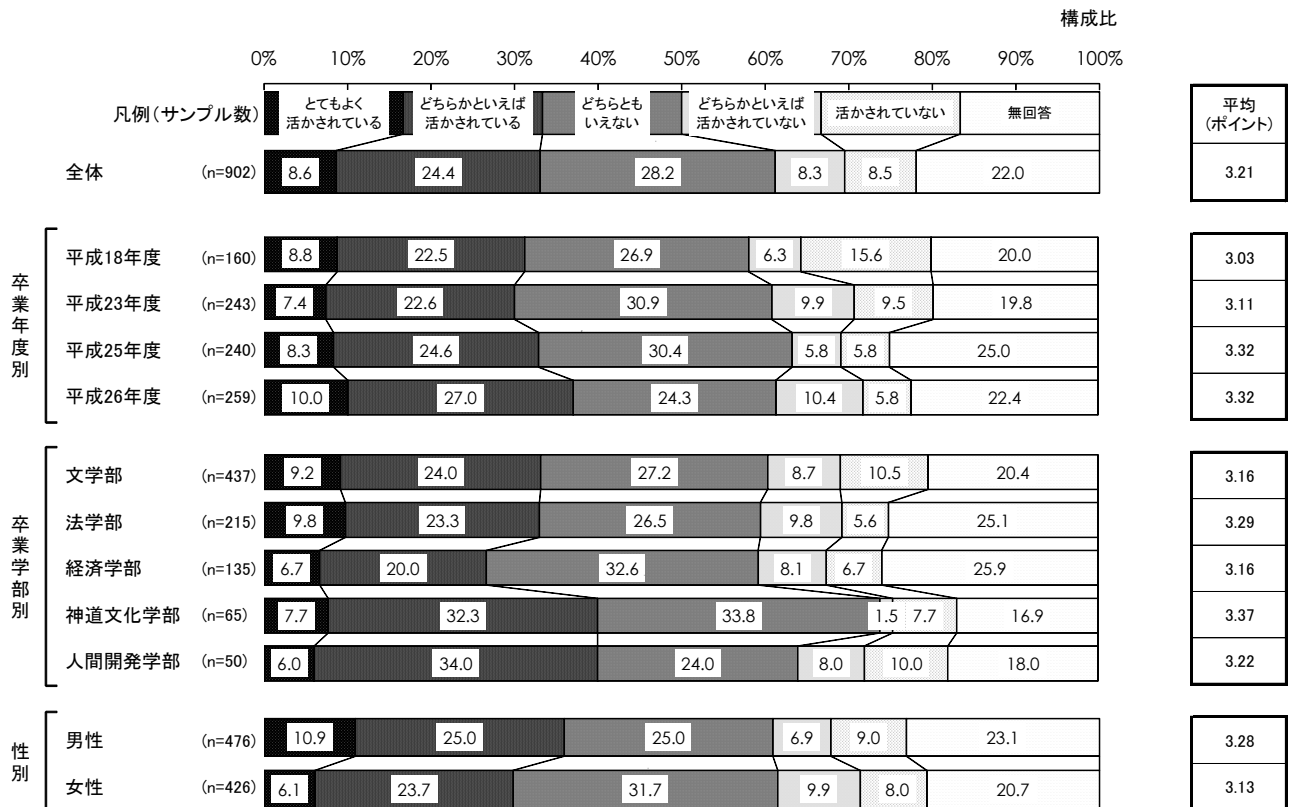
図表 1－50 マナーや礼儀についての教養・知識（SA）



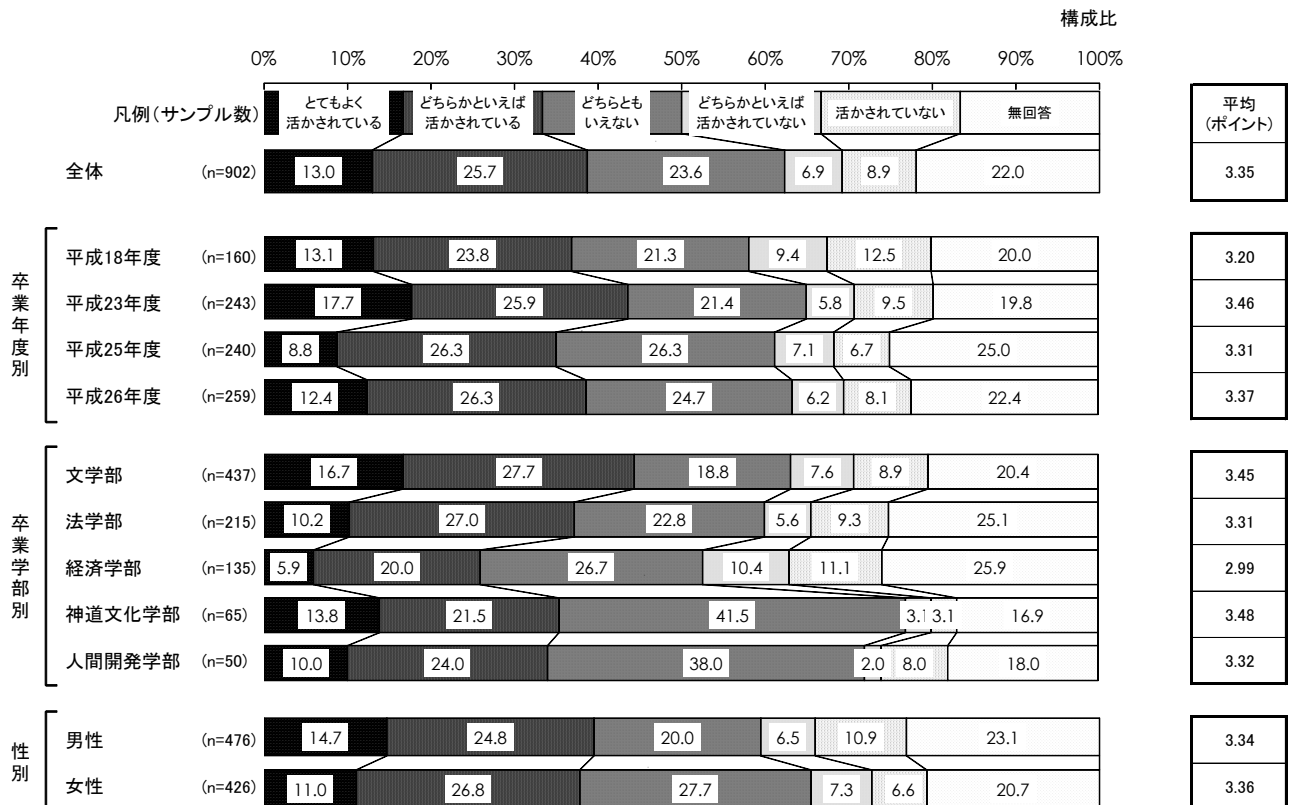
図表 1－51 専門的な知識（SA）



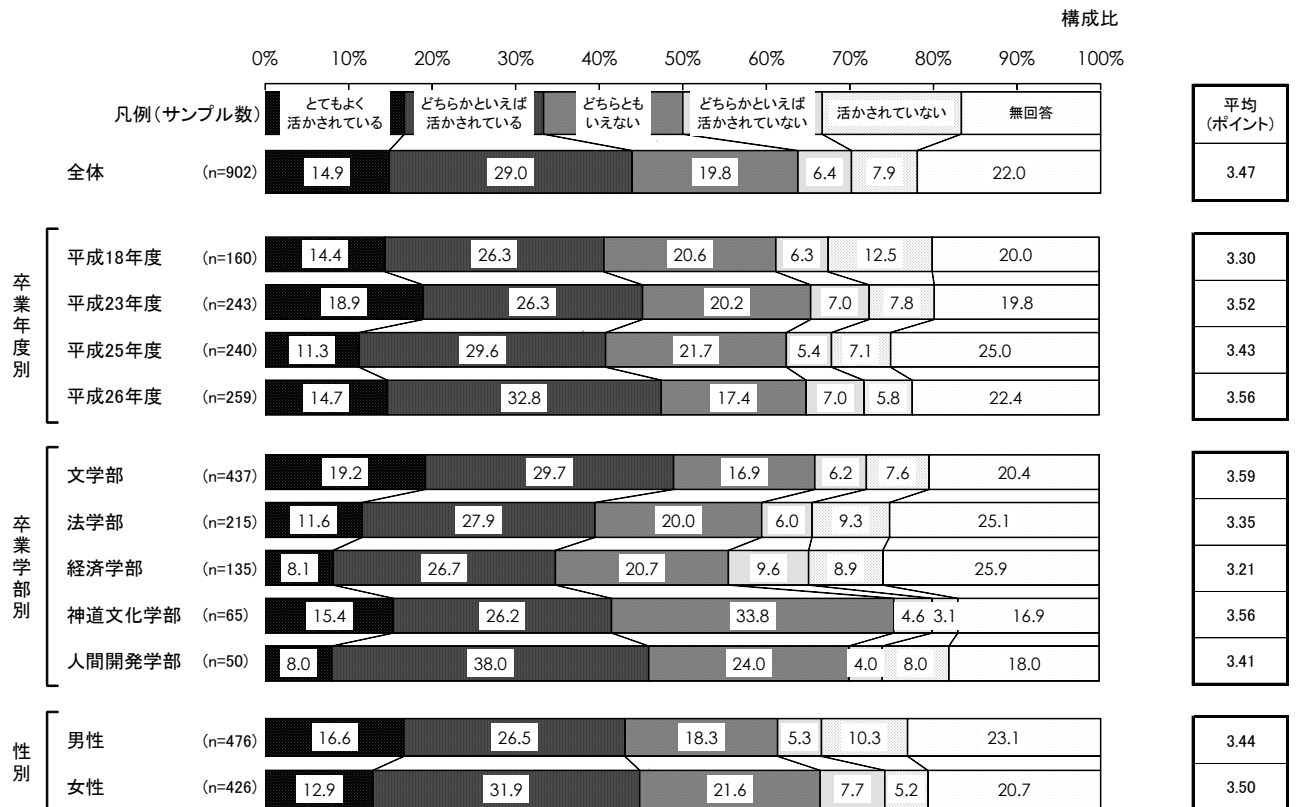
図表 1－5 2 最新の知識（S A）



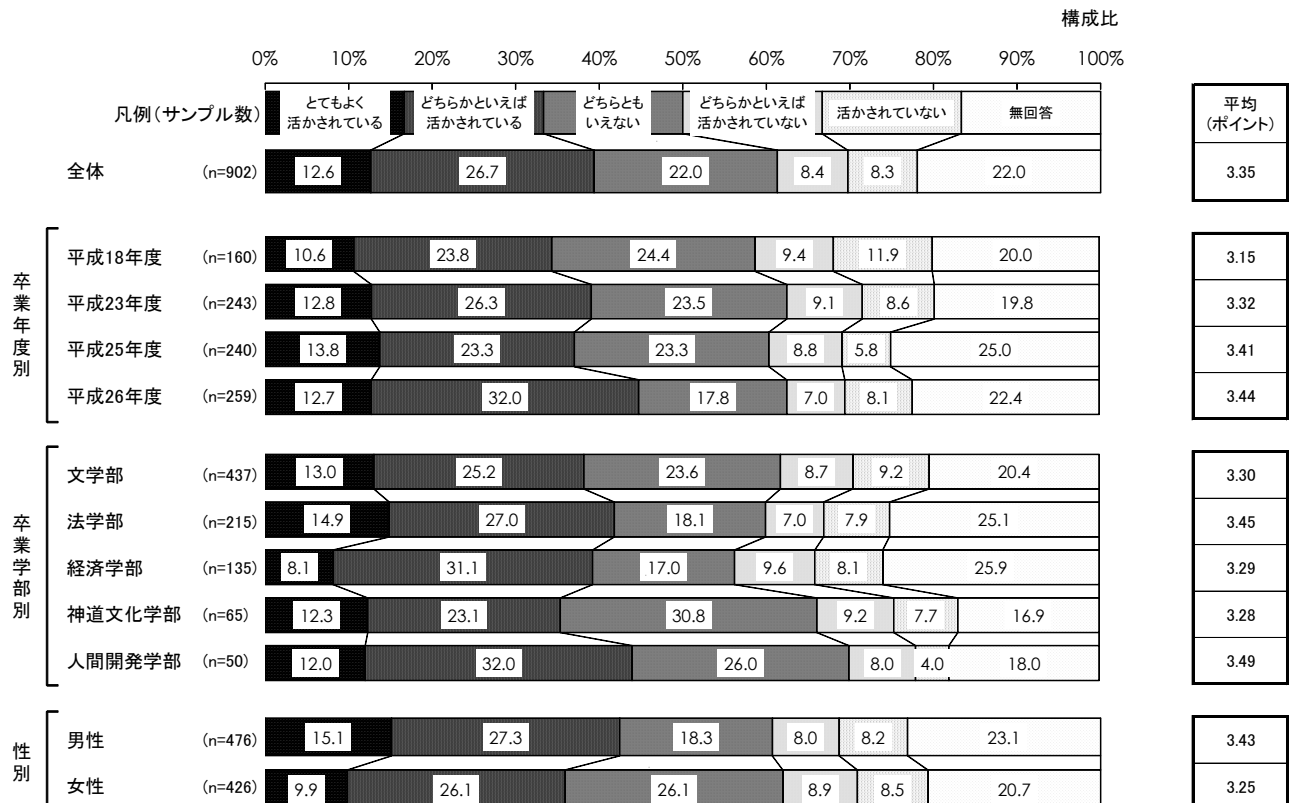
図表 1－5 3 調査・実験能力（S A）



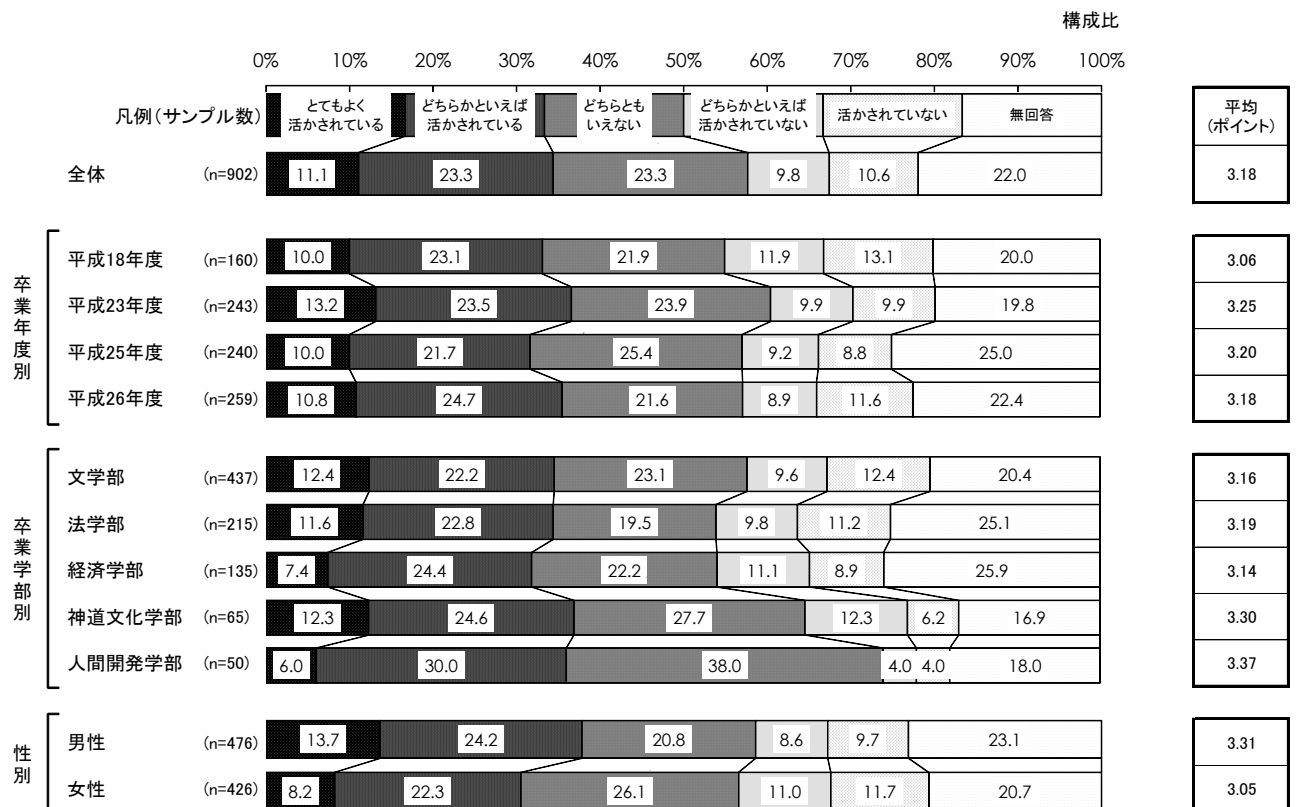
図表 1－5 4 分析・研究能力（S A）



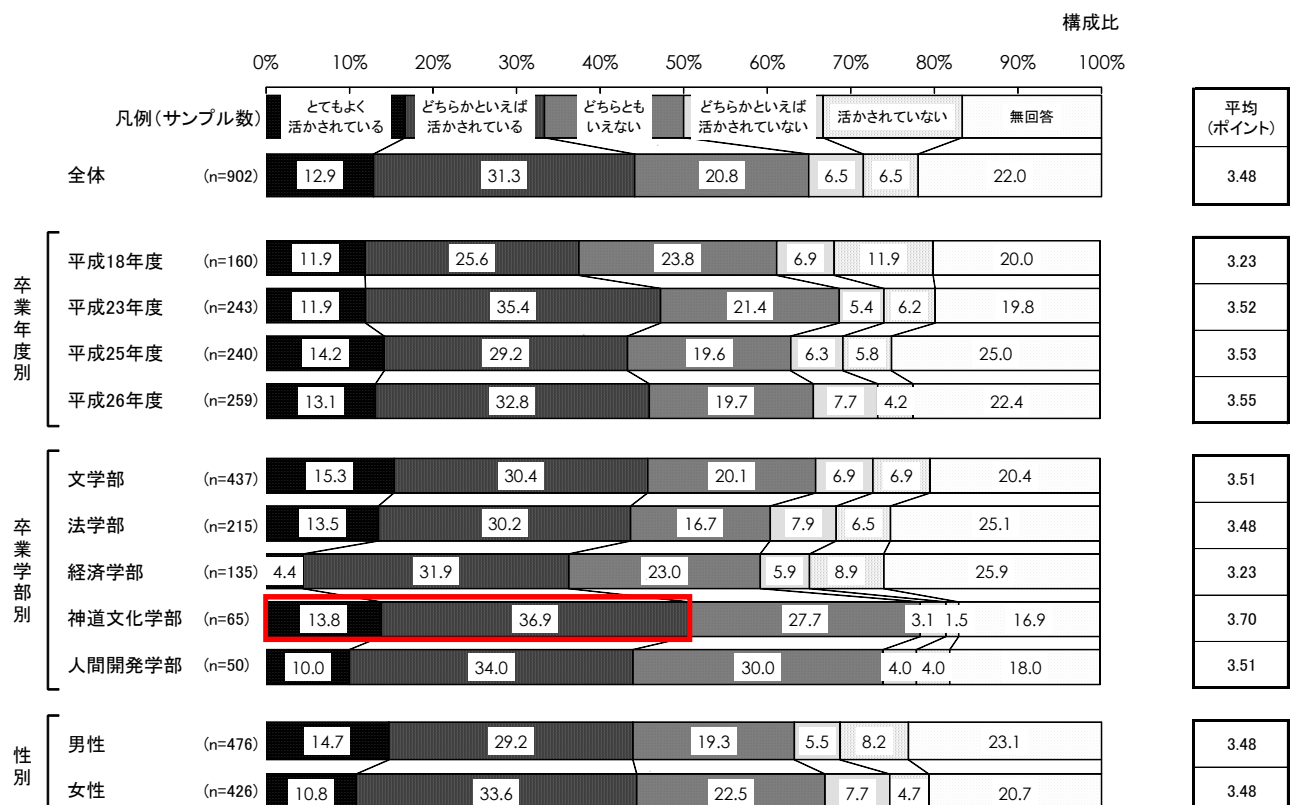
図表 1－5 5 討議・議論能力（S A）



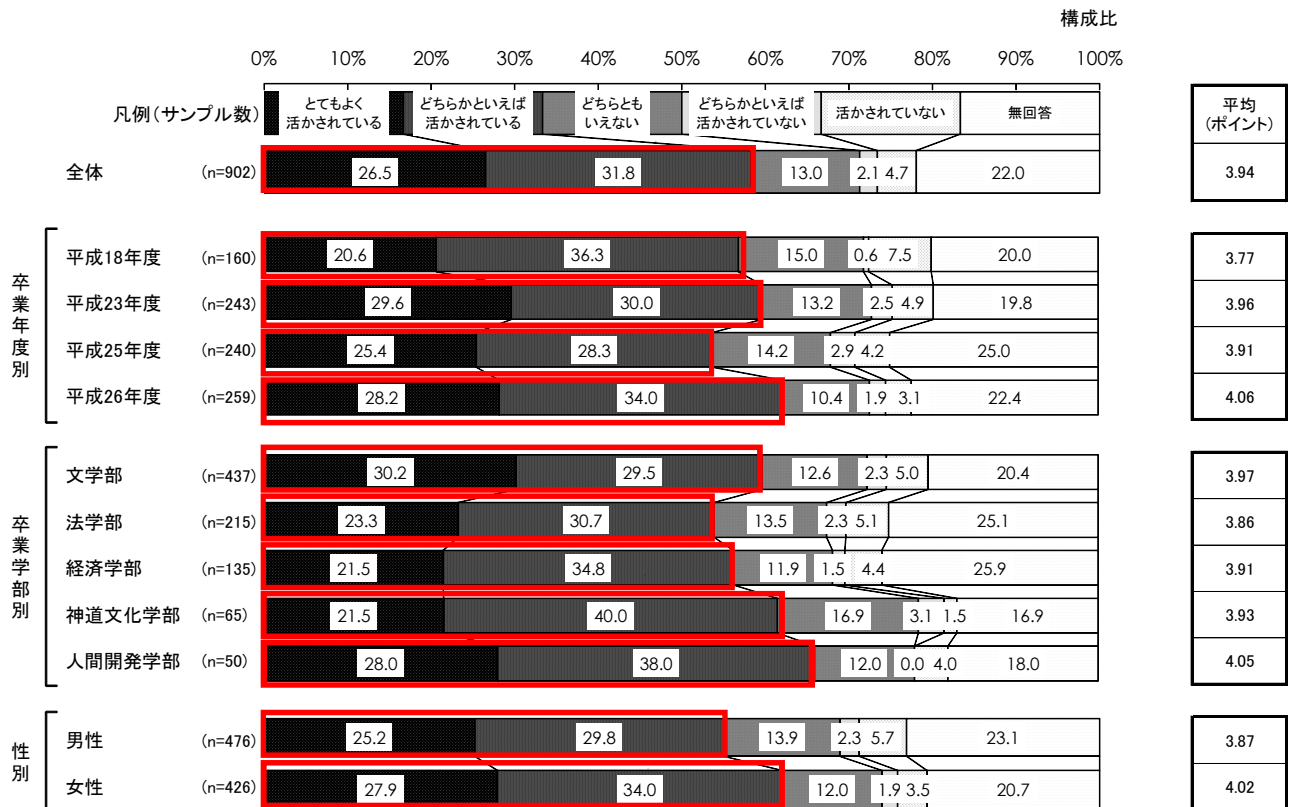
図表 1－5 6 プレゼンテーション能力（S A）



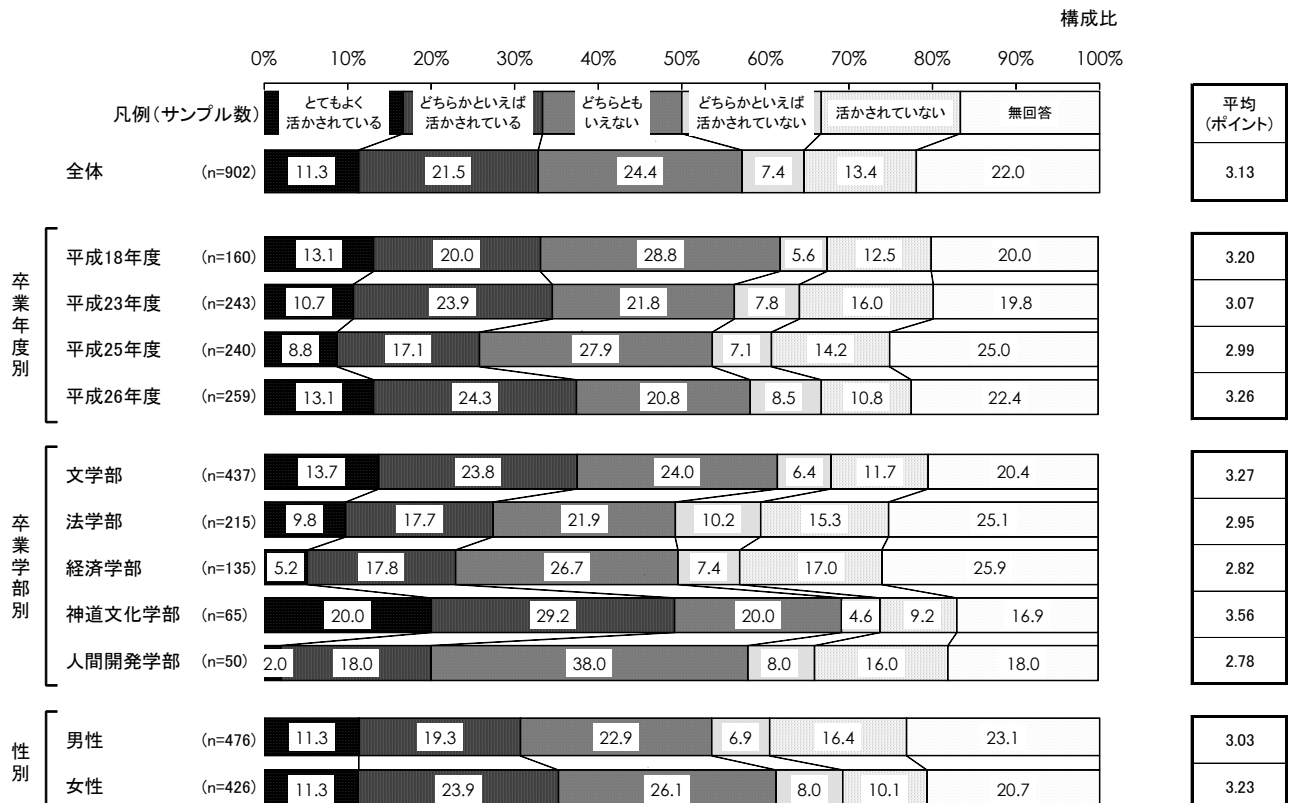
図表 1－5 7 課題解決能力（S A）



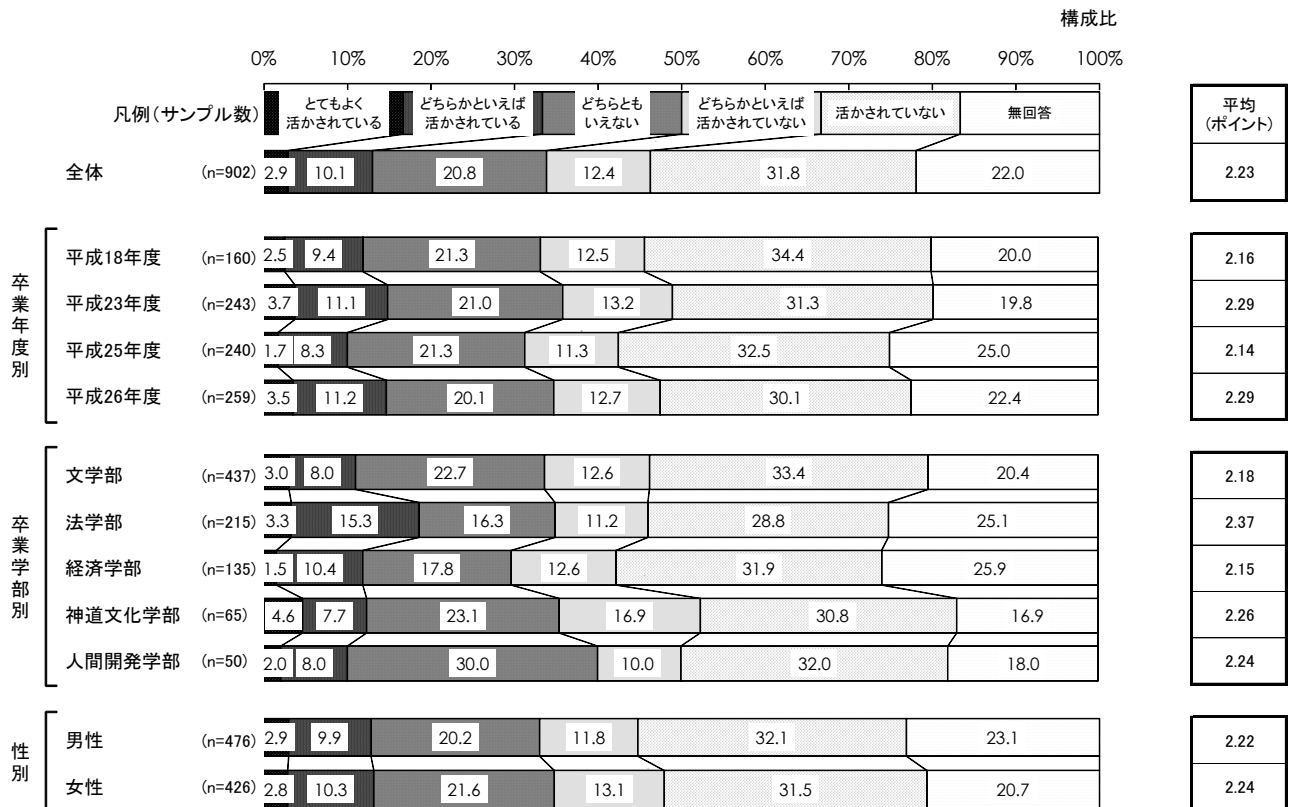
図表 1－58 多様な人々・考え方に対する理解力（S A）



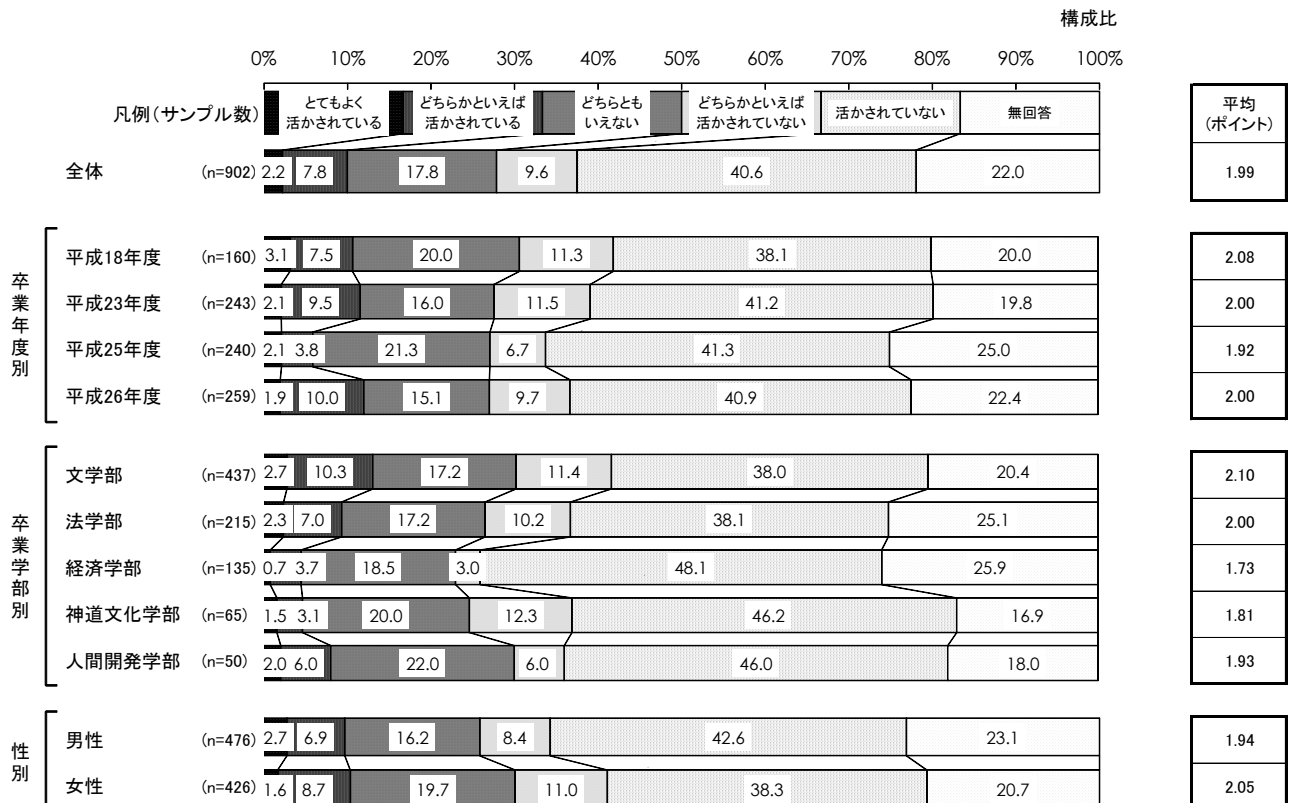
図表 1－59 諸外国の異文化に対する理解力（S A）



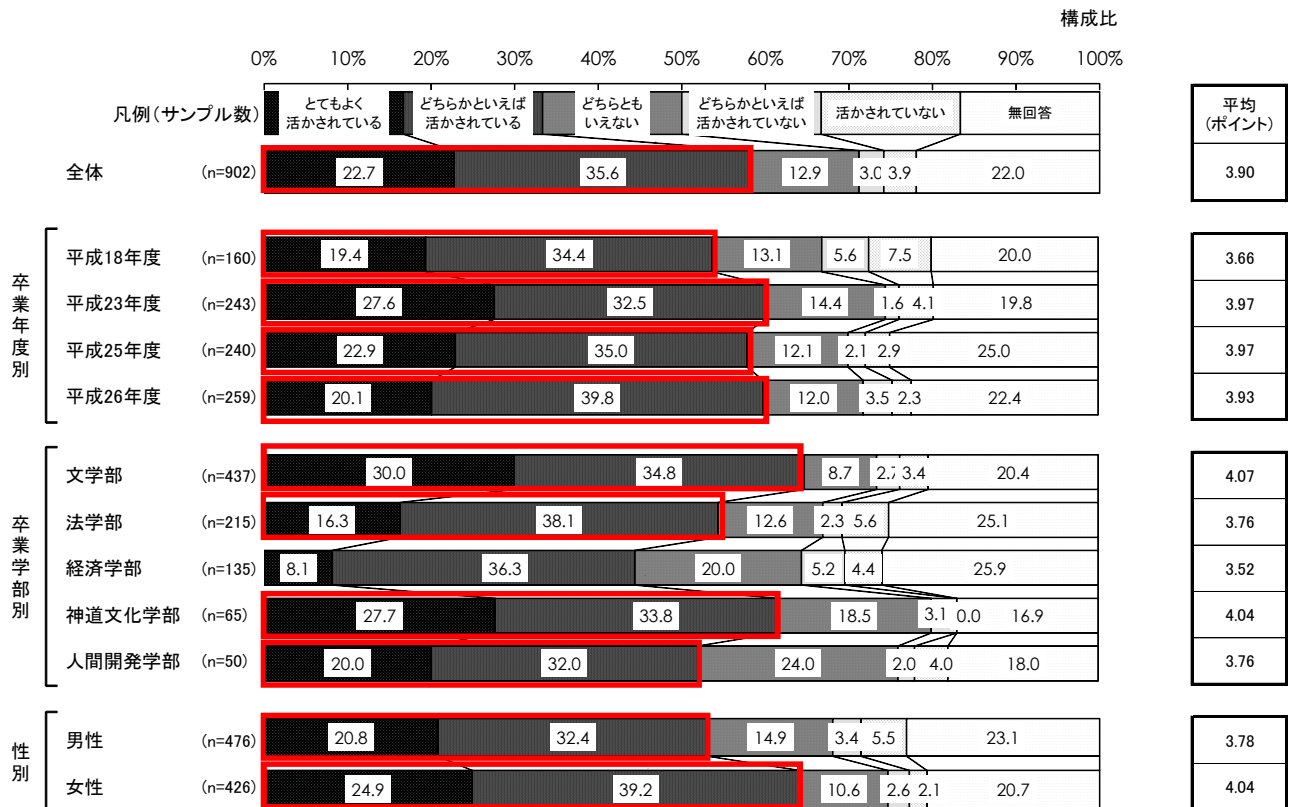
図表 1－60 英語能力（SA）



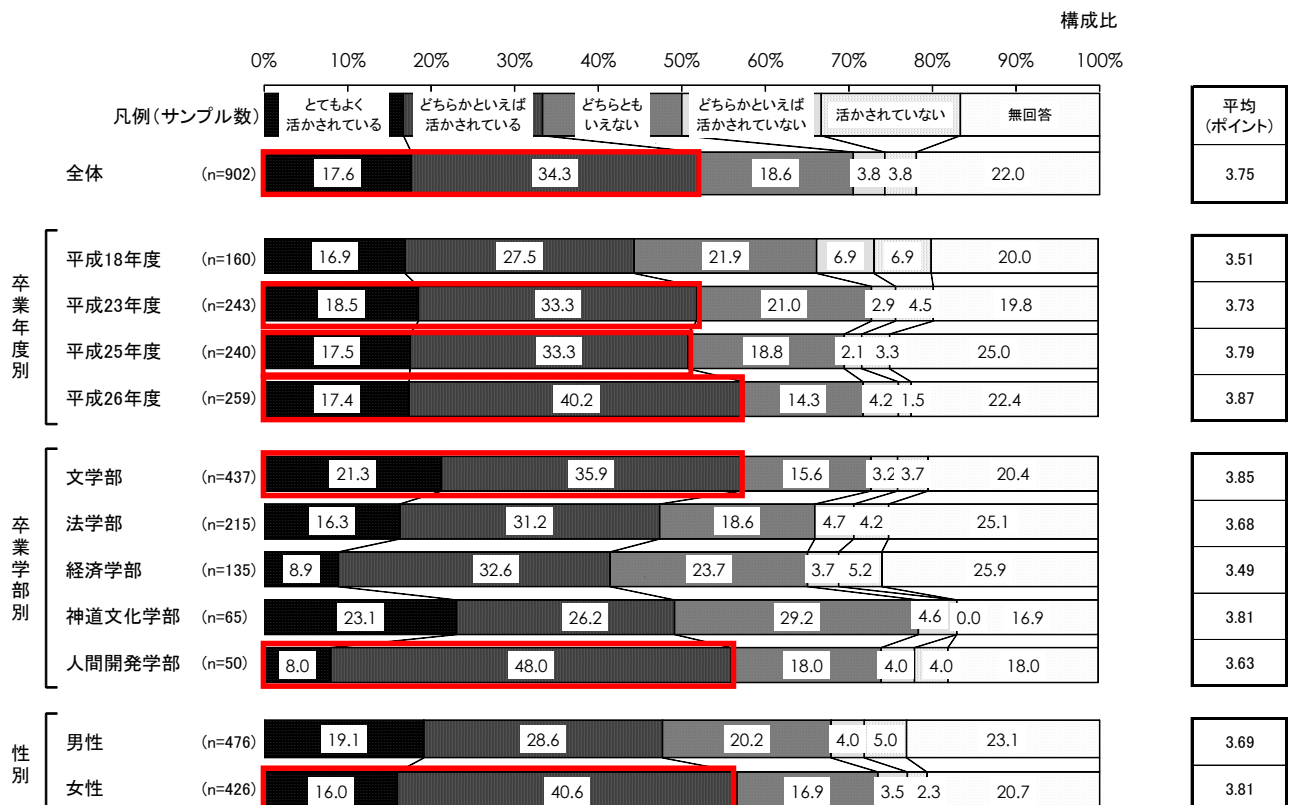
図表 1－61 英語以外の語学能力（SA）



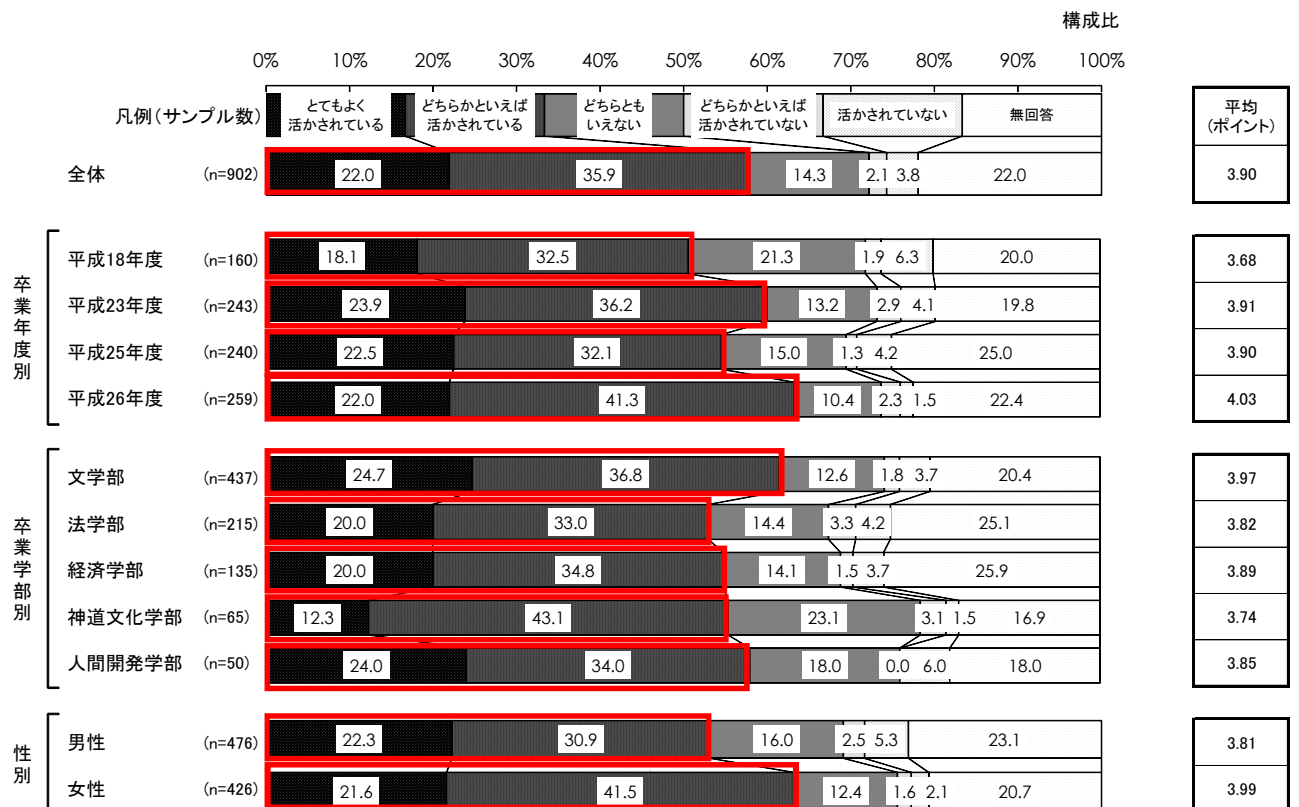
図表 1-62 適切な日本語を用いた文章表現力 (SA)



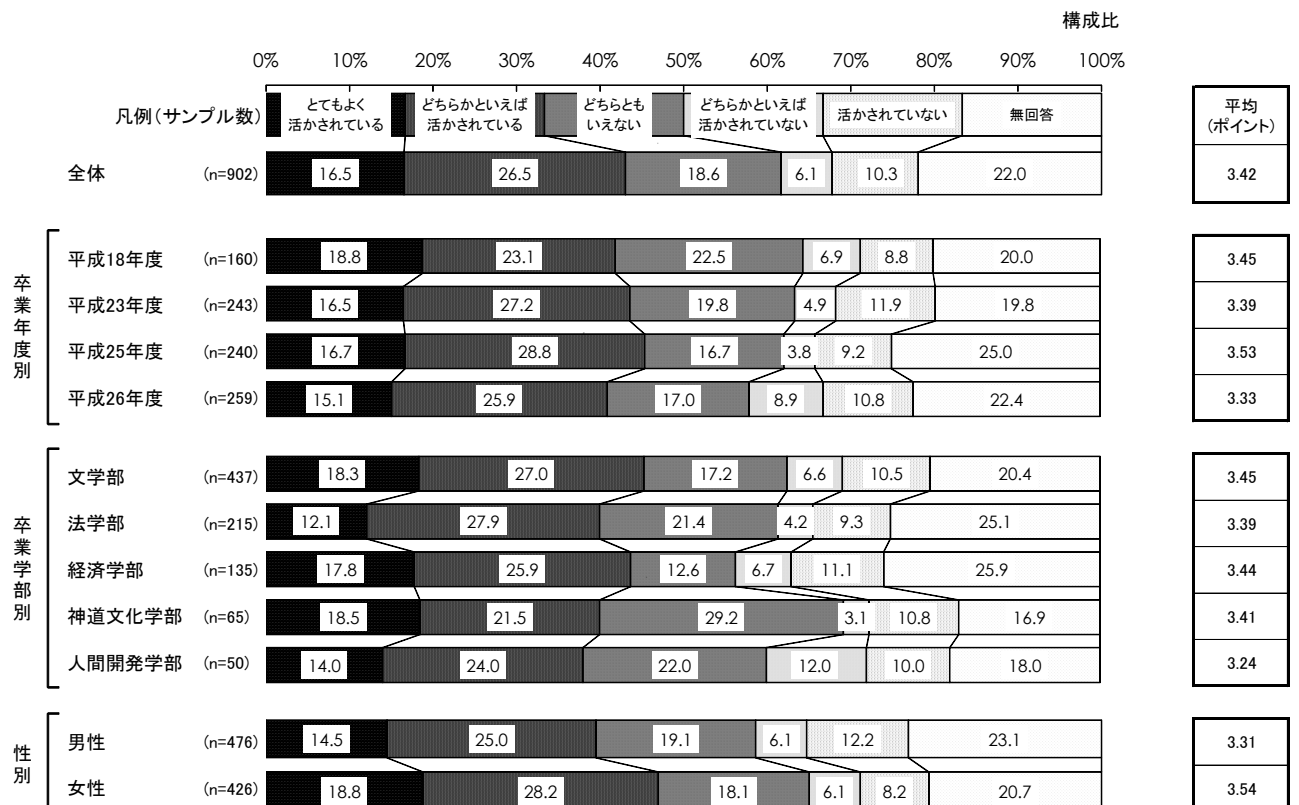
図表 1-63 自分の考えをまとめてわかりやすく表現する力 (SA)



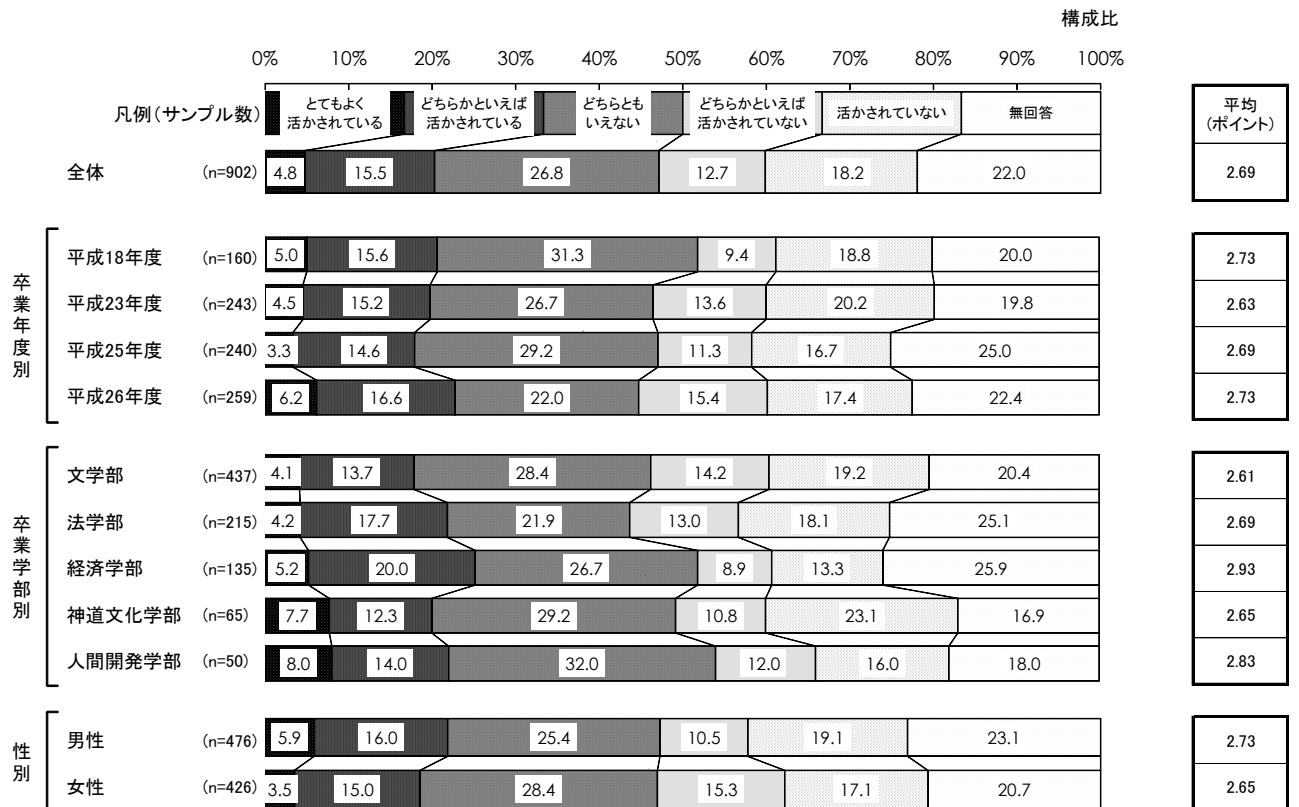
図表 1－6 4 他者を思いやり、サポートできる力（SA）



図表 1－6 5 コンピュータの操作スキル（SA）



図表 1－66 数的処理力（SA）



3. 「在学当時に身につけておけばよかった」と思う知識や能力はありますか。 (答えはいくつでも)

在学当時に身につけておけばよかったと思う知識や能力は、「英語能力」が最も高く 43.5%、次いで「プレゼンテーション能力」が 34.8%、「コンピュータの操作スキル」が 34.1%などの順となっている。

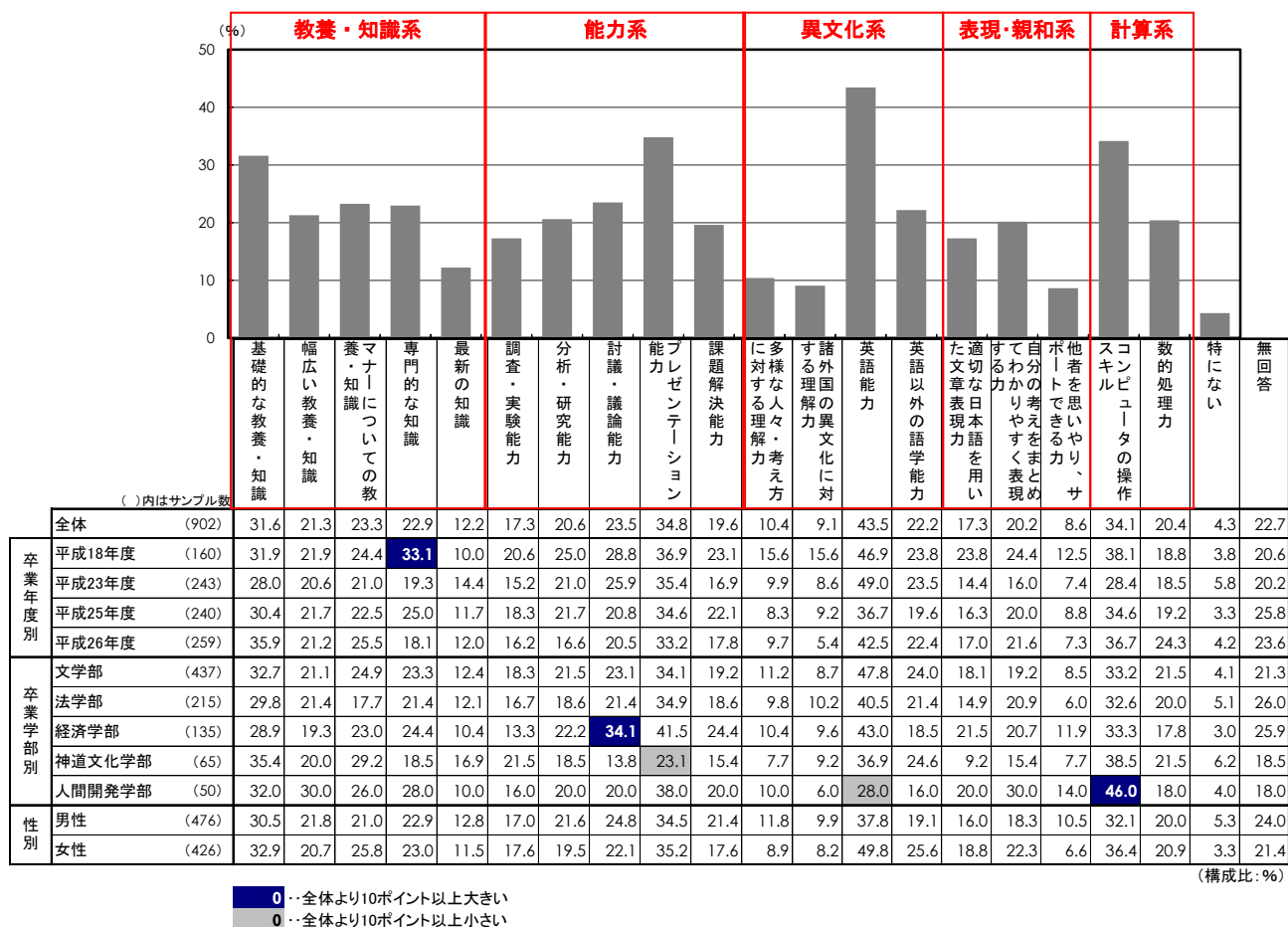
卒業年度別にみると、いずれの卒業年度も「英語能力」が最も高くなっている。また、卒業してから年数がたつほど、「身につけておけばよかった」という割合が高くなる項目は、「討議・議論能力」、「プレゼンテーション能力」となっており、他者を理解したり、自身の考えを伝える能力を挙げる傾向がみられる。

卒業学部別にみると、文学部、法学部、経済学部は「英語能力」が最も高い一方、神道文化学部、人間開発学部は「コンピュータの操作スキル」が最も高くなっている。

性別にみると、男女ともに「英語能力」が最も高く、女性は 49.8%と約半数を占める。

身につけなかった知識や能力に対し、「身につけておけばよかった」という回答が高くなるのが基本であるが、能力系は前述のとおり全般的に修得したという回答は高くない中で、「調査・実験能力」、「分析・研究能力」、「課題解決能力」は相対的に比べて低いことから、ニーズが限定的といえる。

図表 1－67 「在学当時に身につけておけばよかった」と思う知識や能力 (MA)



その他の内容

1	遺跡の発掘調査の専門的な知識と経験
2	エクセル基礎などできたほうが良い
3	エクセルのマクロ・VBAなど
4	他学科の課目も履修するべきだった
5	タイピング・タイピング・中国語
6	労基法、独禁法等はもっと勉強しとけば良かったと思う
7	人脈形成などコミュニケーションが基盤となる能力
8	労働基本法 その活用について
9	推理力
10	卒論執筆、マスコミ塾が大変役に立ちました。
11	社会人としてのお金に関するリテラシー
12	社会に出て働くと、常に新しいことにチャレンジしなければならず、新しいことん身に付けるのが楽しいので、問題ありません。
13	資格も何もない留年文系出身者は基本的にゴミという前提
14	自分の人生についての考え方
15	学芸員職としてイラストレーターやフォトショップなどのadobeシステムの理解と実践
16	“大学”の教育内容でこれらの項目を特別に身につけられたと言えるようなものってありました？
17	1、論理的思考と表現力(討論、文章表現等)2、統計学、心理学の習得3、短期でもいいので留学
18	社会経験
19	恋愛スキル
20	ビジネスマナー、メンタルヘルスケア
21	神事の行事作法をもっと体験したかった
22	もっと友人を作っておけばよかった
23	自ら課題を見つけ、解決する力
24	TOEIC
25	測量技術やフィールドワークの基礎知識

問 4 大学の満足度

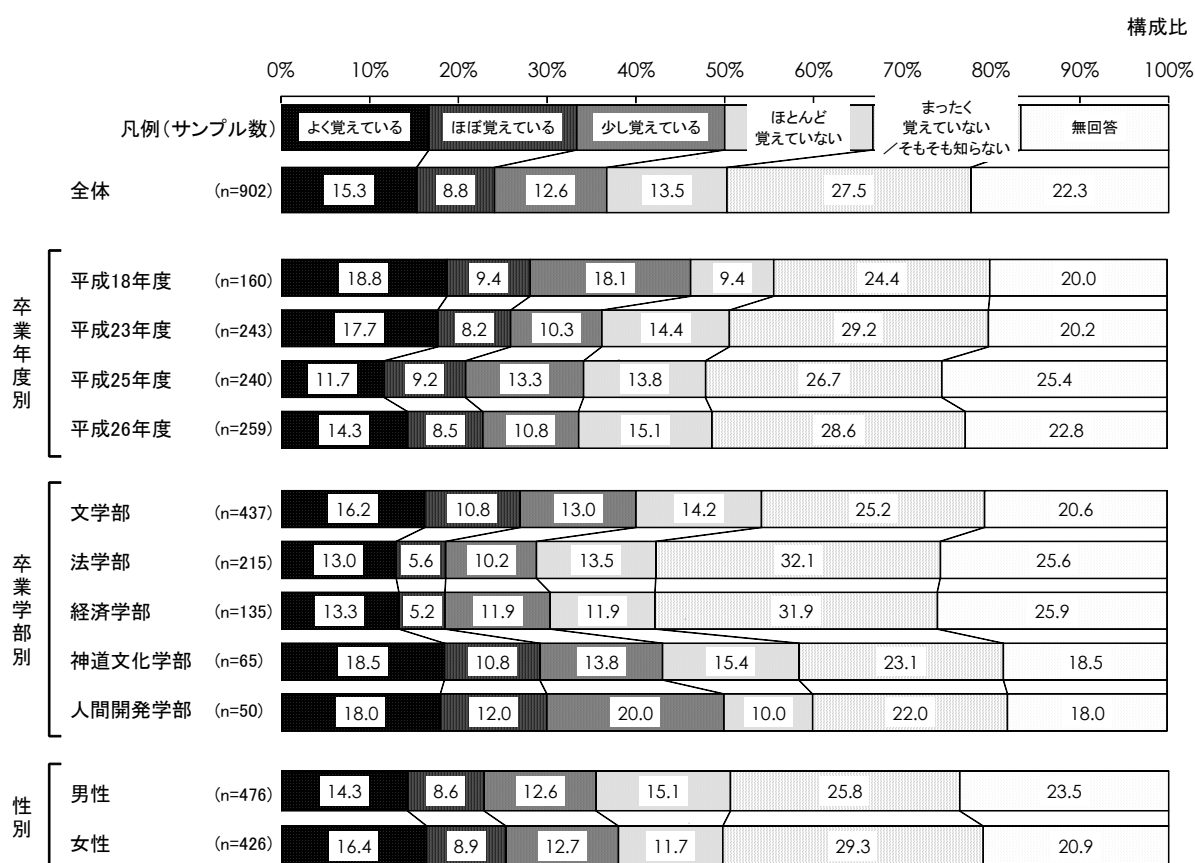
1. あなたは、國學院大學の校歌を覚えていますか。（1つ選択）

國學院大學の校歌を覚えているか、ということについては、「まったく覚えていない／そもそも知らない」が最も高く 27.5%、次いで「よく覚えている」が 15.3%、「ほとんど覚えていない」が 13.5% となっている。

卒業年度別、卒業学部、性別でも、「まったく覚えていない／そもそも知らない」が最も高くなっている。

卒業学部のうち、神道文化学部、人間開発学部は、他の学部 비해「まったく覚えていない／そもそも知らない」が低い一方、「よく覚えている」の割合が高くなっている。

図表 1－68 國學院大學の校歌について（S A）

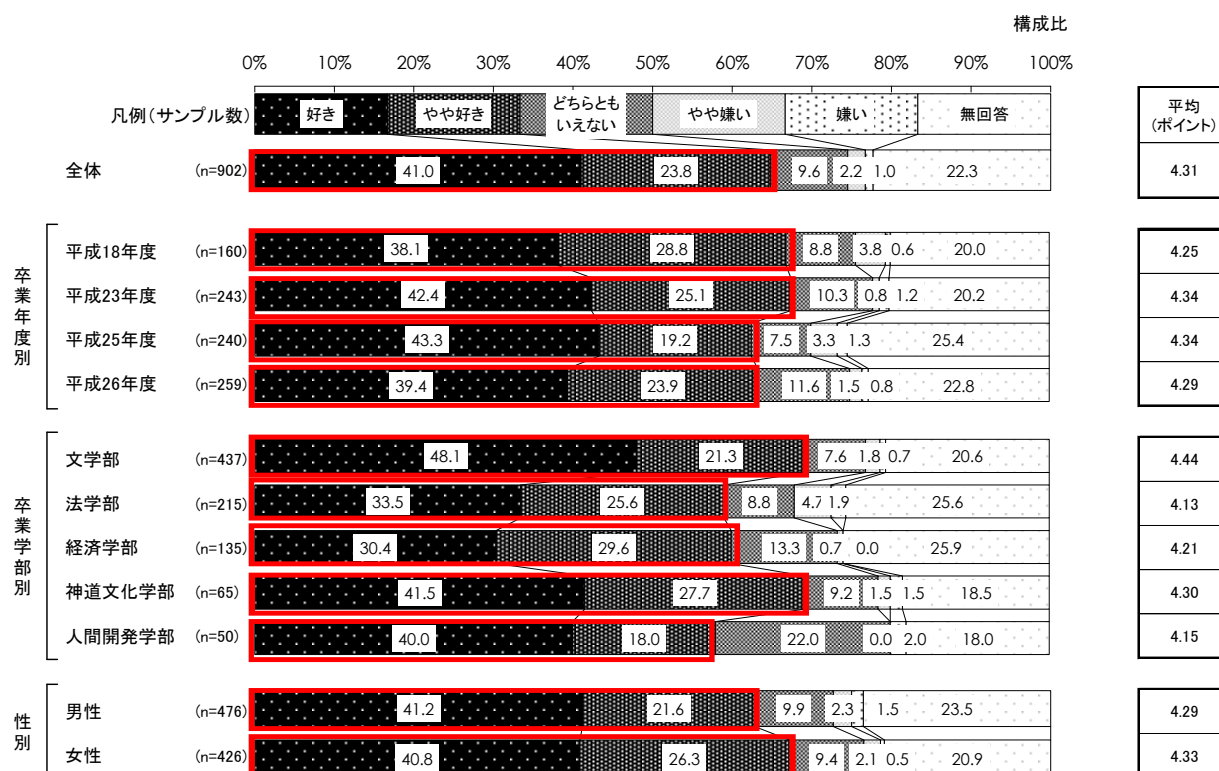


2. あなたは國學院大學が好きですか。（１つ選択）

國學院大學が好きか、ということについては「好き」が最も高く 41.0%、次いで「やや好き」が 23.8%、「どちらともいえない」が 9.6%となっている。

卒業学部別、卒業学年度別、性別で見ても同様である。

図表 1－69 國學院大學について（SA）



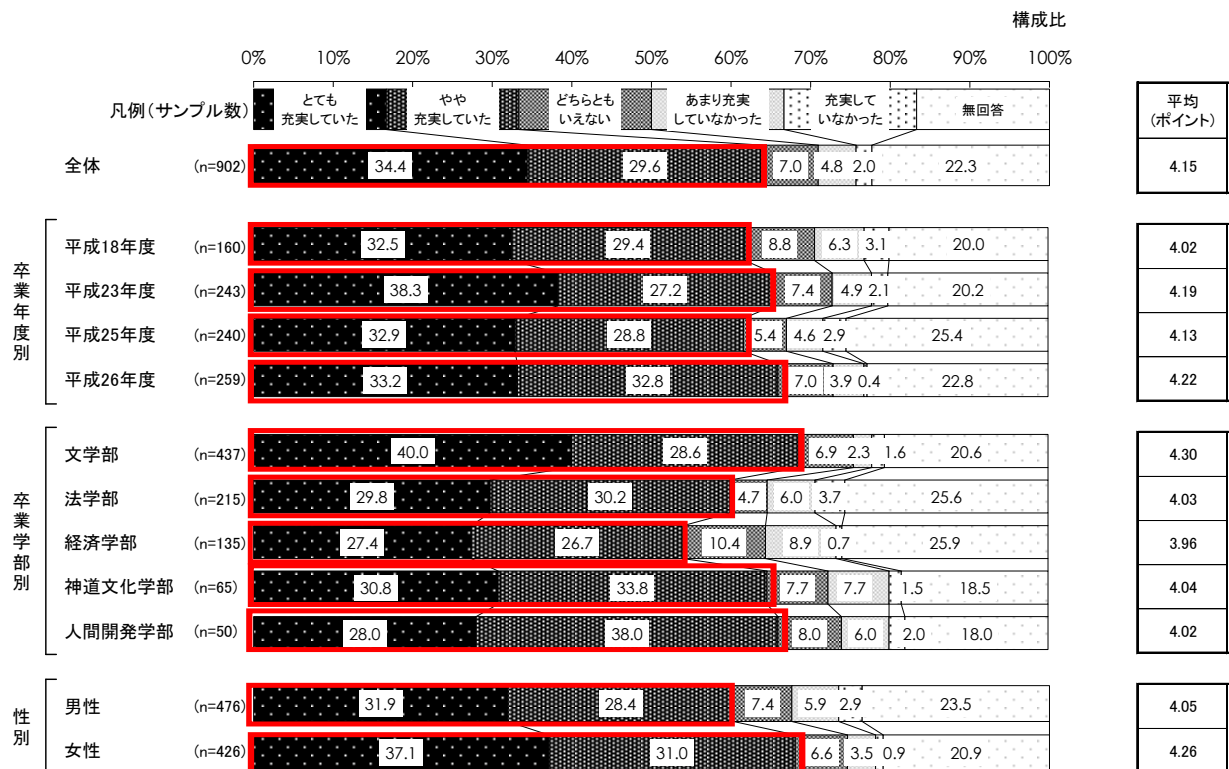
3. あなたの学生時代は、充実していましたか。（１つ選択）

学生時代が充実していたか、ということについては、「とても充実していた」が最も高く 34.4%、次いで「やや充実していた」が 29.6%、「どちらともいえない」が 7.0%となっている。

卒業年度別、性別でも、同様である。

卒業学部別でみると、文学部、経済学部は、「とても充実していた」が最も高くなっている一方、法学部、神道文化学部、人間開発学部は「やや充実していた」が最も高くなっており、学部により傾向が異なる。

図表 1－70 学生時代について（SA）



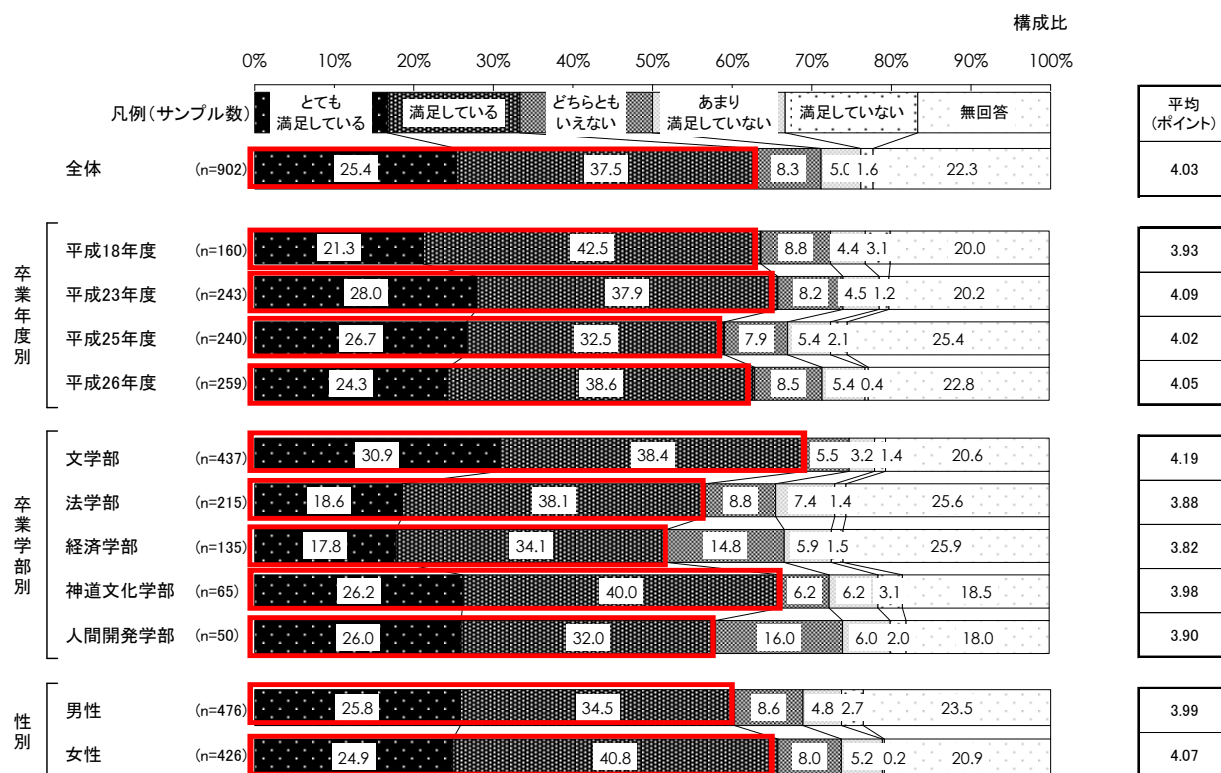
4. 本学に対する総合的な満足度をお答えください。(1つ選択)

本学に対する総合的な満足度については、「満足している」が最も高く 37.5%、次いで「とても満足している」が 25.4%、「どちらともいえない」が 8.3%となっている。

卒業学部別、卒業学級別、性別で見ても同様である。

文学部は「とても満足している」が 30.9%と他の学部より高いことが特徴である。

図表 1－7 1 本学に対する総合的な満足度（S A）



その他の内容

1	立地
2	得ようと思えば、やろうと思えば、なんでも挑戦できる、やれる環境だったから。
3	国際交流科の対応
4	自分の趣味をゼミで研究させて頂けたため
5	就職サポートセミナーでのご支援・ご指導が今の仕事で大いに活かされているから
6	沢山の資格が取得できた
7	全てが充実していました！ 國學院で過ごした時間は私の宝物です。
8	ポッチに優しい
9	学生スタッフの活動が盛んで、自分の為にも誰かの助けにもなれる経験が出来て良かった。
10	今の会社に誘ってくれたのが大学時代で最後期の友人です。留年してしまったが何が起るかわからない。
11	星野教授に出会えた事
12	都心での学生ライフを過ごせたこと
13	国際交流課の石山さん、茂木さんに大変お世話になりました。感謝しています。
14	可愛い職員さん達と一緒に、日本文化振興企画を推進できた
15	チャンポンだったあの頃の私に対し、留年という形で目を覚まさせてくださいました。
16	当時、欠席がちだった自分にとっても親身になってくれた教授がいた
17	研究会活動により人生に於いて基盤となる経験や知識など学べた
18	伝統ある史学科で学べたことを誇りに思っている。
19	就職支援と奨学金の充実
20	渋谷という環境
21	自分の将来の職業に活かされた
22	國學院は全体的に真面目な方が多かったので、自分と合う友達ができました。校風がとても良いと思います。また、雅楽や神道のお祭りなども関係のない学部生も聴いたり見たりできたので、とても神聖な大学のイメージとして私の中では残っています。
23	二階の食堂の不味さは酷い
24	セメスター留学時に、国際交流課の方に大変お世話になりました。
25	留学での経験は一生の宝物になった
26	他の大学では学べない専門的な分野が多く学べたこと。学生数が多すぎず、教員から直接様々なことを学ぶことができたこと。
27	なんとなく不満はない
28	自主性を重んじていた
29	図はらしい先輩、同期、後輩に恵まれた
30	伝統と研究実績。建学の理念。校歌。校風。
31	校風があっていた 将来の進路が具体的に決まった 神道の夏期実習など他の大学ではできない経験ができた
32	知的好奇心が満たされた
33	履修した科目(管理会計)がきっかけで今経理の職に付いている。
34	社会人でも違和感なく学びに参加できた。
35	祭式教室での講義、助勤・研修などの実務
36	校舎が綺麗だった
37	資格課程を修めることができた。
38	大学入試以前に聞いていた研究室の雰囲気が、私が入った時には伝統的に残っていたため。
39	渋谷の土地勘を持てた
40	昔の図書館も雰囲気があり好きだった/神道精神を基にした日本らしい大学が好きだった/良き友人ばかりだった、有り難い
41	外文の先生、学生共に個性的で視野が広い人が多かった。チューター制度があり、留学生と積極的に交流が取れるのも良かった。外文に入って、本当に良かった。
42	キャンパスの雰囲気
43	就職支援の体制
44	学生相談室を利用することができ、心理面でのサポートを得られたからです。その点に感謝しています。
45	就職活動の支援に力が入っていた
46	学びたいゼミがあった
47	交通の便がいい
48	立地が良かった

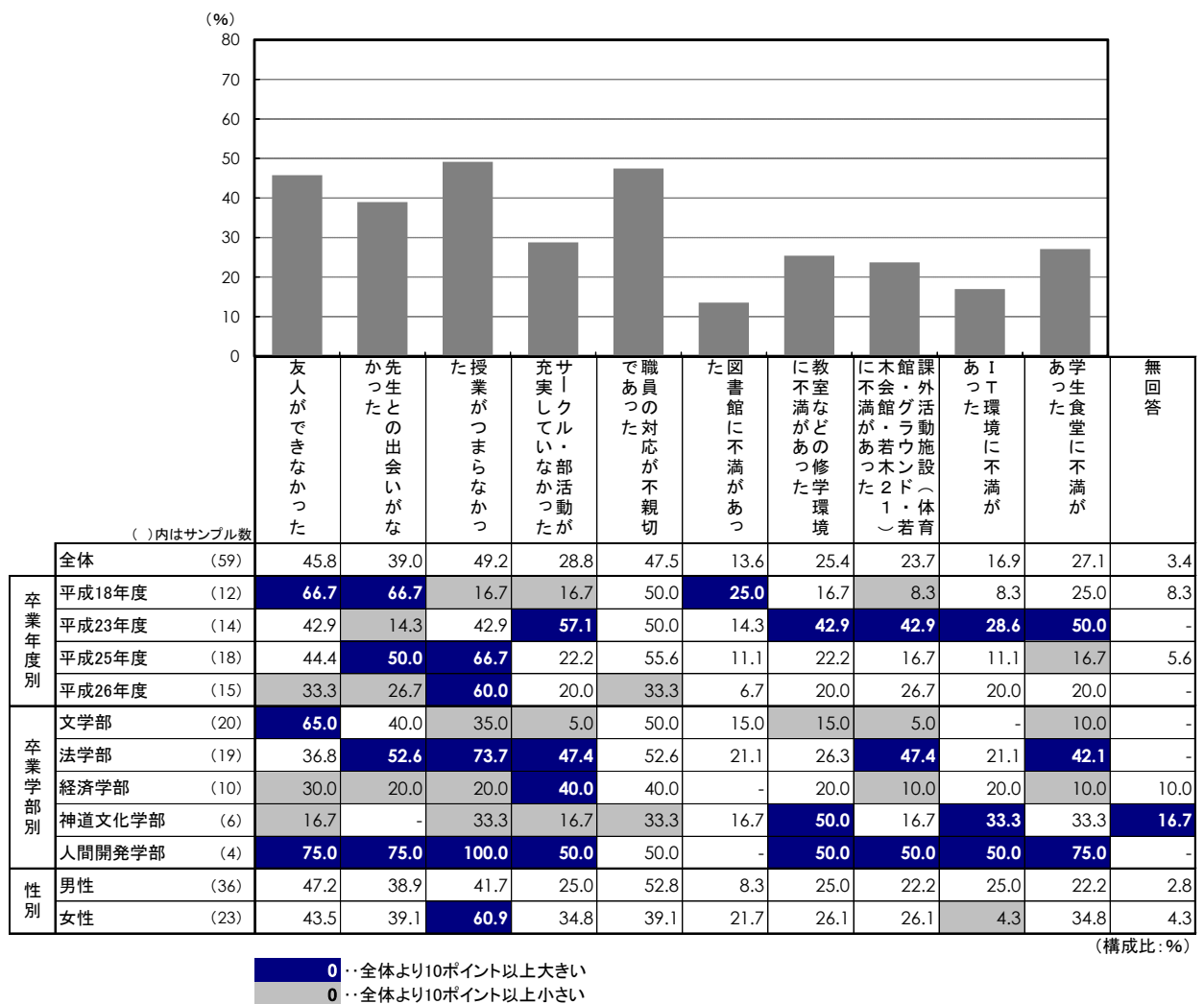
6. (「あまり満足していない」、「満足していない」と回答された方にうかがいます。)
あなたが國學院大學に不満足な理由をお選びください。(答えはいくつでも)

國學院大學に不満足な理由は、「授業がつまらなかった」が最も高く 49.2%、次いで「職員の対応が不親切であった」が 47.5%、「友人ができなかった」が 45.8%などの順となっている。

卒業年度別にみると、平成 18 年度においては、「友人ができなかった」と「先生との出会いがなかった」がともに 66.7%、平成 23 年度は「学生食堂に不満があった」が 50.0%とそれぞれもっと高くなっている。

性別にみると、女性は「授業がつまらなかった」が 60.9%と男性よりも不満を感じる人の割合が高くなっている。

図表 1－73 國學院大學に不満足な理由 (MA)



その他の内容

1	自分自身にも責任がありますが、考古学を専攻したのに嘱託にもなれなかった。新卒で就職できなかった。
2	神道精神を重んじるはずの学舎で、何故か左翼系団体が幅を効かせている矛盾が腹立たしい。
3	社会人としてもプロフェッショナルとしての能力以前の心構えが身につかない。意識が培われず社会に出てから苦労した。
4	就職環境
5	校舎立て替えの為の工事が気になっていた
6	他大と比較して授業が良くなかった。
7	学生が神道の割に品が無いから
8	ゼミ、卒論を経験できなかった(しておけばよかった)
9	あのクソで無能な事務員どもに税金が投入されてると思うと腹が立つ
10	せっかく編入学試験を受けて入学したが、あまり周りにやる気のある人がおらず、また、一般編入で入学した為、系列校などの編入者と仲良くなることが難しく、困った。ゼミも先生は良かったが、生徒の勉強に対してのやる気のなさや、自分との温度差が激しく、悲しかった。
11	編入学生のアフターケア等
12	就職率が悪い為、OBを探すのに苦労した。またOBがいても大概が女性でその会社で活躍している様には見えない方だった。本校のカリキュラムはビジネスをする上でのスキルに乏しいと思います。
13	興味をひくような、受講科目があまりなかった。
14	在学中・卒業後共に法学部在籍者に対する大学側の関心の低さ
15	自治会が授業中でもうるさくて迷惑、学費が高い、一部の学生の質が低い、楽単の授業が多い
16	特に就職課・教職センター職員の態度
17	新卒で就職できなかった
18	教室、休み時間の割りに女子トイレが少なくとても困った。新しい校舎でもそれは同じだった
19	より実学的な分野を専攻すべきだったのではと思った。

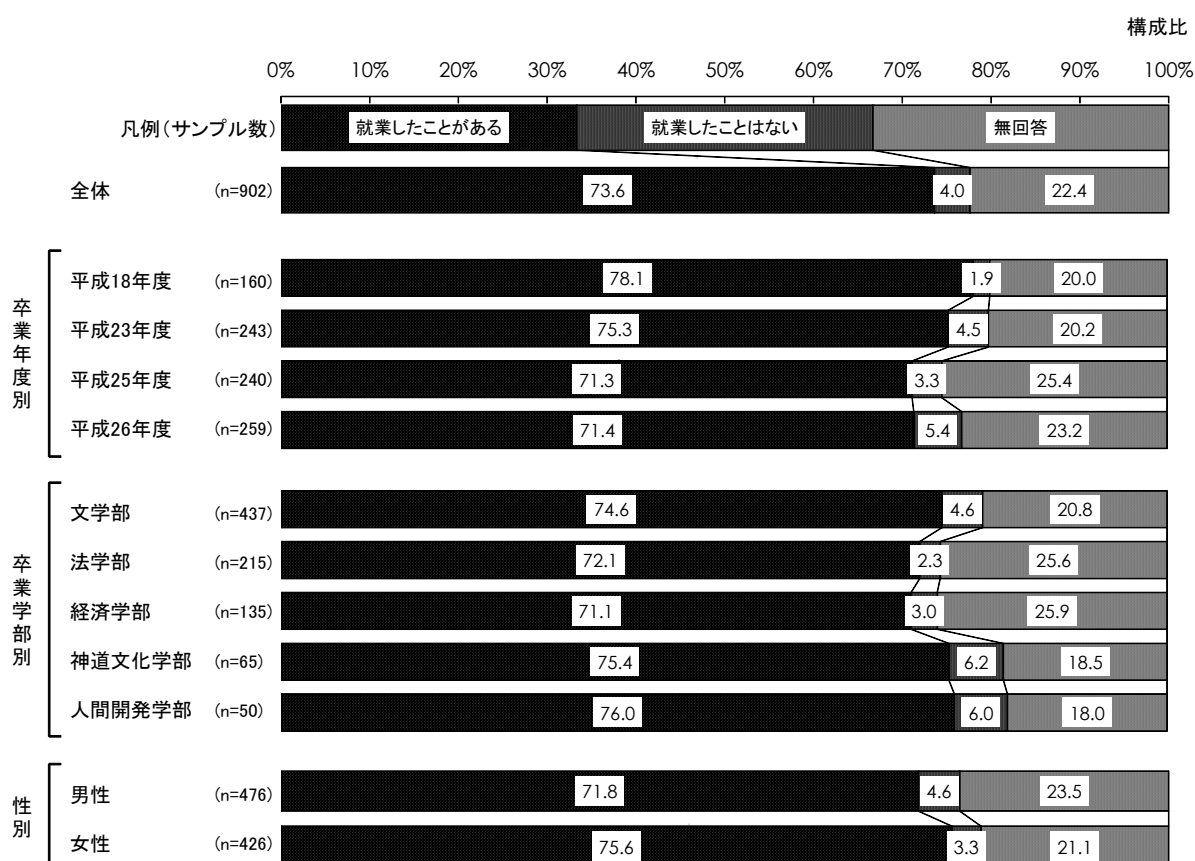
問 5 就業状況

1. 大学卒業後の就業経験をお答えください。(1つ選択)

大学卒業後の就業経験は、「就業したことがある」が73.6%となっている。

卒業年度別、卒業学部別、性別でも、同様の傾向である。

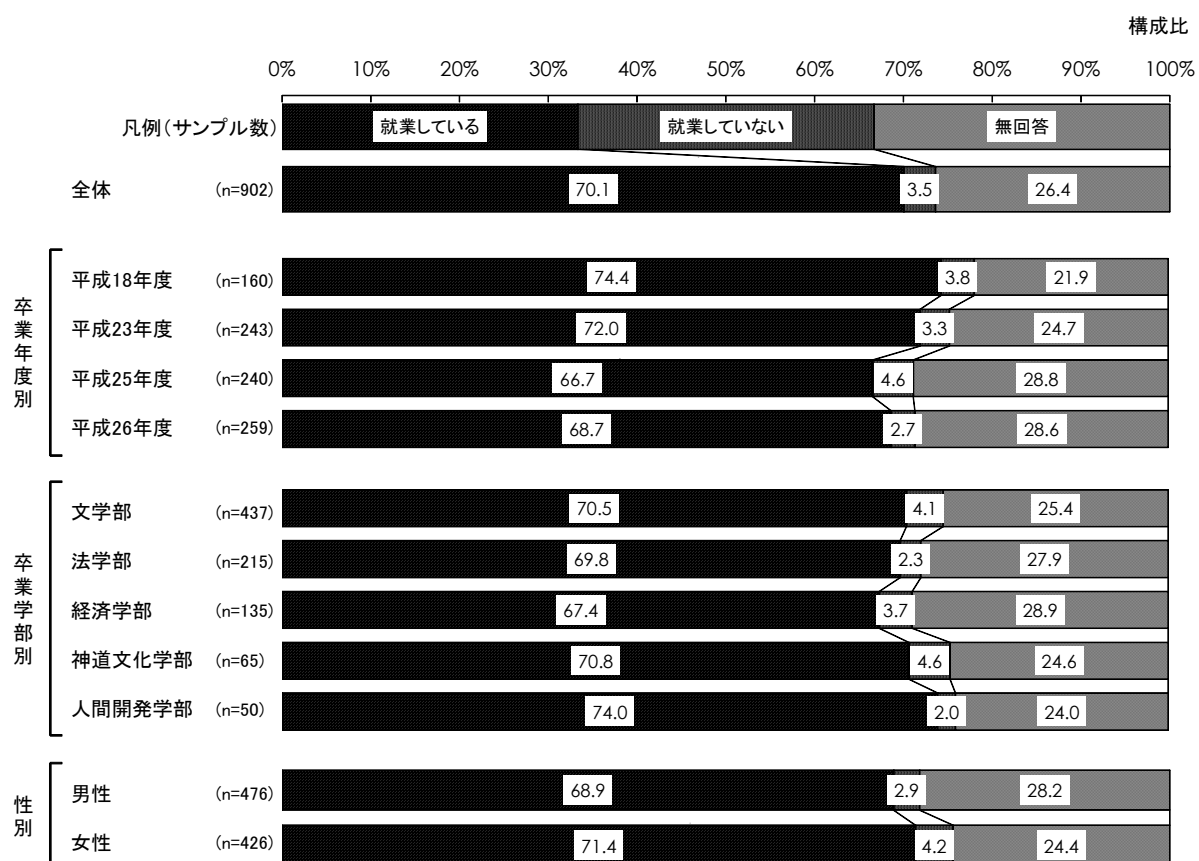
図表 1－7 4 大学卒業後の就業経験（S A）



2. 現在の就業状況をお答えください。(1つ選択)

現在の就業状況は、「就業している」が70.1%、「就業していない」が3.5%となっている。
卒業年度別、卒業学部別、性別でも、同様の傾向である。

図表 1－75 現在の就業状況（SA）



3. （就業中の方にお聞きします。）現在の就業形態をお答えください。（1つ選択）

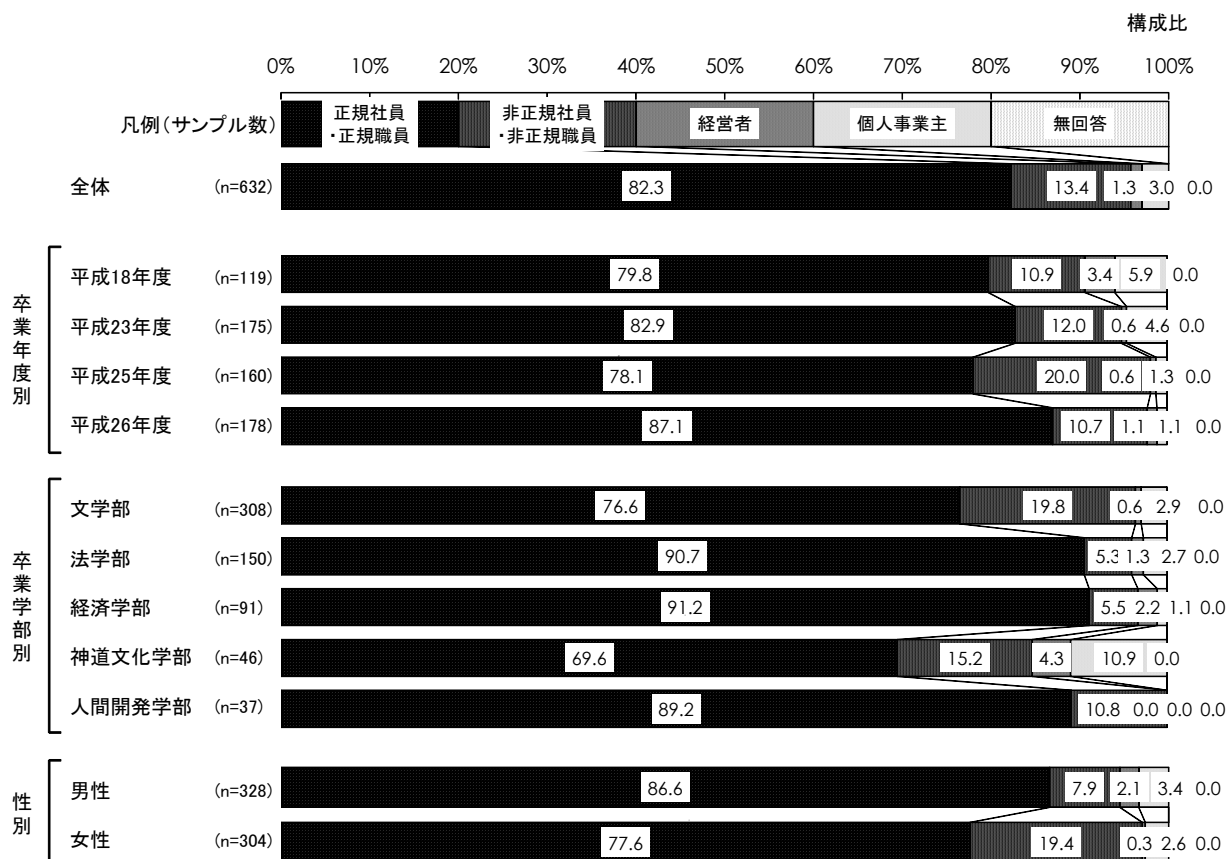
就業者における就業形態は、「正規社員・正規職員」が82.3%で最も高く、次いで「非正規社員・非正規職員」が13.4%、「個人事業主」が3.0%、「経営者」が1.3%の順となっている。

卒業年度別でも同様の傾向であるが、平成25年度は「非正規社員・非正規職員」が20.0%と他の年度よりも高くなっている。

卒業学部別にみると、法学部と経済学部は「正規社員・正規職員」の割合がともに9割を超えるのに対し、文学部は76.6%、神道文化学部は69.6%と低くなっている。

性別でみると、男性の「正規社員・正規職員」が86.6%であるのに対し、女性は77.6%で10ポイント男性が上回り、その分女性は「非正規社員・非正規職員」が19.4%と高くなっている。

図表1-76 （就業中の方のみ）現在の就業形態（SA）



4. （就業中の方にお聞きします。）現在の就業先規模は次のうちどれですか。（1つ選択）

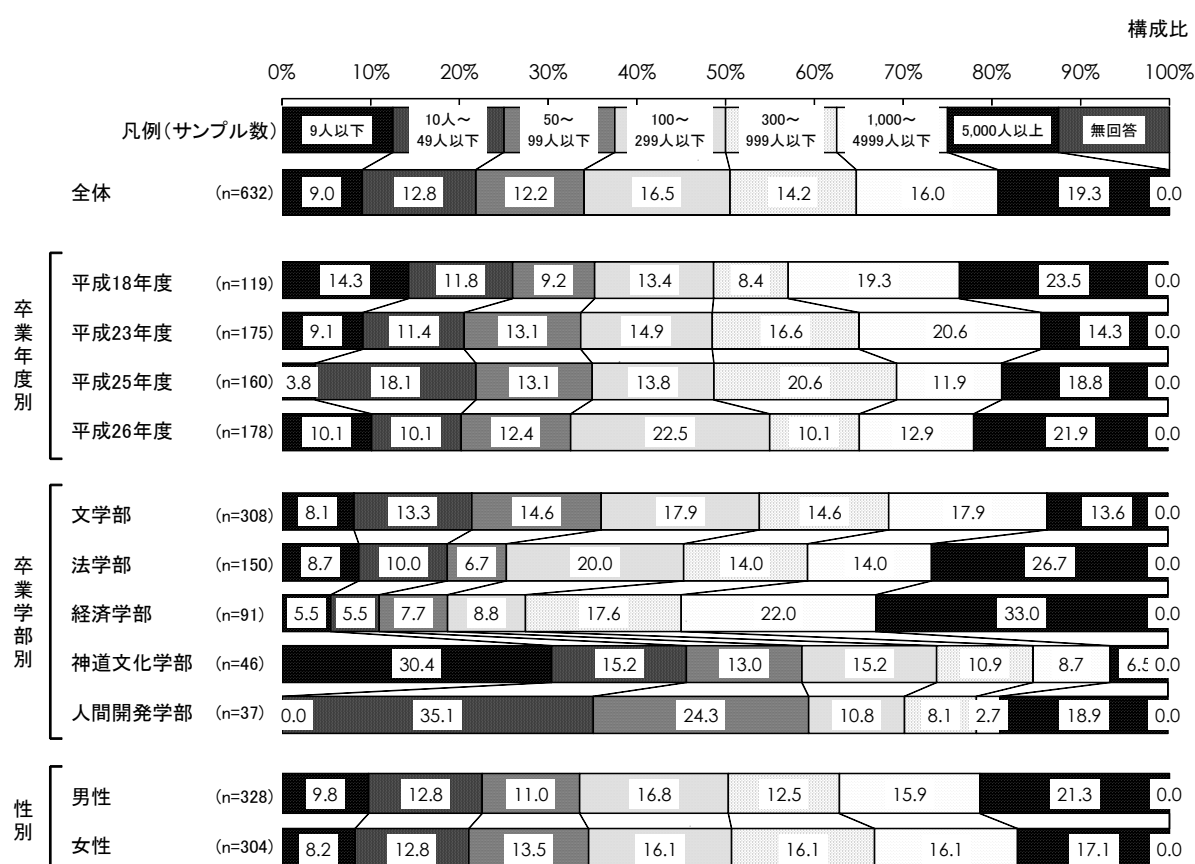
就職先の規模は、『300人以上』が49.5%と約半数を占める。

卒業年度別にみても同様の傾向である。

卒業学部別にみると、経済学部は「300人以上」が7割を超え、大企業で就業中の割合が他学部卒業生よりも高くなっている。

性別でみると、男女ともに「300人以上」が約半数を占めている。

図表1－77 （就業中の方のみ）現在の就職先規模（S A）



5. (就業中の方にお聞きします。) あなたは現在の進路や就業状況に満足されていますか。(1つ選択)

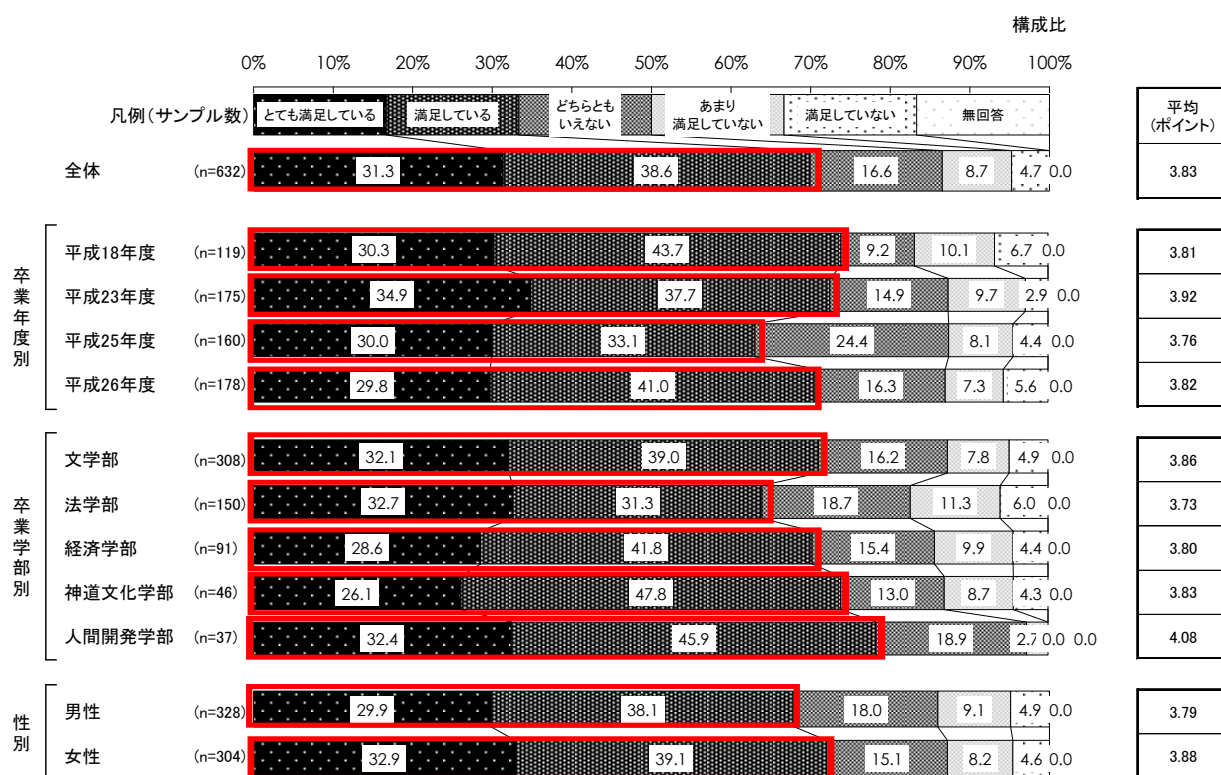
現在の進路や就業状況に「とても満足している」と「満足している」を合わせた『満足』の割合は69.9%、「あまり満足していない」と「満足していない」を合わせた割合は13.4%となっている。

卒業年度別にみると、平成25年度は『満足』が63.1%と他の年度よりも低くなっている。

卒業学部別にみると、法学部は『満足』が64.0%と他の学部よりも低くなっている。

性別にみると、女性の方が男性よりも『満足』と回答する割合が高くなっている。

図表1-78 (就業中の方のみ) 現在の進路や就業状況に対する満足度(SA)



6. (就業中の方にお聞きします。) あなたの現在の職場において、日常業務の中で英語をどの程度使用していますか。(1つ選択)

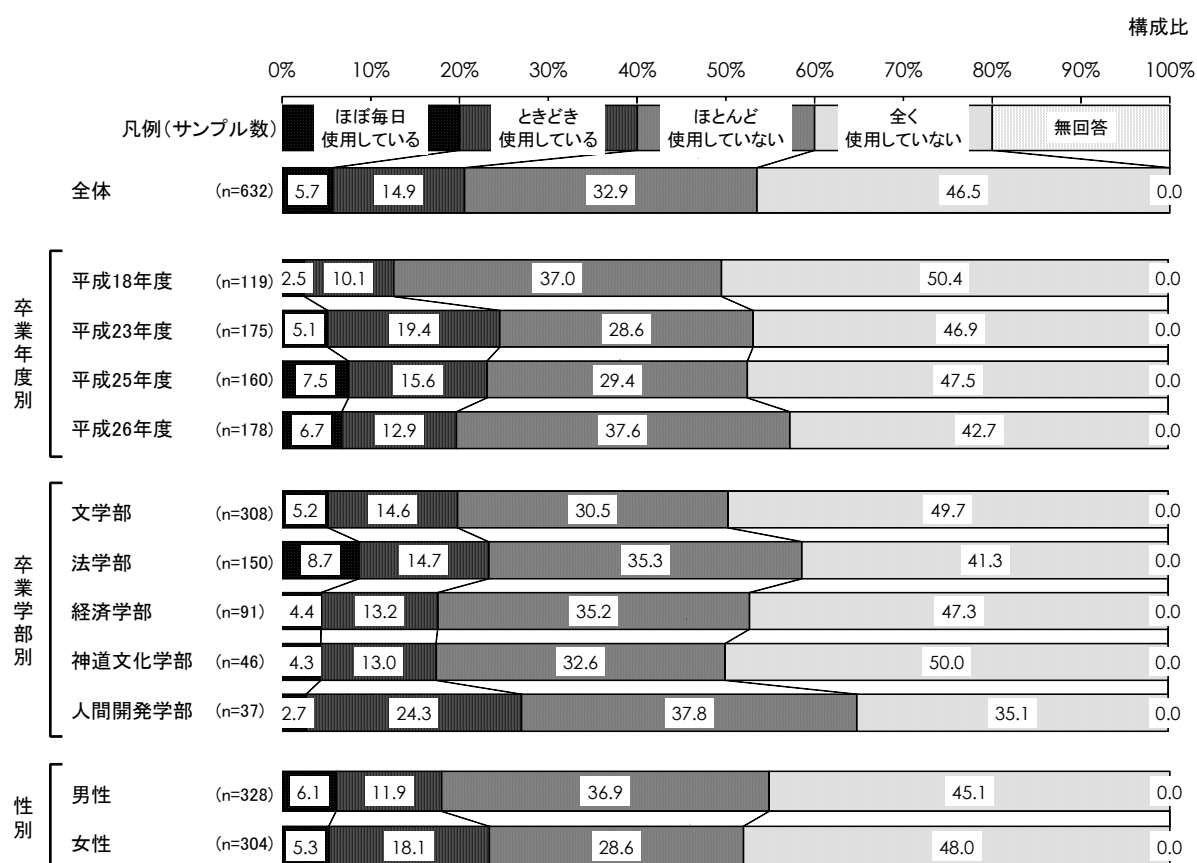
職場での英語の使用頻度は、「全く使用していない」が最も高く 46.5%、次いで「ほとんど使用していない」が 32.9 となっている。一方、「ほぼ毎日使用している」(5.7%)と「ときどき使用している」(14.9%)を合わせた『使用している』は 20.6%と約 2 割を占めている。

卒業年度別にみると、平成 23 年度以降は、いずれの年度も『使用している』が 2 割を占めている。一方、平成 18 年度は『使用している』が 12.6%と他の年度よりも低くなっている。

卒業学部別にみると、法学部と人間開発部は『使用している』が 2 割を超えており、特に、法学部は「ほぼ毎日使用している」が 8.7%と他の学部よりも割合が高い。

性別にみると、女性は『使用している』が 23.4%と男性よりも高くなっている。

図表 1-79 (就業中の方のみ) 職場での英語の使用頻度



7. 転職の経験をお答えください。（1つ選択）

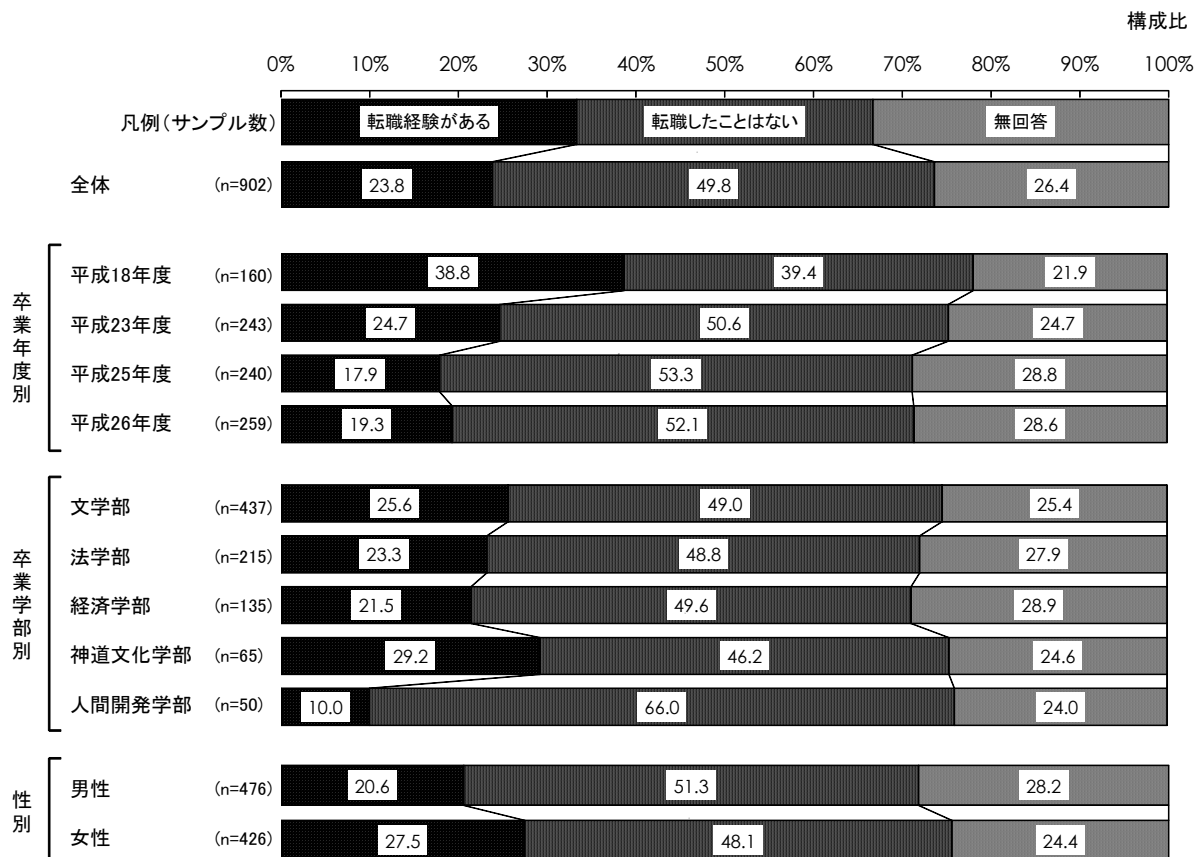
「転職経験がある」という割合は 23.8%、「転職したことはない」は 49.8%で、転職経験がある方が少ない。

卒業年度別にみると、いずれも「転職したことはない」という回答が上回るものの、卒業から年数が経過するほど転職経験者が増え、平成 18 年度では約 4 割を占め、転職経験者と未経験者がほぼ同数となっている。

卒業学部別にみると、人間開発学部において転職経験者が 10.0%と他学部比べて少なくなっているが、これは新設学部であるため、卒業後間もない卒業生が多いためと考えられる。

性別にみると、女性の方が男性よりも転職経験が多くなっている。

図表 1－80 転職経験（S A）



8. 転職経験がある方は転職回数をお答えください。（1つ選択）

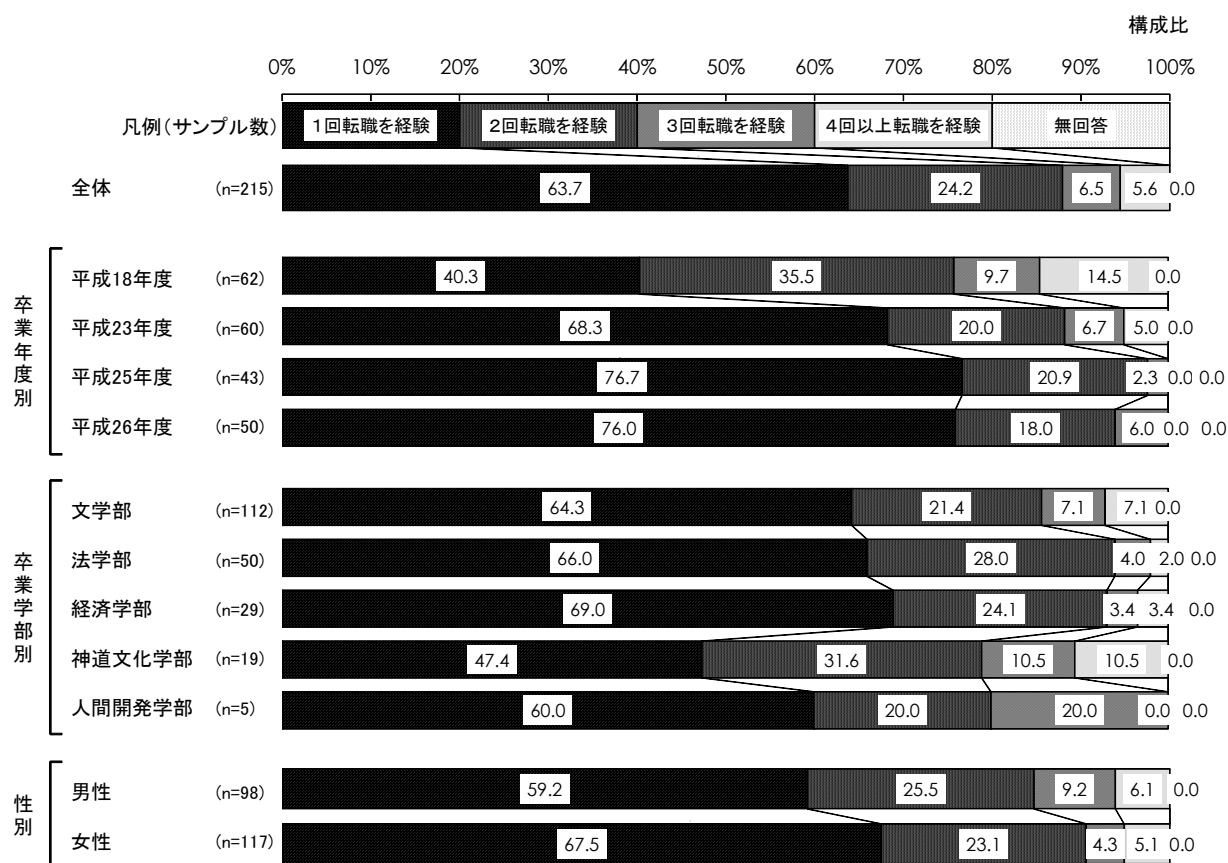
転職経験者のうち、転職回数は「1回転職を経験」という回答が63.7%で半数以上を占めている。「4回以上の転職を経験」した者は5.6%みられる。

卒業年度別にみると、卒業から年数が経過するほど、転職経験回数も増え、平成18年度卒業生においては、「2回転職を経験」した者は35.5%、「4回以上転職を経験」した者も14.5%にのぼる。

卒業学部別にみると、いずれも「1回転職を経験」が最も多くなっているものの、神道文化学部はその割合は47.4%と半数以下にとどまり、『2回以上転職を経験』が52.6%と半数以上を占めている。

性別にみても同様の傾向である。

図表1－81 （転職経験者のみ）転職回数（SA）



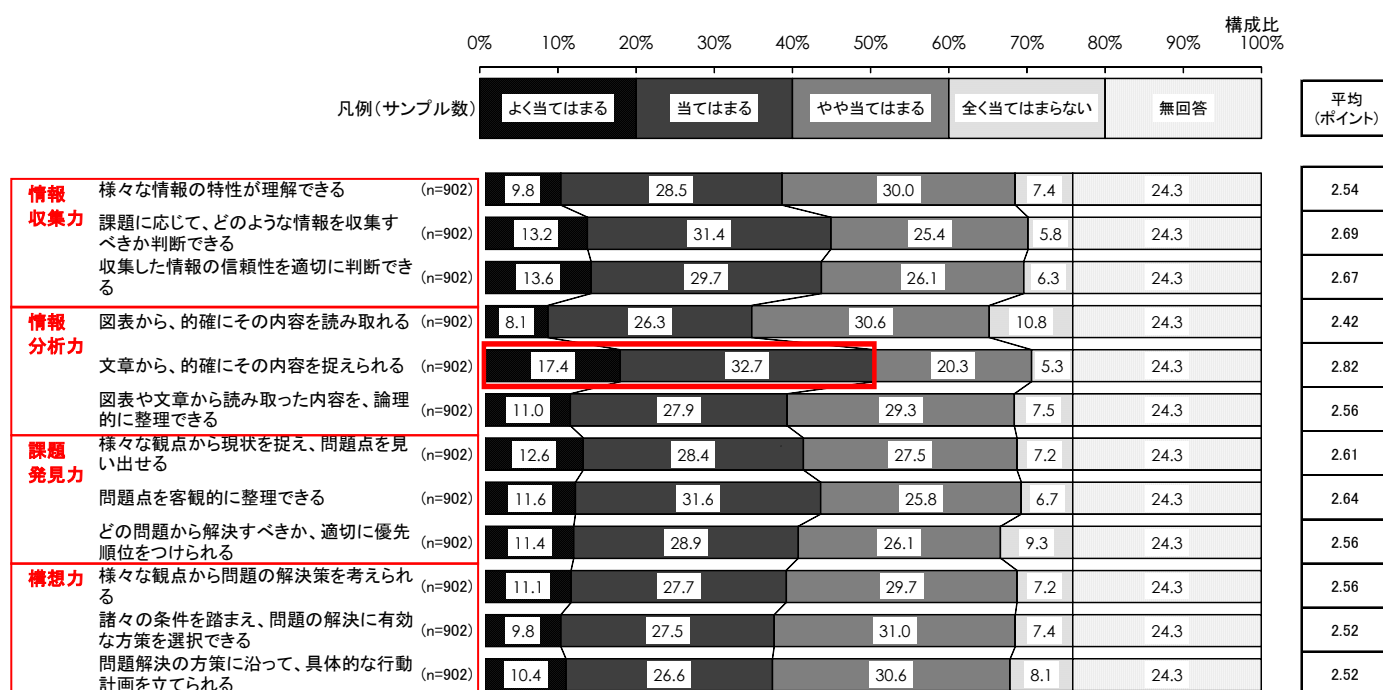
問 6 学生時代に身についたと思う能力

1. 学生時代に身についたと思う能力として、以下の項目はどの程度当てはまりますか。（それぞれ1つ選択）

学生時代に身についたと思う能力は、[文章から、的確にその内容を捉えられる]が最も多く、「よく当てはまる」（17.4%）と、「当てはまる」（32.7%）を合わせた『当てはまる』が 50.1%で半数を占め、加重平均は 2.82 ポイントである。次いで、[課題に応じて、どのような情報を収集すべきか判断できる]が 2.69 ポイント、[収集した情報の信頼性を適切に判断できる]が 2.67 ポイントの順となっており、文章や情報を収集、理解する能力は比較的高くなっている。

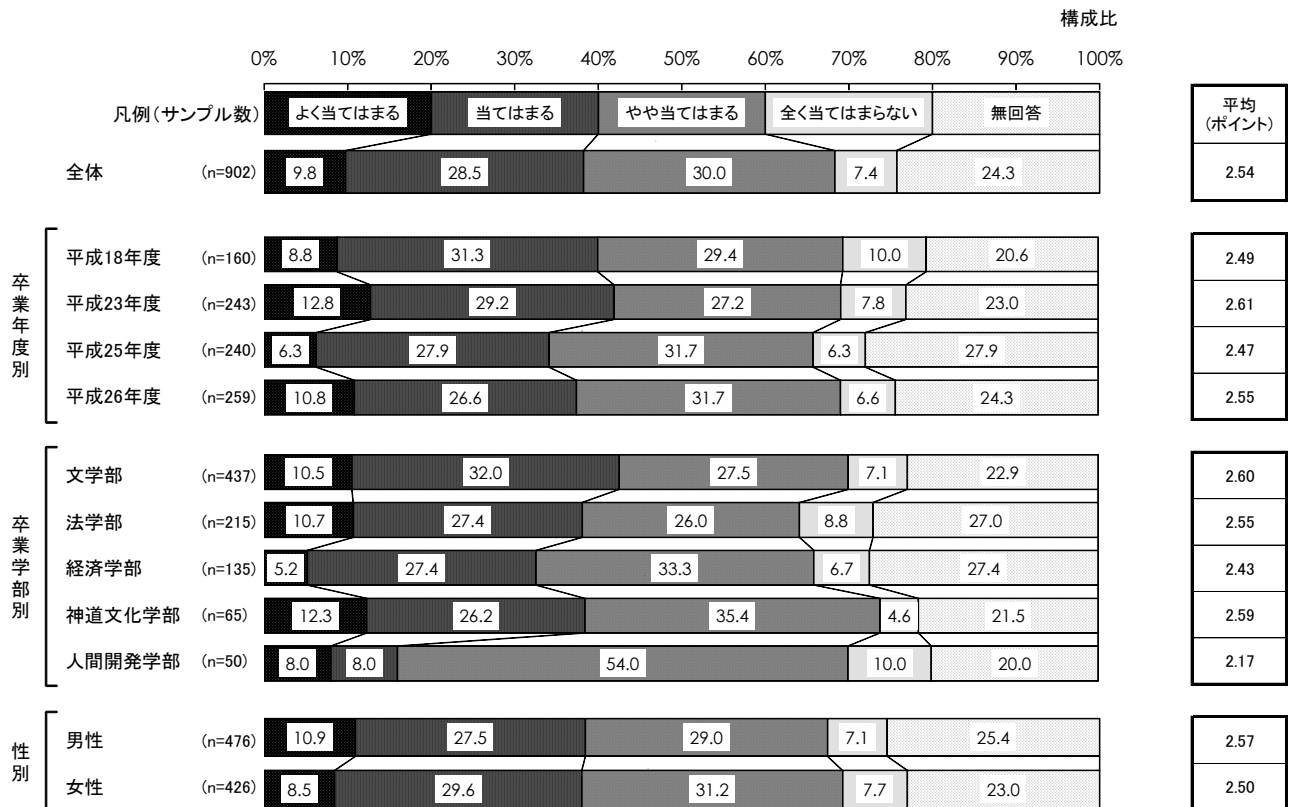
一方、[図表から、的確にその内容を読み取れる]は 2.42 ポイントで最も低くなっている。次いで、[諸々の条件を踏まえ、問題の解決に有効な方策を選択できる]、[問題解決の方策に沿って、具体的な行動計画を立てられる]はともに 2.52 ポイント、[様々な情報の特性が理解できる]は 2.54 ポイントなど、問題を解決したり、特性を理解する能力は比較的低い結果となっている。

図表 1－82 学生時代に身についたと思う能力（S A）

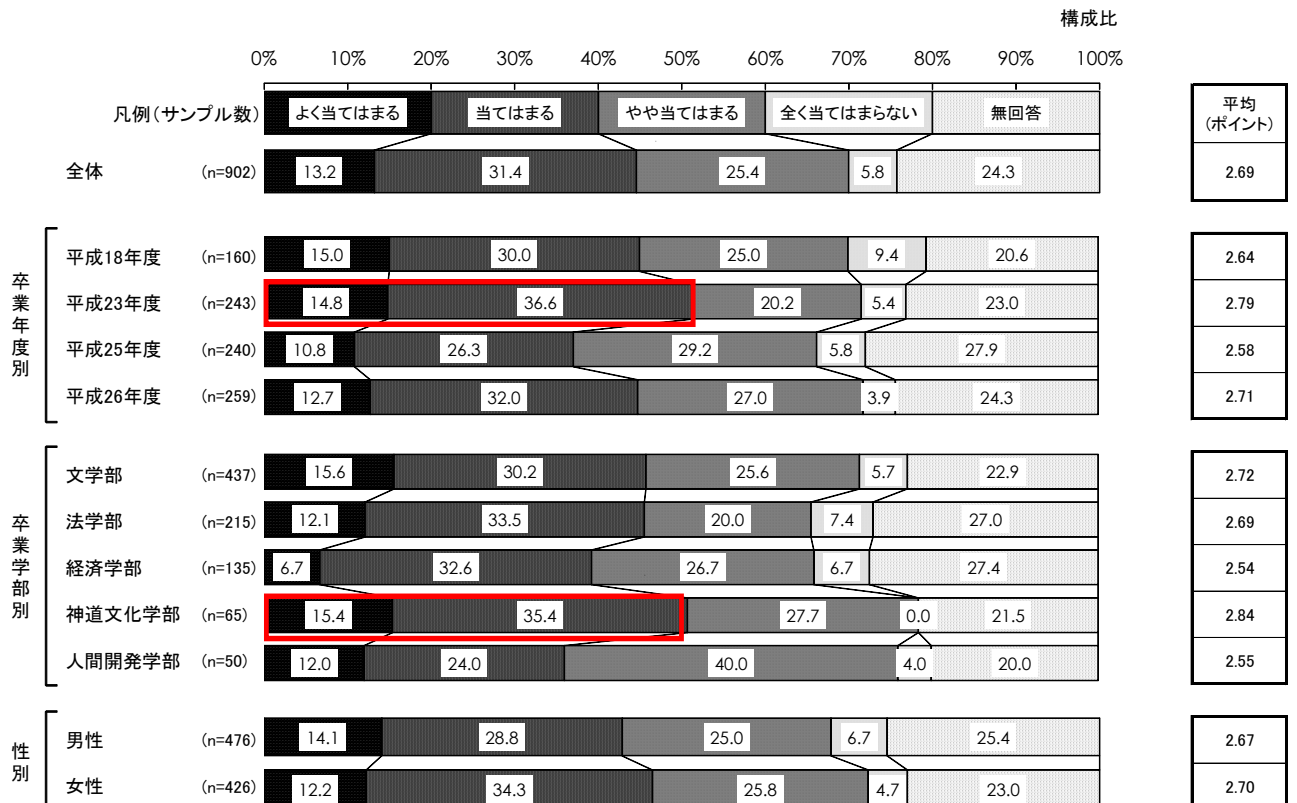


※「よく当てはまる」4 ポイント、「当てはまる」3 ポイント、「やや当てはまる」2 ポイント、「全く当てはまらない」1 ポイントで、平均を抽出。

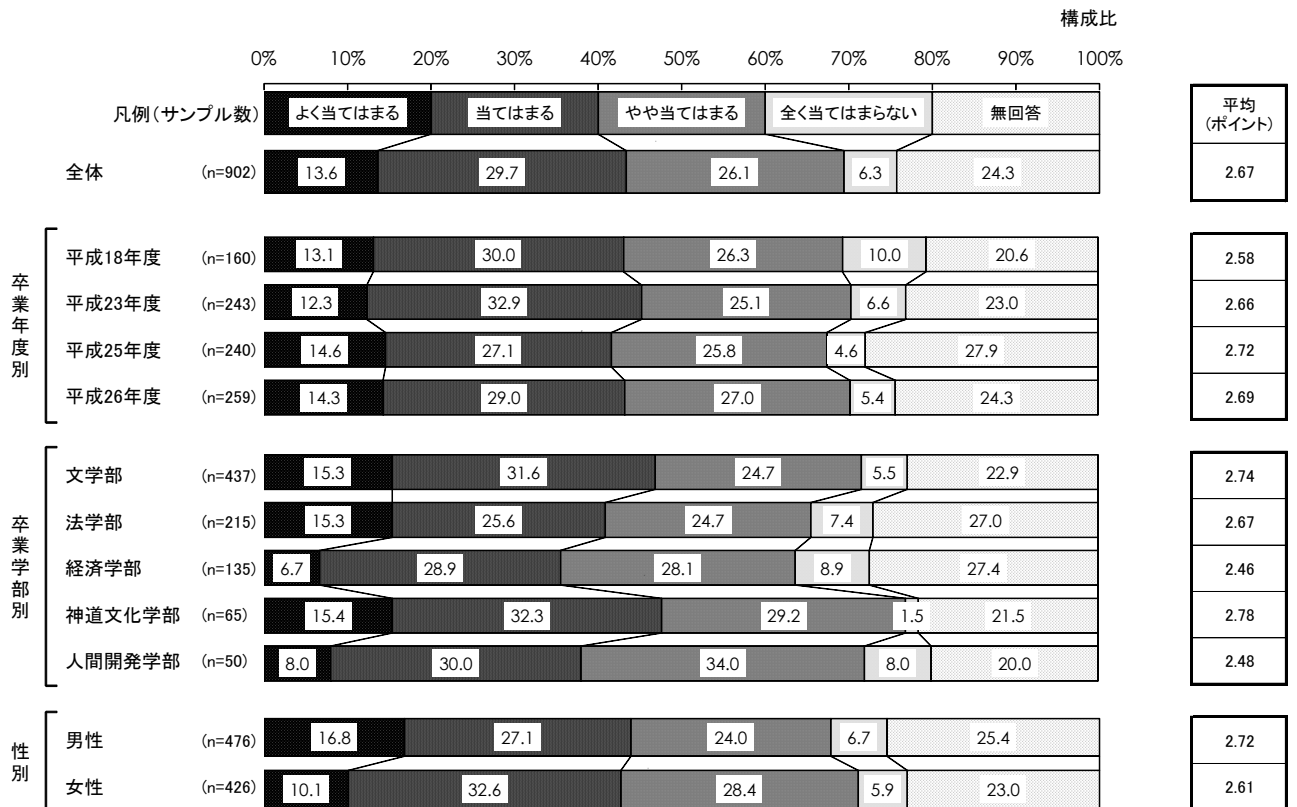
図表 1－8 3 様々な情報の特性が理解できる（S A）



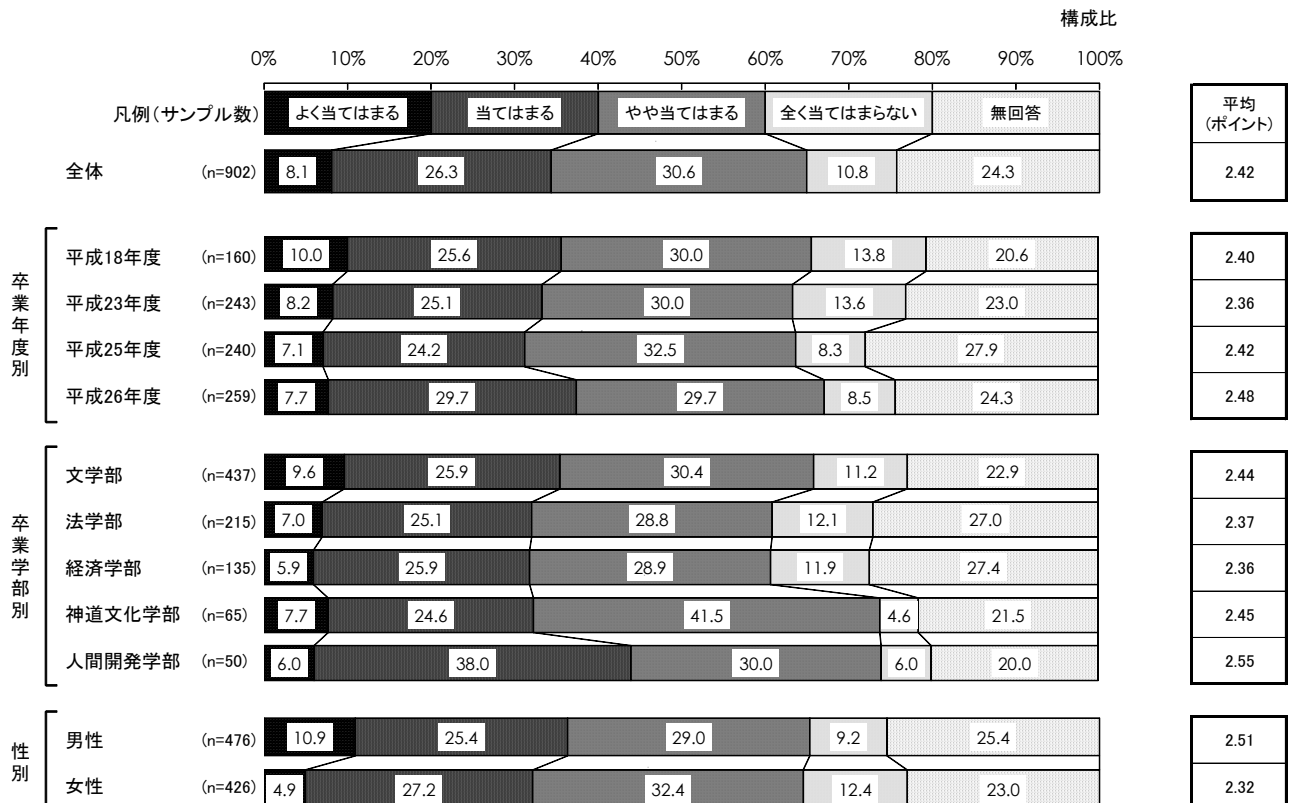
図表 1－8 4 課題に応じて、どのような情報を収集すべきか判断できる（S A）



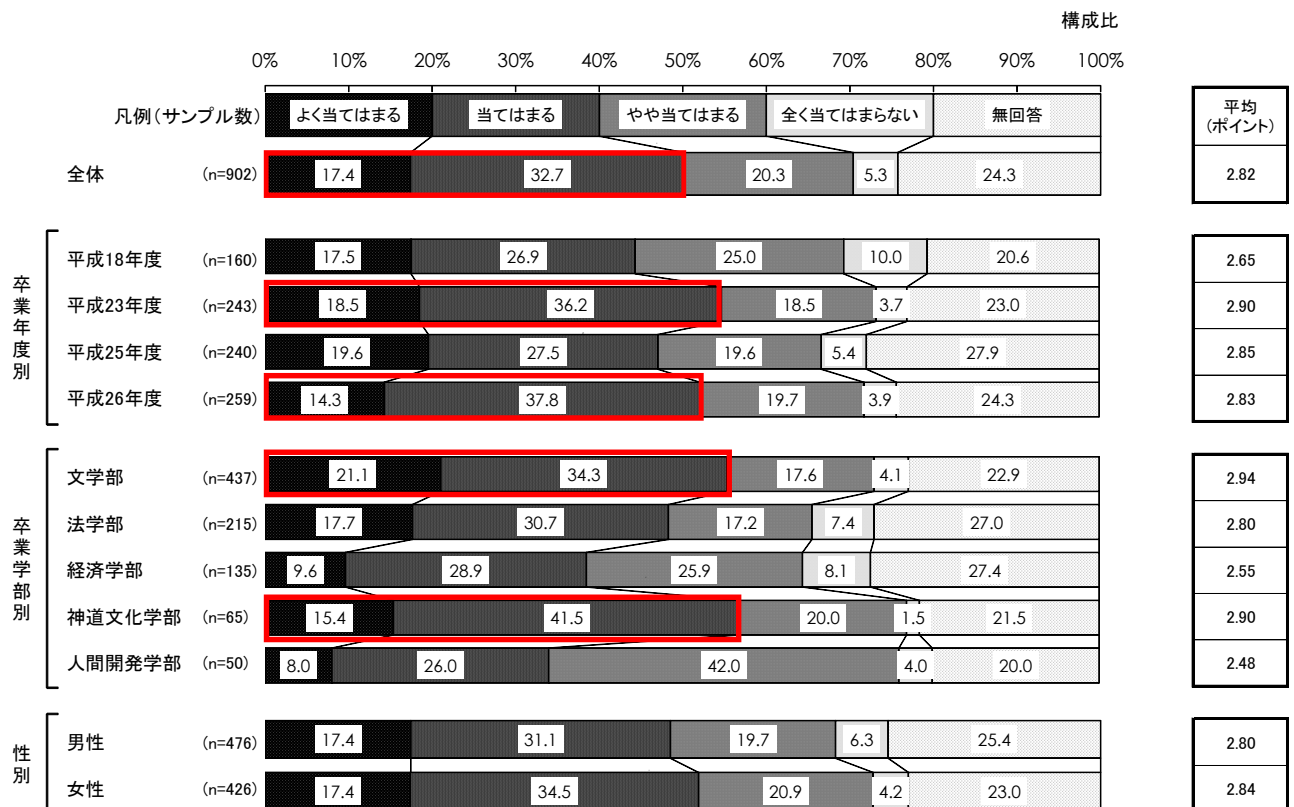
図表 1－85 収集した情報の信頼性を適切に判断できる（S A）



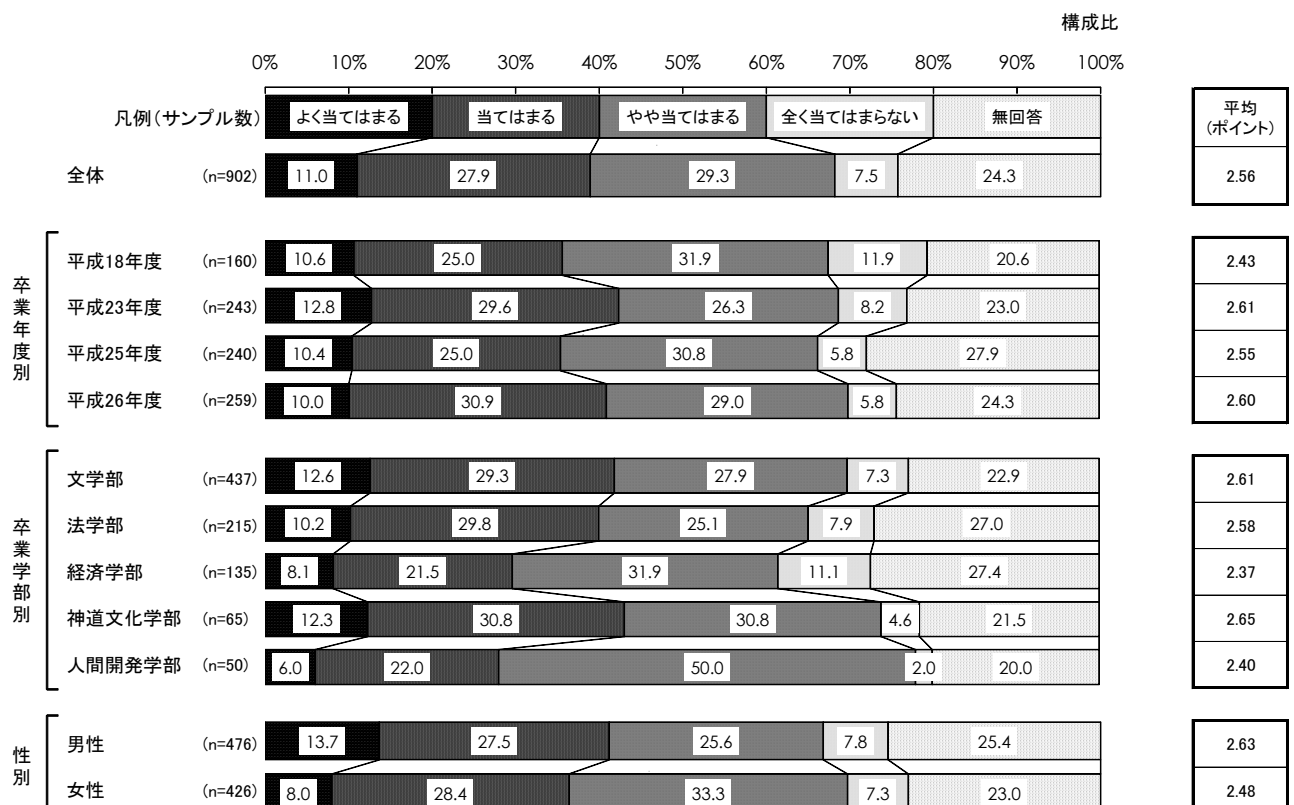
図表 1－86 図表から、的確にその内容を読み取れる（S A）



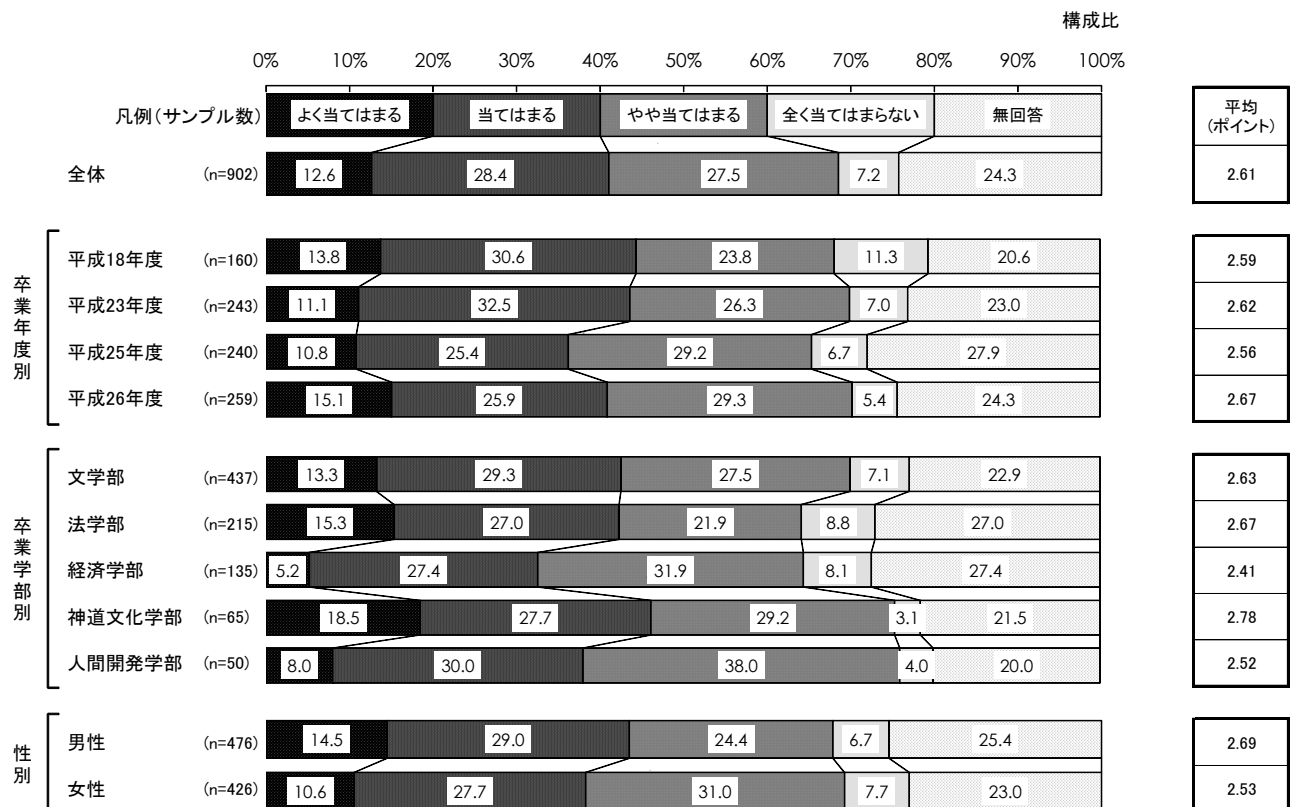
図表 1－87 文章から、的確にその内容を捉えられる（S A）



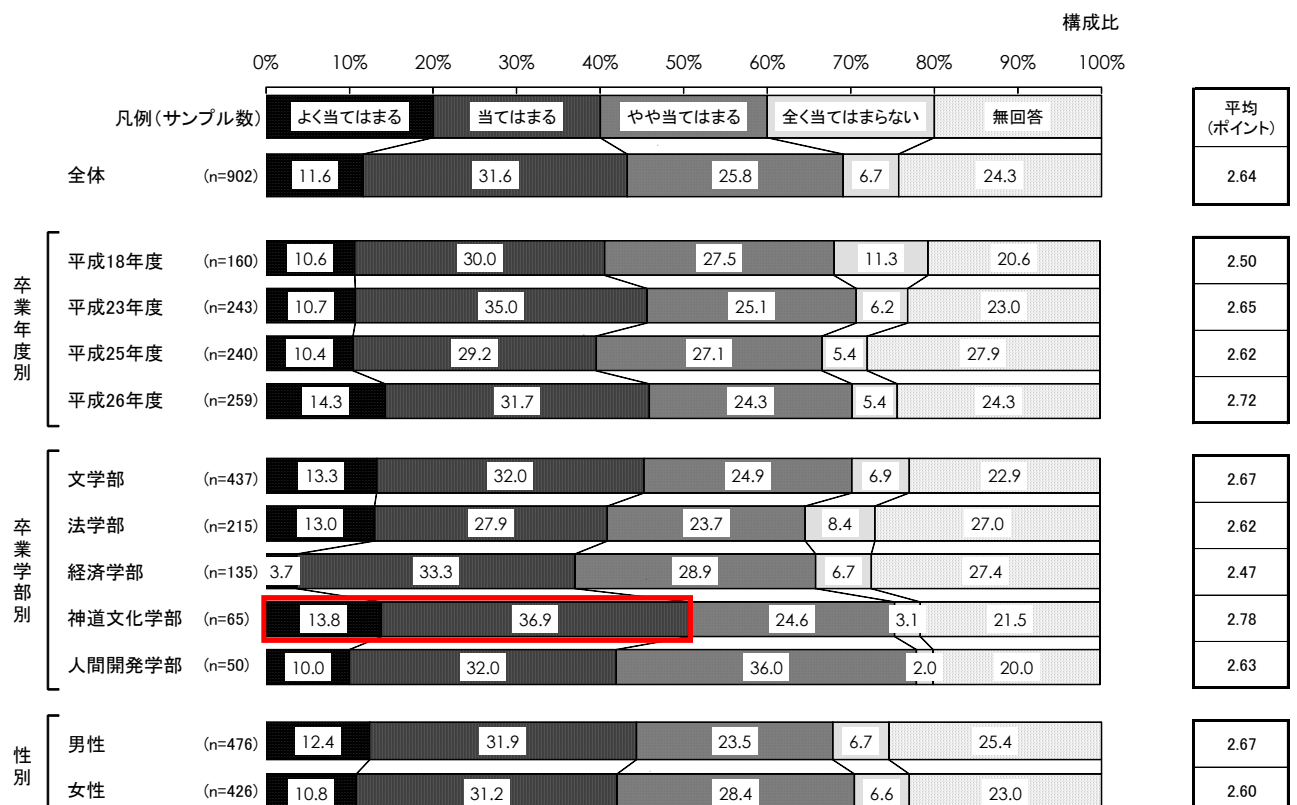
図表 1－88 図表や文章から読み取った内容を、論理的に整理できる（S A）



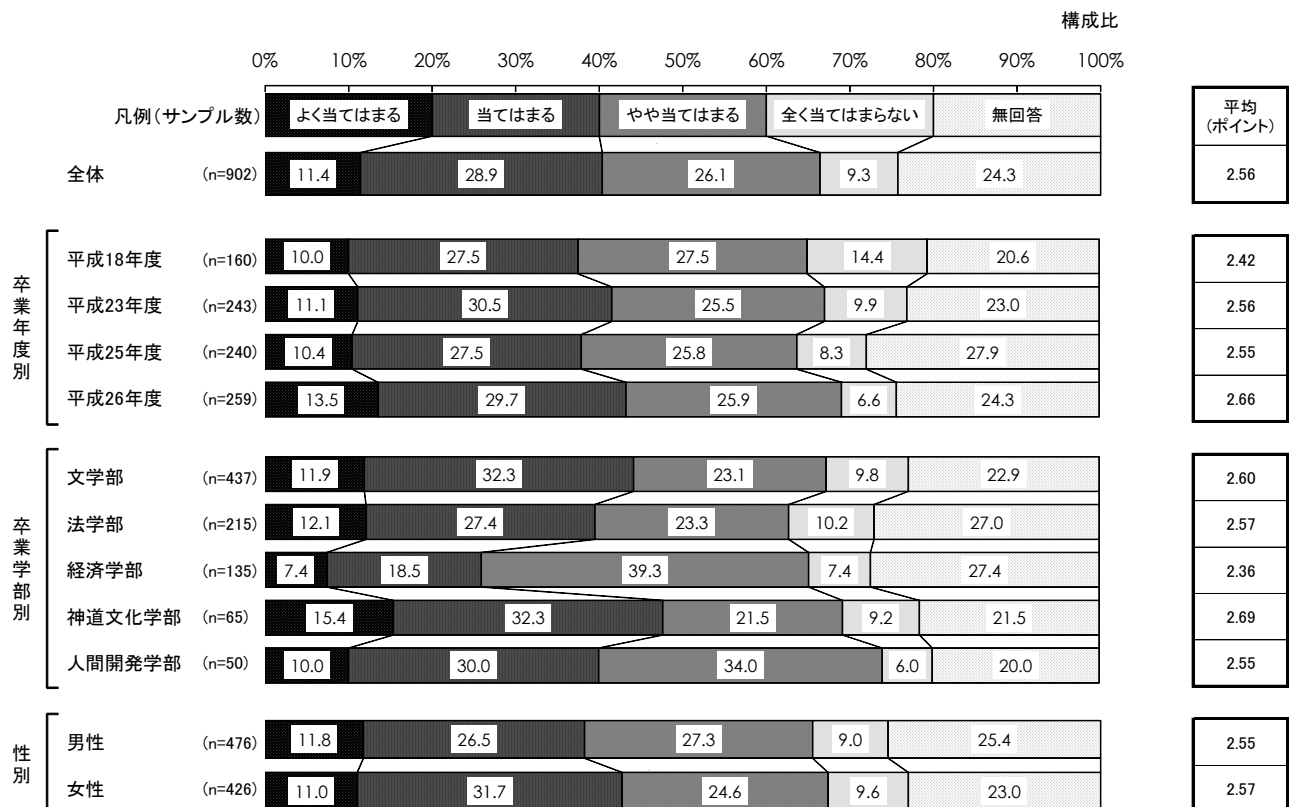
図表 1－89 様々な観点から現状を捉え、問題点を見出せる（S A）



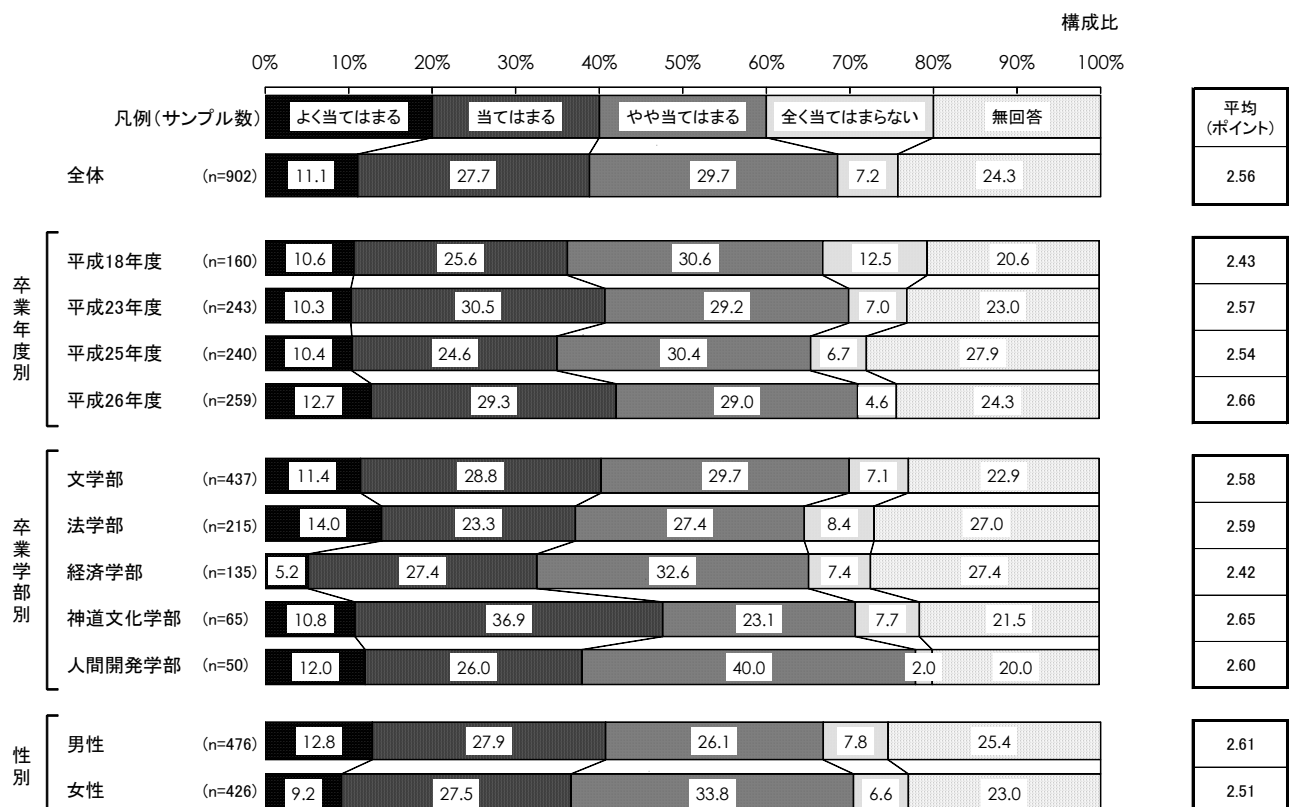
図表 1－90 問題点を客観的に整理できる（S A）



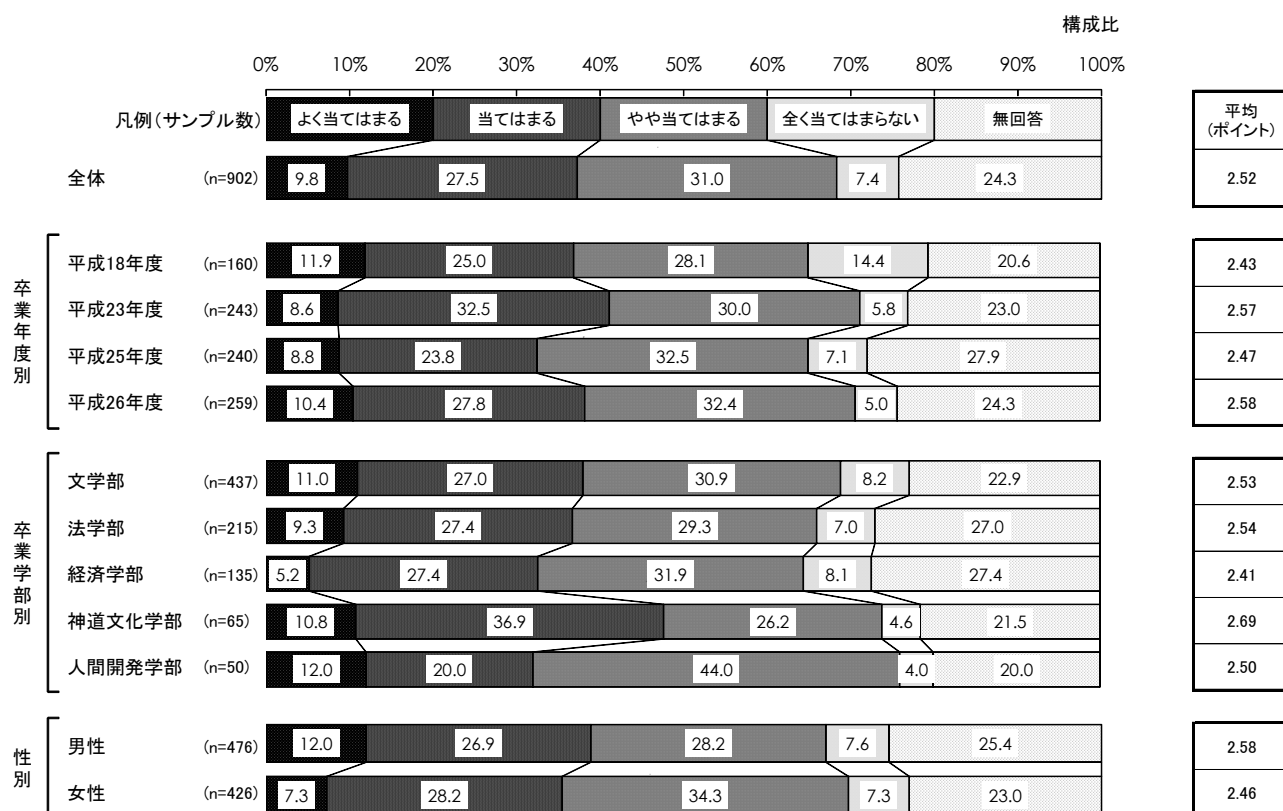
図表 1－9 1 どの問題から解決すべきか、適切に優先順位をつけられる（S A）



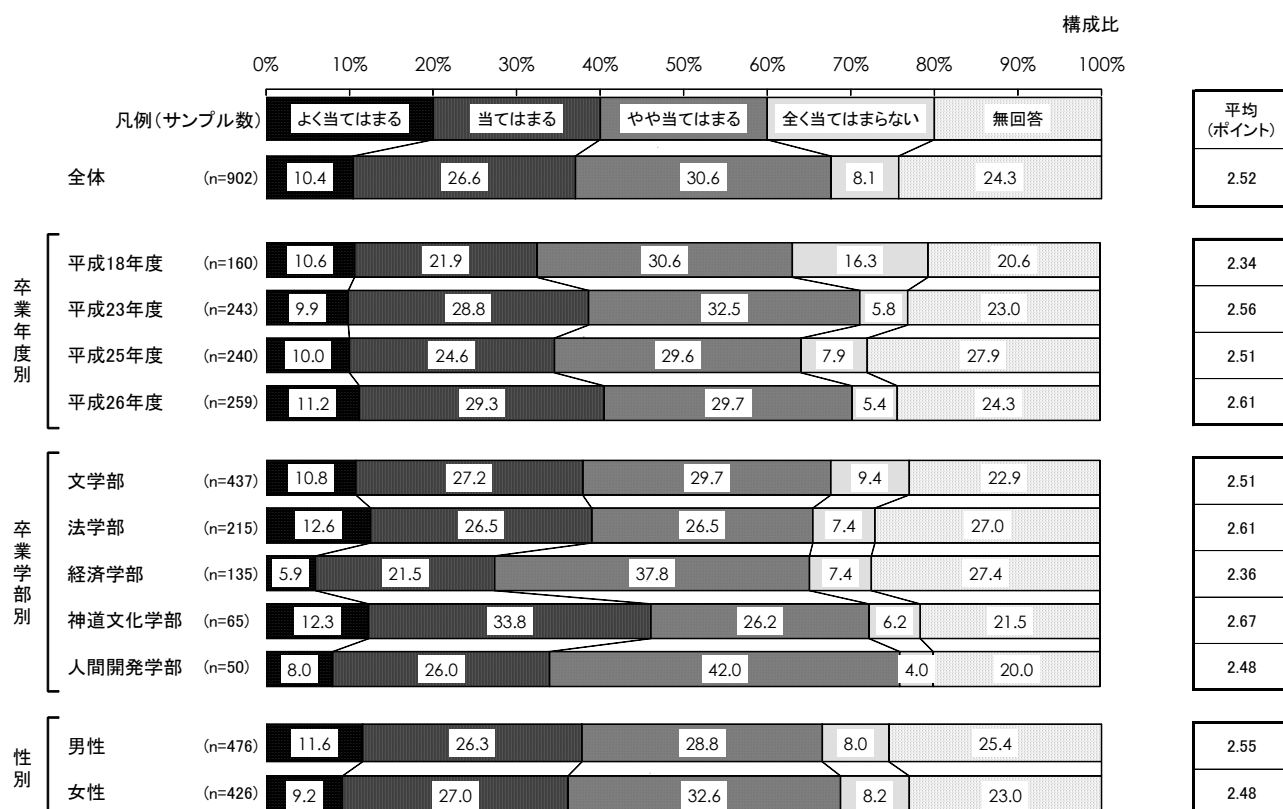
図表 1－9 2 様々な観点から問題の解決策を考えられる（S A）



図表 1-93 諸々の条件を踏まえ、問題の解決に有効な方策を選択できる (SA)



図表 1-94 問題解決に沿って、具体的な行動計画を立てられる (SA)



2. 学生時代に身についたと思う能力のうち、今役立っているものはどれですか。(答えはいくつでも)

学生時代に身についた能力のうち、今役立っているものは、「文章から、的確にその内容を捉えられる」が 34.8%で最も高く、次いで「課題に応じて、どのような情報を収集すべきか判断できる」が 34.5%となっており、情報収集力などが身についたと回答した人が多い。

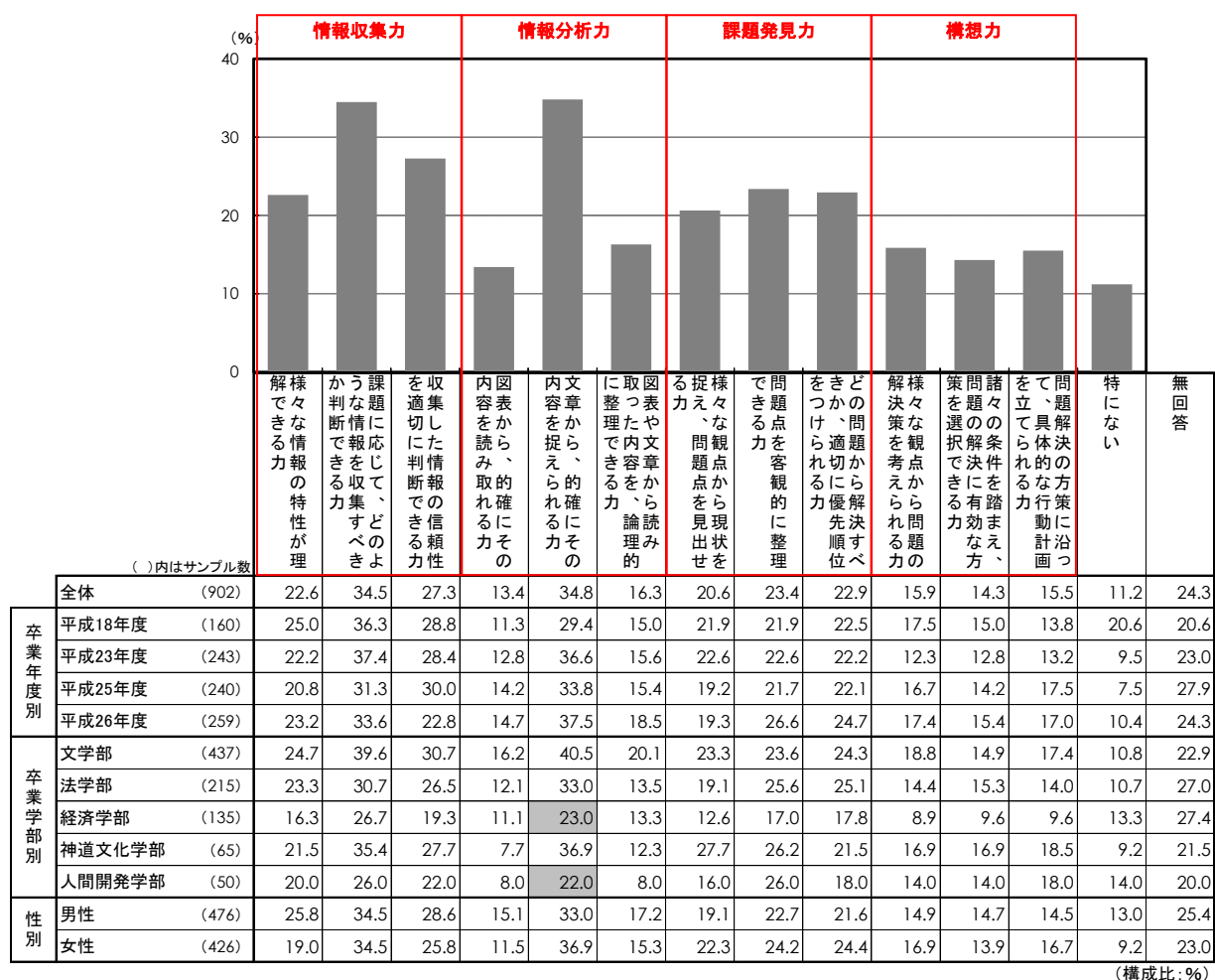
前項の問 24 の回答結果と比較すると、学生時代に身についたと思う能力と、今役立っていると思う能力では、3 位と 4 位の順位は逆転しているものの、上位 6 つは同じとなっている。

卒業年度別にみると、平成 18 年度は「文章から、的確にその内容を捉えられる」が 29.4%と 3 割以下にとどまり、他の年度に比べて低くなっている。

卒業学部別にみると、文学部は「文章から、的確にその内容を捉えられる」が特に高くなっている。

性別にみると、情報収集力や情報分析力は男性が上回る一方、課題発見力は女性が上回っている。

図表 1－95 学生時代に身についたと思う能力のうち、今役立っているもの（MA）



0・・・全体より10ポイント以上大きい
0・・・全体より10ポイント以上小さい

その他の内容

1	大学院での研究・学習に有益なこともある。
2	企画力、調整力
3	情報を整理し活用する能力は学生時代より社会人になって様々な人や課題に直面してから身に付いたと思う

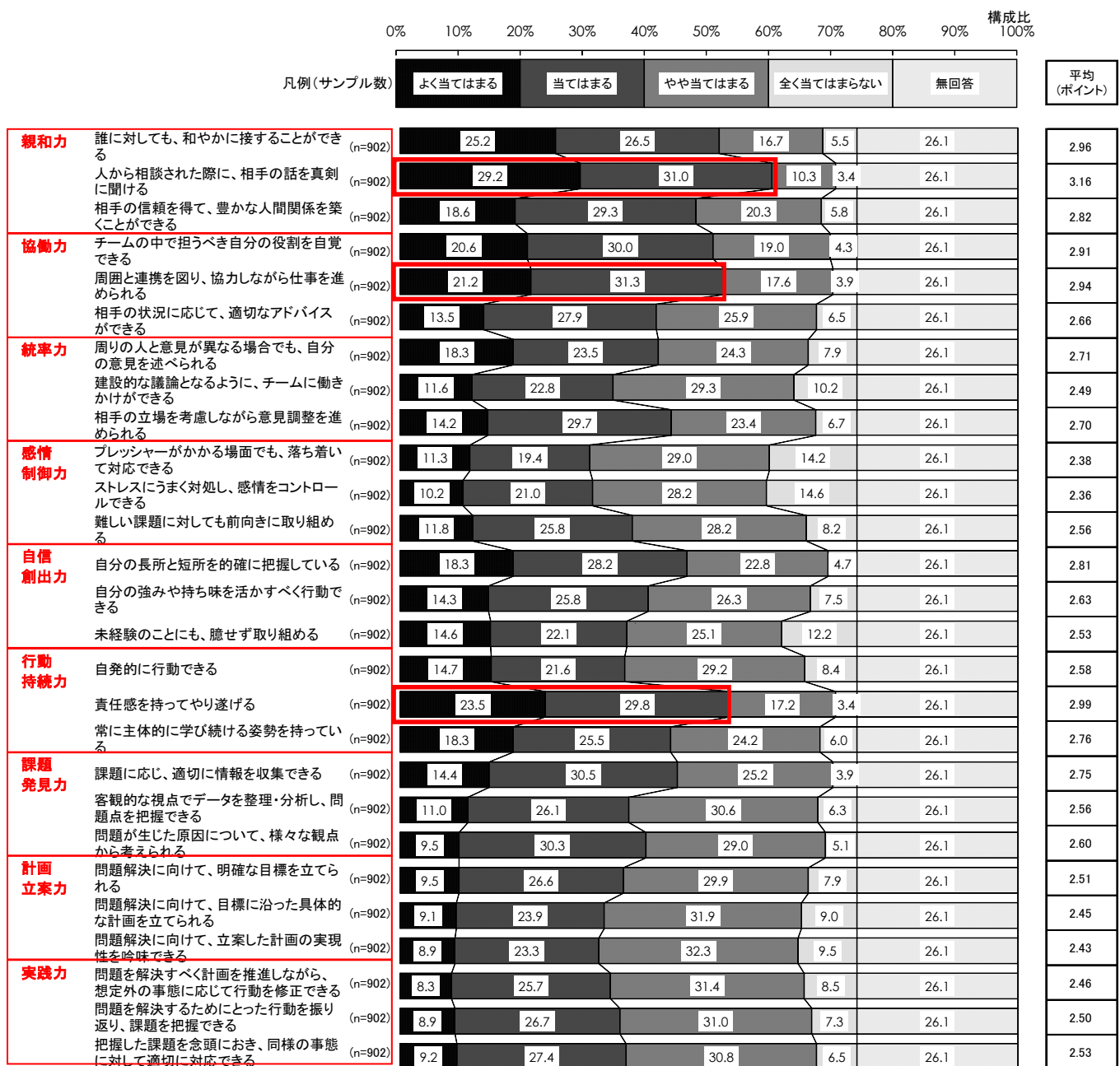
その他の内容

1	想像力
2	語学力
3	情報整理するためのPCスキル
4	コミュニケーション能力
5	ロジカルライティングが苦手なのでもっと勉強しておけばよかった
6	情報を収集する力
7	限られた学生生活の中で、自分が学べる範囲は目一杯学べたかと思います。
8	問題が起こるようなところを最初から見分ける能力
9	自分で起業する力
10	語学力
11	身につけようと思って身につくものではない
12	エクセルの機能を使い分ける、選択できる力（vlookupや抽出など課題や用途に応じて機能を選べる力）

4. 学生時代に、以下のような行動特性が身についたと思いますか。（それぞれ1つ選択）

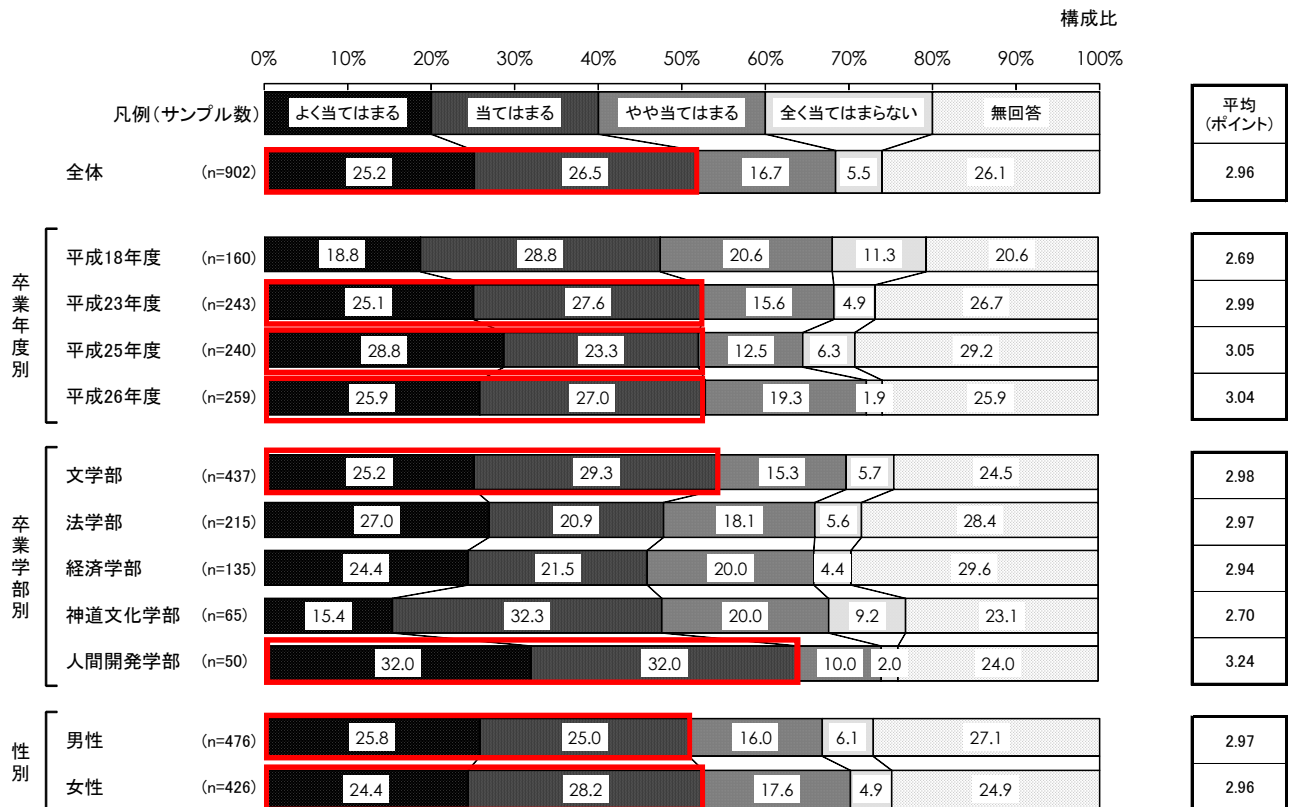
学生時代に身についたと思うスキルや能力は、[人から相談された際に、相手の話を真剣に聞ける]が最も高く、『当てはまる』が60.2%で、3.16ポイントとなっている。次いで、[責任感を持ってやり遂げる]が2.99ポイント、[誰に対しても和やかに接することができる]が2.96ポイント、[周囲と連携を図り、協力しながら仕事を進められる]が2.94ポイント、[チームの中で担うべき自分の役割を自覚できる]が2.91ポイントで、親和力や協働力、行動持続力が高くなっている。

図表1－97 学生時代に身についたと思うスキルや能力（S A）

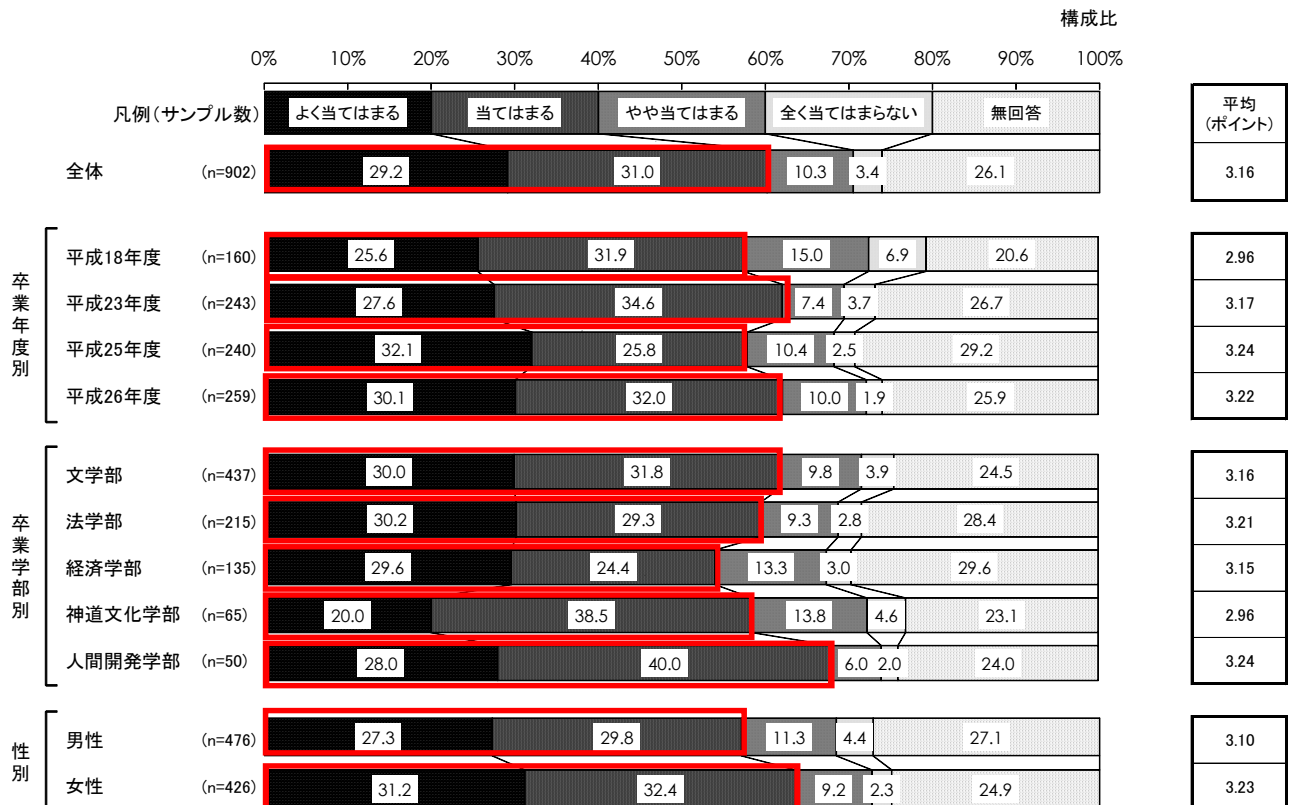


※「よく当てはまる」4ポイント、「当てはまる」3ポイント、「やや当てはまる」2ポイント、「全く当てはまらない」1ポイントで平均を抽出。

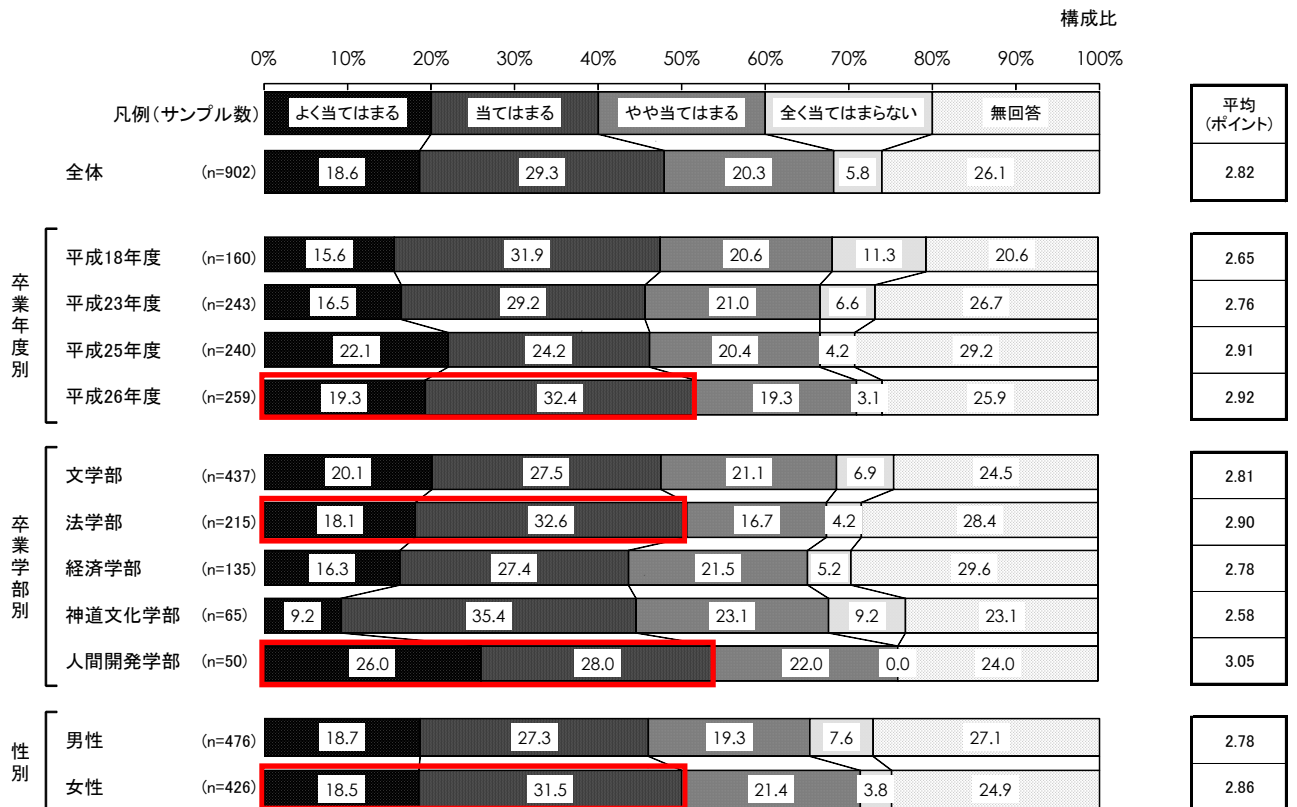
図表１－９８ 誰に対しても、和やかに接することができる（ＳＡ）



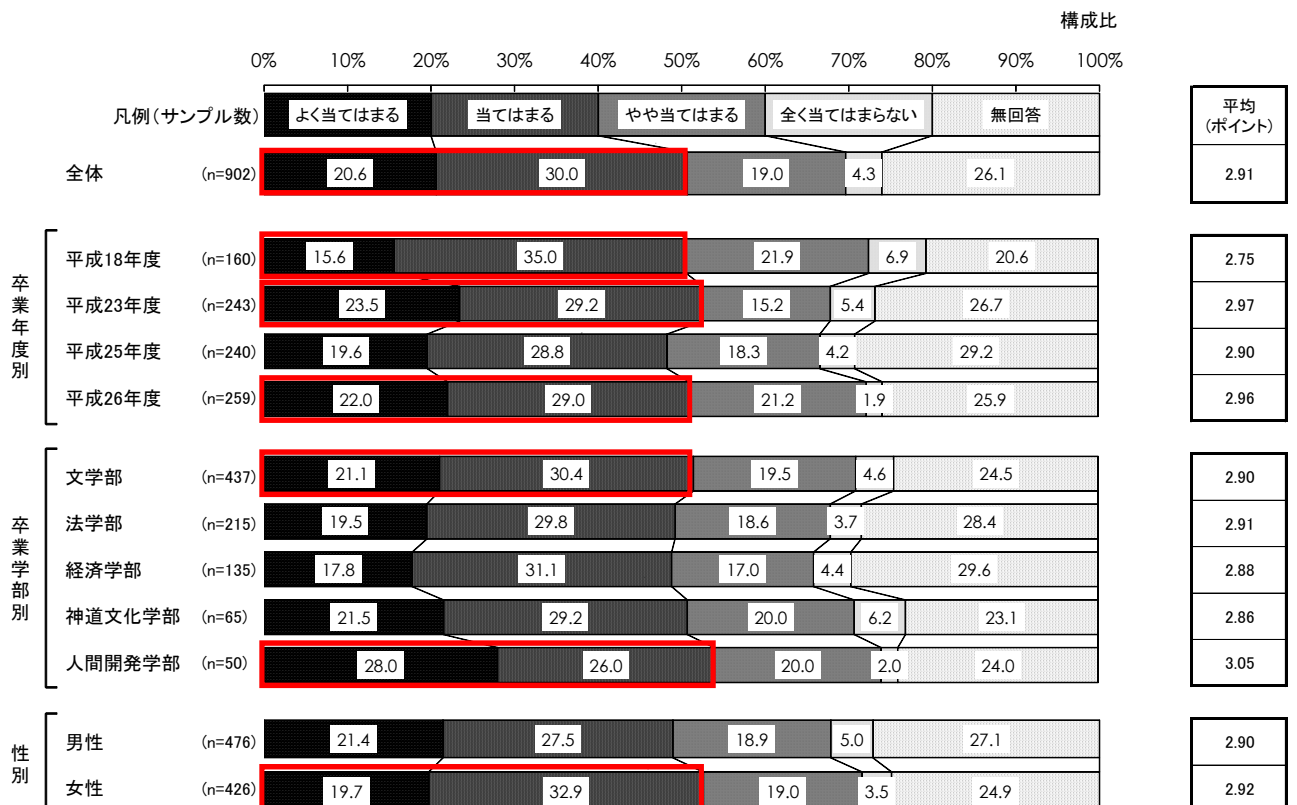
図表１－９９ 人から相談された際に、相手の話を真剣に聞ける（ＳＡ）



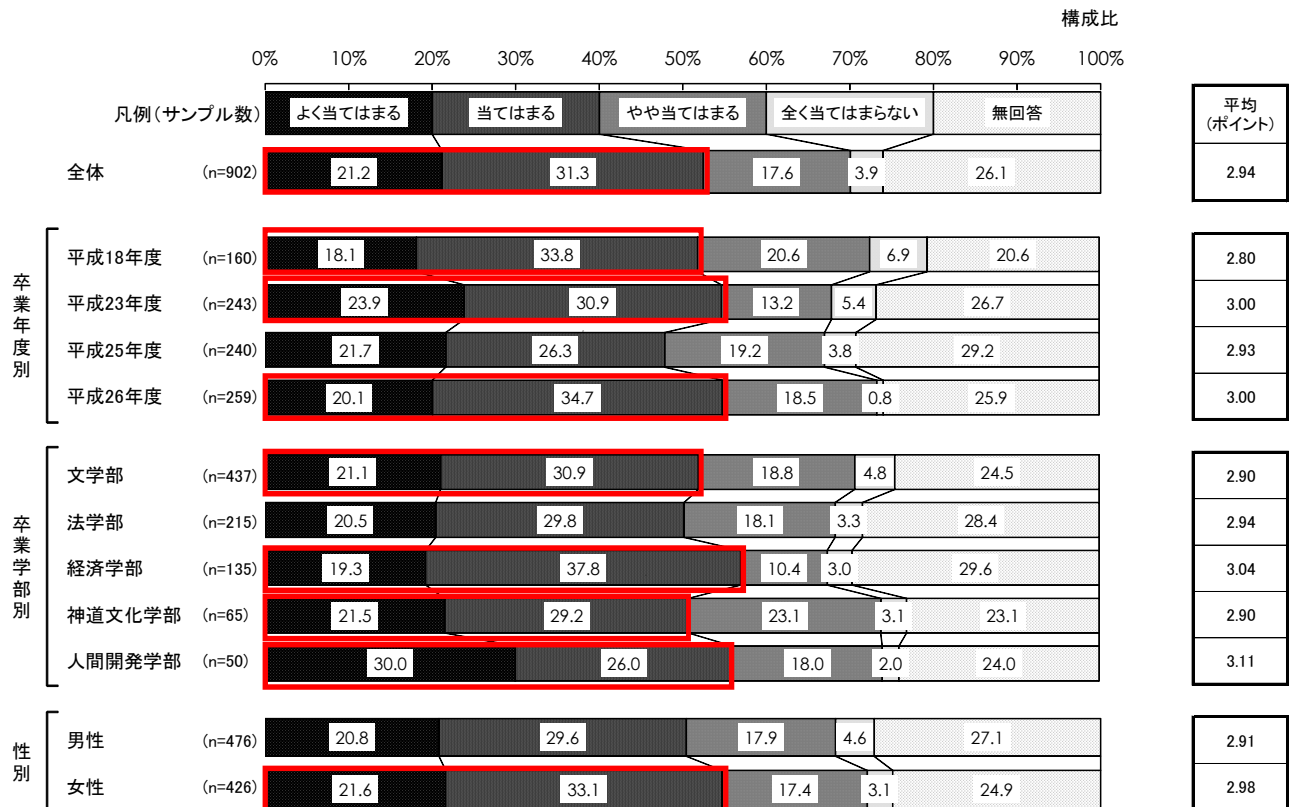
図表 1－100 相手の信頼を得て、豊かな人間関係を築くことができる（SA）



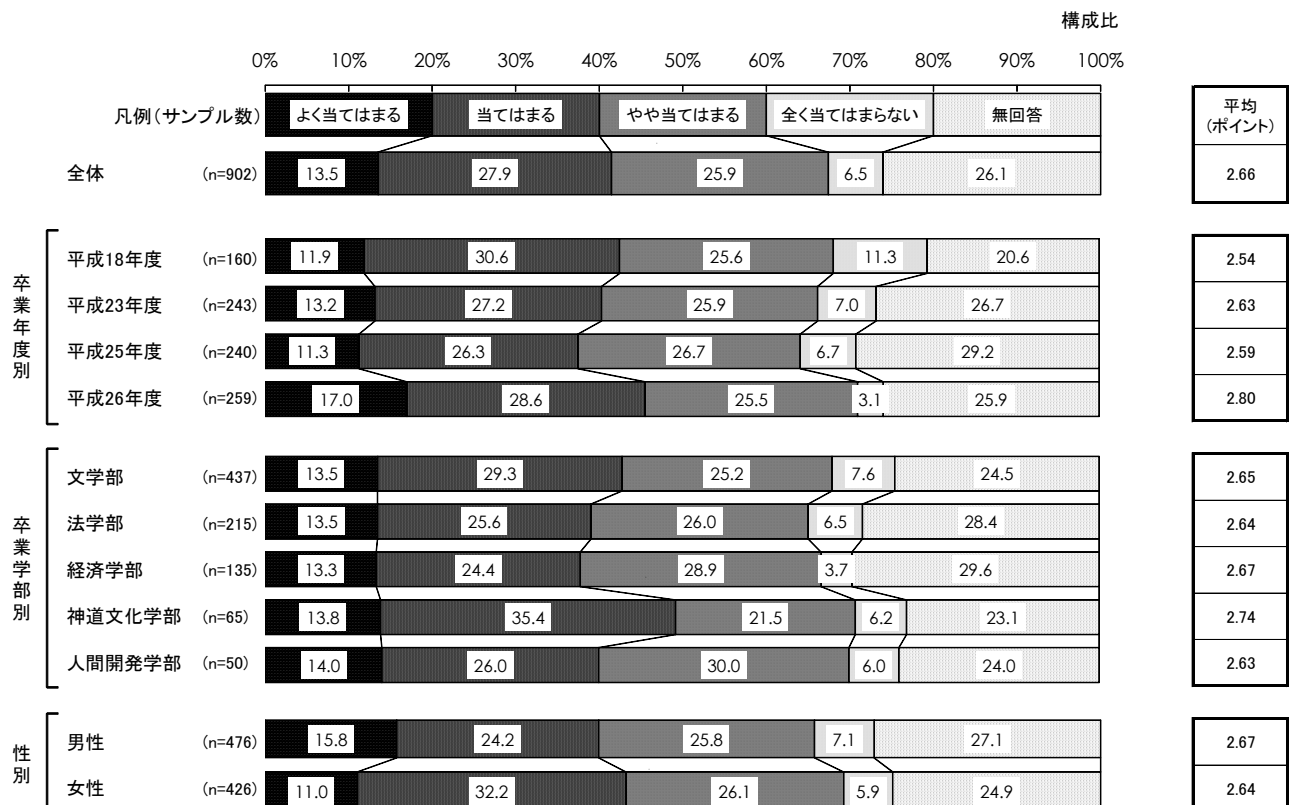
図表 1－101 チームの中で担うべき自分の役割を自覚できる（SA）



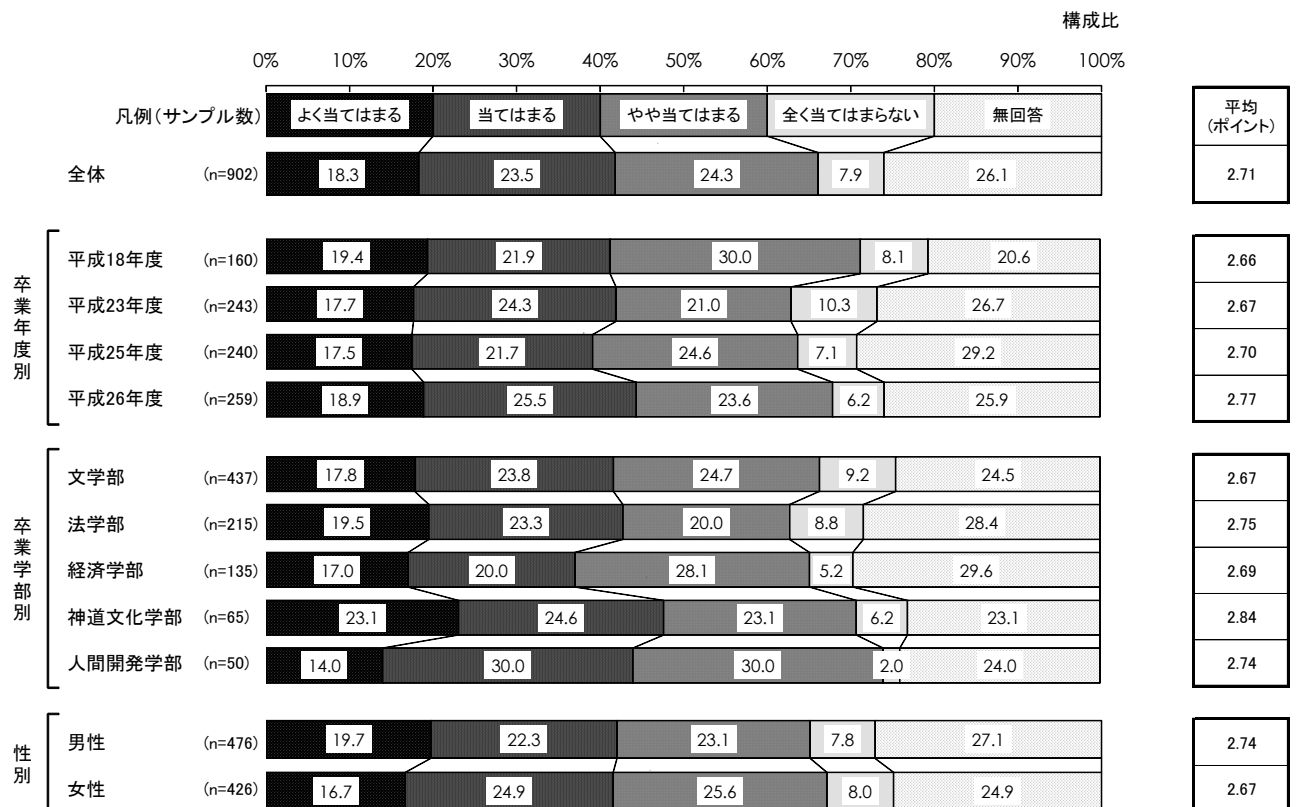
図表１－１０２ 周囲と連携を図り、協力しながら仕事を進められる（ＳＡ）



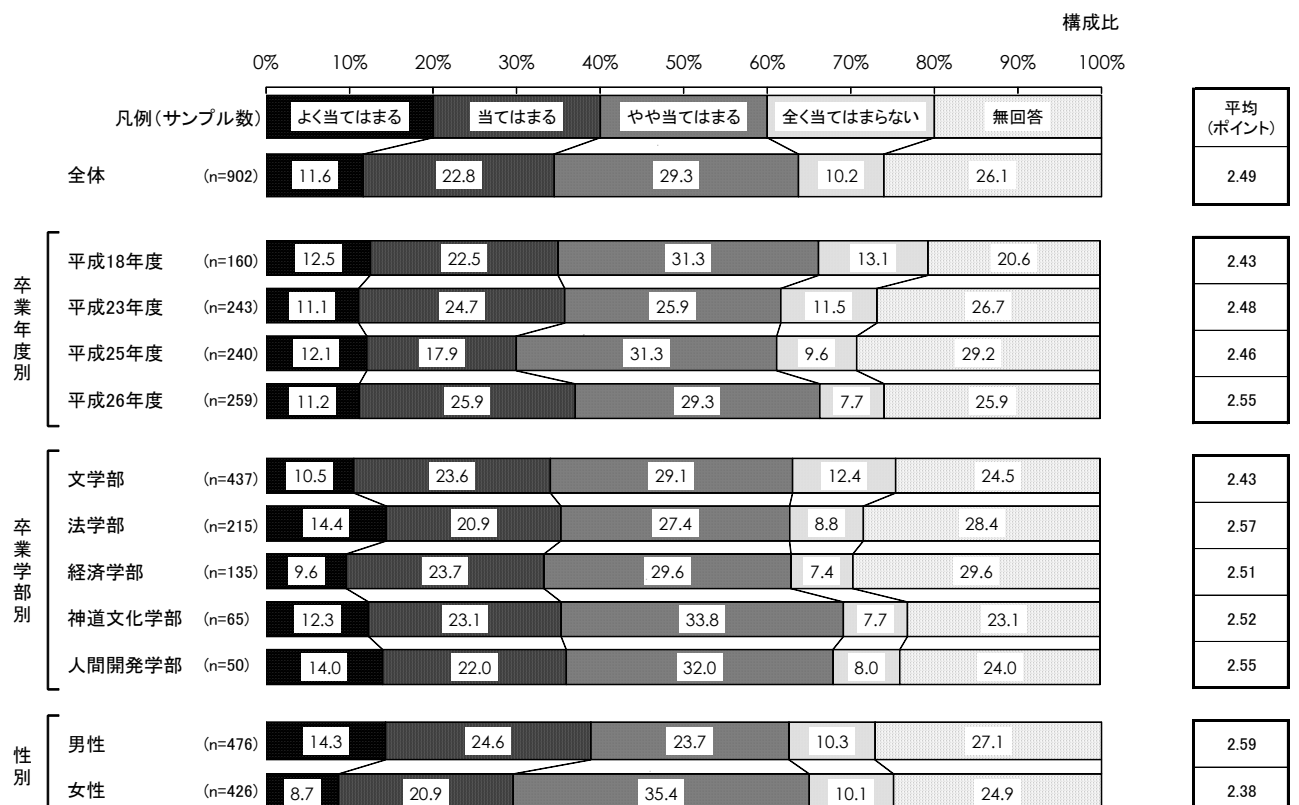
図表１－１０３ 相手の状況に応じて、適切なアドバイスができる（ＳＡ）



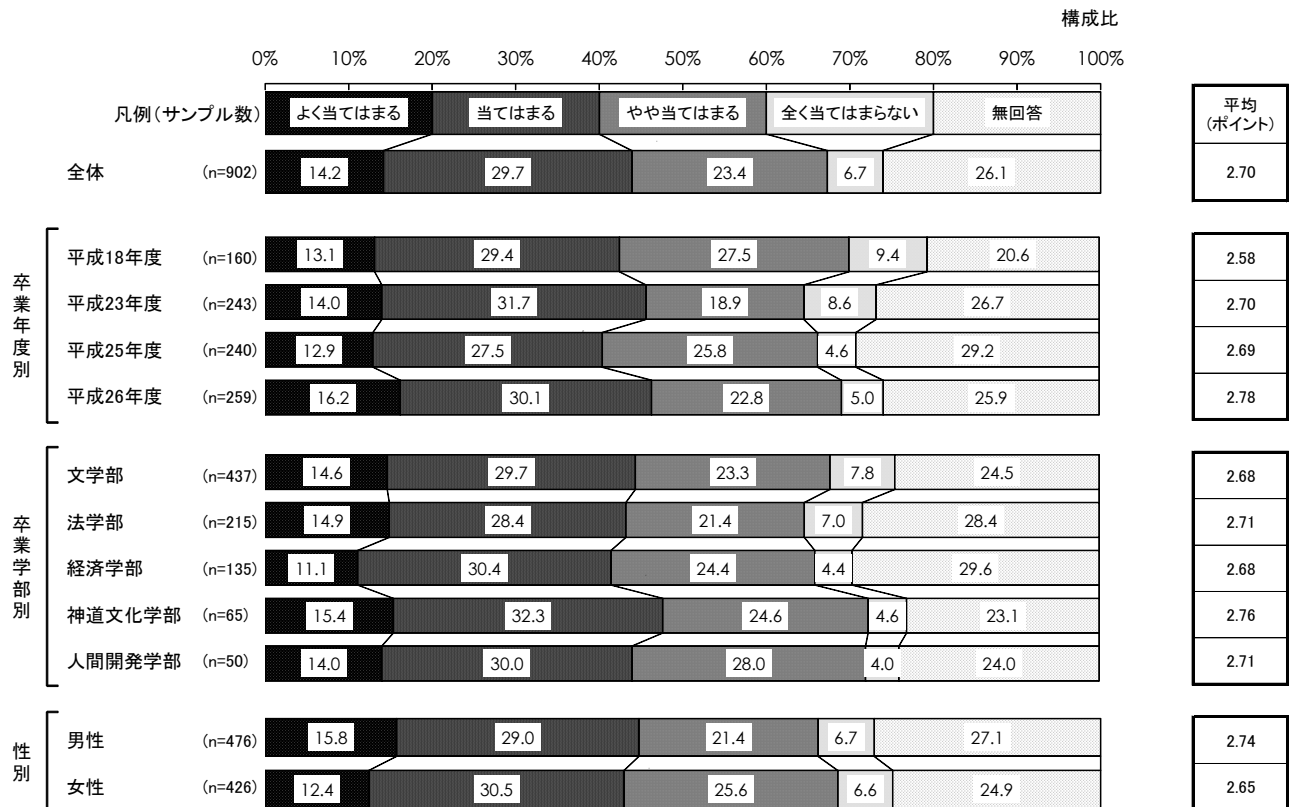
図表１－１０４ 周りの人と意見が異なる場合でも、自分の意見を述べられる（ＳＡ）



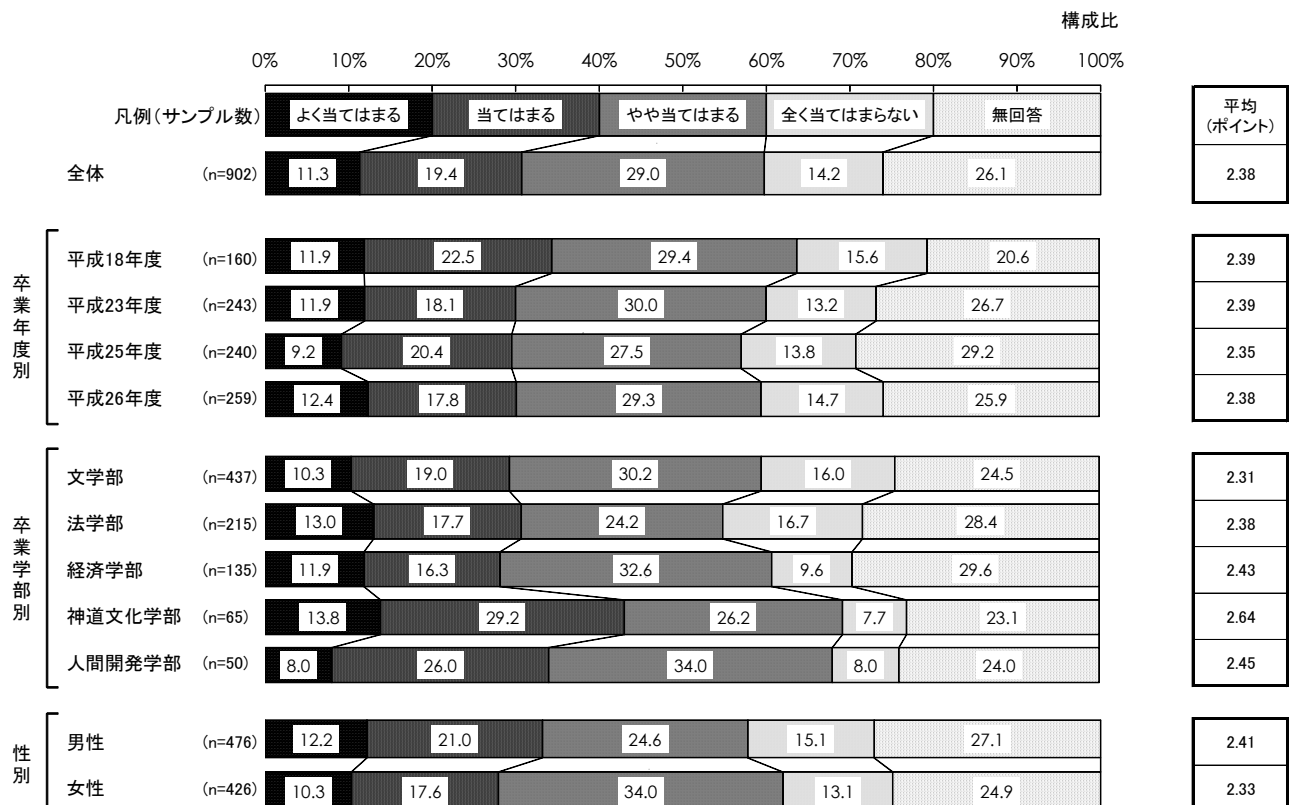
図表１－１０５ 建設的な議論となるように、チームに働きかけができる（ＳＡ）



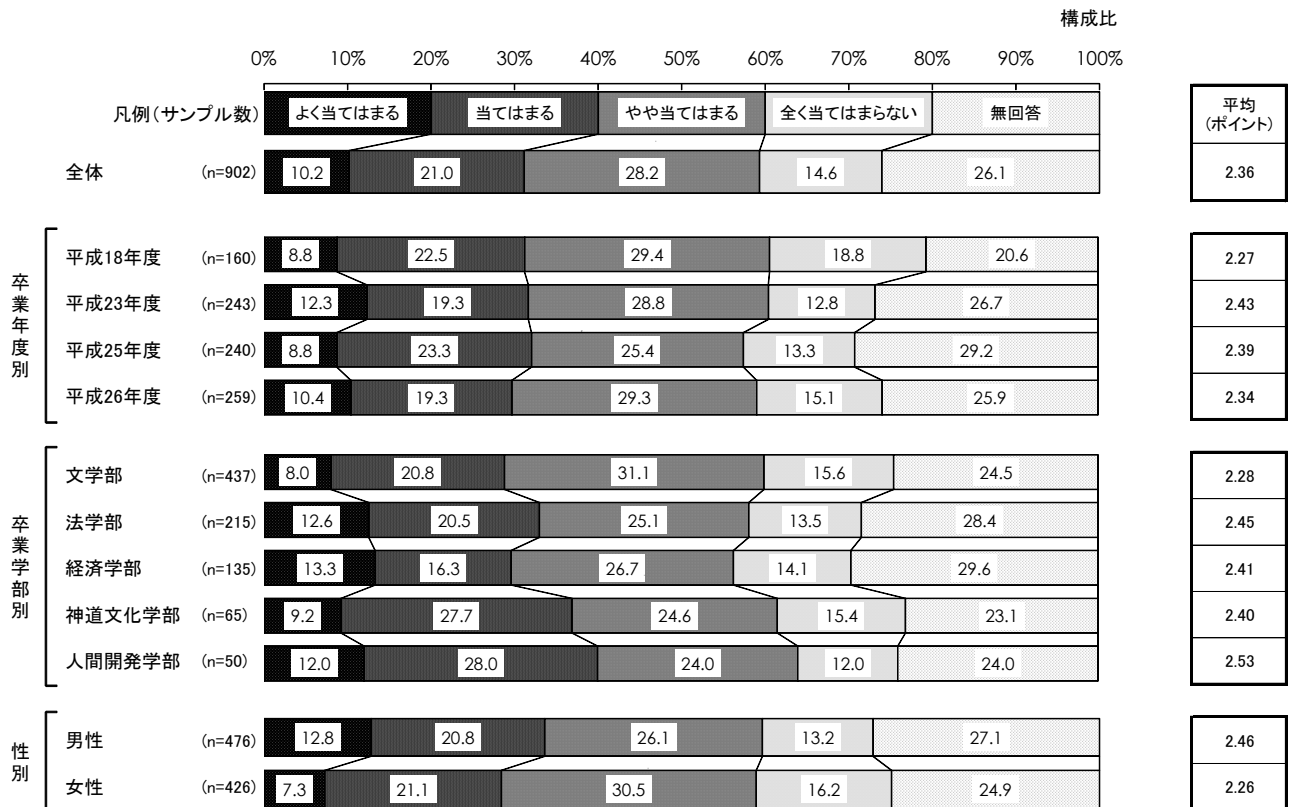
図表１－１０６ 相手の立場を考慮しながら、意見調整を進められる（ＳＡ）



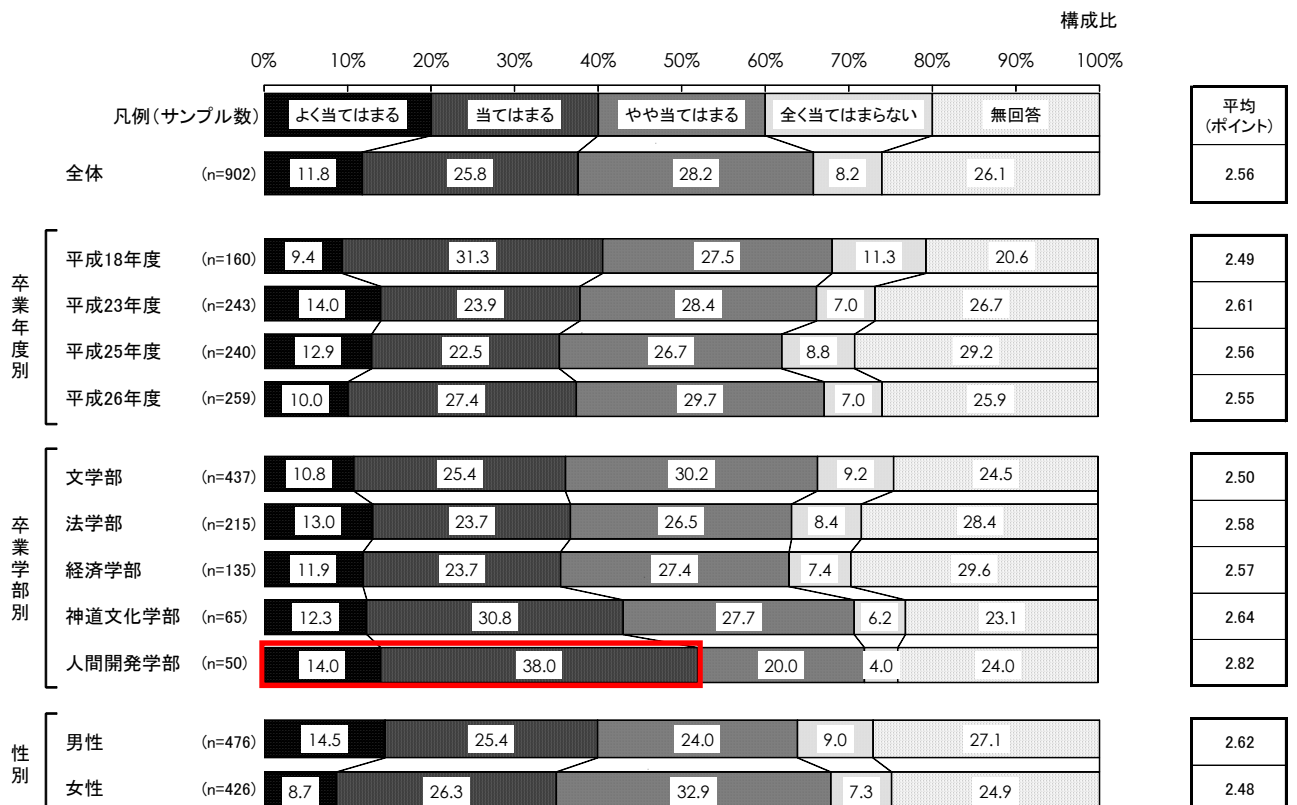
図表１－１０７ プレッシャーがかかる場面でも、落ち着いて対応できる（ＳＡ）



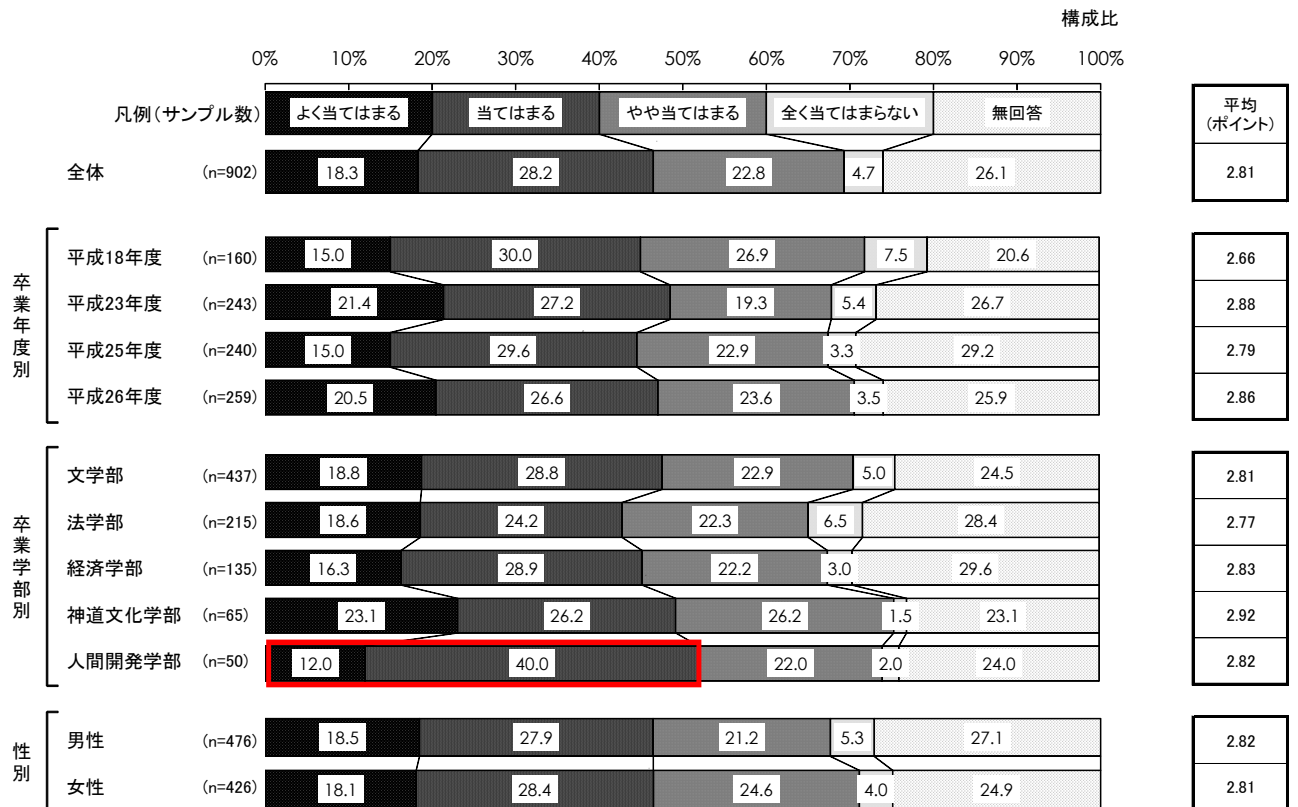
図表１－１０８ ストレスにうまく対処し、感情をコントロールできる（ＳＡ）



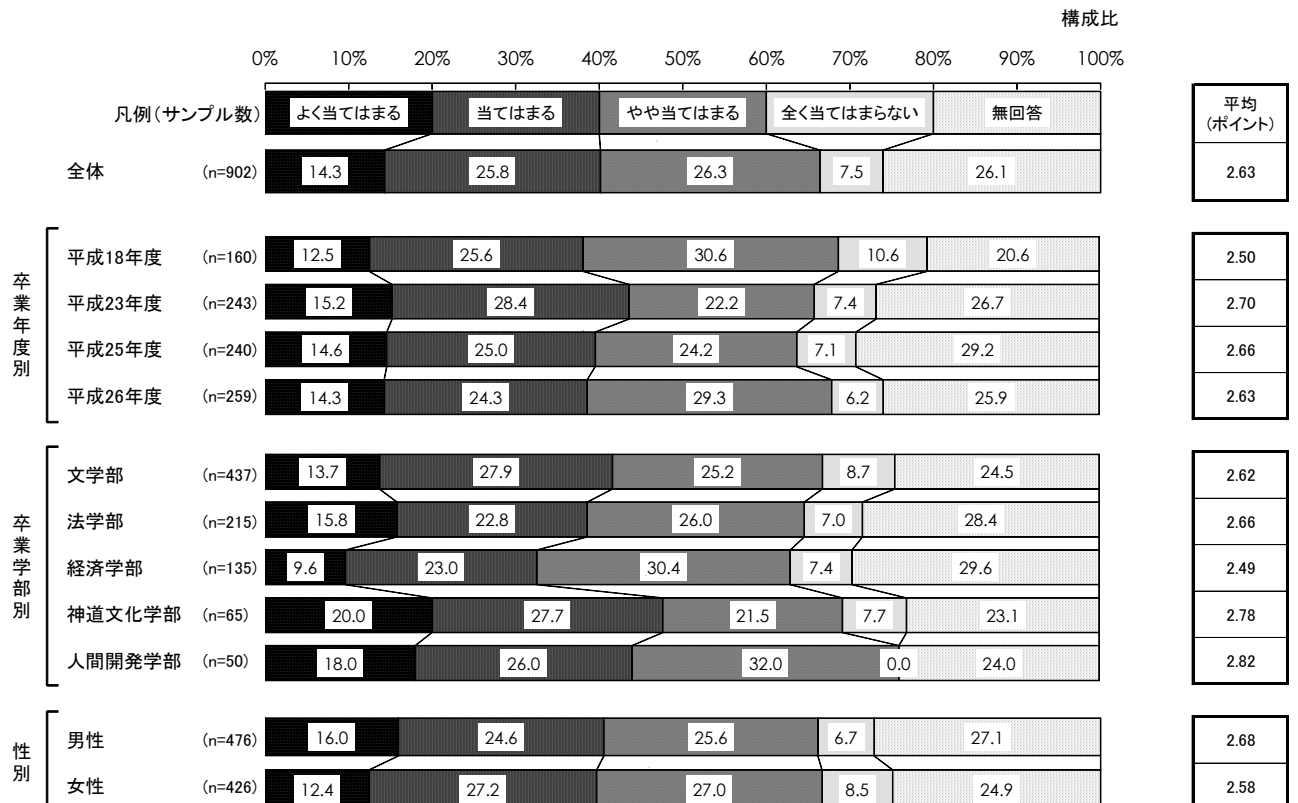
図表１－１０９ 難しい課題に対しても前向きに取り組める（ＳＡ）



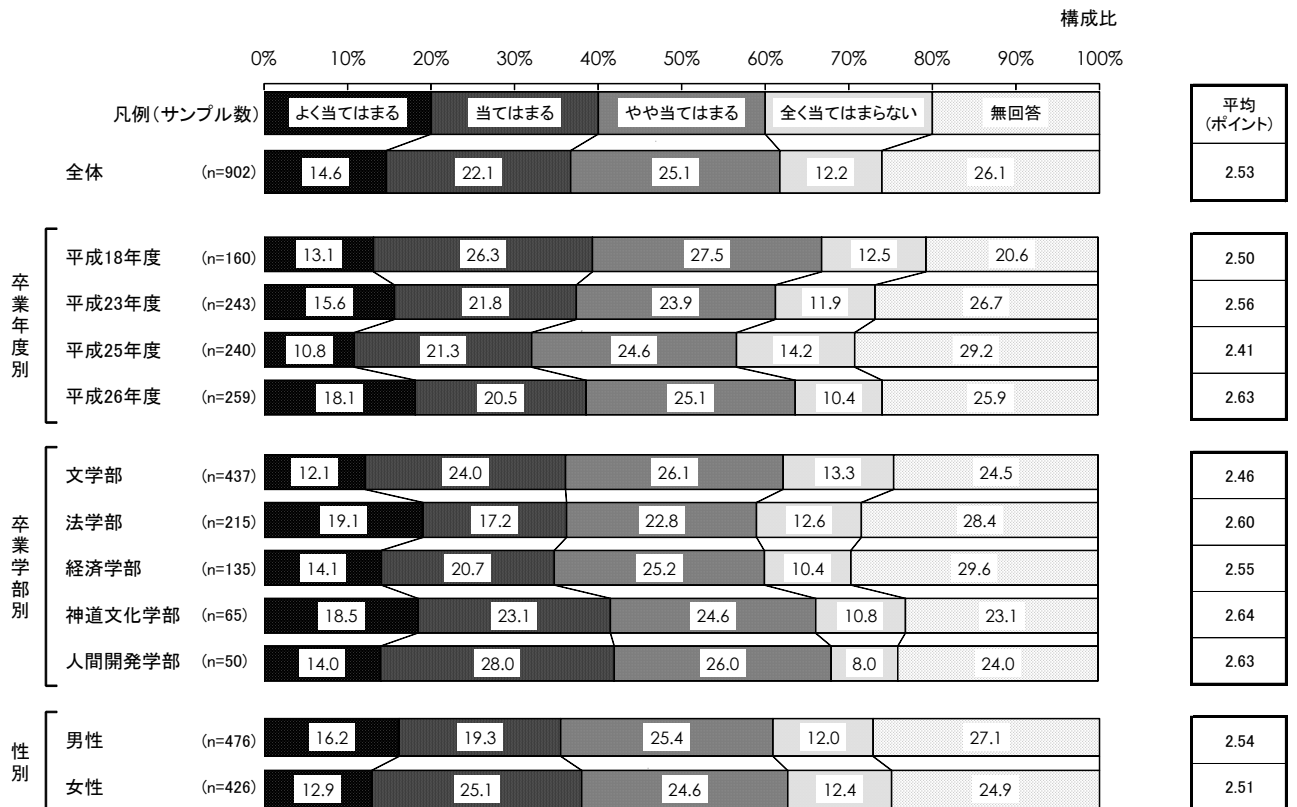
図表 1－110 自分の長所と短所を的確に把握している（S A）



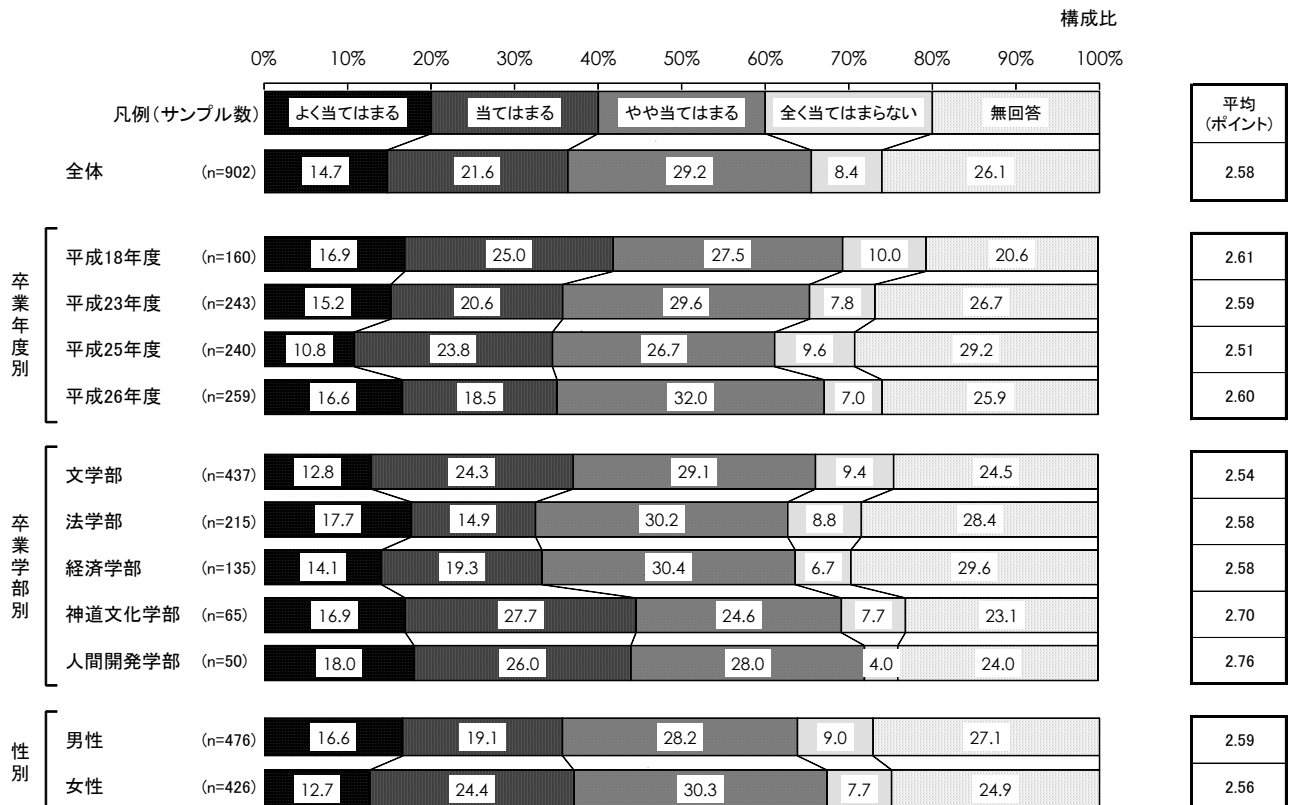
図表 1－111 自分の強みや持ち味を活かすべく行動できる（S A）



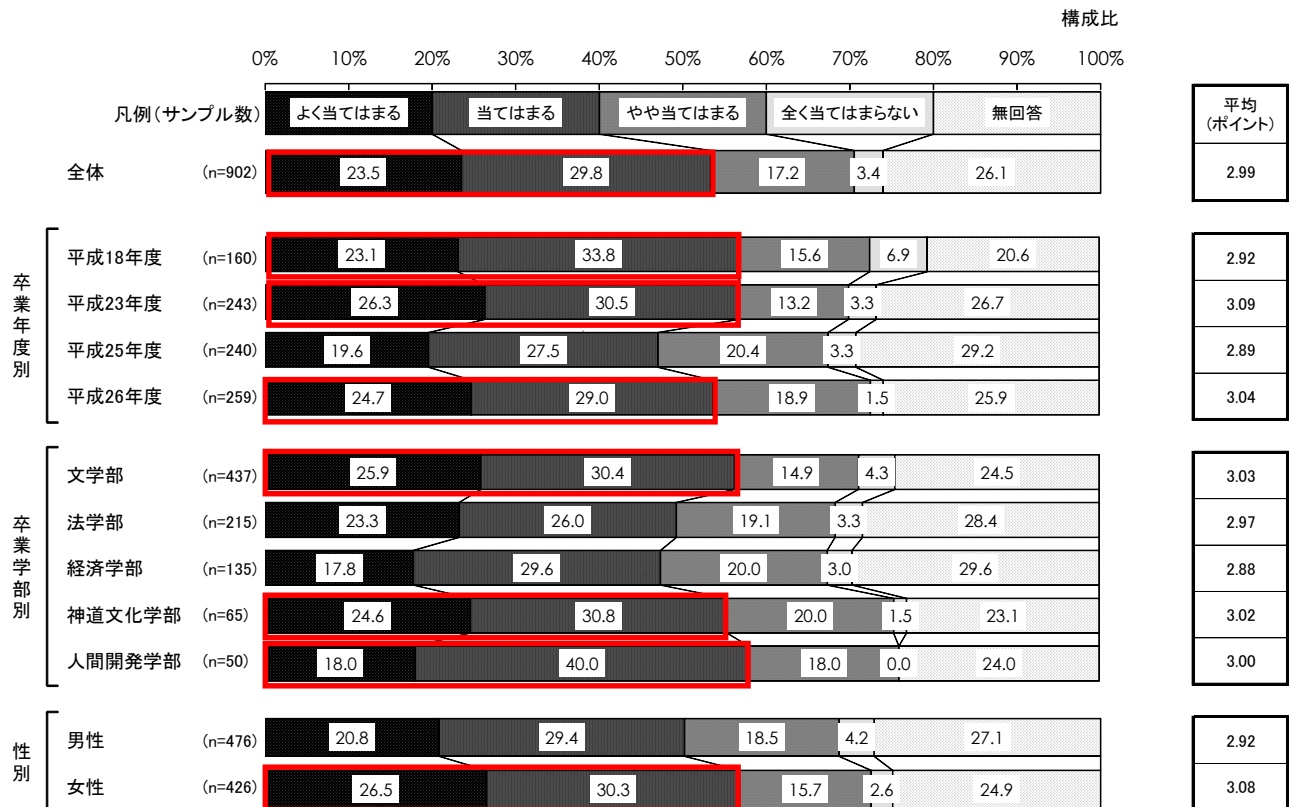
図表 1－1 1 2 未経験のことにも、臆せず取り組める（S A）



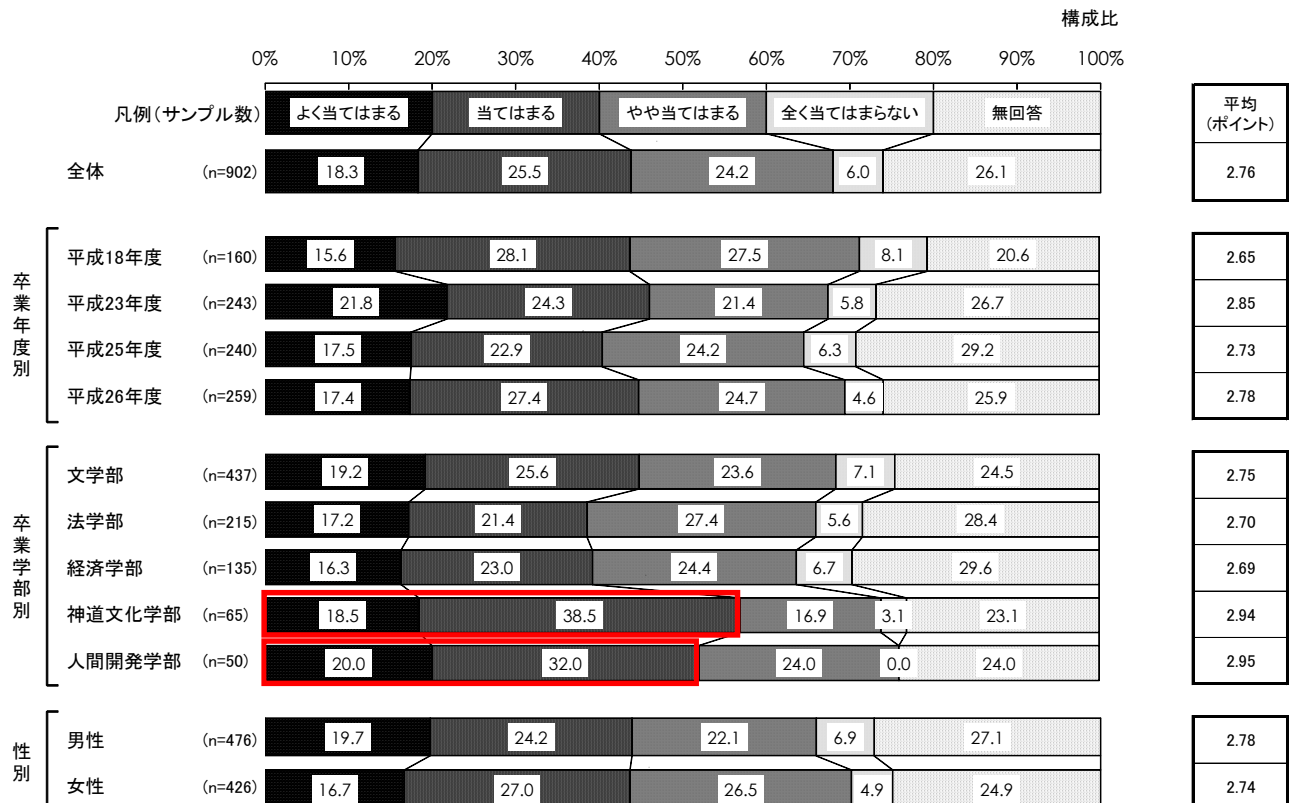
図表 1－1 1 3 自発的に行動できる（S A）



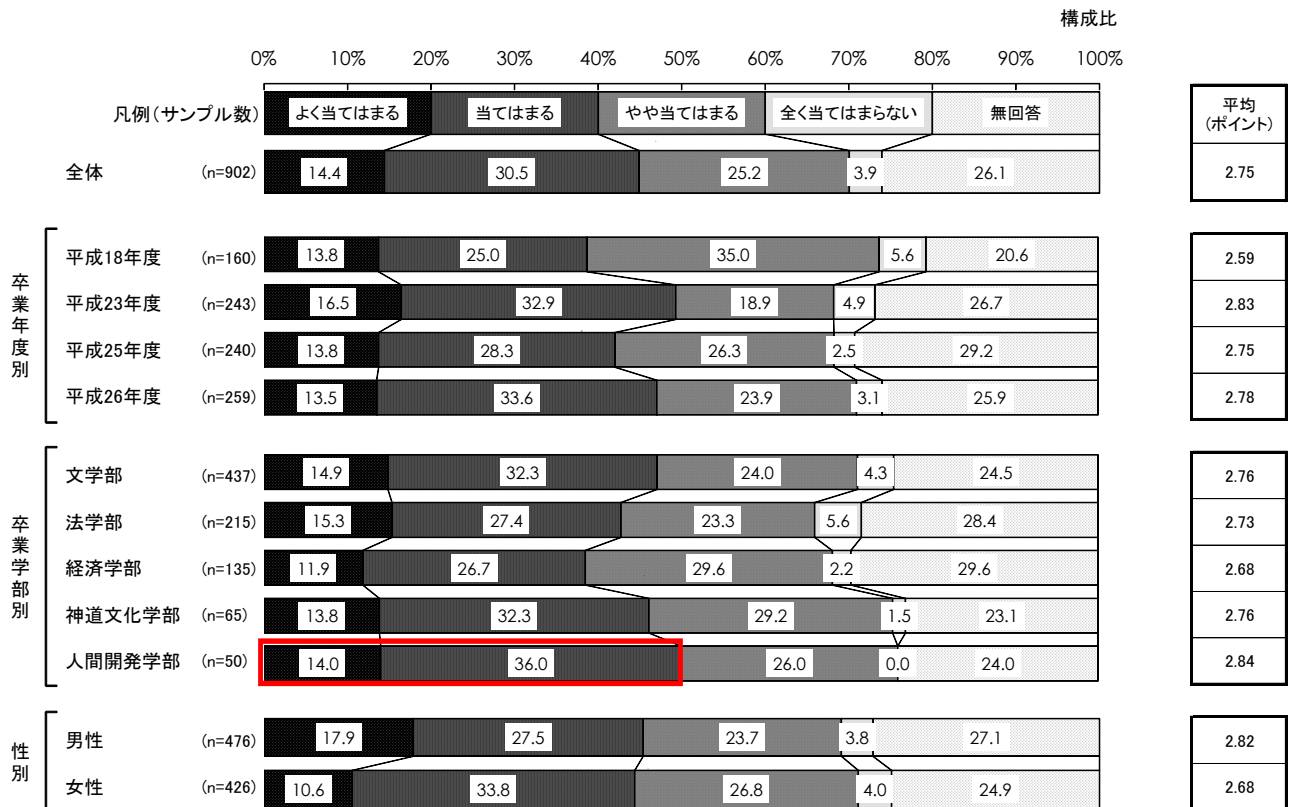
図表 1－114 責任感を持ってやりとげる（SA）



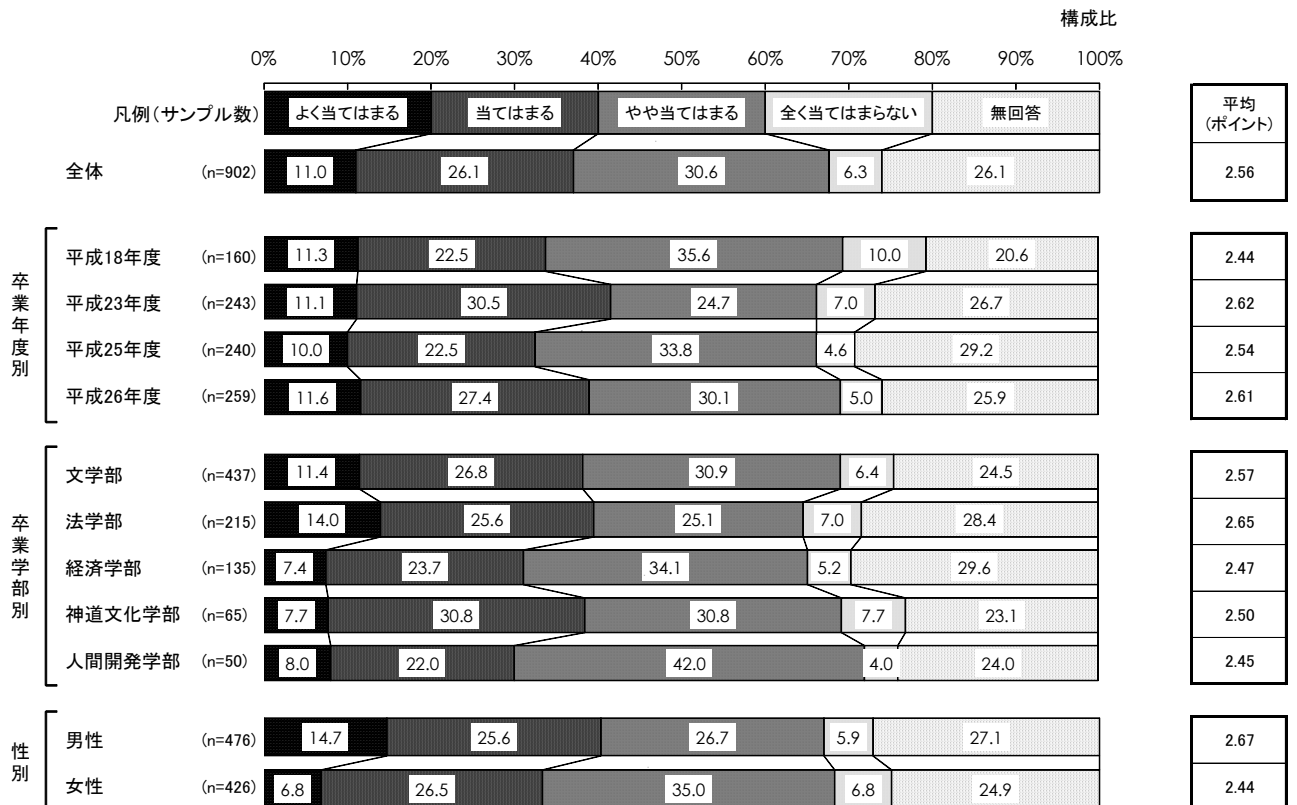
図表 1－115 常に主体的に学び続ける姿勢を持っている（SA）



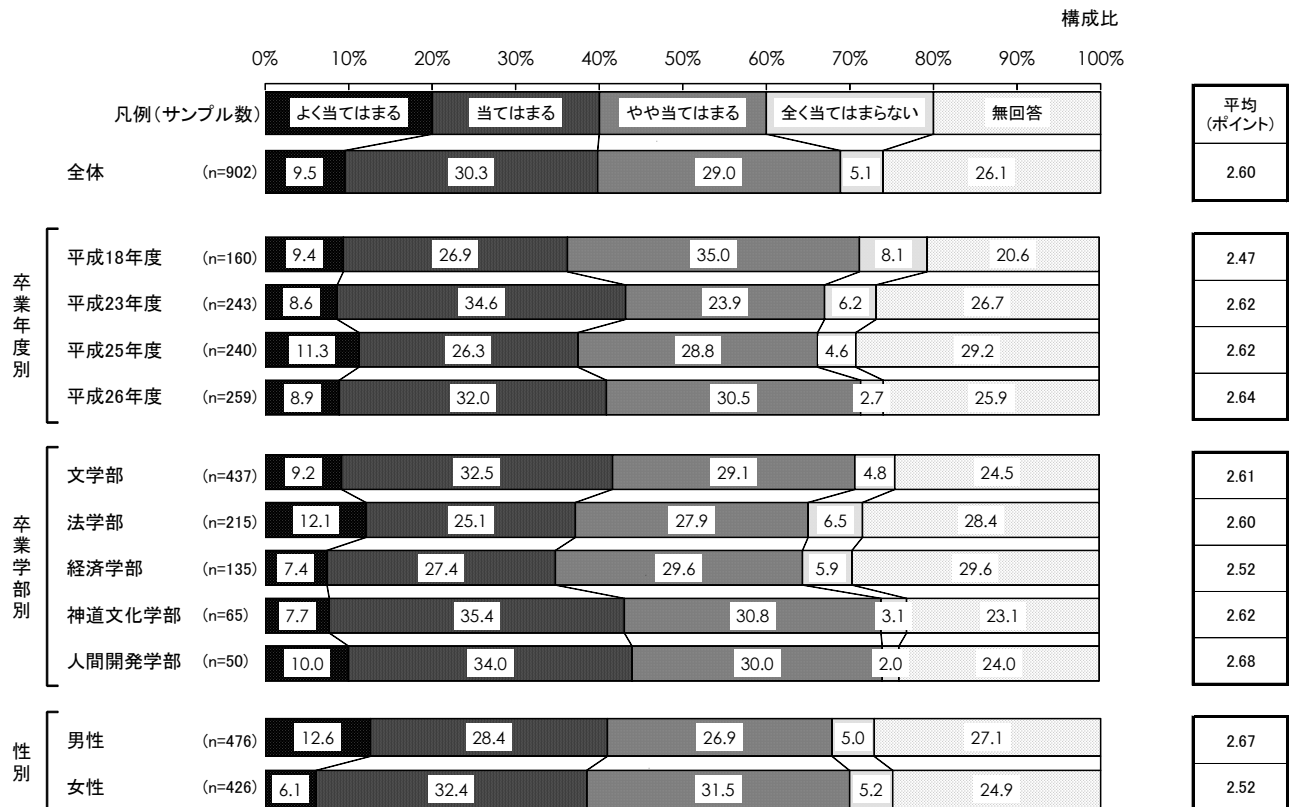
図表 1－116 課題に応じ、適切に情報を収集できる（S A）



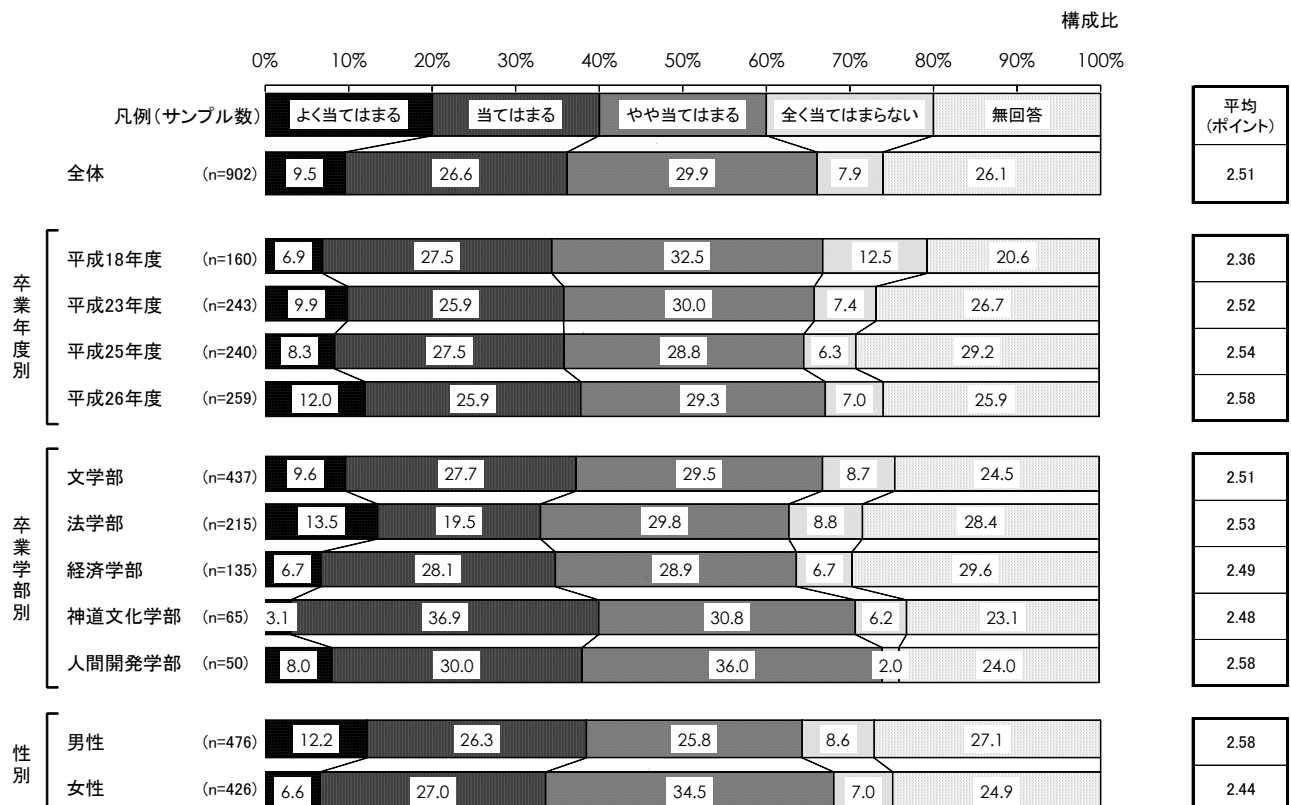
図表 1－117 客観的な視点でデータを整理・分析し、問題点を把握できる（S A）



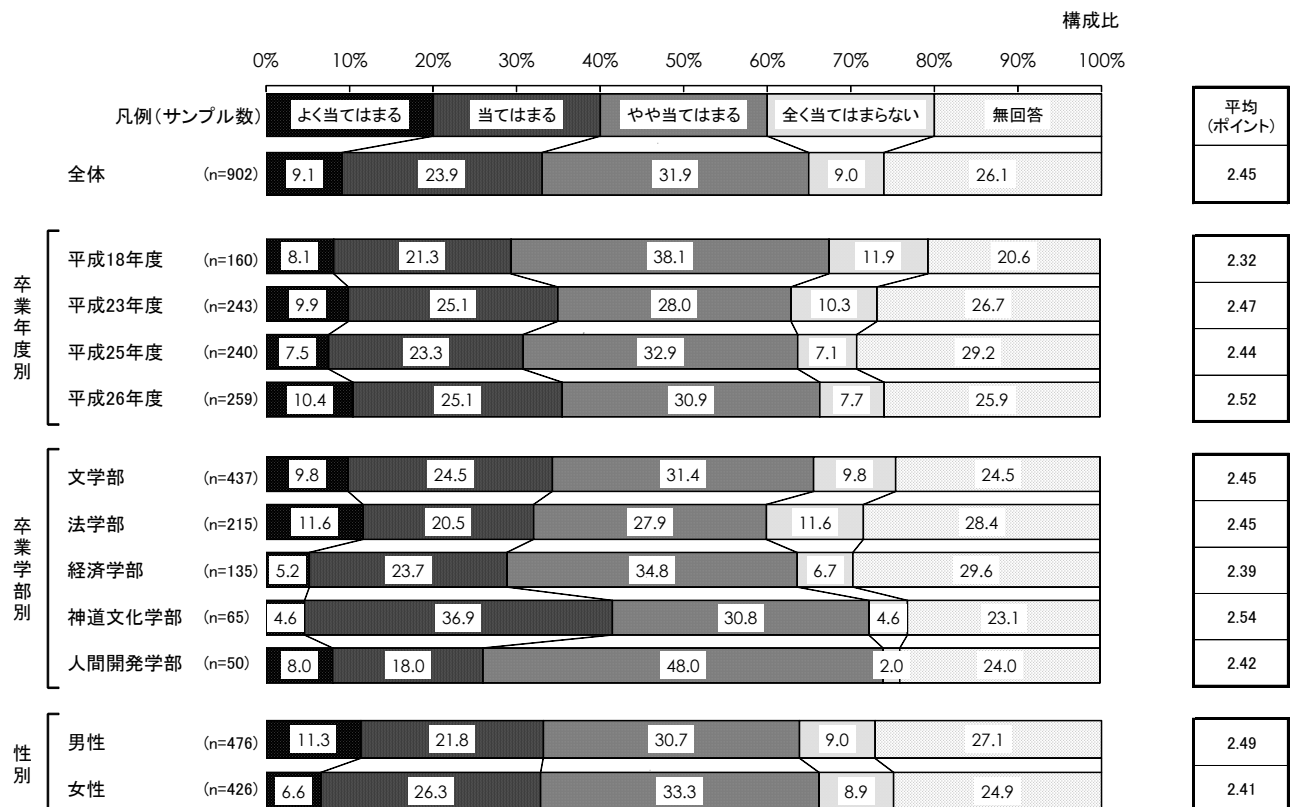
図表 1－118 問題が生じた原因について、様々な観点から考えられる（S A）



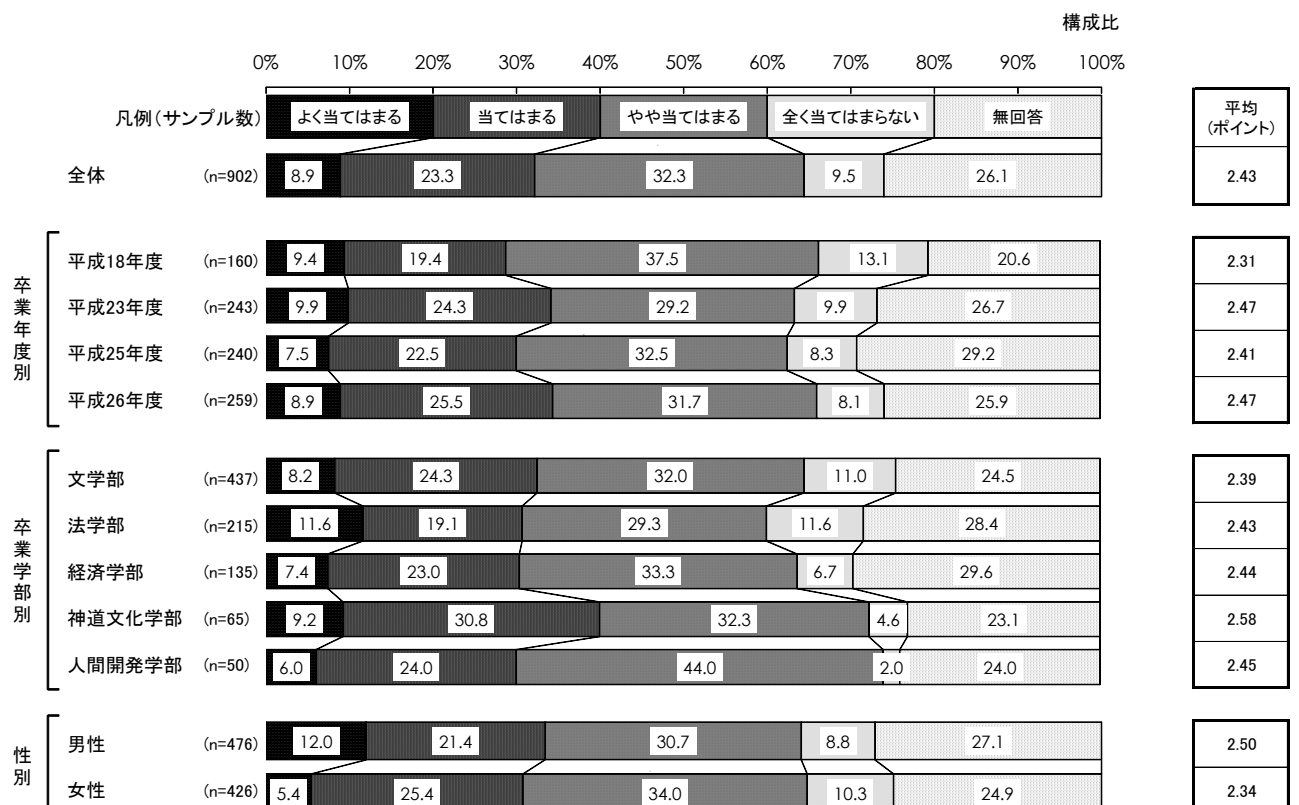
図表 1－119 問題解決に向けて、明確な目標を立てられる（S A）



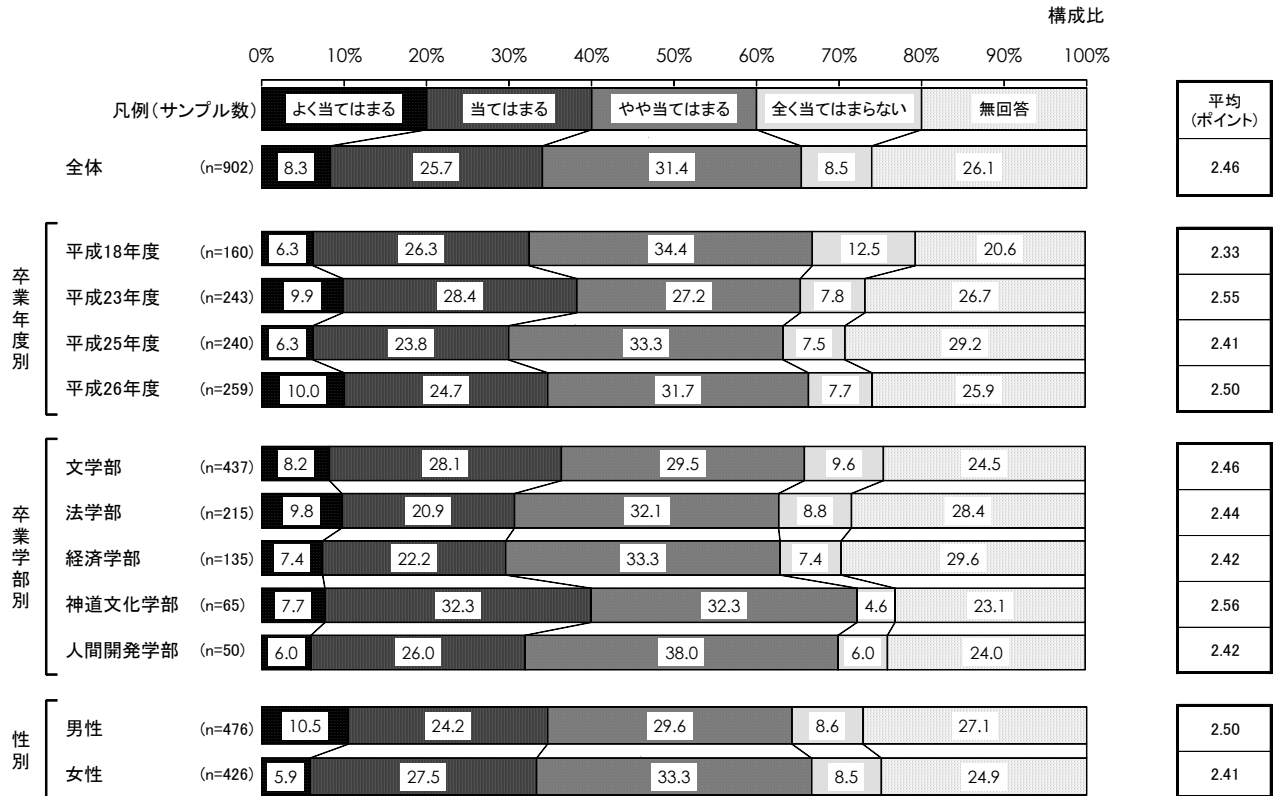
図表 1－120 問題解決に向けて、目標に沿った具体的な計画を立てられる（S A）



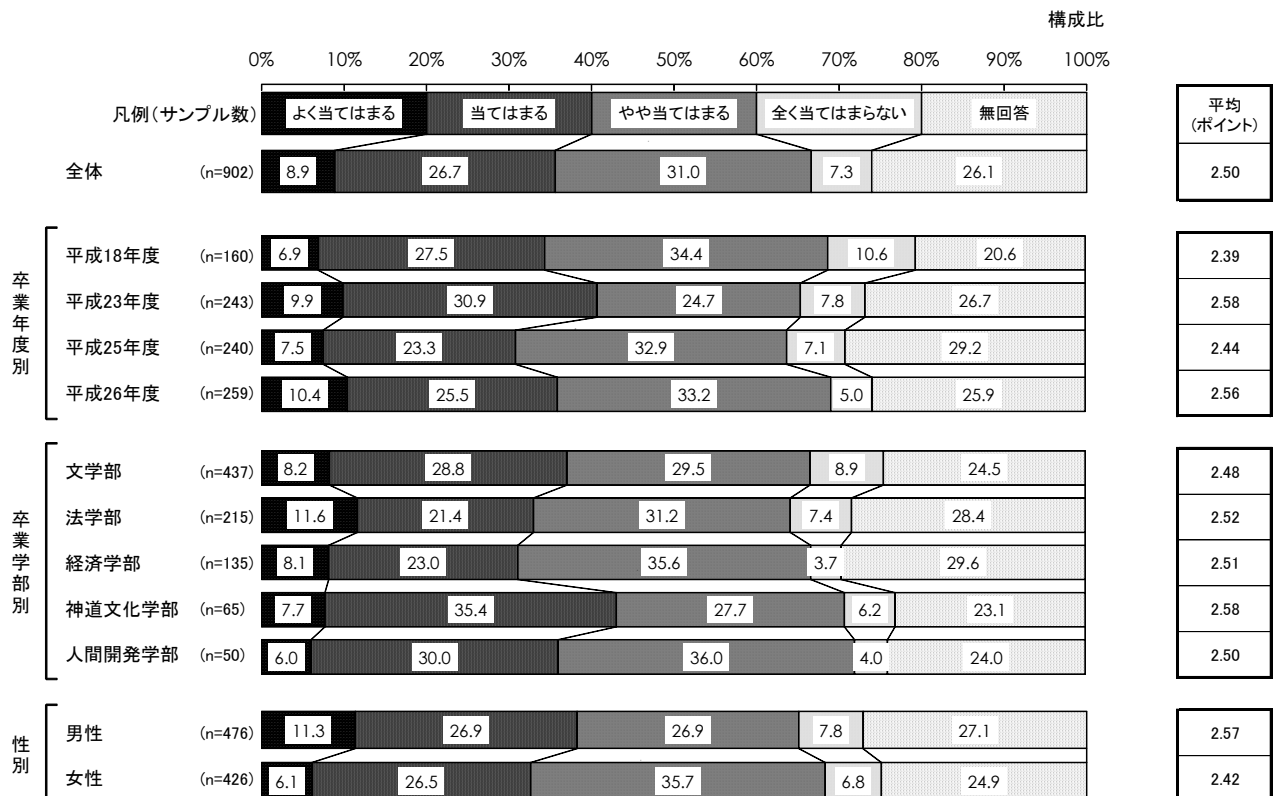
図表 1－121 問題解決に向けて、立案した計画の実現性を吟味できる（S A）



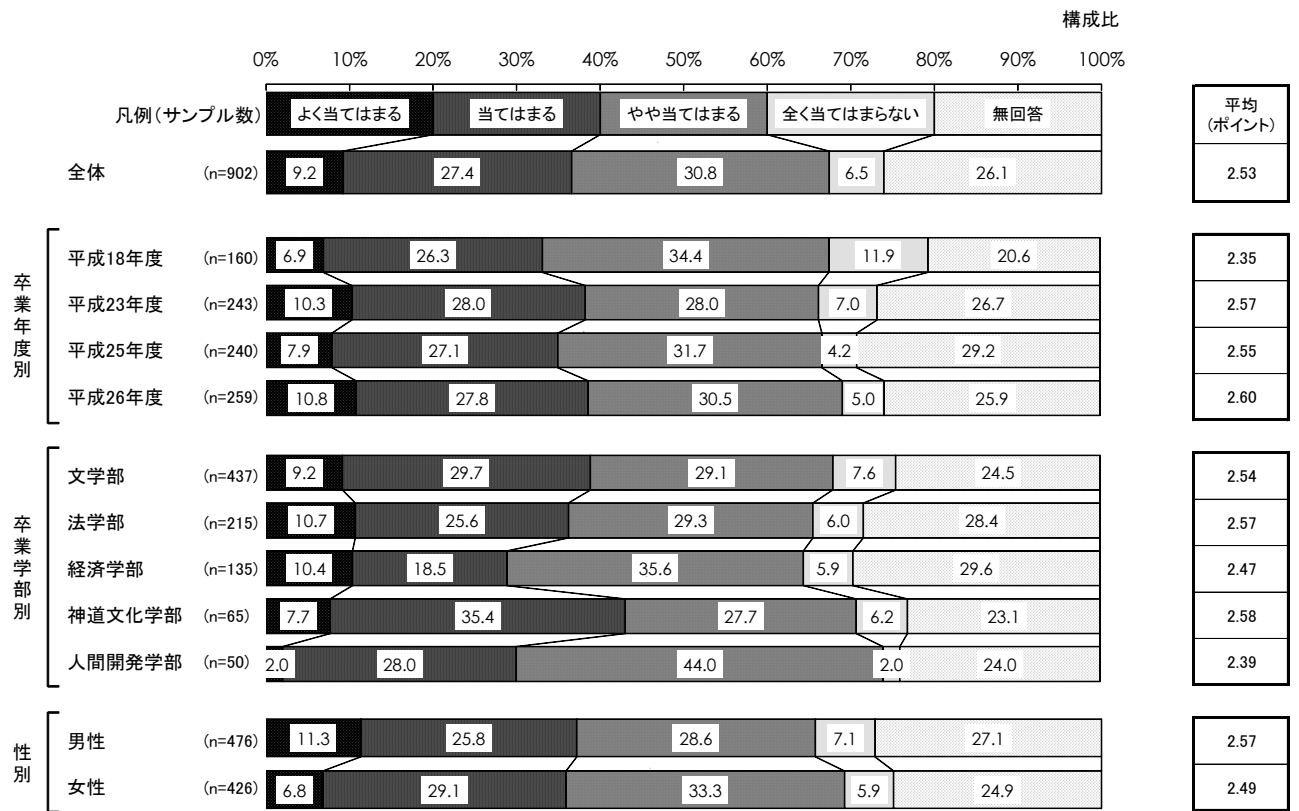
図表 1－122 問題解決すべく計画を推進しながら、
想定外の事態に応じて行動を修正できる（S A）



図表 1－123 問題解決するためにとった行動を振り返り、
課題を把握できる（S A）



図表 1－124 把握した課題を念頭におき、
同様の事態に対して適切に対応できる（S A）



5. 学生時代に身についたと思うスキルや能力のうち、今役立っているものはどれですか。（答えはいくつでも）

学生時代に身についたと思うスキルや能力のうち、今役立っているものは、「誰に対しても、和やかに接することができる力」が 41.6%で最も高く、次いで「人から相談された際に、相手の話を真剣に聞ける力」が 36.7%、「チームの中で担うべき自分の役割を自覚できる力」が 29.7%となっている。親和力、協働力は、前項の間 28 で身についたと回答した人の割合も多く、現在も役になっていることがわかる。

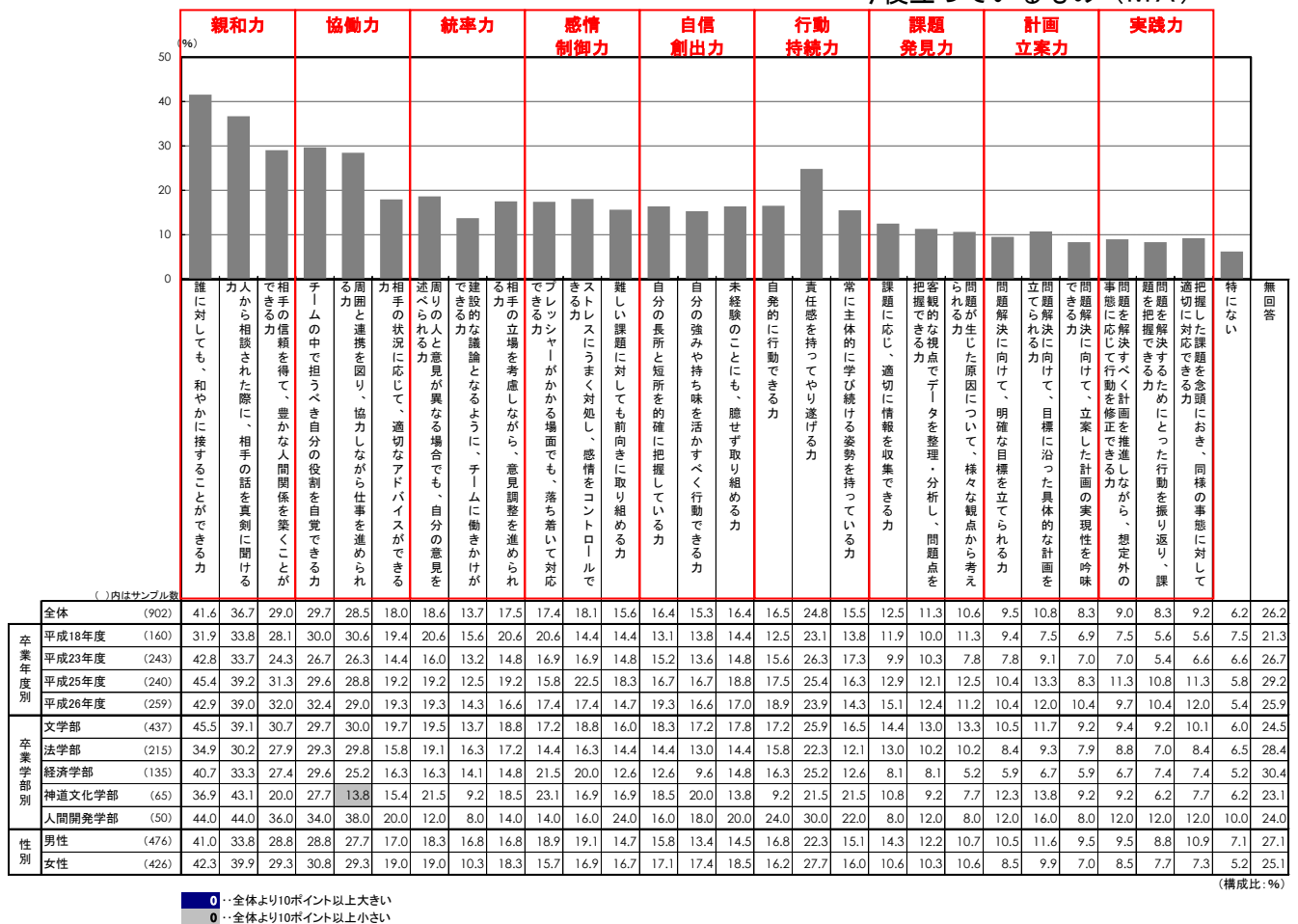
卒業年度別にみると、平成 18 年度は「人から相談された際に、相手の話を真剣に聞ける力」が 33.8%で最も高くなっている。

卒業学部別にみると、神道文化学部は「周囲と連携を図り、協力しながら仕事を進められる力」が 13.8%と他の学部よりも大幅に低くなっている。

性別にみると、女性の方が、概ね割合が高くなっている。

図表 1－125 学生時代に身についたと思うスキルや能力のうち、

今役立っているもの（MA）



6. 以下に掲げる力のうち、「学生時代に身につけておけばよかった」と思うものがありますか。(答えはいくつでも)

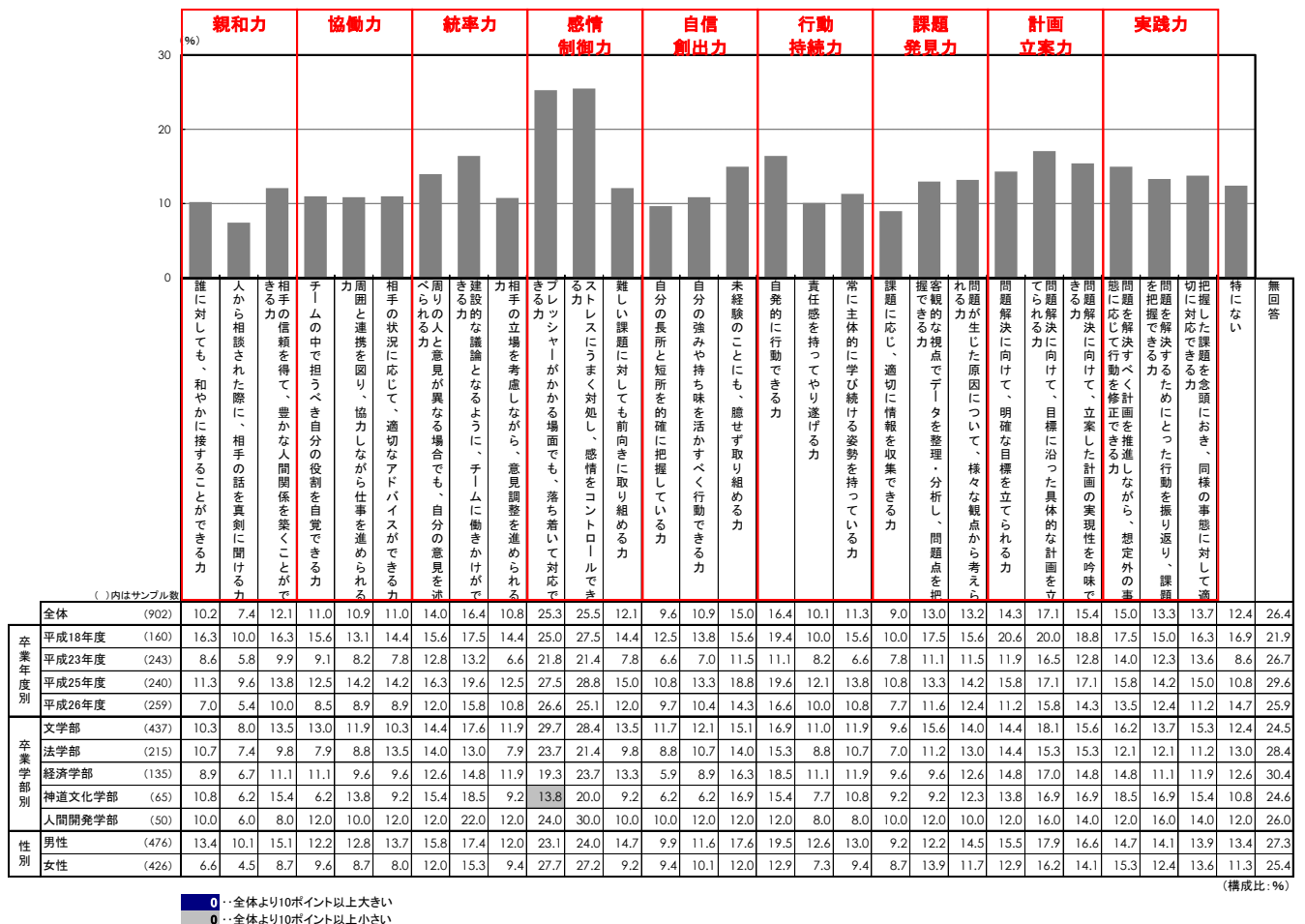
学生時代に身につけておけばよかったと思う能力は、「ストレスにうまく対処し、感情をコントロールできる力」が 25.5%で最も高く、次いで「プレッシャーがかかる場面でも、落ち着いて対応できる力」が 25.3%となっており、感情制御力が望まれている。

卒業年度別にみると、いずれの年度においても上位2位は同じとなっている。

卒業学部別にみると、神道文化学部は「プレッシャーがかかる場面でも、落ち着いて対応できる力」が 13.8%と他の学部比べて割合が特に低くなっている。

性別にみると、概ね男性が女性を上回っている。

図表 1－126 「学生時代に身につけておけばよかった」と思うもの（MA）



その他の内容

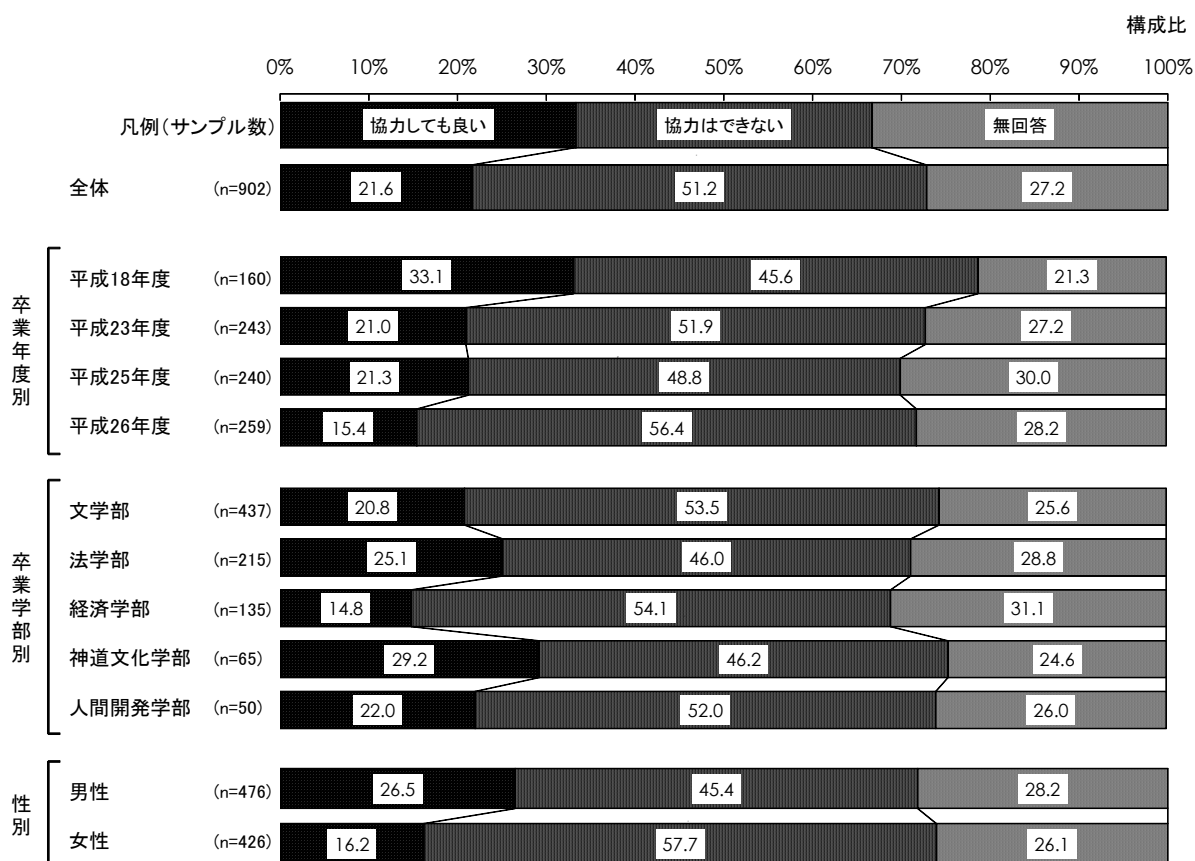
1	学生時代、これらがなく、教授やゼミ生以外とほぼ会話もしておらずとても苦勞した。
2	意識の低い人ともうまくやっていく力
3	身に着けたものを英語や外国語でも交流できる力
4	電話で怒ってる人を宥める力

問 8 インタビューへのご協力依頼

1. 後日、卒業生を対象としたグループインタビューを予定しています。対象者はご協力いただける方の中から抽選で選定します。あなたは協力しても良いですか。
(1つ選択)

卒業生グループインタビューへの協力意向は、「協力しても良い」と回答した人が 21.6 と約 2 割を占めている。

図表 1－127 卒業生グループインタビューの協力有無（S A）



第 2 章 経年比較

第2章 経年比較

今回調査（H29 年度調査）と前回調査（H28 年度調査）について、共通の設問ごとに、卒業からの経過年数が同じ年度を比較した。

問2 学修方法

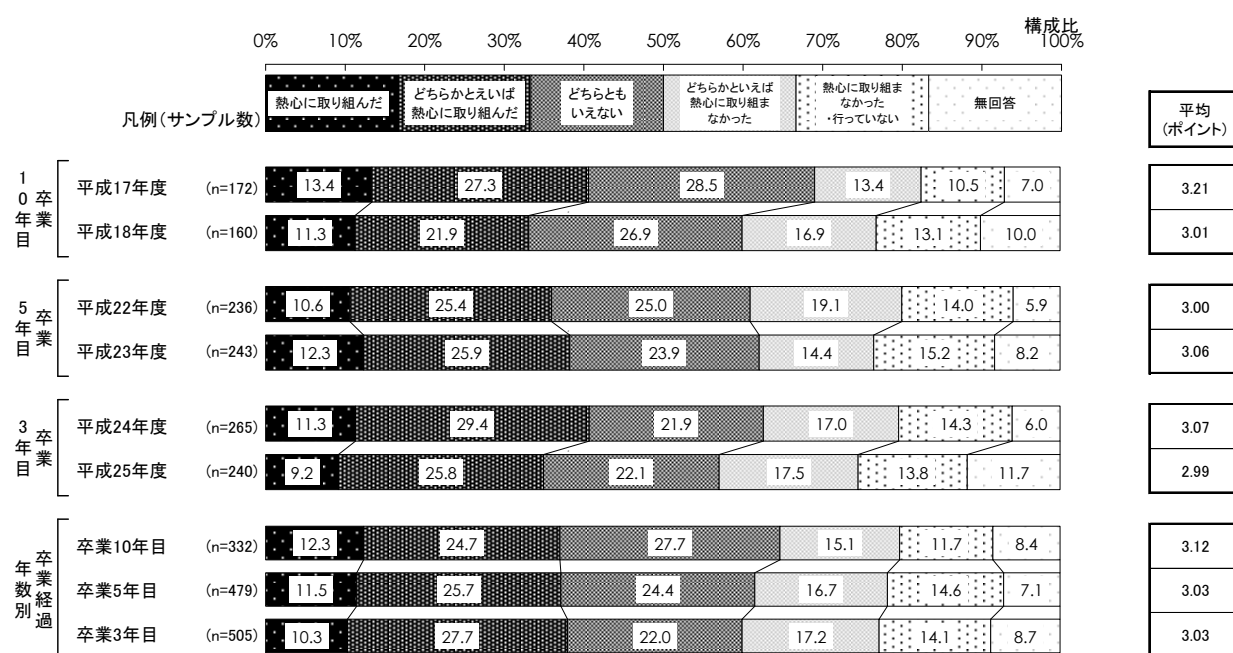
1. 学生時代の学修等への取組状況をお答えください。（それぞれ1つ選択）

卒業経過別の平均値に注目すると、卒業10年目が他よりも高いのは「神道科目」、「外国語科目」、「留学」となっており、海外に目を向けた学修について高い傾向がみられる。

卒業5年目が他よりも高いのは「専門教科科目」、「サークル・部活動」、「アルバイト」となっており、専門教科科目も挙がってはいるものの、比較的サークルやアルバイトに精を出していた時代と考えられる。

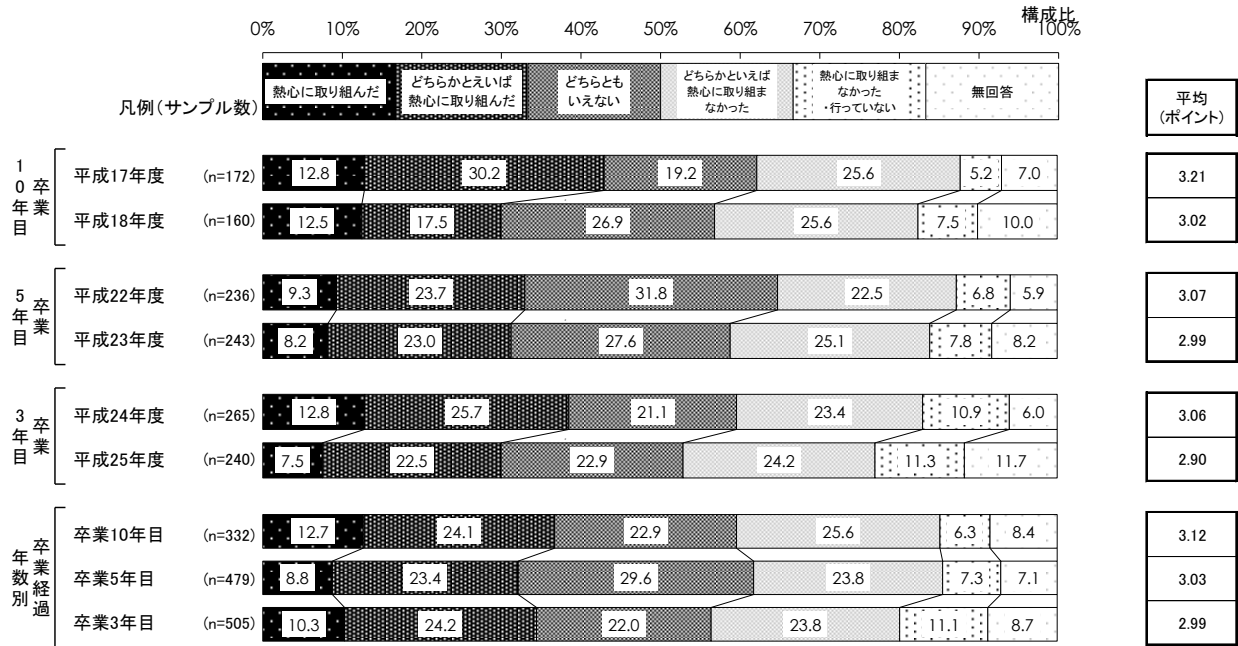
これに対し卒業3年目が他よりも高いのは「教養科目（神道科目／外国語を除く）」、「演習・実習」、「卒業論文・ゼミ活動（ゼミ論等）」、「インターンシップ」、「教職・資格関係科目」、「社会活動（ボランティア等）」となっており、成績に直結する学修に熱心に取り組んでいる傾向がみられる。

図表2-128 神道科目（SA）

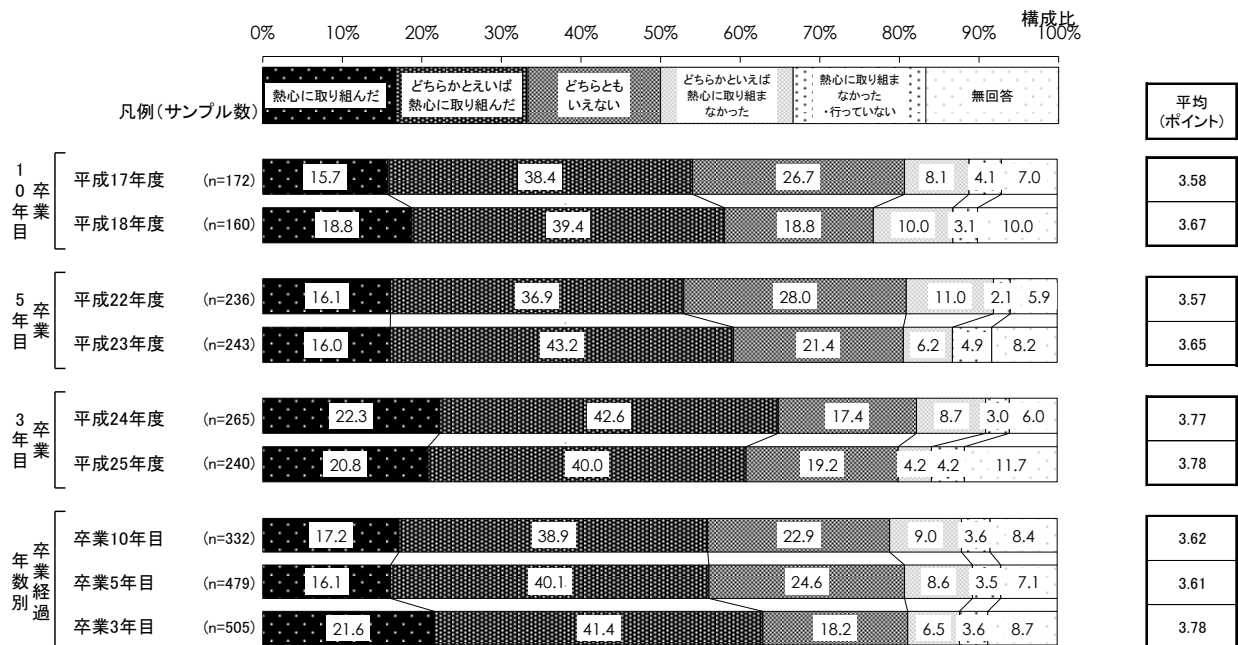


※「熱心に取り組んだ」5ポイント、「どちらかといえば熱心に取り組んだ」4ポイント、「どちらともいえない」3ポイント、「どちらかといえば熱心に取り組まなかった」2ポイント、「熱心に取り組まなかった・行っていない」1ポイントで平均を抽出。

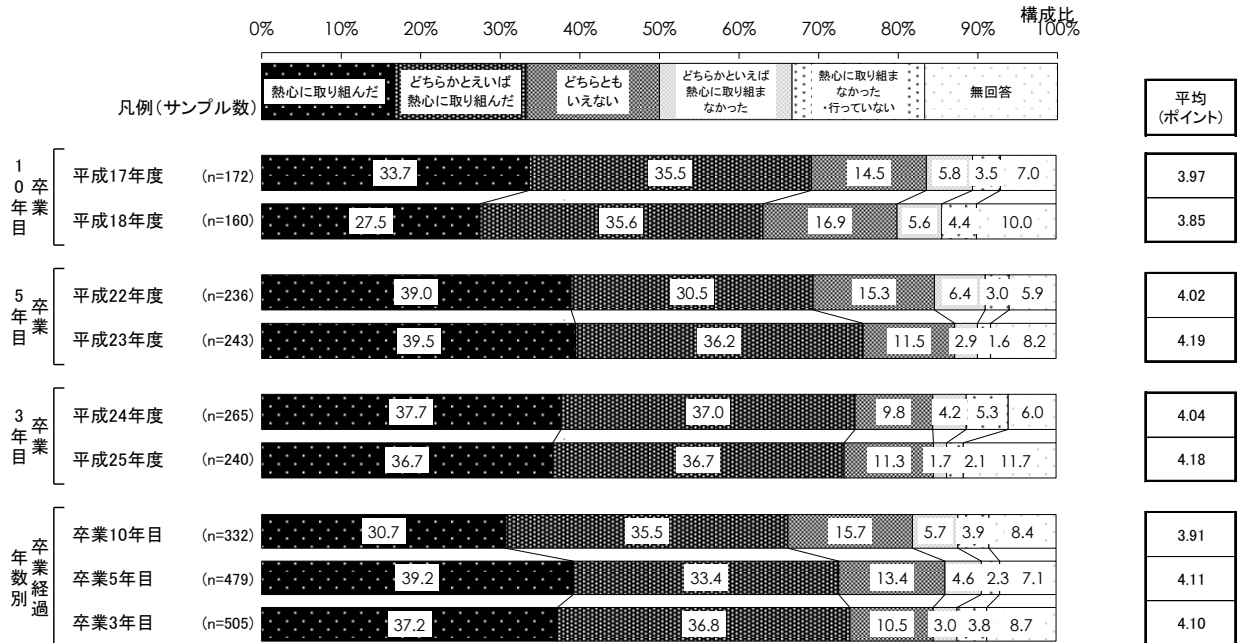
図表 2-129 外国語科目（SA）



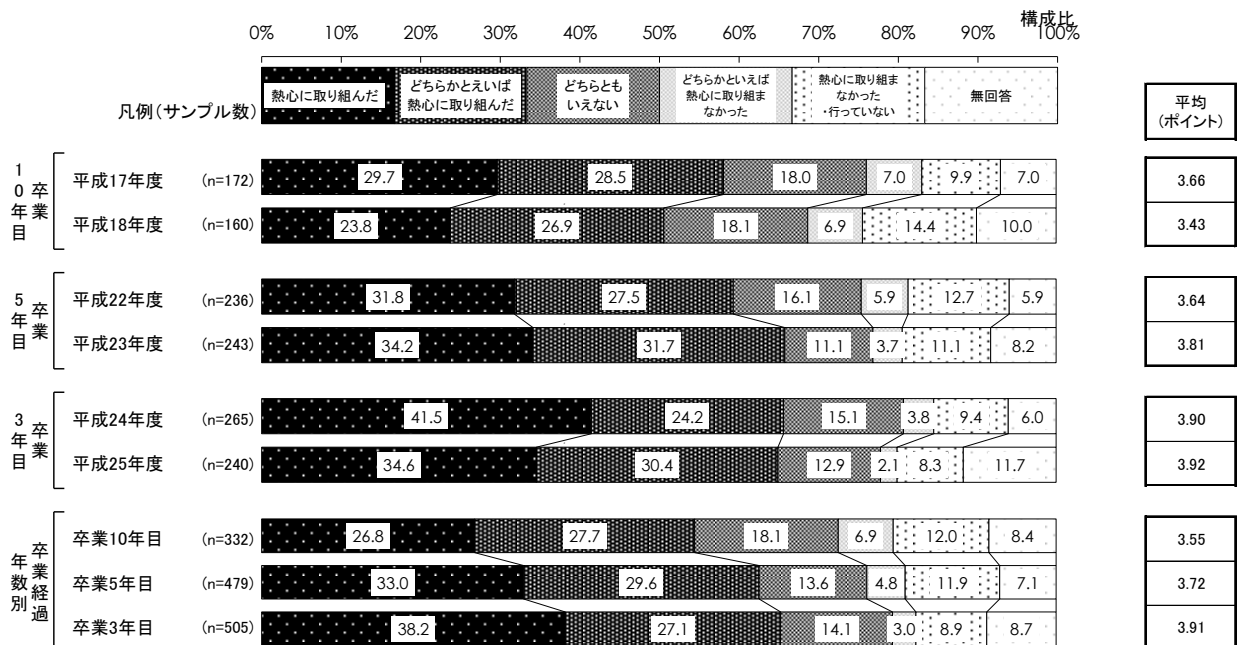
図表 2-130 教養科目（神道科目/外国語を除く）（SA）



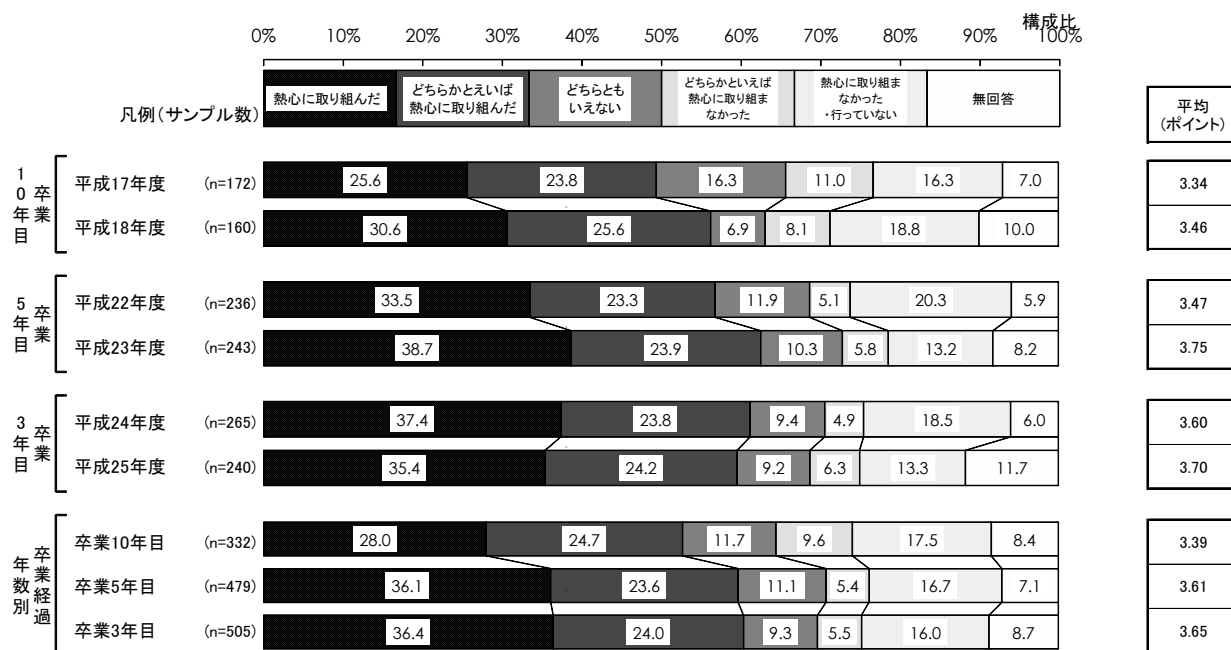
図表 2－131 専門教育科目（SA）



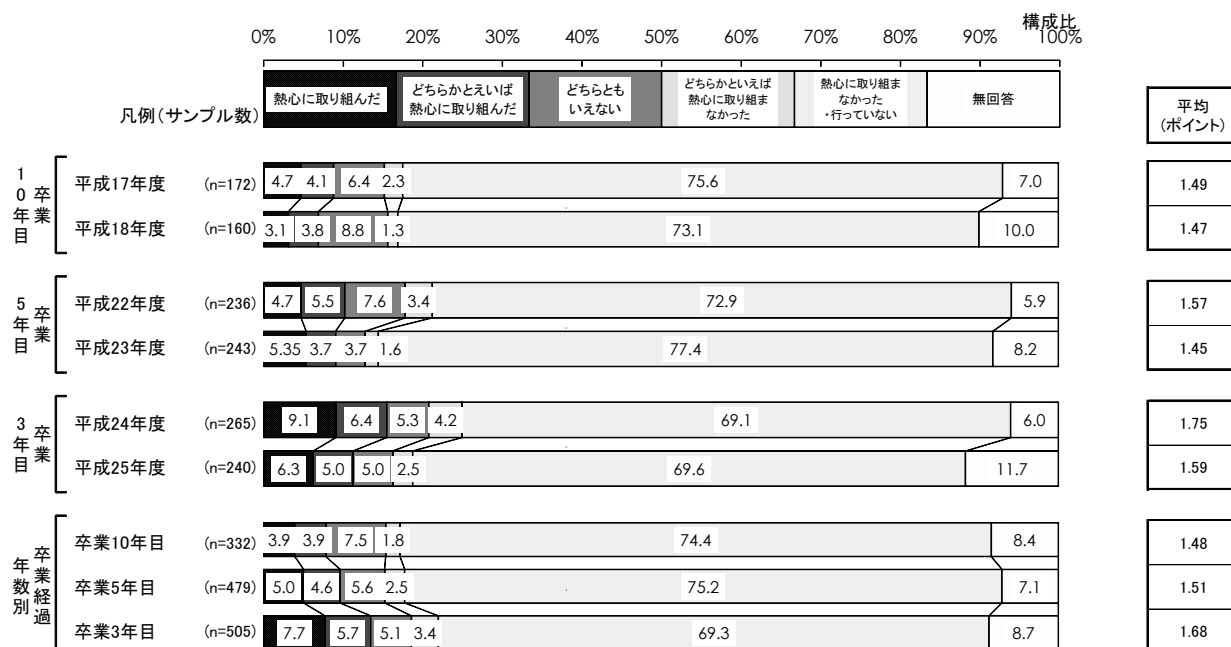
図表 2－132 演習・実習（SA）



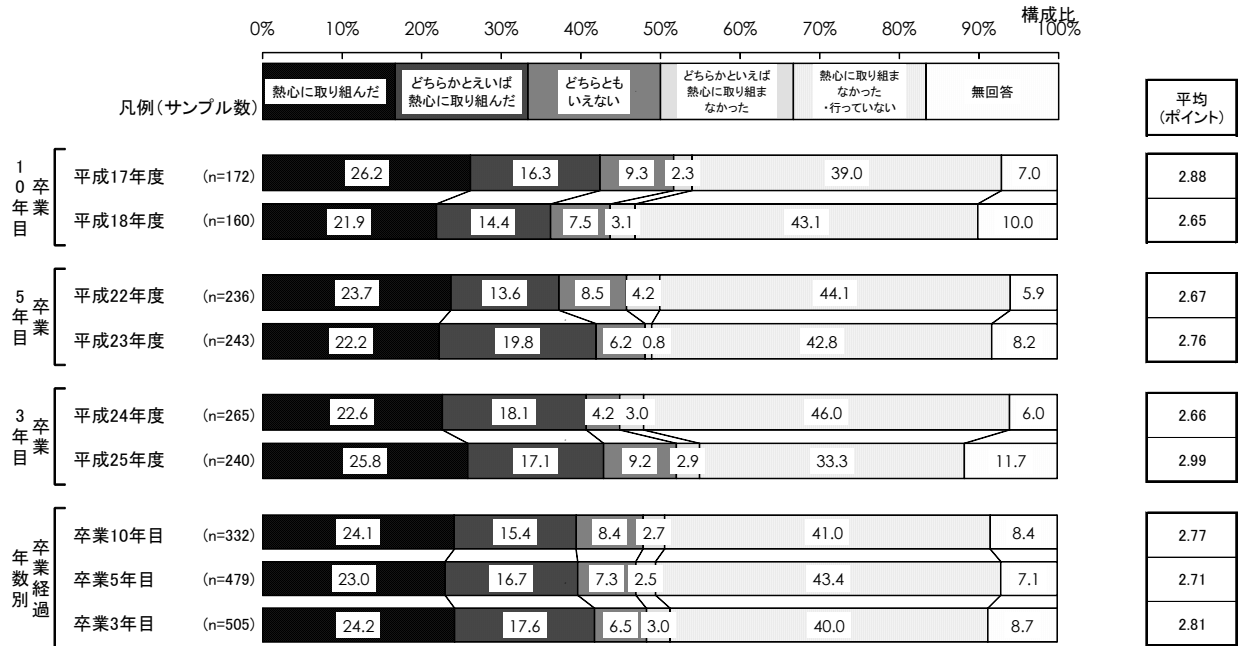
図表２－１３３ 卒業論文・ゼミ活動（ゼミ論等）（ＳＡ）



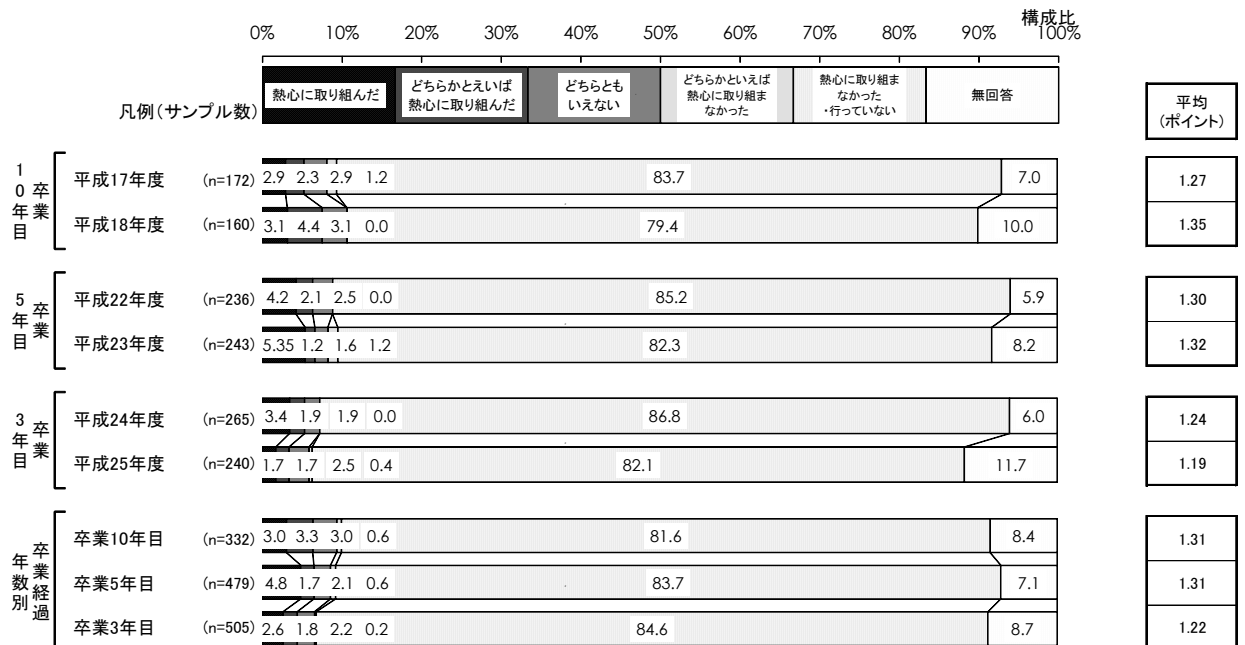
図表２－１３４ インターンシップ（ＳＡ）



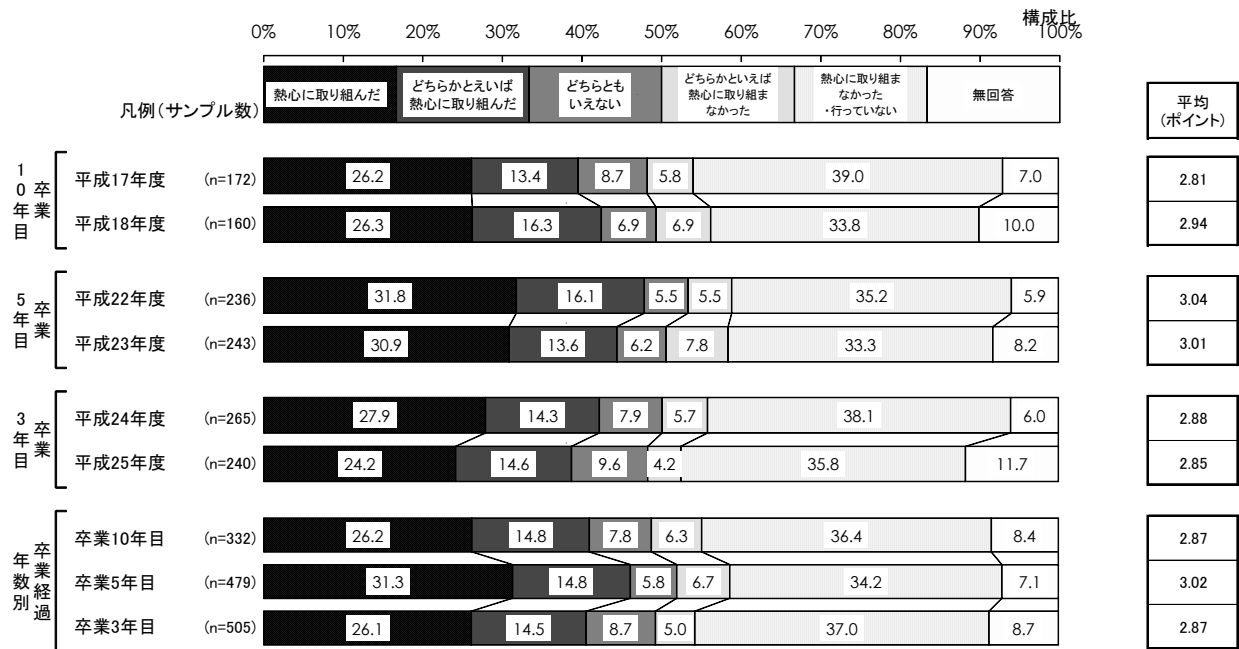
図表 2－135 教職・資格関係科目（SA）



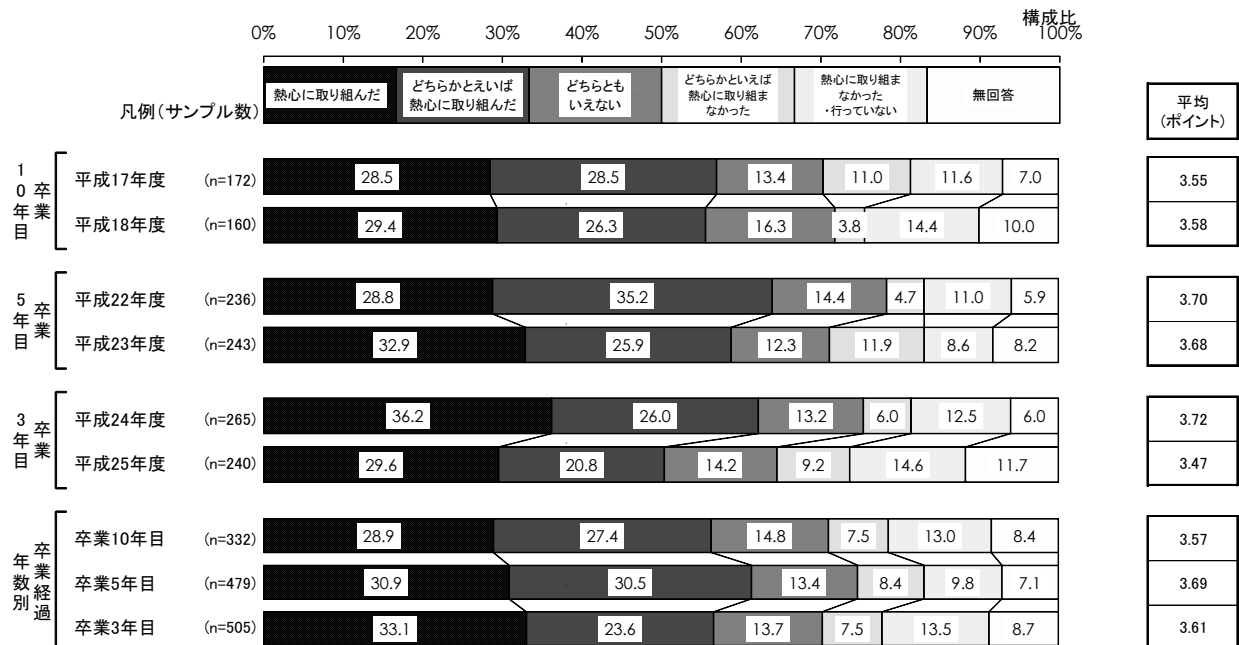
図表 2－136 留学（SA）



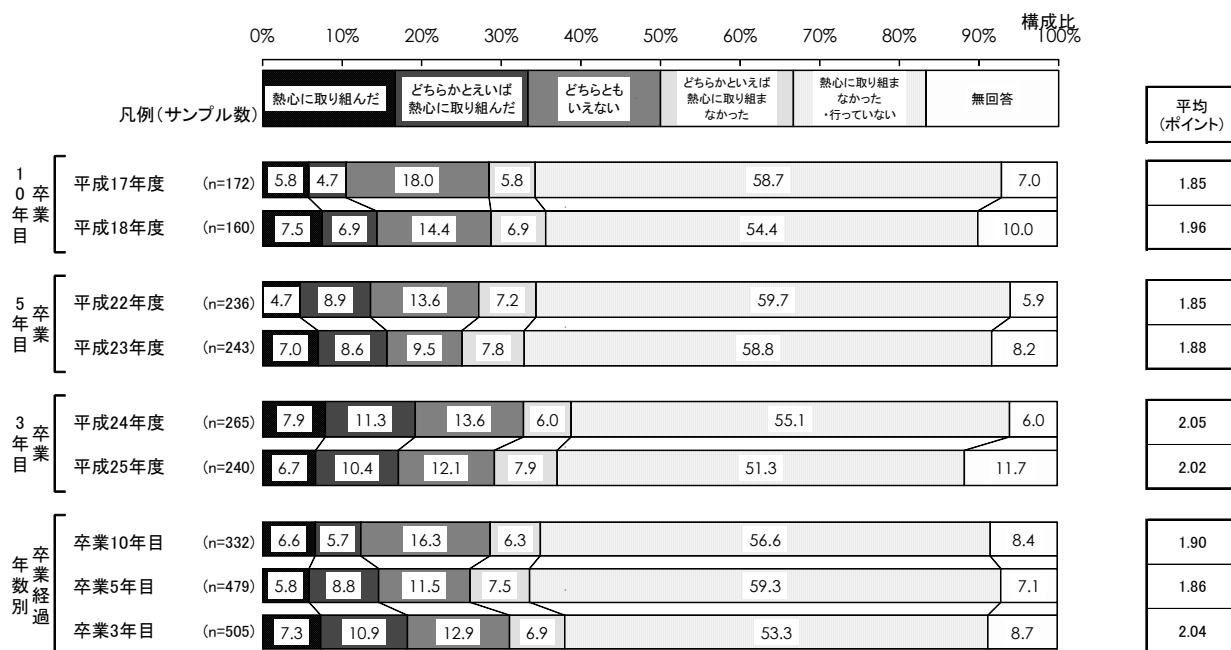
図表 2-137 サークル・部活動（SA）



図表 2-138 アルバイト（SA）



図表 2-139 社会活動（ボランティア等）（SA）



2. 学生時代に学修したことや取り組んだことは、現在の社会人生活でどの程度いかされていますか。(それぞれ1つ選択)

卒業経過別の平均値に注目すると、卒業10年目が他よりも高いのは「神道科目」、「外国語科目」、となっている。

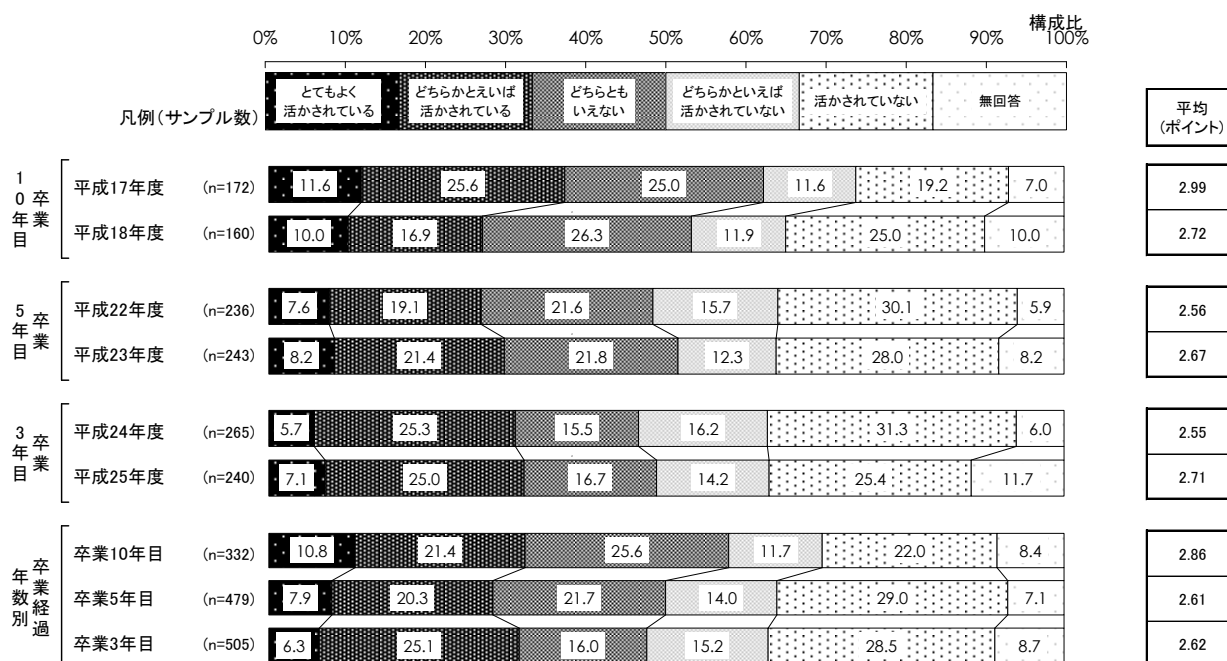
卒業5年目が他よりも高いのは「留学」、「サークル・部活動」、「アルバイト」、「社会活動（ボランティア等）」となっている。

これに対し卒業3年目が他よりも高いのは「教養科目（神道科目／外国語を除く）」、「専門教育科目」、「演習・実習」、「卒業論文・ゼミ活動（ゼミ論等）」、「インターンシップ」、「教職・資格関係科目」となっている。

社会人生活においても活かされていると回答するものは、学生時代に熱心に学修した内容と重なる傾向がみられる。また、卒業間もない3年目の卒業生ほど、学生時代の学びの影響を大きくとらえる一方、卒業から時間が経つにつれて、その割合は低下する。

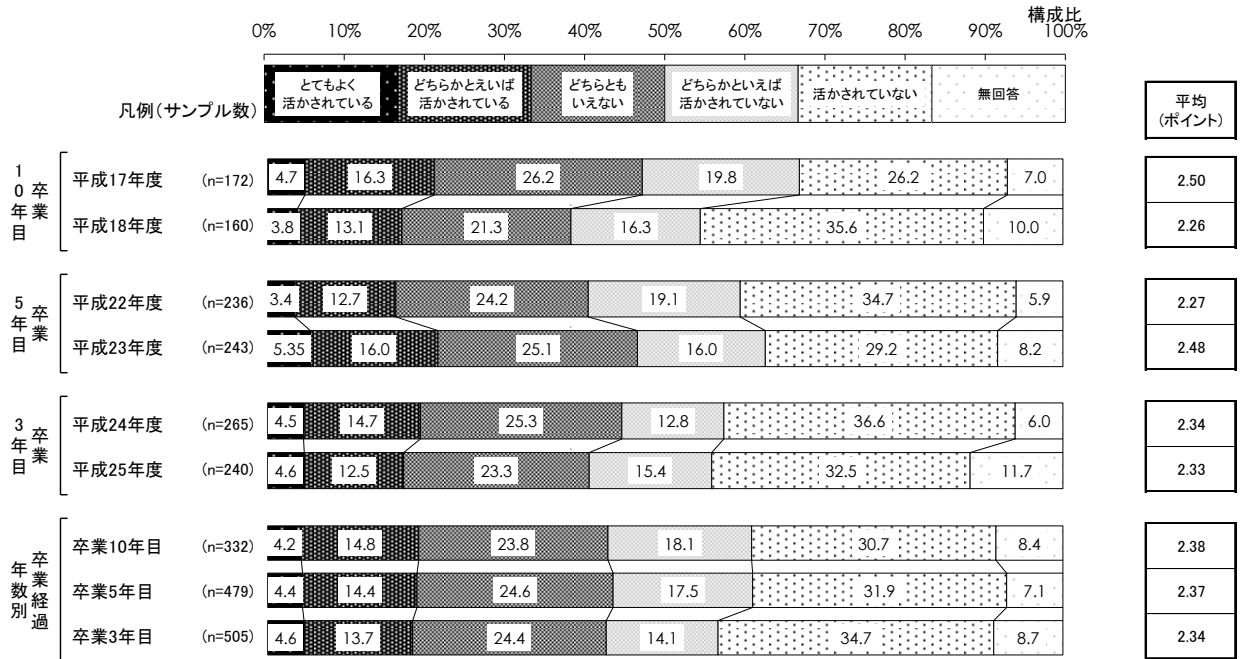
これはおそらく、社会人経験が長くなるにつれ、学生時代の学びよりも社会人経験からの学びが次第に上回るためと考えられる。そうした中で、卒業後10年目の卒業生があげた神道科目や外国語科目は、卒業から時間が経過しても、普遍性をもって役立つ学修であったことが伺える。

図表2-140 神道科目（SA）

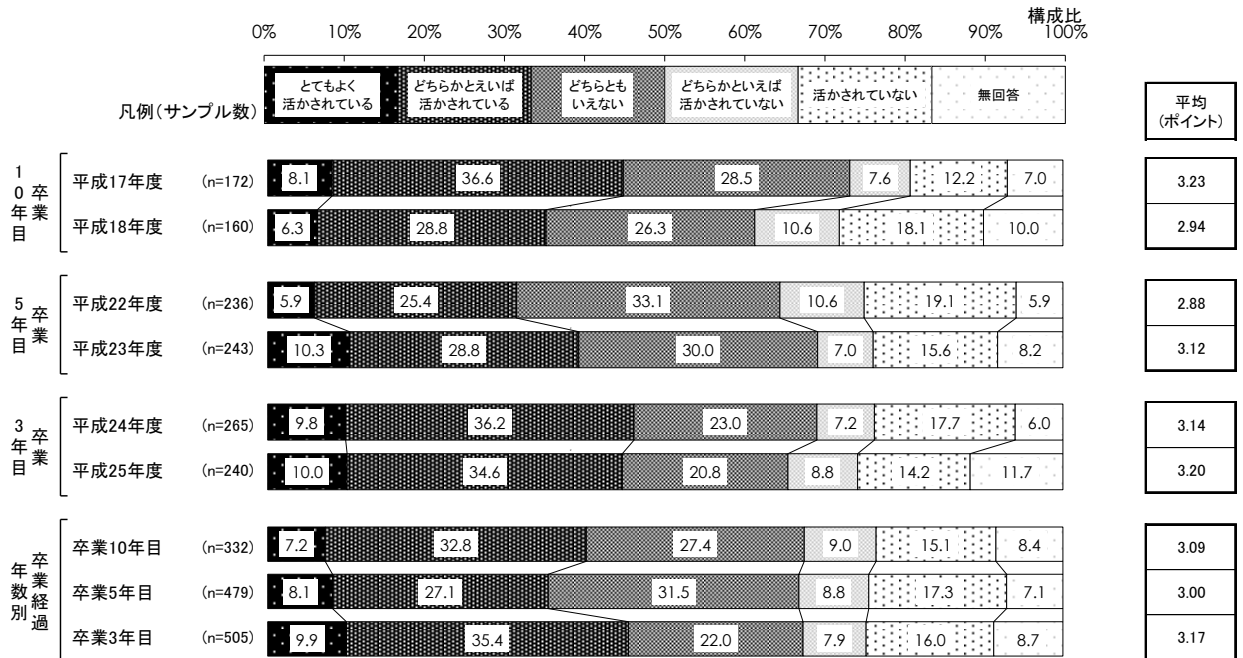


※「とてもよく活かされている」5ポイント、「どちらかといえば活かされている」4ポイント、「どちらともいえない」3ポイント、「どちらかといえば活かされていない」2ポイント、「活かされていない」1ポイントで平均を抽出。

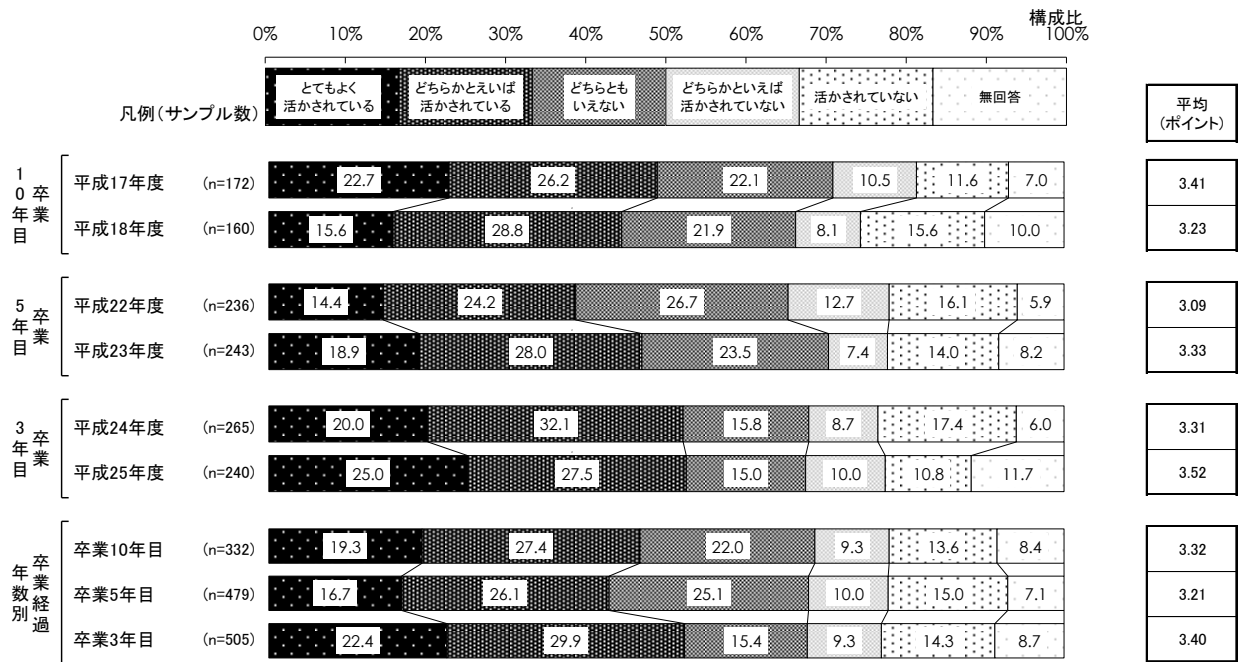
図表 2－141 外国語科目（S A）



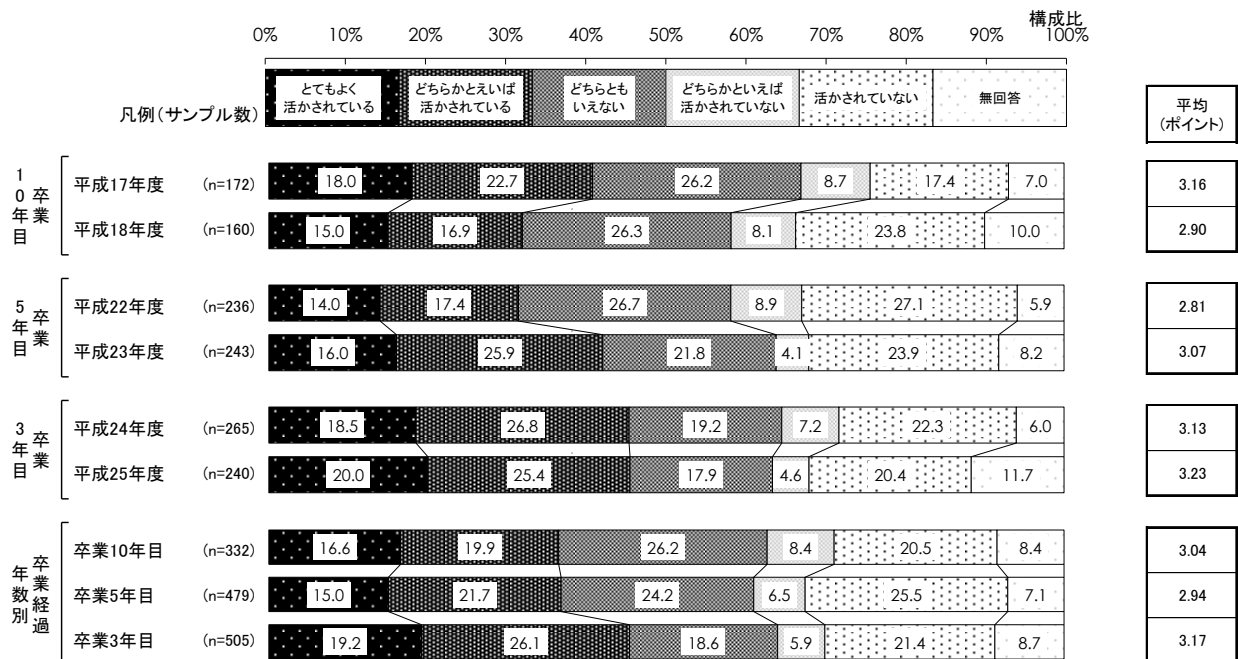
図表 2－142 教養科目（神道科目/外国語科目を除く）（S A）



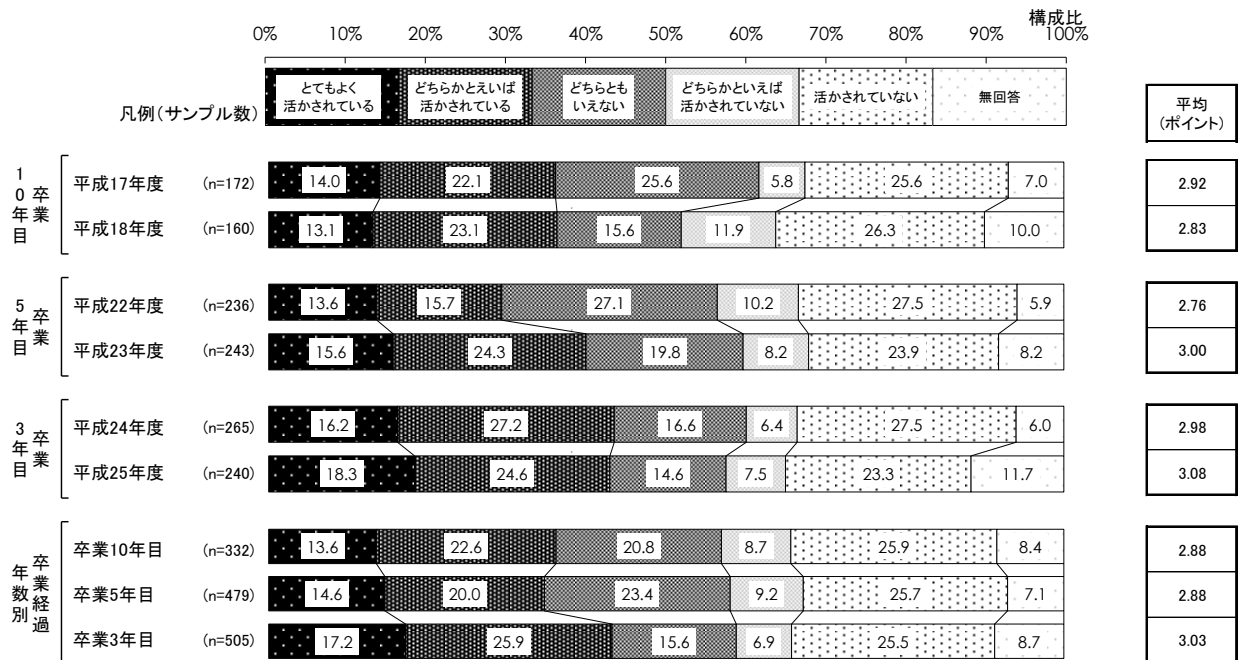
図表 2－1 4 3 専門教育科目（S A）



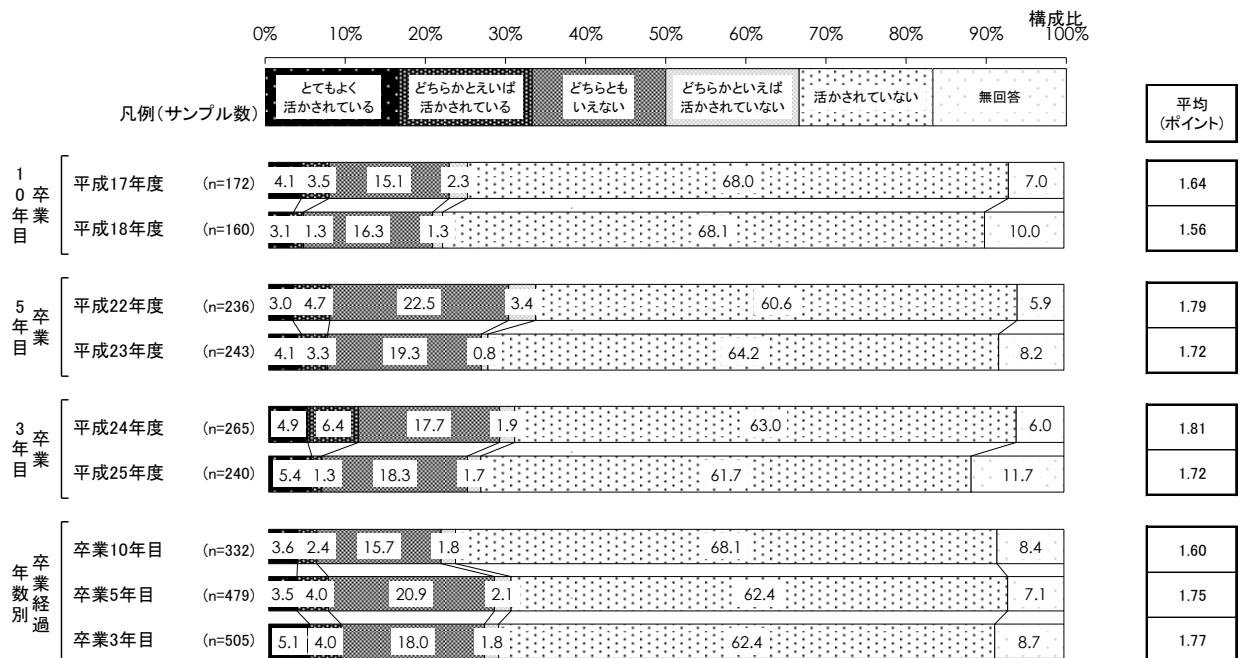
図表 2－1 4 4 演習・実習（S A）



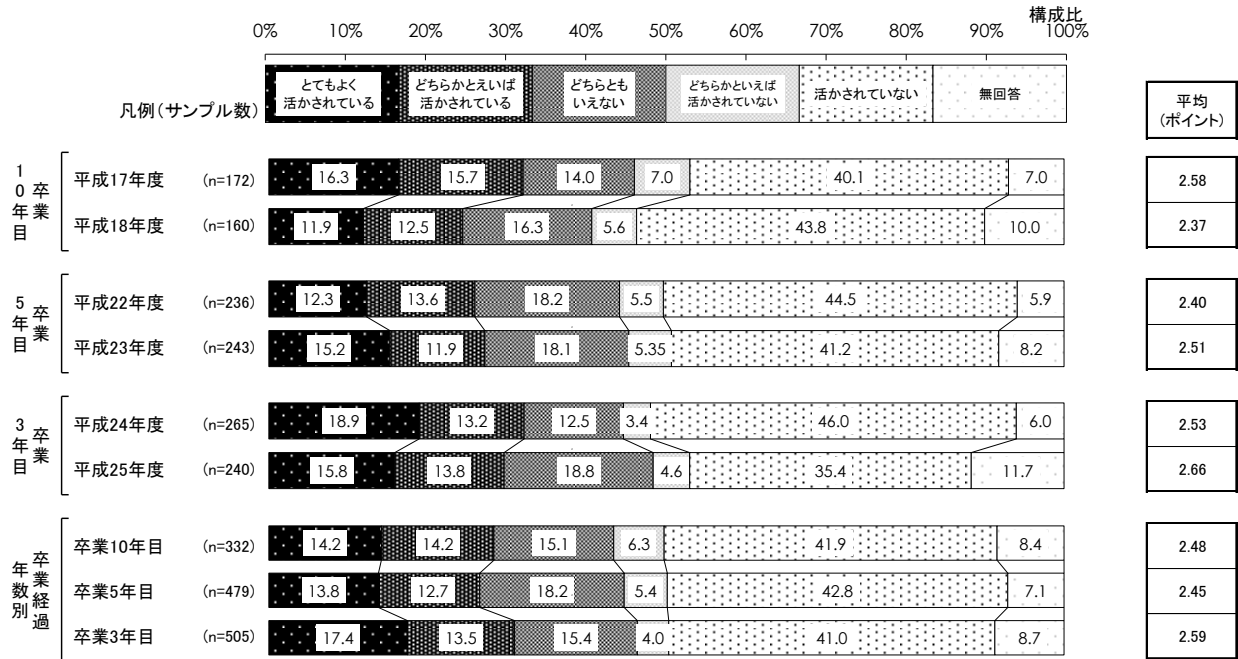
図表 2-145 卒業論文・ゼミ活動（ゼミ論等）（SA）



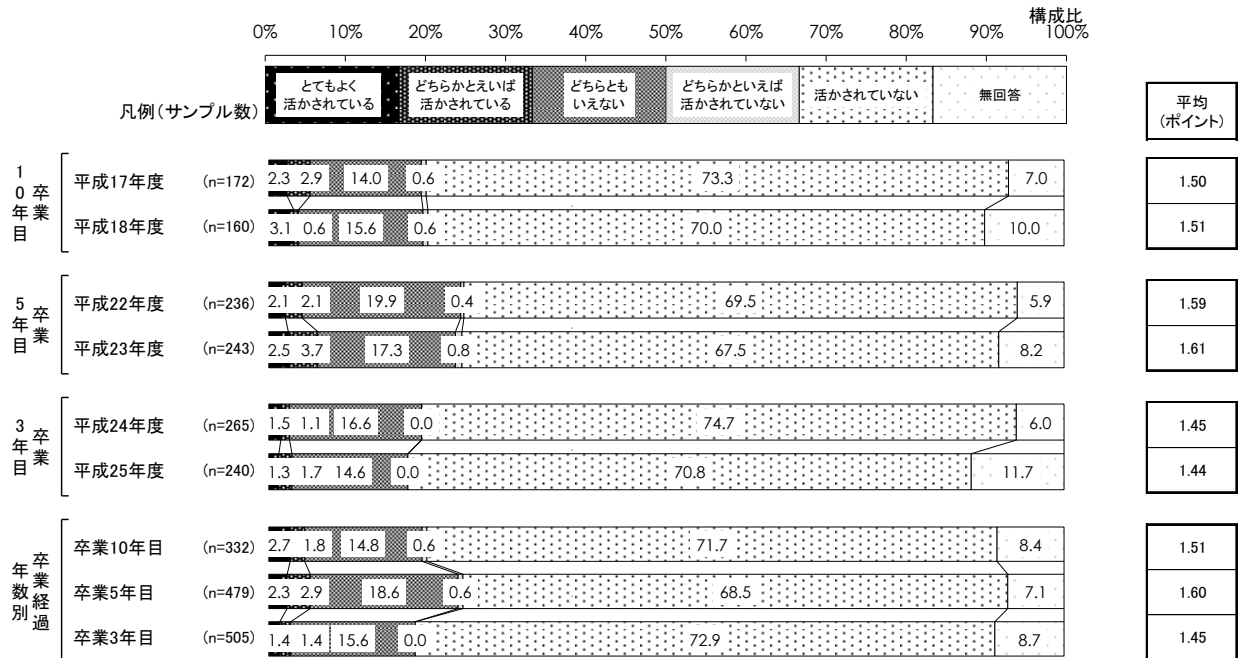
図表 2-146 インターンシップ（SA）



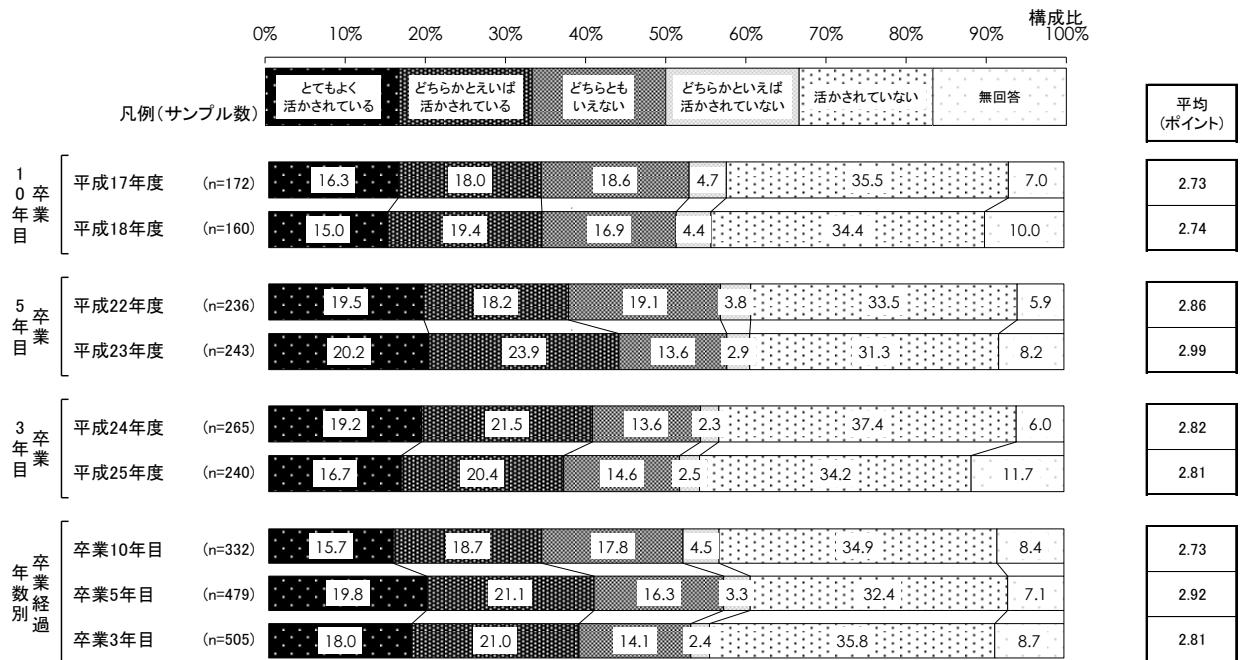
図表 2－147 教職・資格関係科目（SA）



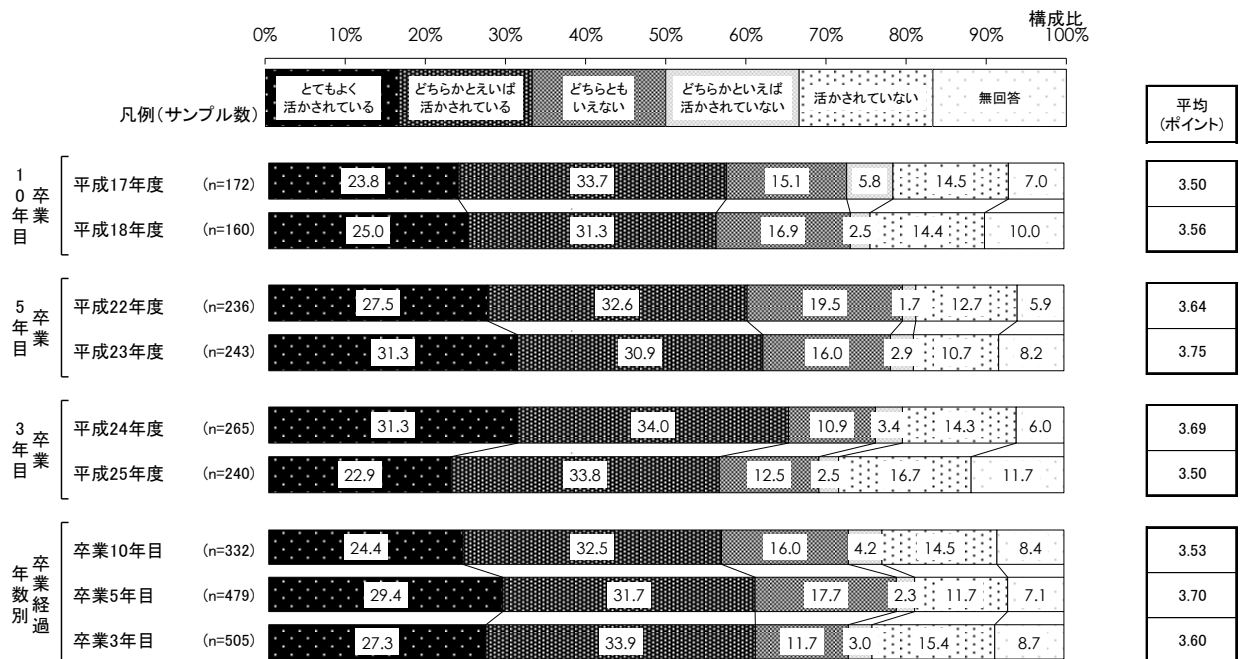
図表 2－148 留学（SA）



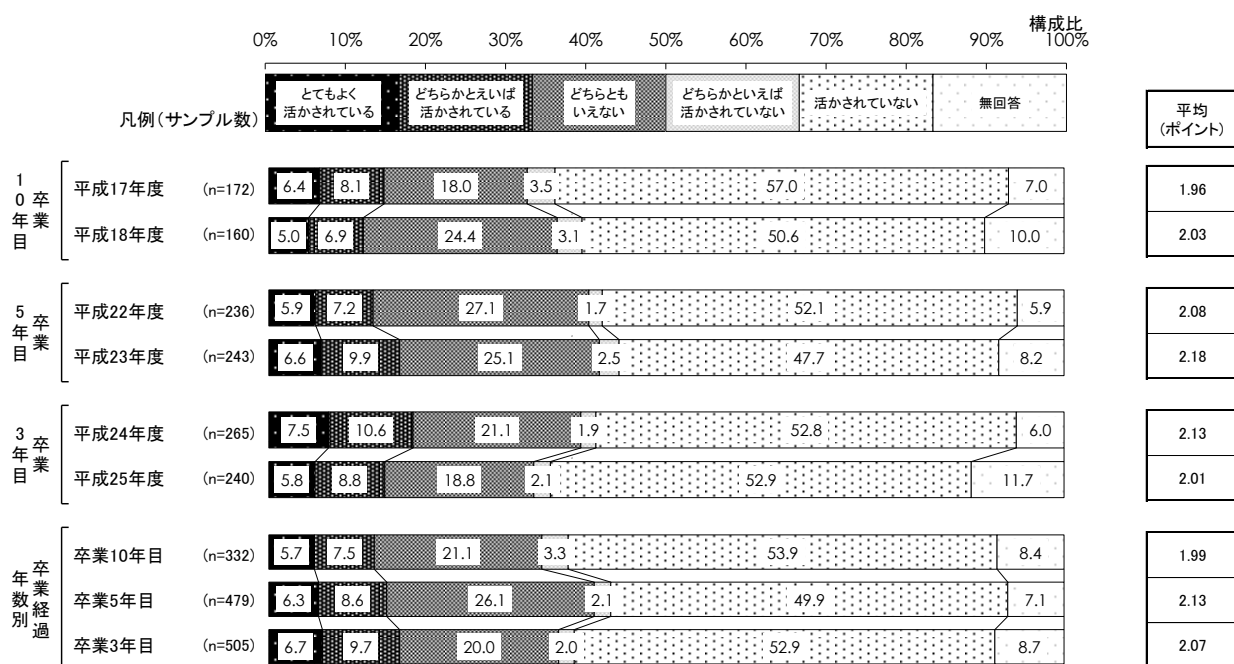
図表 2-149 サークル・部活動（SA）



図表 2-150 アルバイト（SA）



図表 2-151 社会活動（ボランティア等）（S A）



問3 学修の成果

1. 学生時代に身についたことをお答えください。(それぞれ1つ選択)

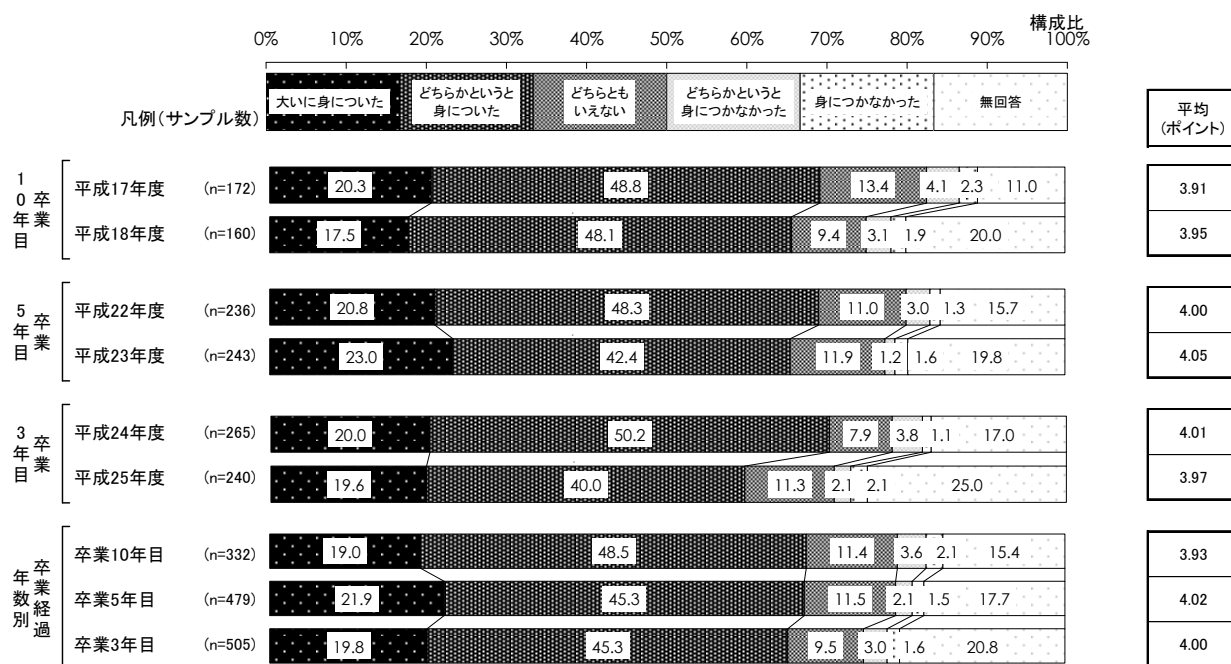
卒業経過別の平均値に注目すると、卒業10年目が他よりも高いのは「英語能力」と「英語以外の語学能力」となっている。

卒業5年目が他よりも高いのは「基礎的な教養・知識」となっている。

これに対し卒業3年目が他よりも高いのは「幅広い教養・知識」、「マナーについての教養・知識」、「専門的な知識」、「最新の知識」、「調査・実験能力」、「分析・研究能力」、「討議・議論能力」、「プレゼンテーション能力」、「課題解決能力」、「多様な人々・考え方に対する理解力」、「諸外国の異文化に対する理解力」となっている。

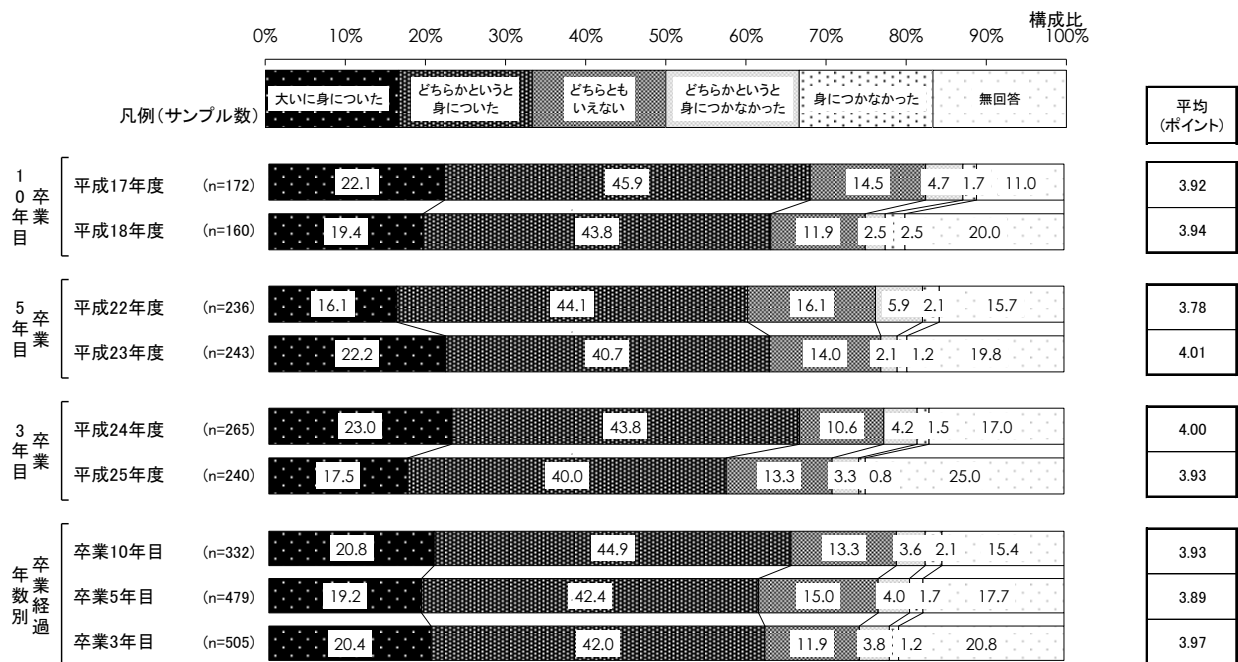
卒業3年目が5年目・10年目よりも、学生時代に身についたとすることを多くあげる傾向がみられる。卒業10年目は「身につかなかった」、「どちらかというと身につかなかった」という割合が3年目・5年目よりも多い傾向がみられるが、これは社会人として経験を重ねるうちに要求される水準も高くなり、学生時代の学修成果だけでは十分と言えないことを表していると考えられる。その理由については、次の設問である『修得した知識や能力のうち、現在に活かされているもの』において、読み取ることができる。

図表2-152 基礎的な教養・知識（SA）

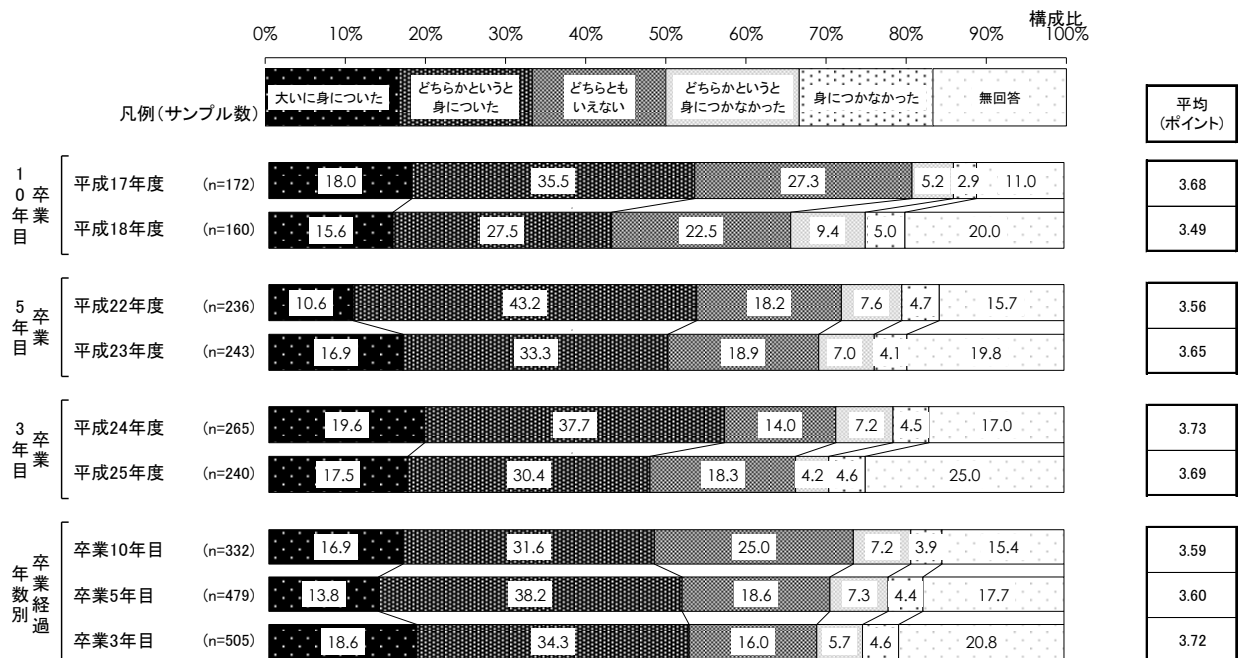


※「大いに身についた」5ポイント、「どちらかというと身についた」4ポイント、「どちらともいえない」3ポイント、「どちらかというと身につかなかった」2ポイント、「身につかなかった」1ポイントで平均を抽出。

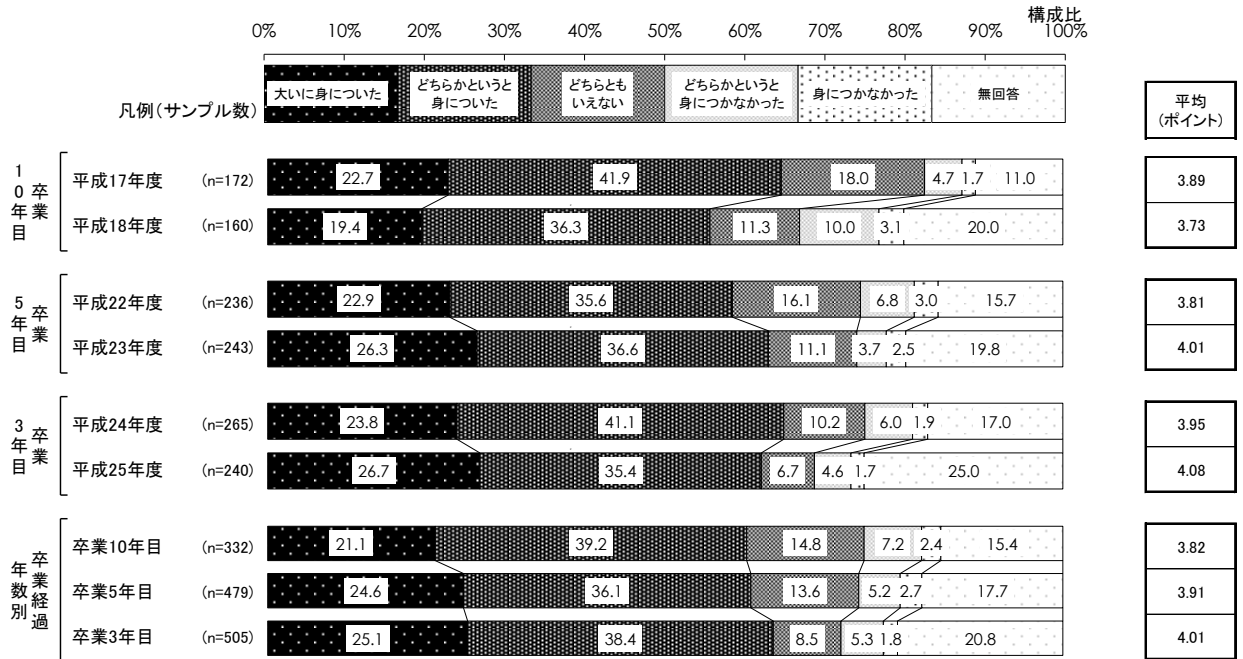
図表 2-153 幅広い教養・知識（SA）



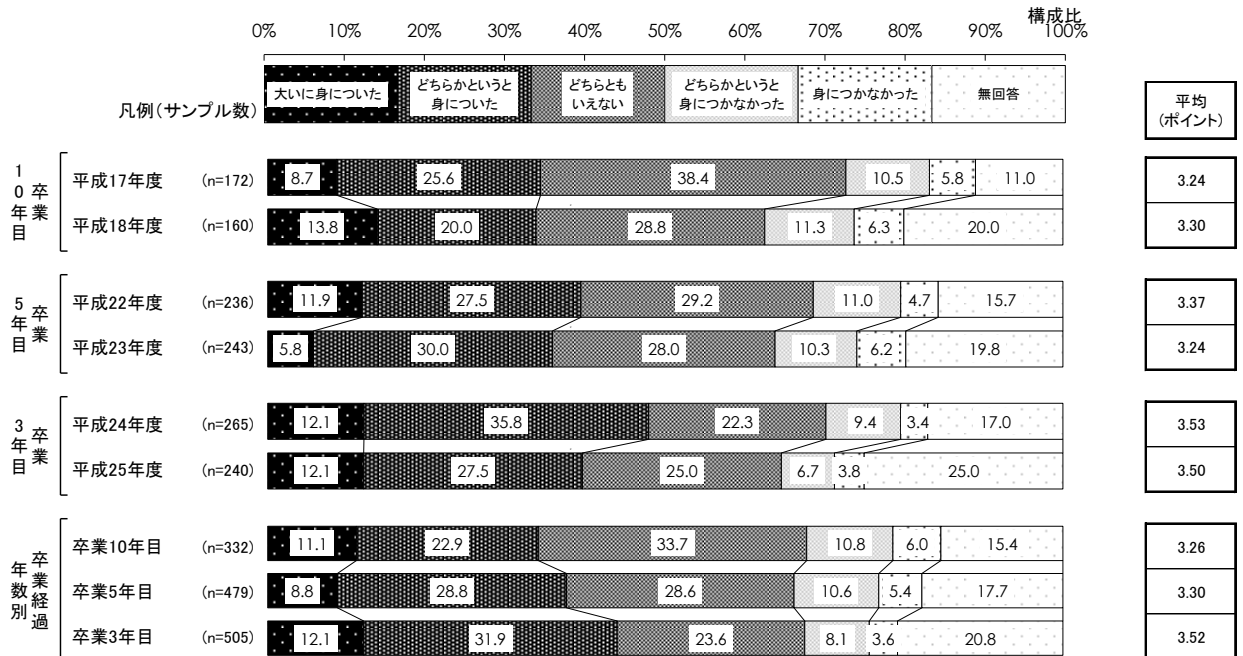
図表 2-154 マナーについての教養・知識（SA）



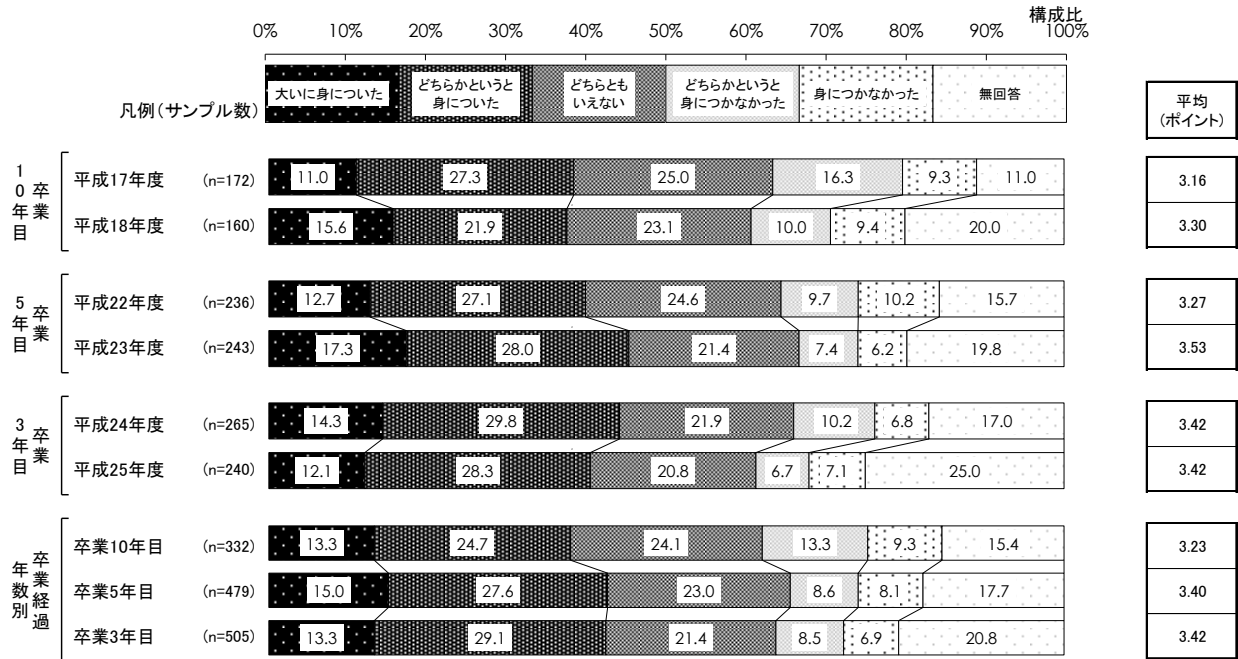
図表 2－155 専門的な知識（SA）



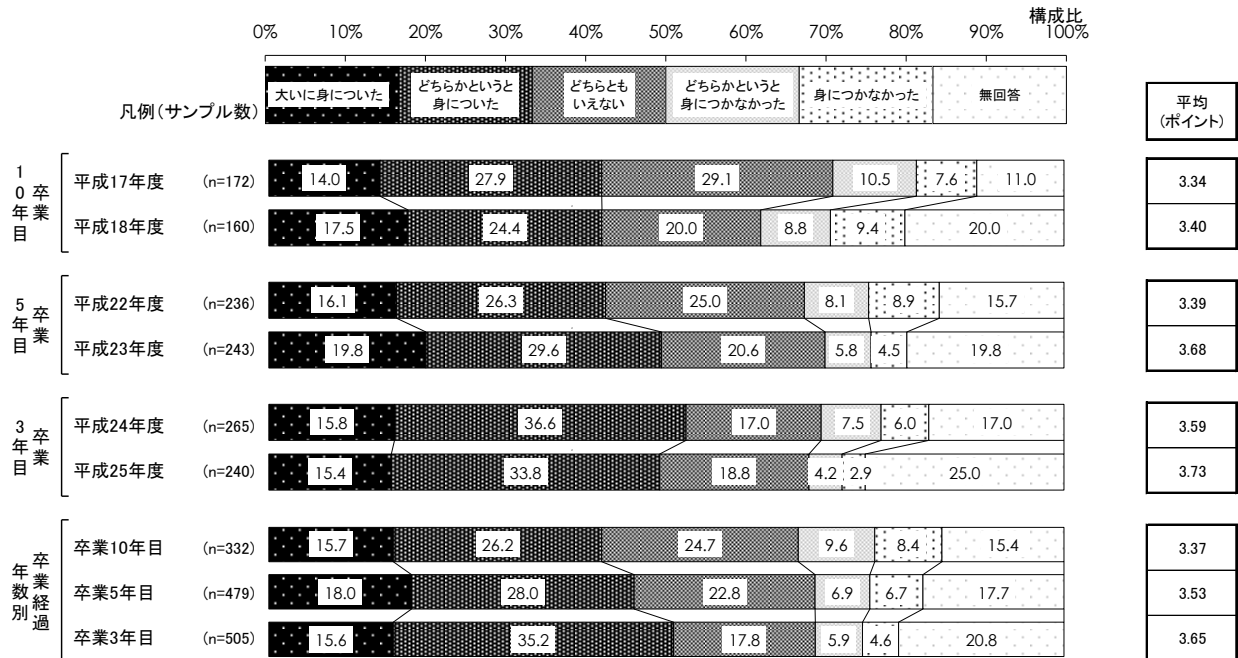
図表 2－156 最新の知識（SA）



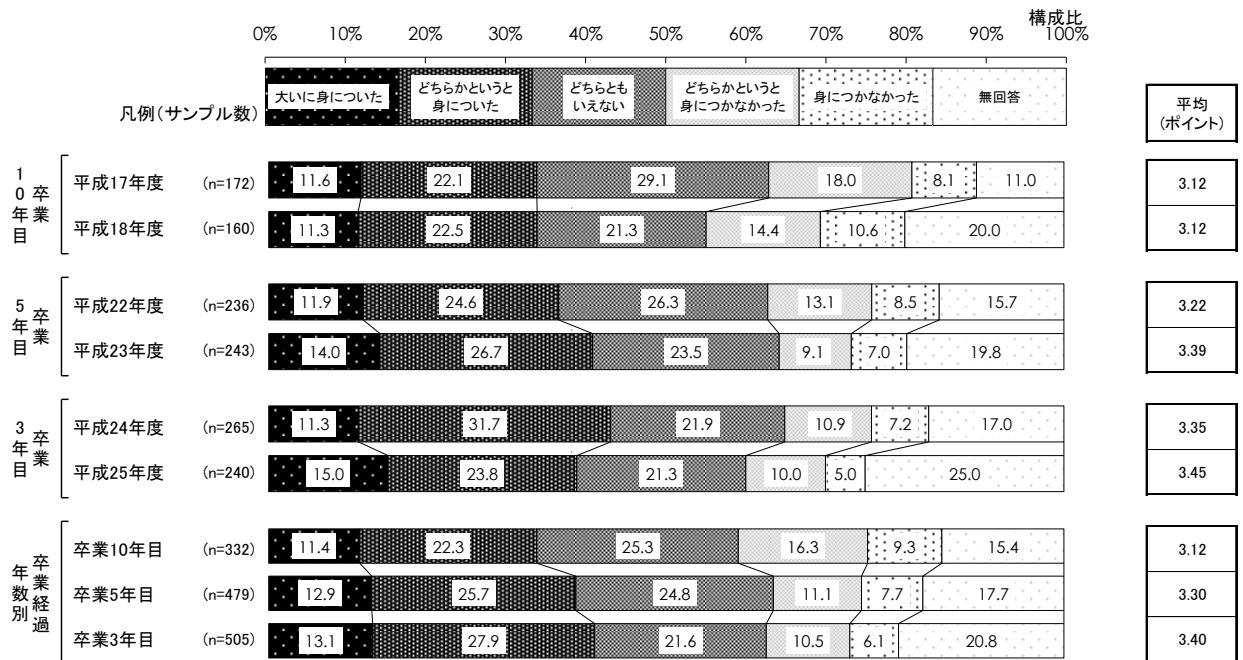
図表 2－157 調査・実験能力（S A）



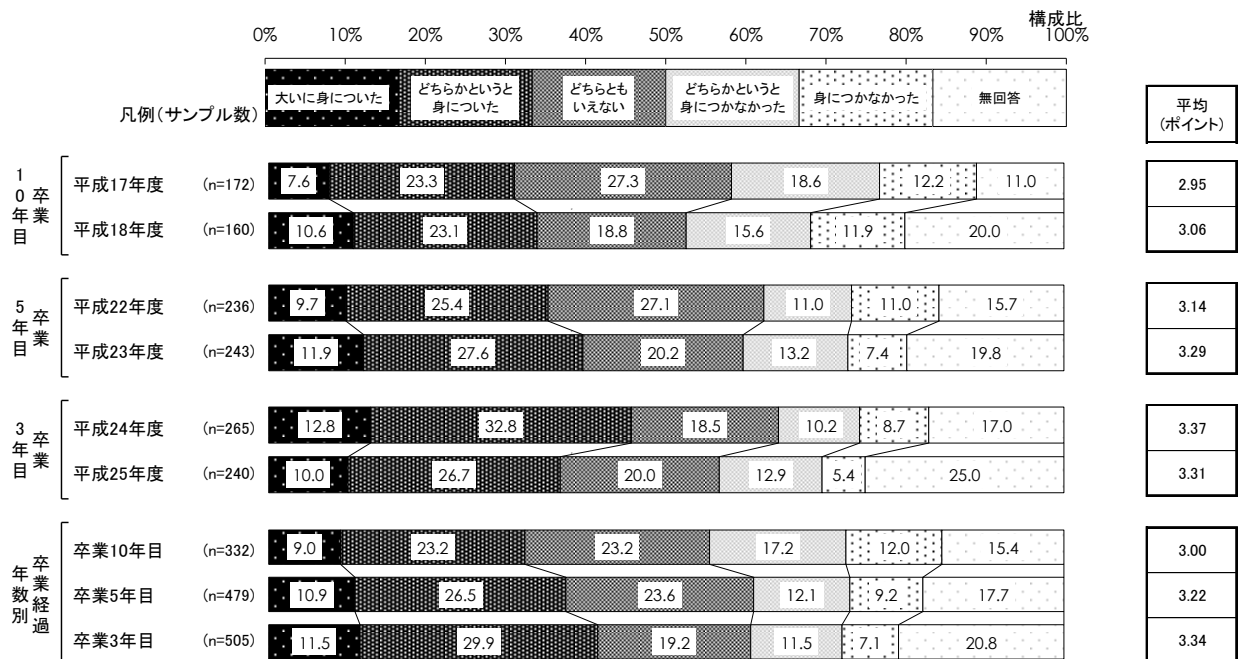
図表 2－158 分析・研究能力（S A）



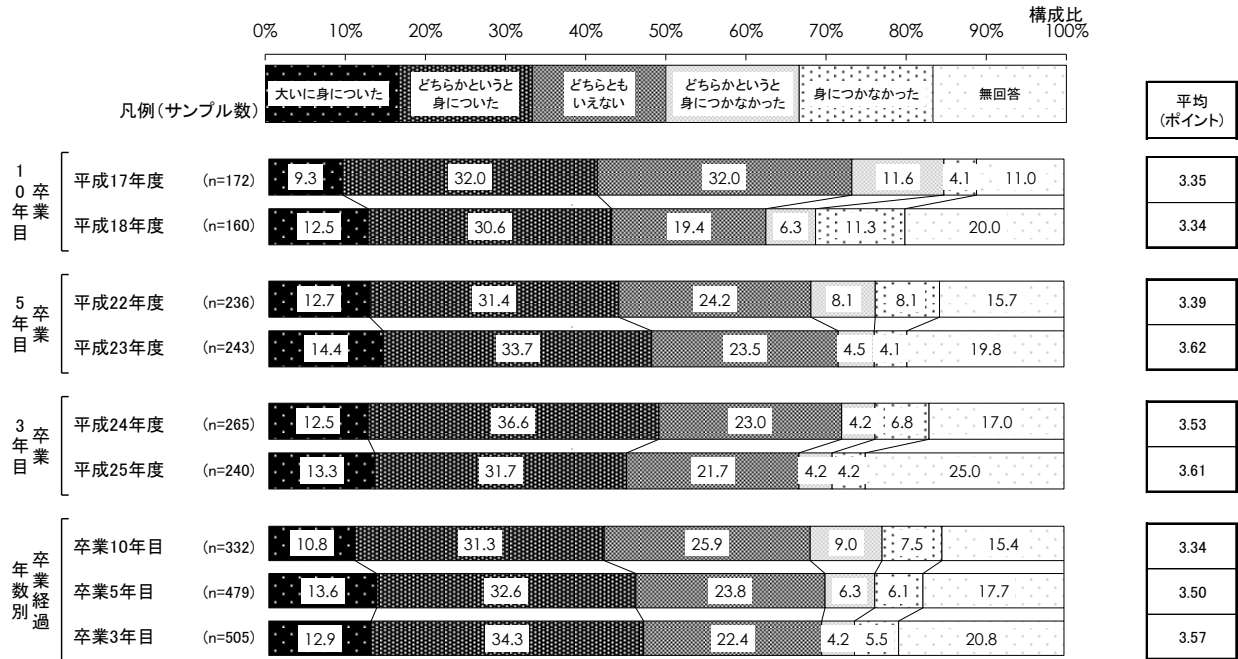
図表 2-159 討議・議論能力 (SA)



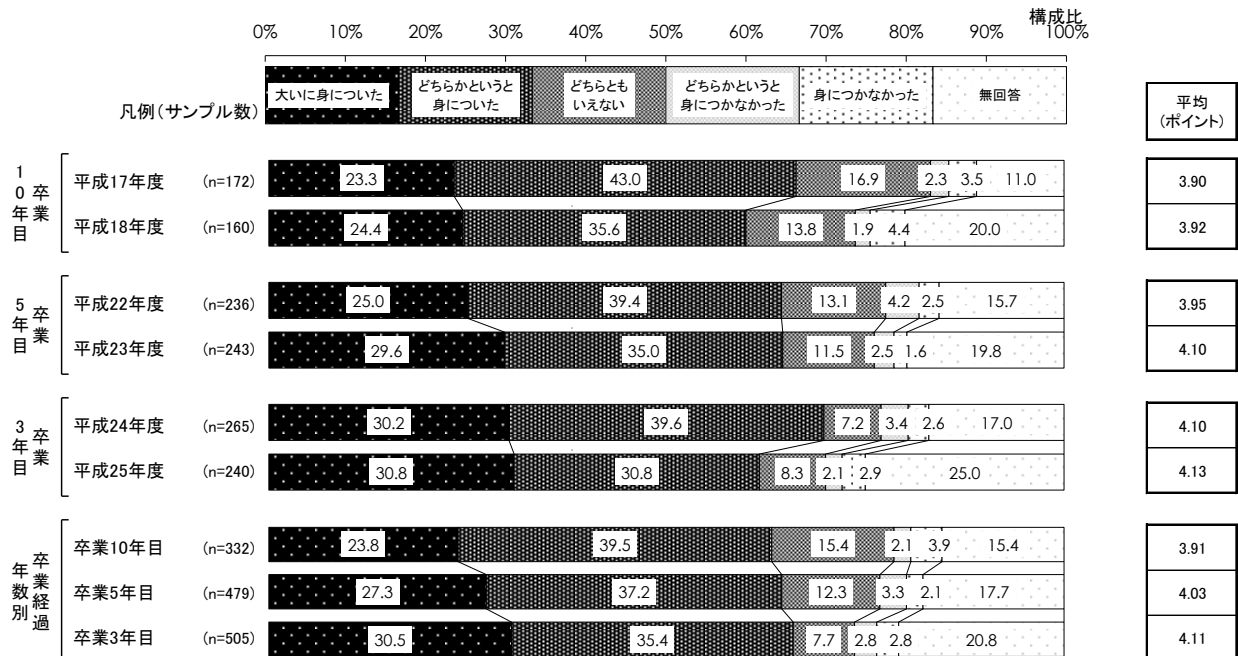
図表 2-160 プレゼンテーション能力 (SA)



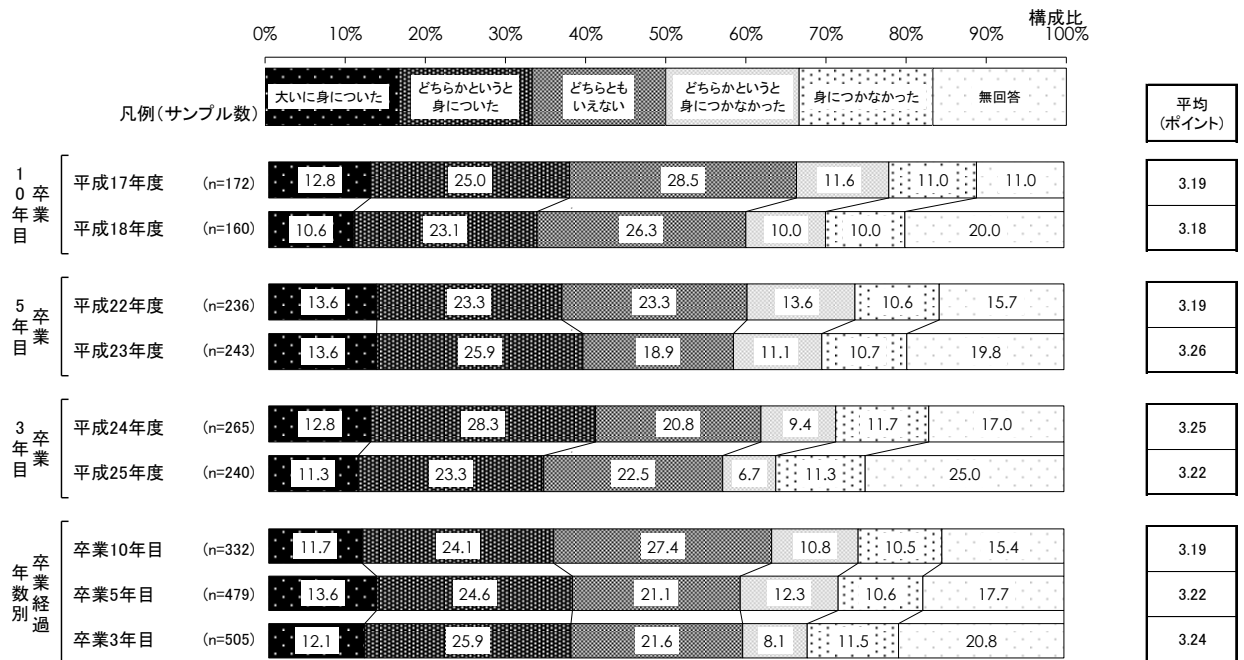
図表 2－161 課題解決能力（SA）



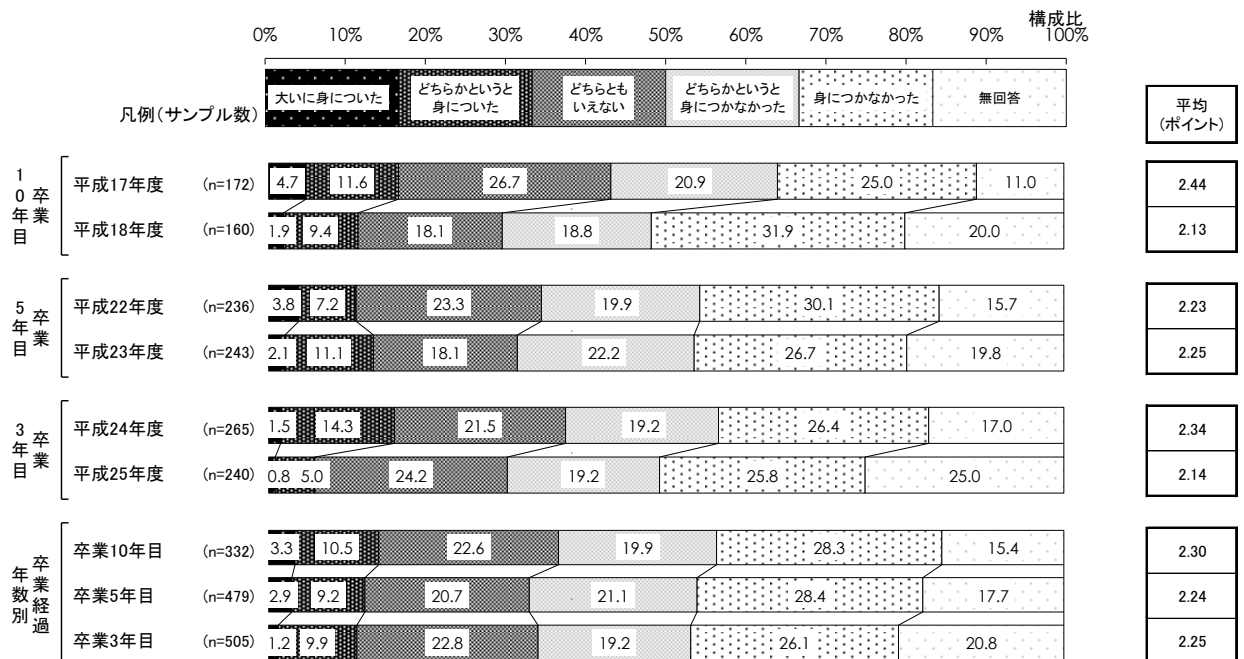
図表 2－162 多様な人々・考え方に対する理解力（SA）



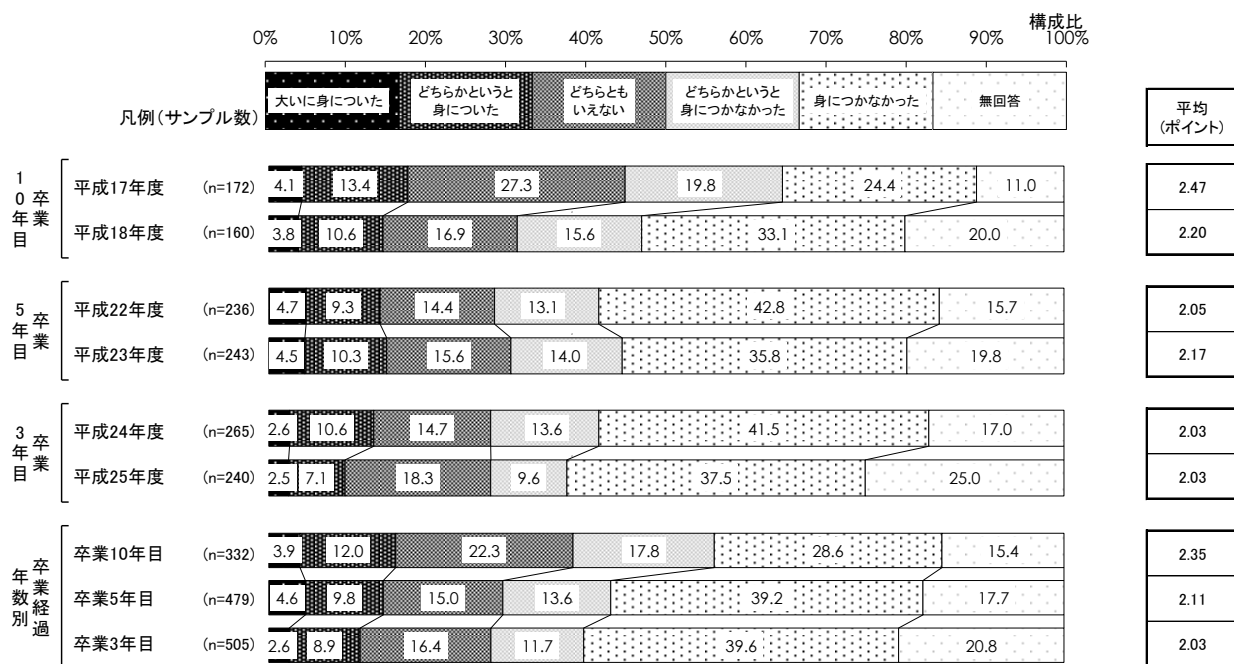
図表 2－163 諸外国の異文化に対する理解力（S A）



図表 2－164 英語能力（S A）



図表 2-165 英語以外の語学能力 (SA)



2. 学生時代に修得したと思われる知識や能力のうち、現在に活かされているものをお答えください。(それぞれ1つ選択)

卒業経過別の平均値に注目すると、卒業10年目が他よりも高いのは「諸外国の異文化に対する理解力」、「英語能力」、「英語以外の語学能力」となっている。

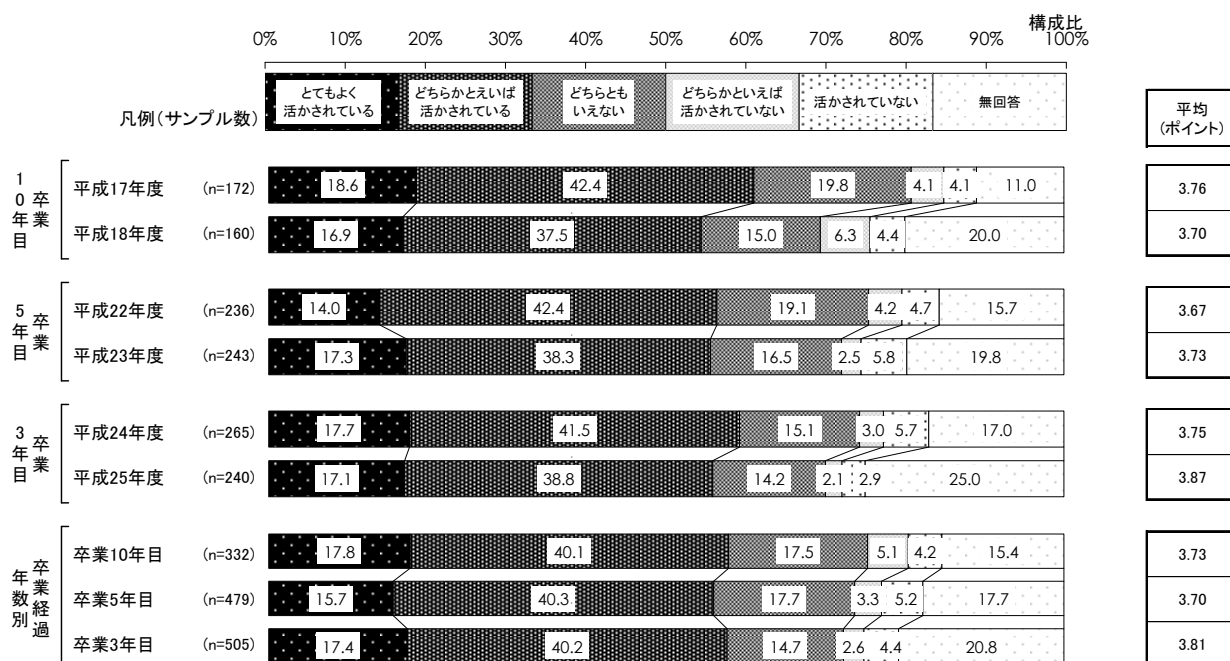
卒業5年目が他よりも高いのは「調査・実験能力」（3年目と同じポイント）ない。

これに対し卒業3年目が他よりも高いのは「基礎的な教養・知識」、「幅広い教養・知識」、「マナーについての教養・知識」、「専門的な知識」、「最新の知識」、「調査・実験能力」（5年目と同じポイント）、「分析・研究能力」、「討議・議論能力」、「プレゼンテーション能力」、「課題解決能力」、「多様な人々・考え方に対する理解力」となっている。

おおむね学生時代に学修したのと同じ項目が高い傾向がみられる。

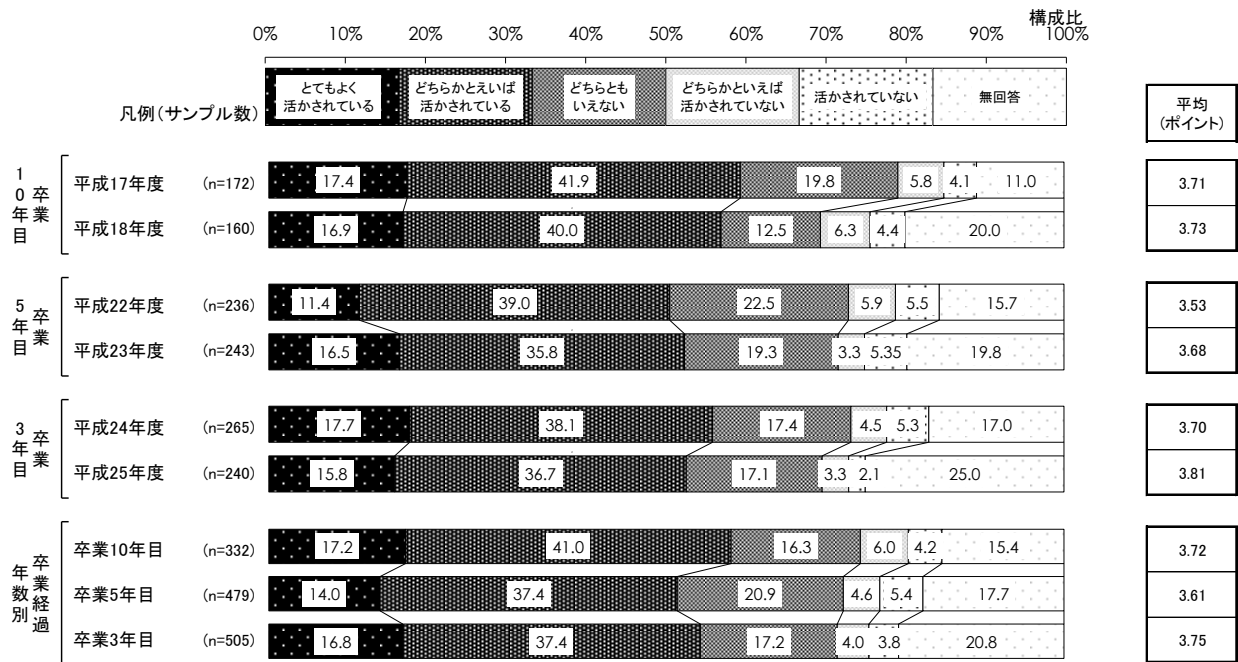
卒業3年目は、5年目・10年目よりも、活かされているとする傾向がみられる。言い換えれば、これらの能力は社会人経験が長くなるほど、やがて社会人経験によって更新されていく性格の能力ということもできる。これに対し、卒業10年目において挙げた「諸外国の異文化に対する理解力」や「英語」、「英語以外の語学能力」は、社会人経験を積んでも引き続き学生時代の学修の成果としていき続ける性格の能力ということができる。

図表2-166 基礎的な教養・知識（SA）

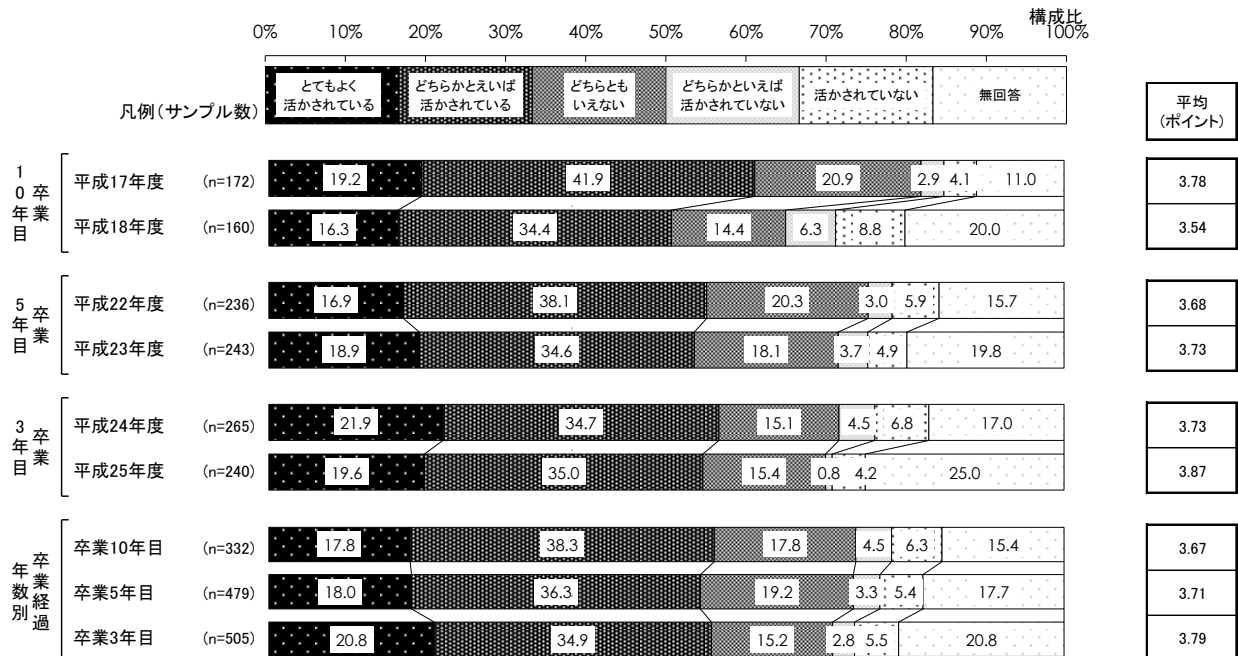


※「とても活かされている」5ポイント、「どちらかという活かされている」4ポイント、「どちらともいえない」3ポイント、「どちらかといえば活かされていない」2ポイント、「活かされていない」1ポイントで平均を抽出。

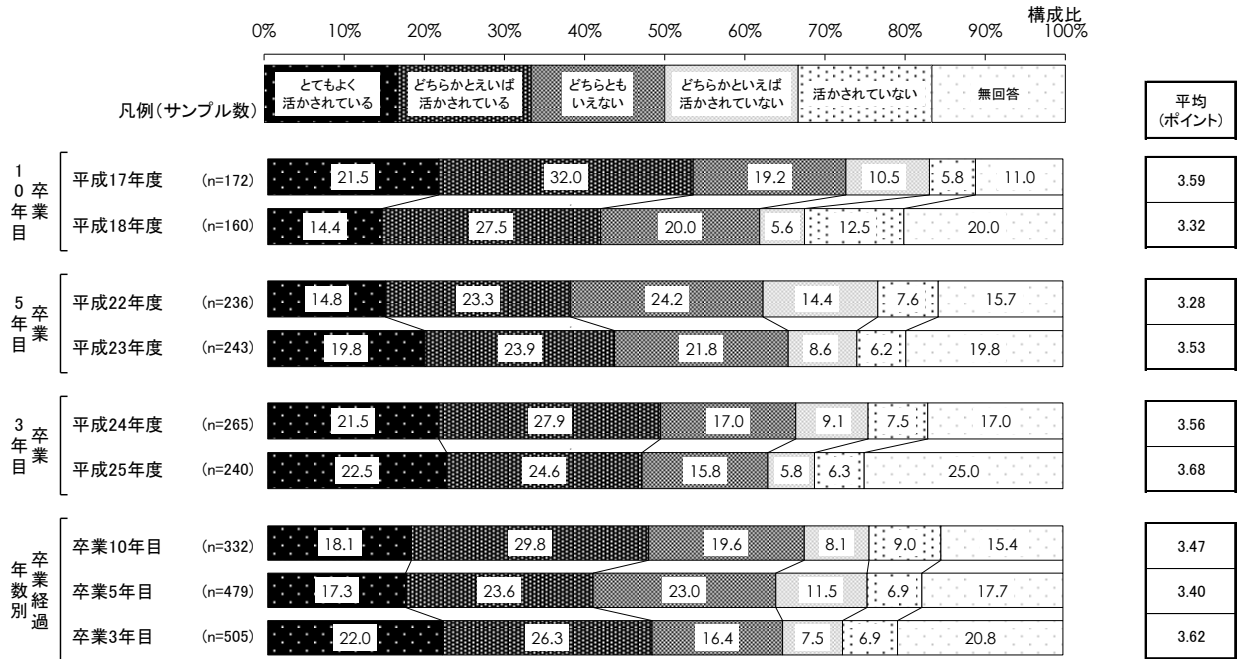
図表 2－167 幅広い教養・知識（SA）



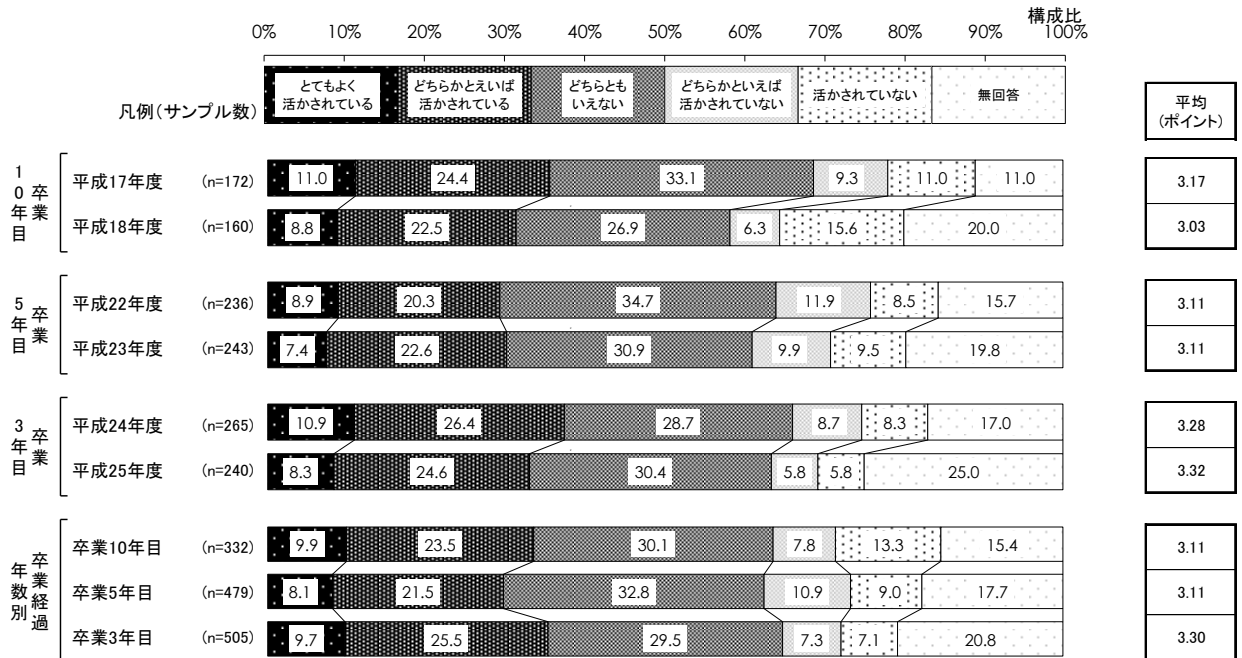
図表 2－168 マナーや礼儀についての教養・知識（SA）



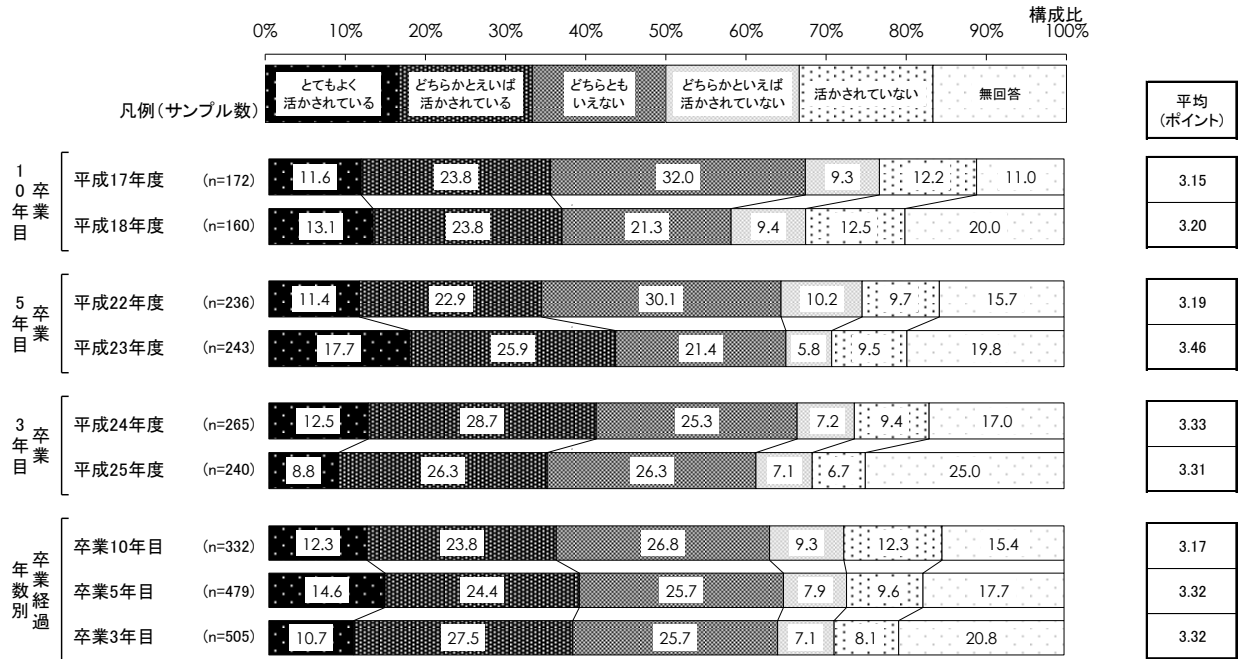
図表 2－169 専門的な知識（S A）



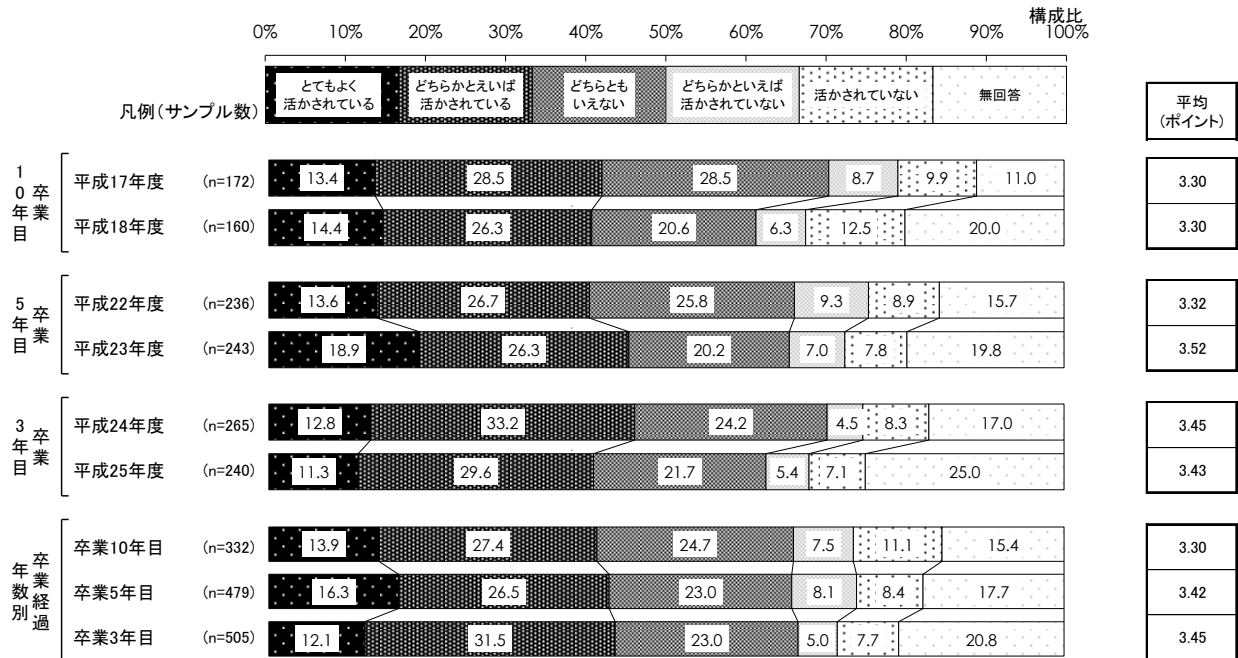
図表 2－170 最新の知識（S A）



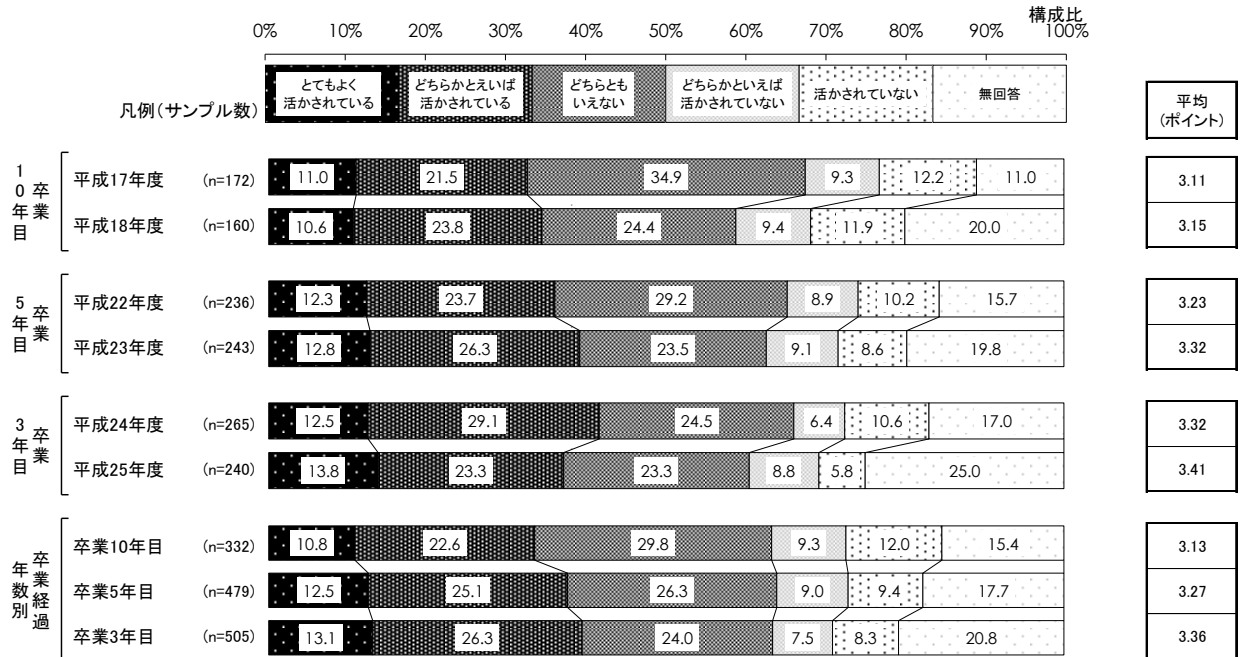
図表 2－171 調査・実験能力（SA）



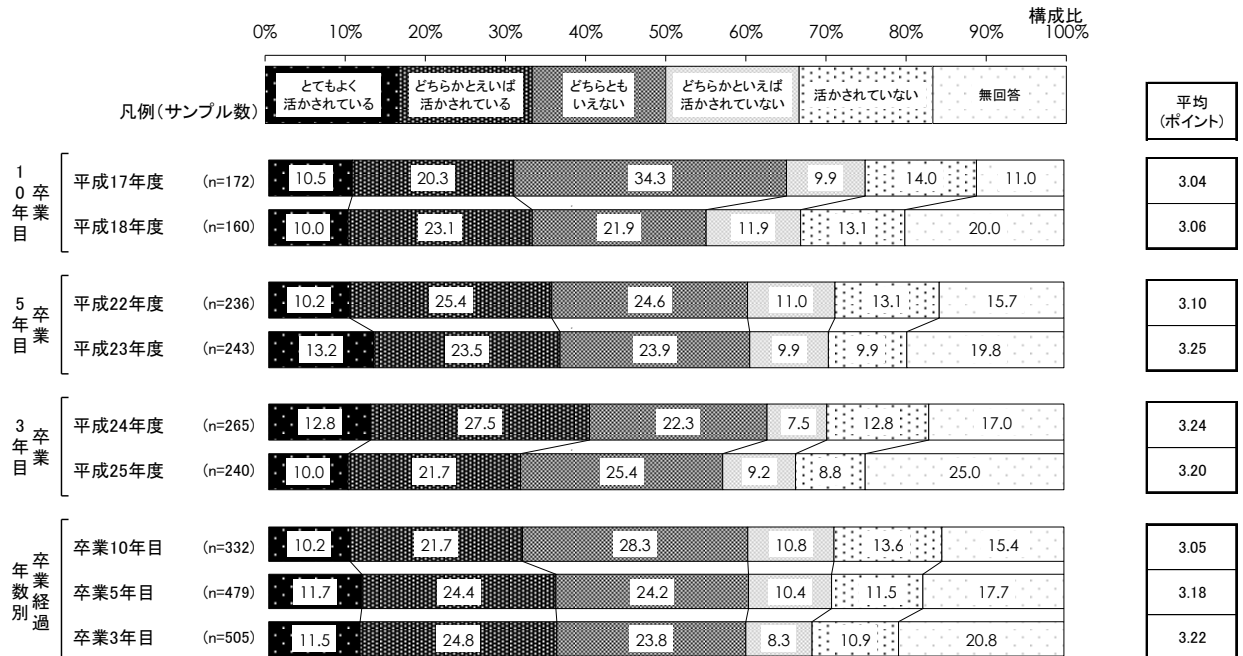
図表 2－172 分析・研究能力（SA）



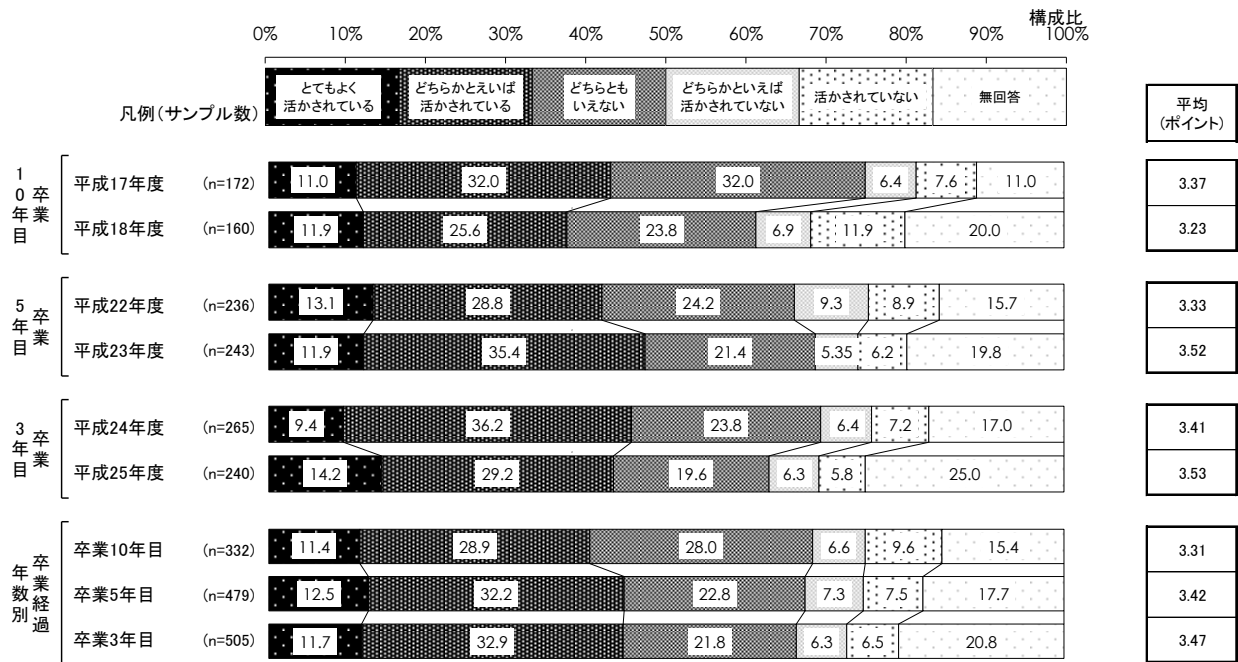
図表 2-173 討議・議論能力 (SA)



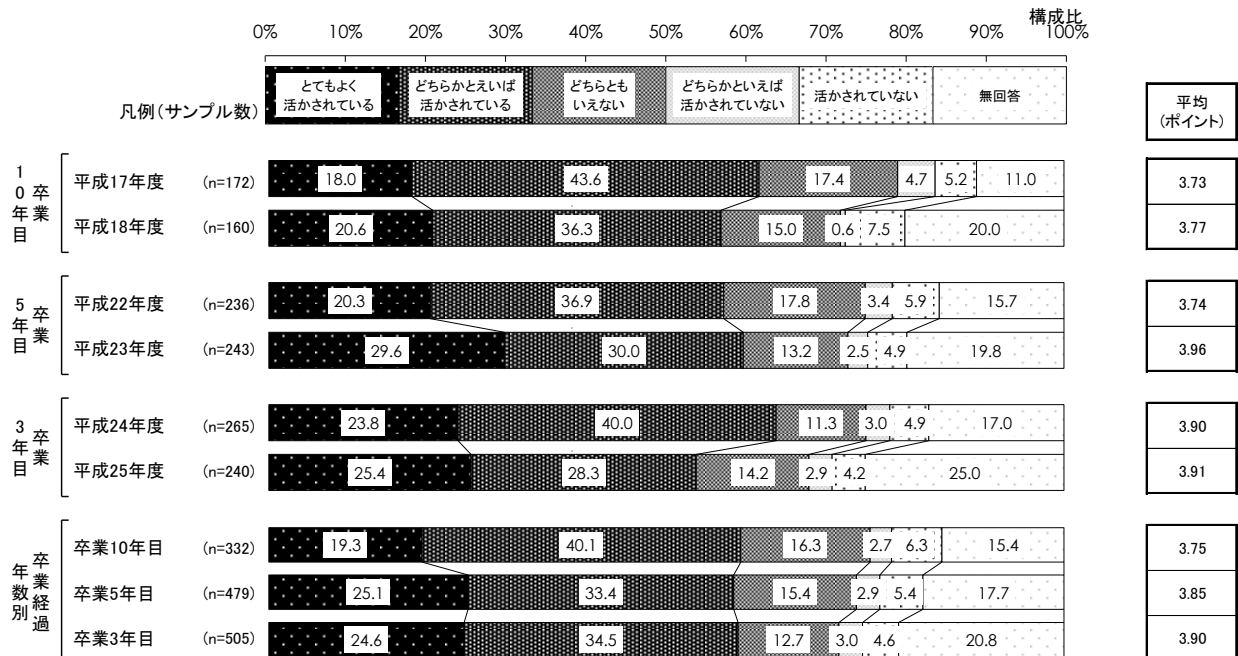
図表 2-174 プレゼンテーション能力 (SA)



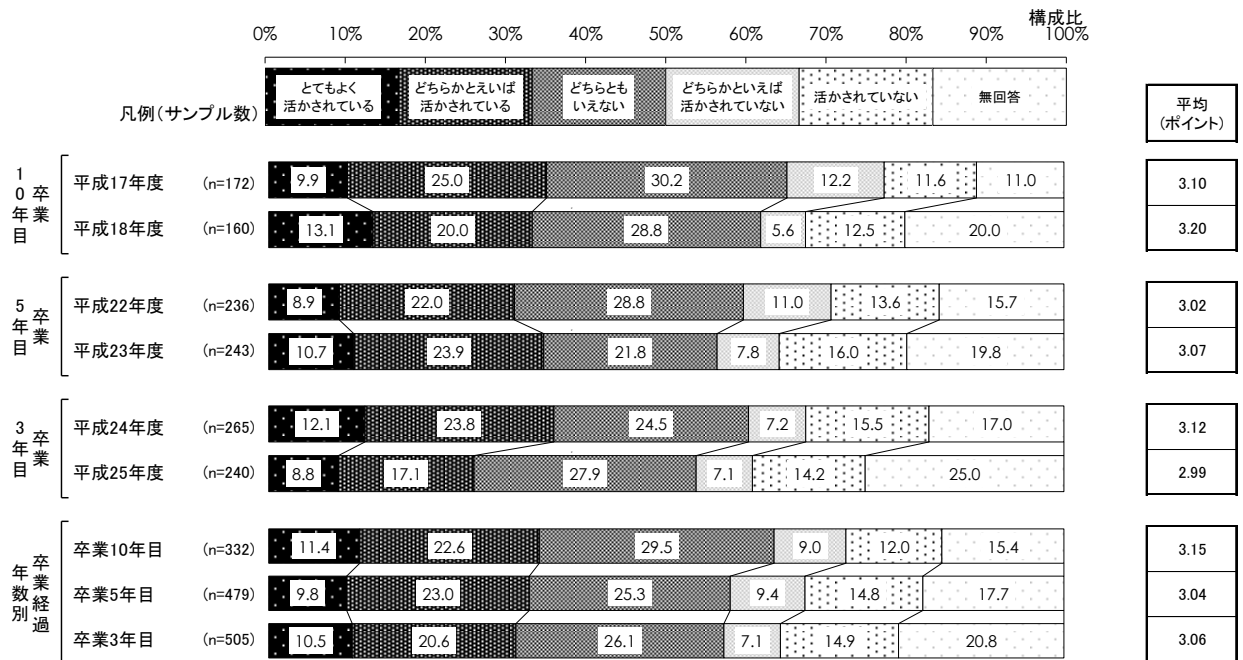
図表 2－175 課題解決能力（S A）



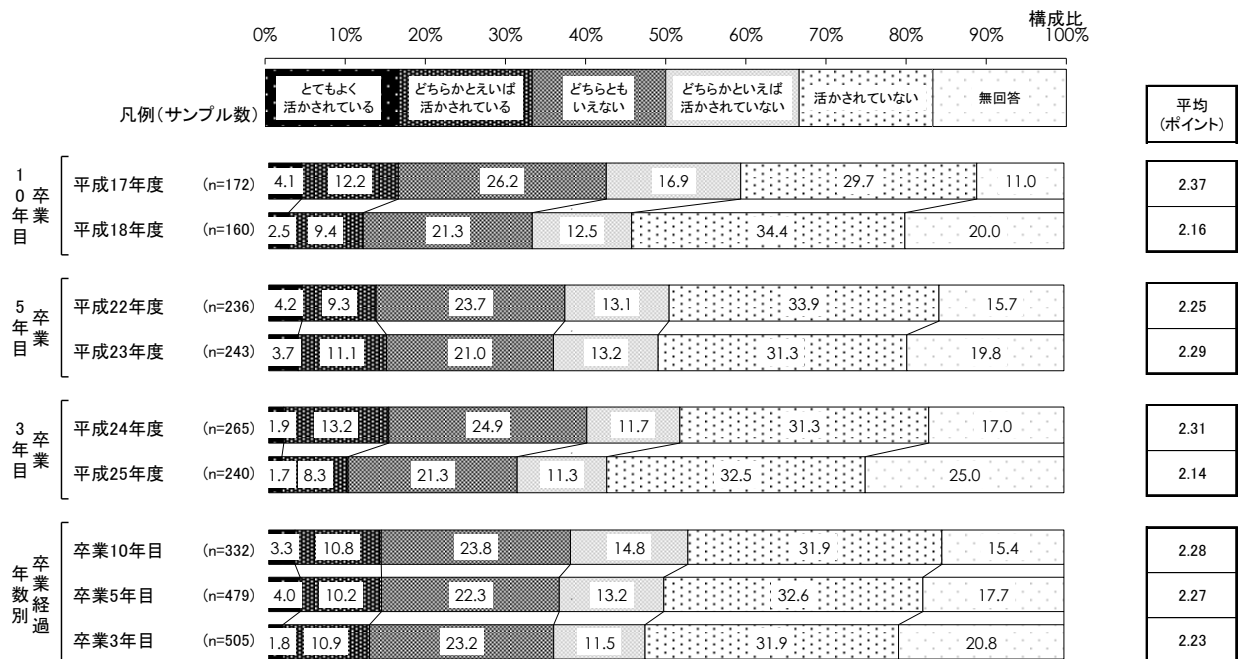
図表 2－176 多様な人々・考え方に対する理解力（S A）



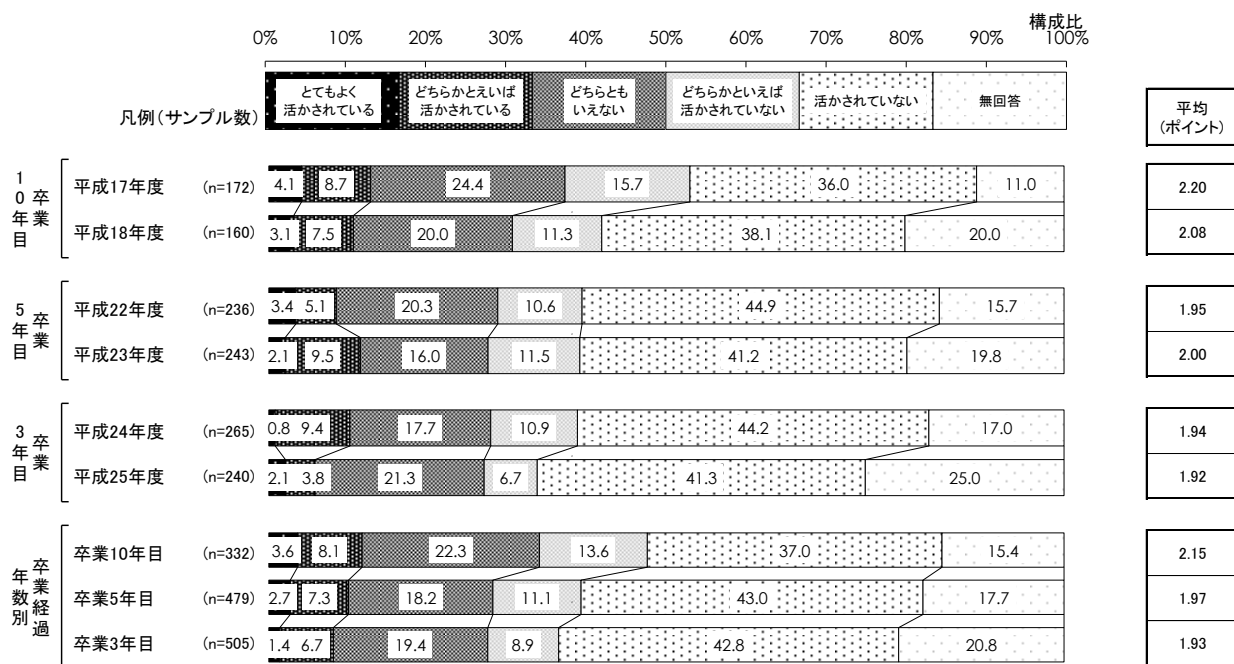
図表 2－177 諸外国の異文化に対する理解力（S A）



図表 2－178 英語能力（S A）



図表 2-179 英語以外の語学能力 (SA)



問 6 学生時代に身についたと思う能力

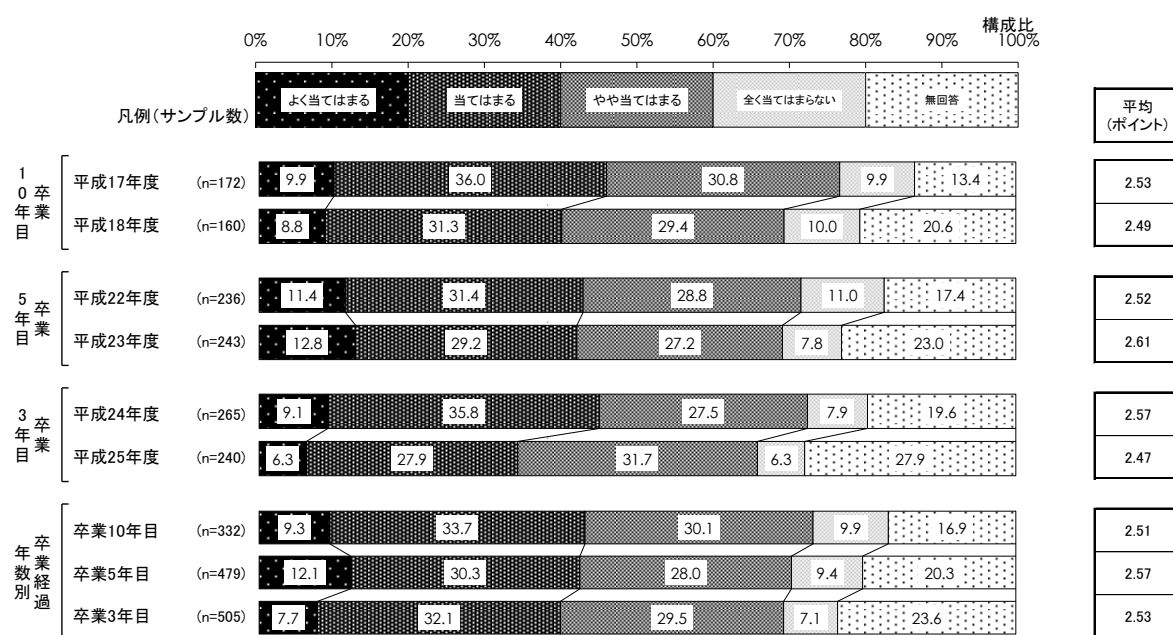
1. 学生時代に身についたと思う能力として、以下の項目はどの程度当てはまりますか。（それぞれ1つ選択）

卒業経過別の平均値に注目すると、卒業10年目が他よりも高いのはひとつもない。

卒業5年目が他よりも高いのは「様々な情報の特性が理解できる」、「課題に応じて、どのような情報を収集すべきか判断できる」で、情報収集力に関連する項目を挙げている。ただし、同じく情報収集力のうちでも「収集した情報の信頼性を適切に判断できる」は卒業3年目のほうが高くなっている。その他の項目もすべて卒業3年目がもっとも高くなっている。

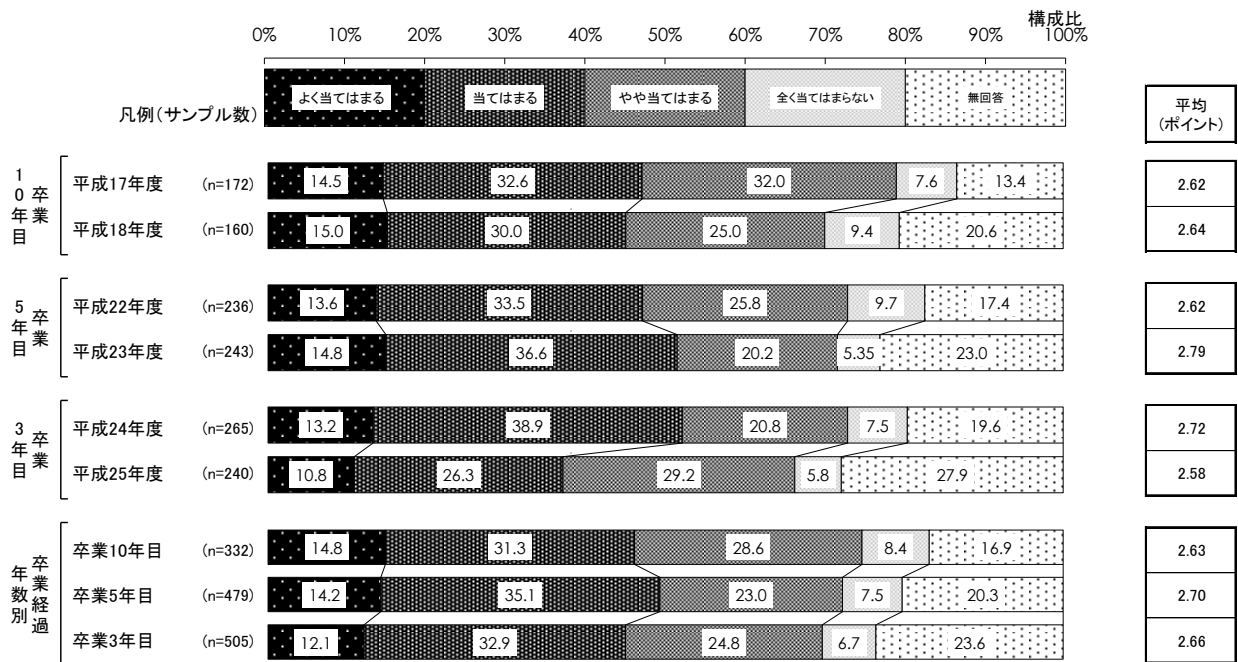
本来、社会人経験が長くなるほど各種能力は高まるが、その根拠として学生時代の修得を挙げる割合は低くなる傾向がみられる。そうした中で情報収集力に関連する2つの能力については、ある程度社会人経験を積んでも、学生時代に身についたという意識されている。

図表 2－180 様々な情報の特性が理解できる（SA）

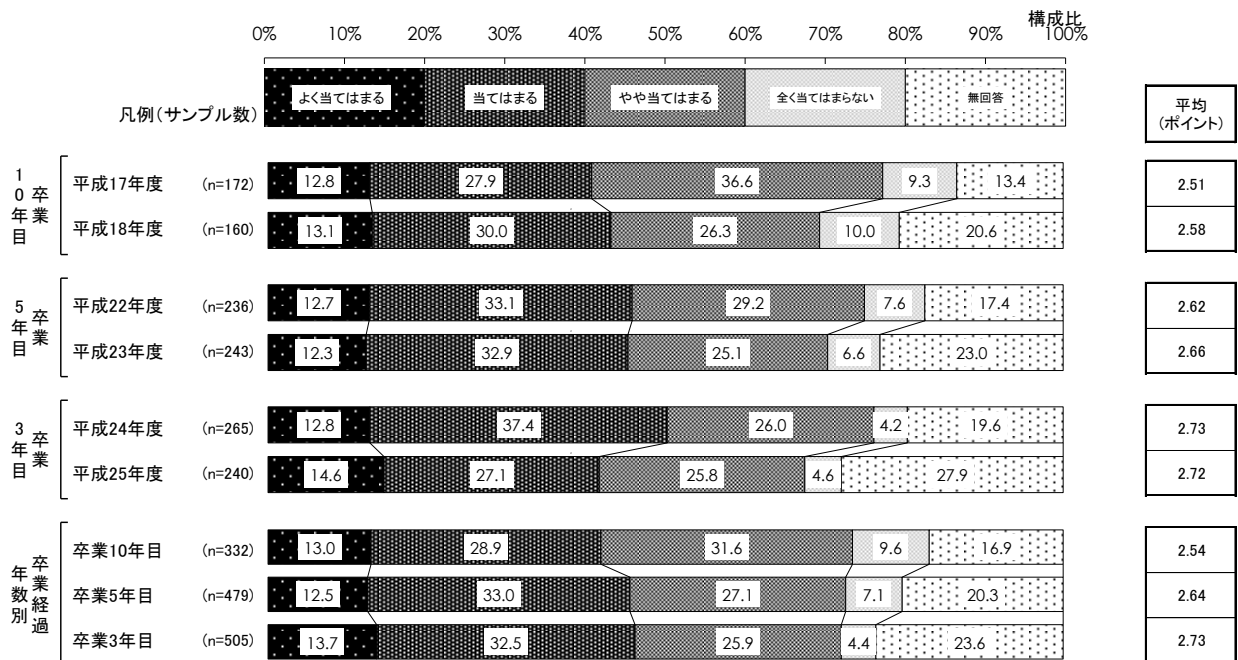


※ 「よく当てはまる」4ポイント、「当てはまる」3ポイント、「やや当てはまる」2ポイント、「全く当てはまらない」1ポイントで、平均を抽出。

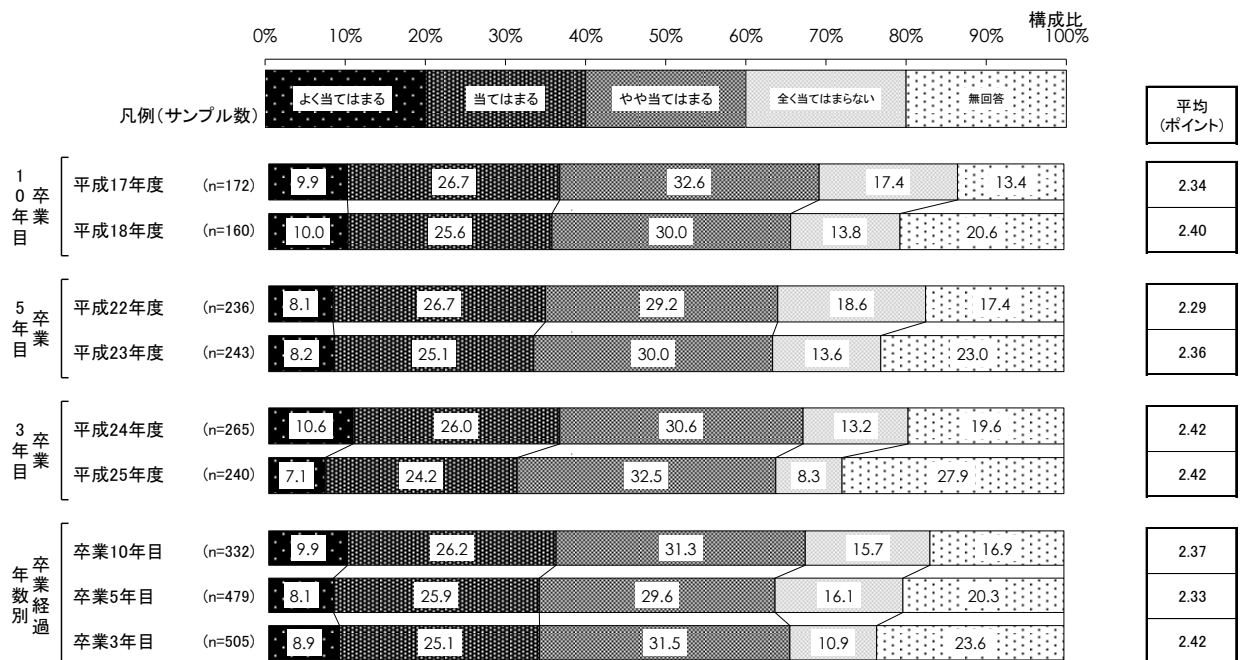
図表 2-181 課題に応じて、どのような情報を収集すべきか判断できる（S A）



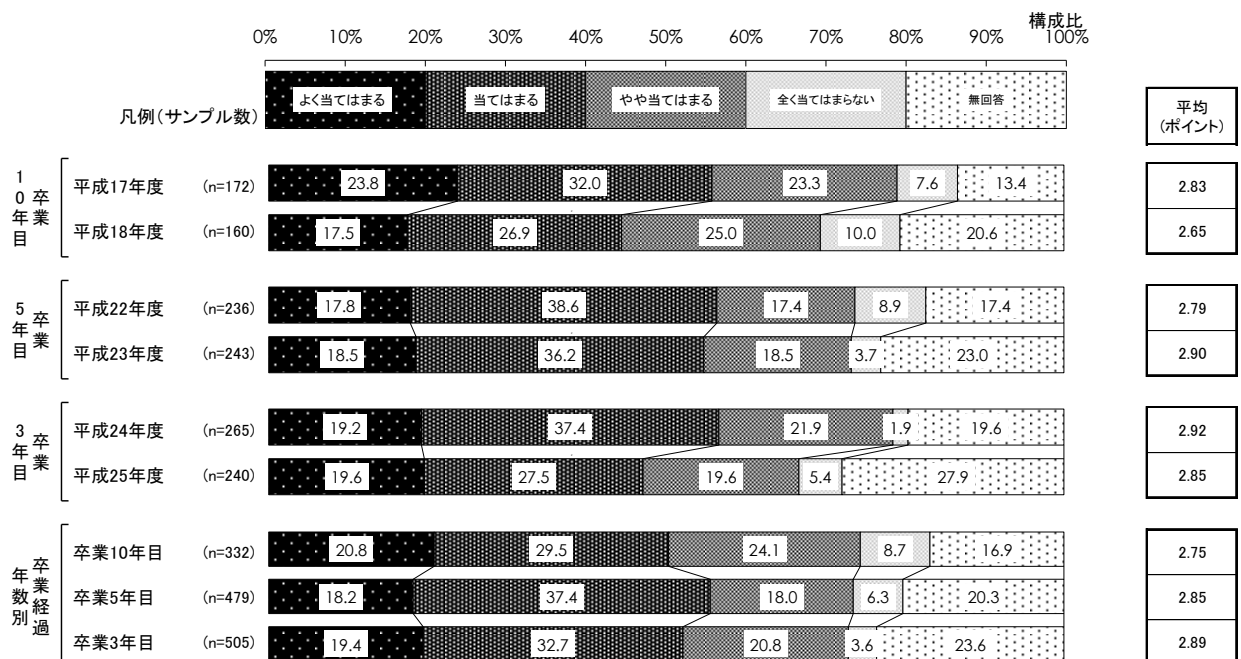
図表 2-182 収集した情報の信頼性を適切に判断できる（S A）



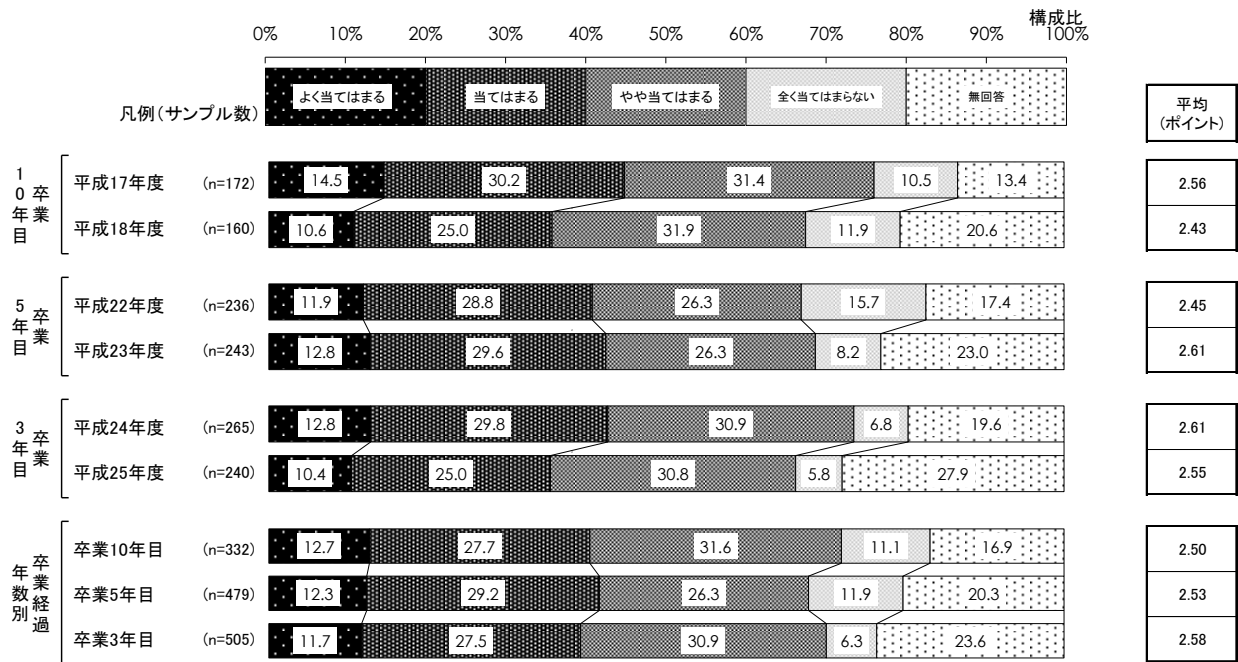
図表 2-183 図表から、的確にその内容を読み取れる（S A）



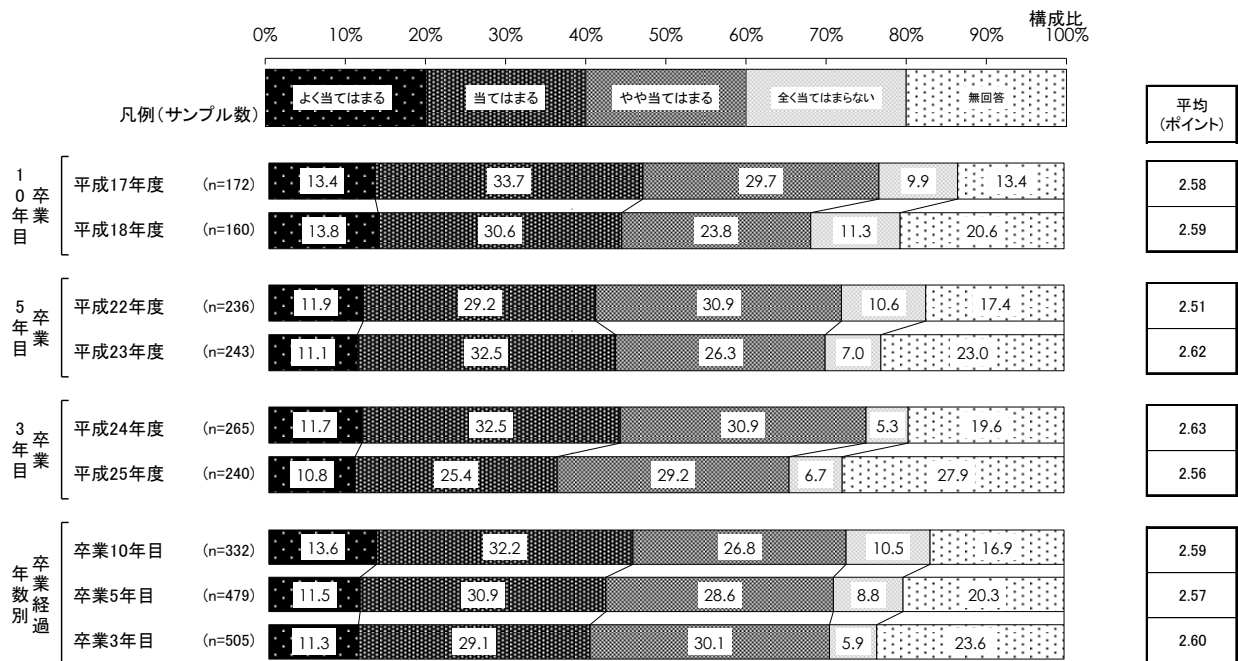
図表 2-184 文章から、的確にその内容を捉えられる（S A）



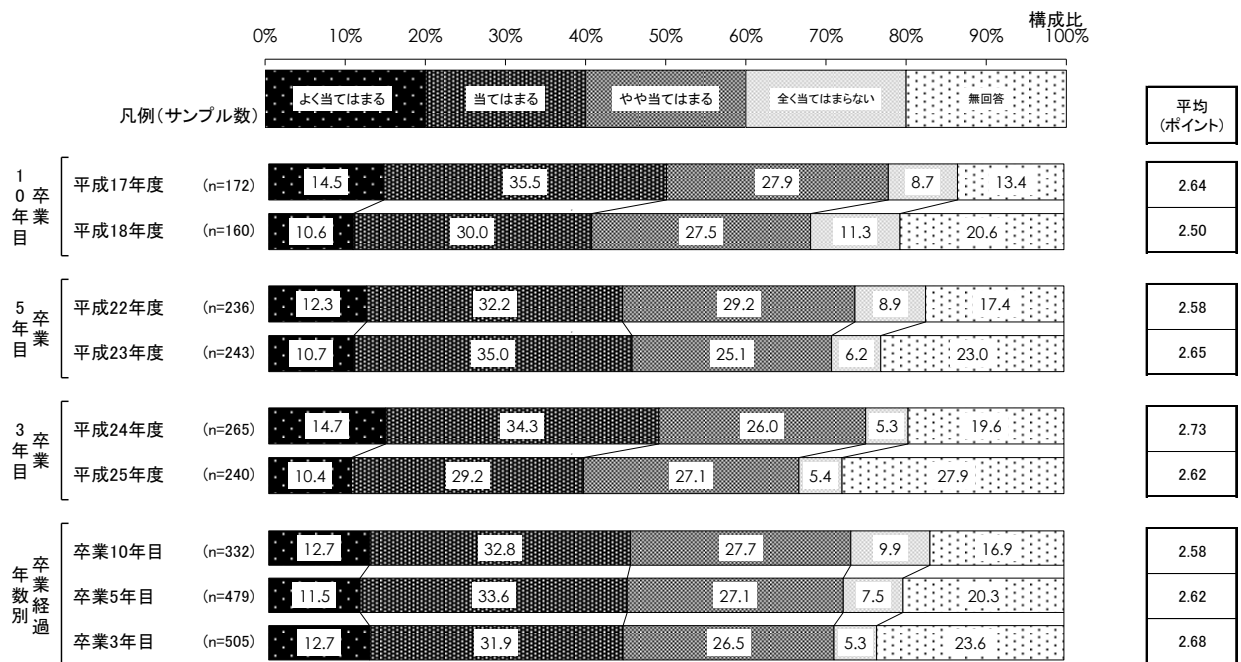
図表 2－185 図表や文章から読み取った内容を、論理的に整理できる（S A）



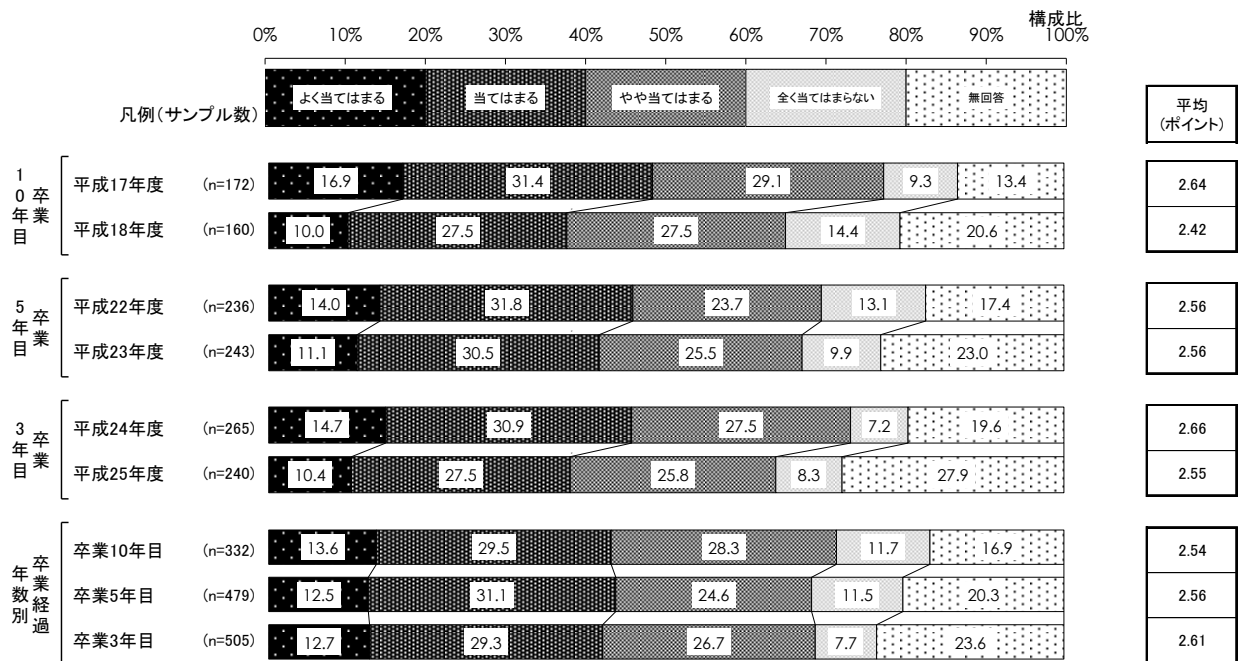
図表 2－186 様々な観点から現状を捉え、問題点を見出せる（S A）



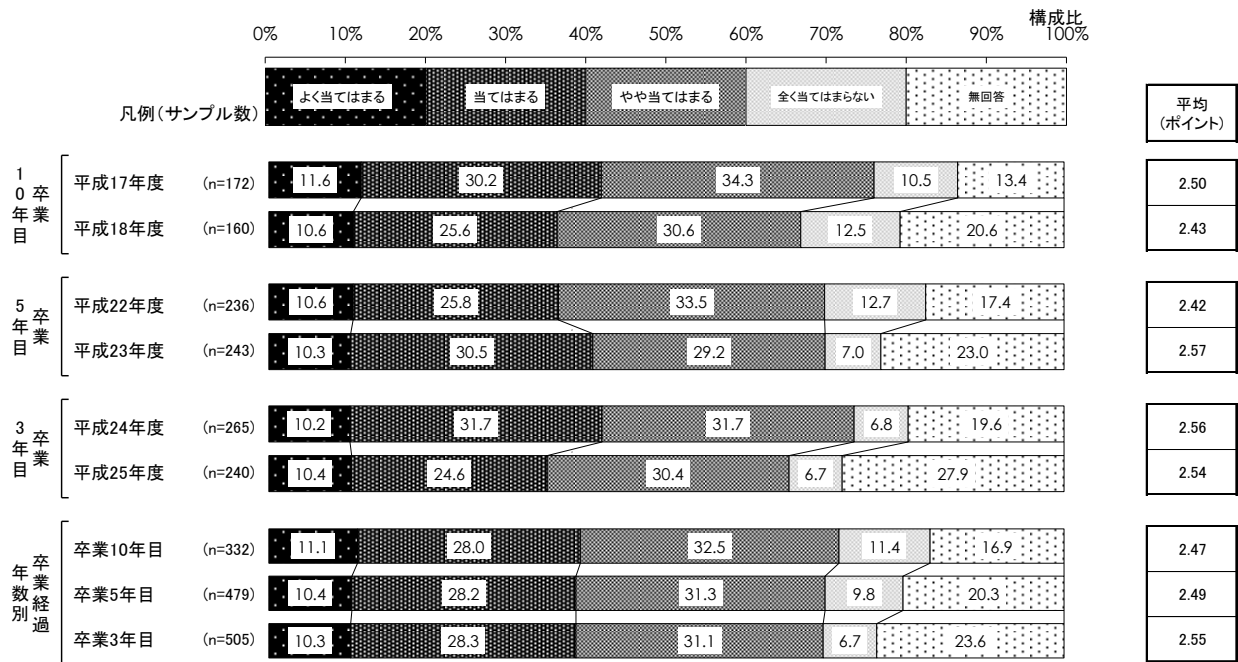
図表 2－187 問題点を客観的に整理できる（S A）



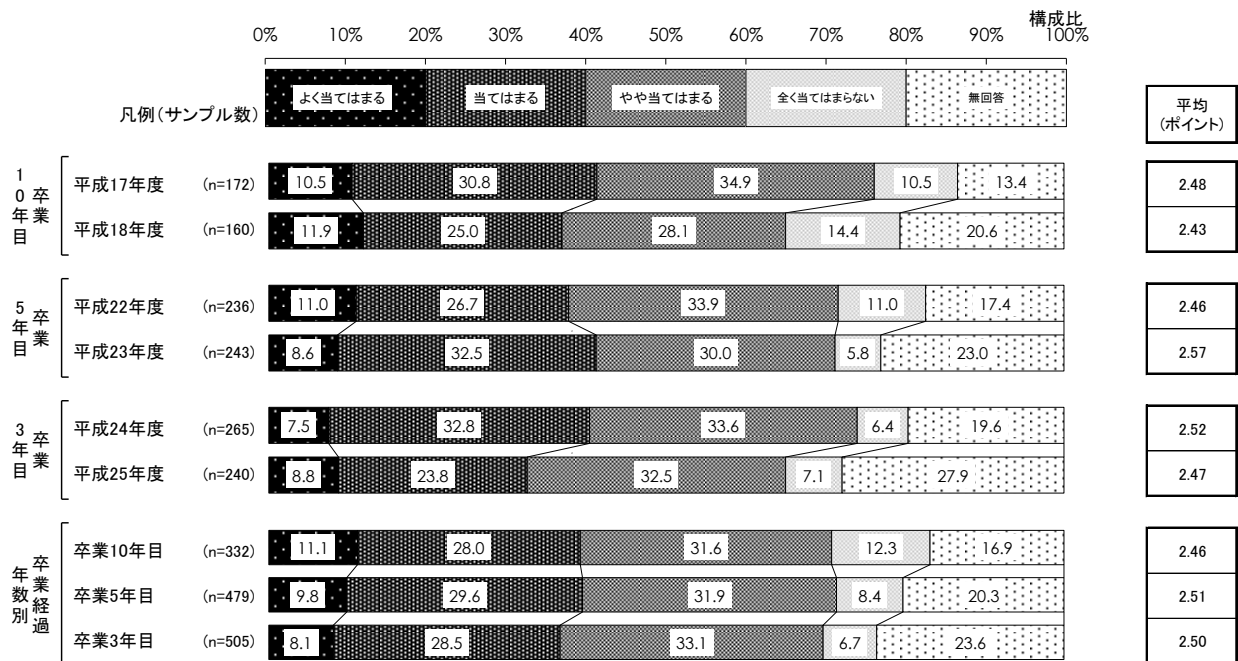
図表 2－188 どの問題から解決すべきか、適切に優先順位をつけられる（S A）



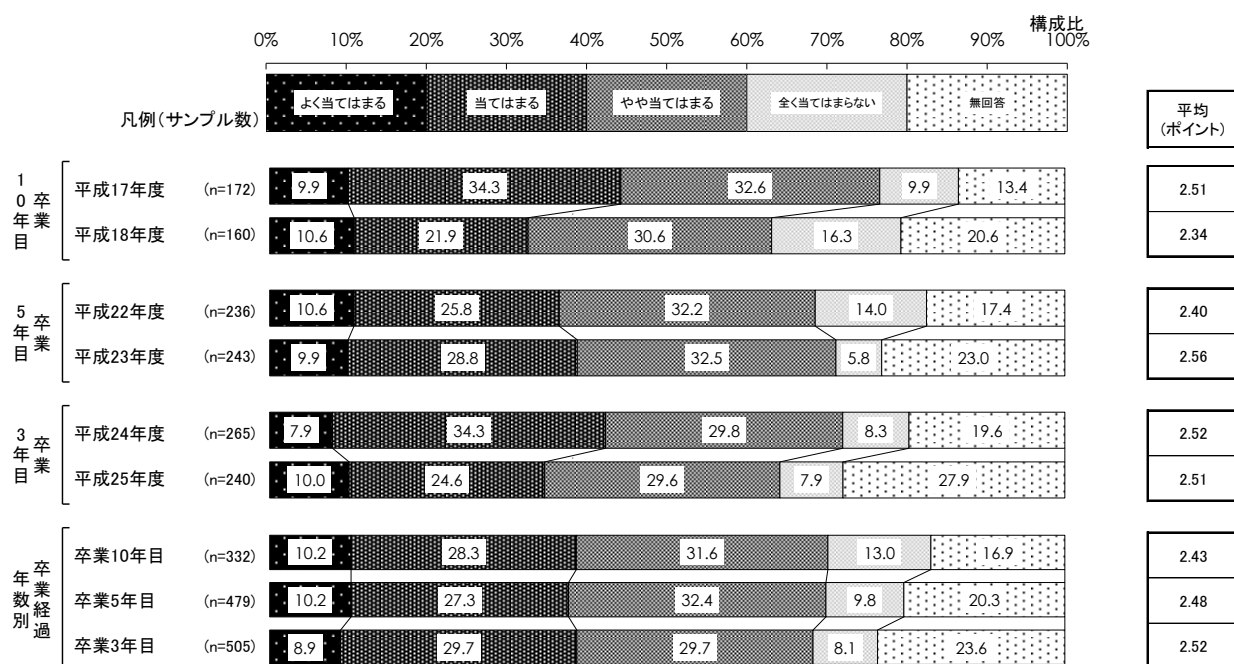
図表 2－189 様々な観点から問題の解決策を考えられる（S A）



図表 2－190 諸々の条件を踏まえ、問題の解決に有効な方策を選択できる（S A）



図表 2－191 問題解決に沿って、具体的な行動計画を立てられる（SA）



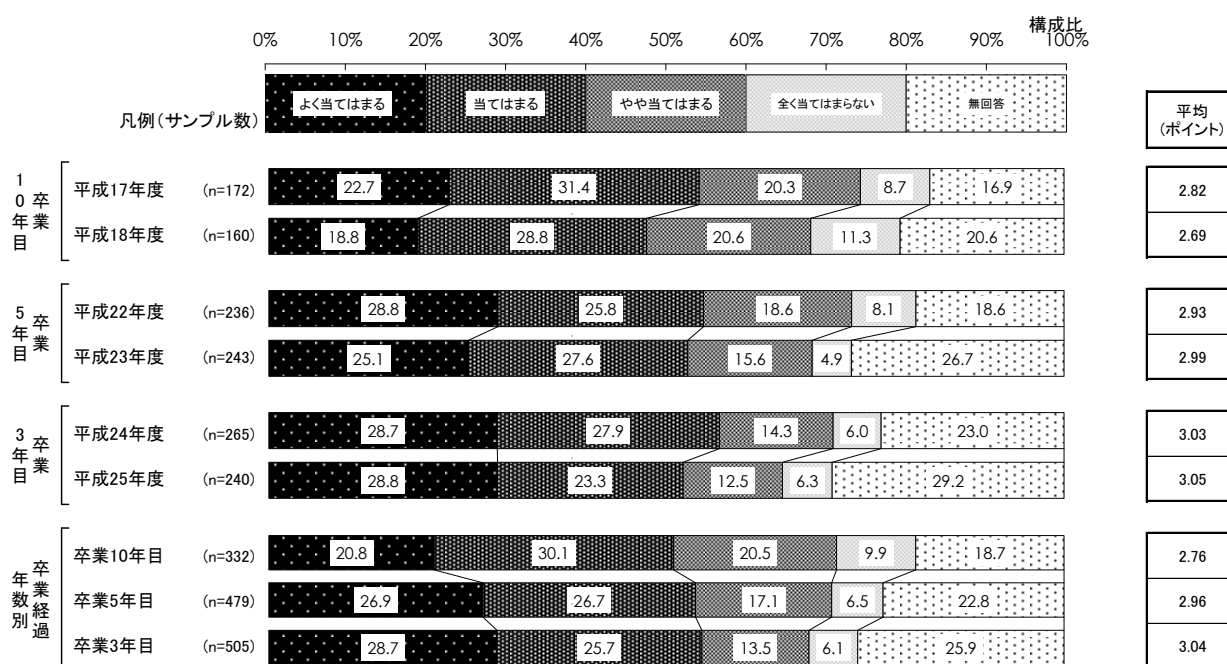
2. 学生時代に、以下のような行動特性が身についたと思いますか。（それぞれ1つ選択）

卒業経過別の平均値に注目すると、卒業10年目が他よりも高いのはひとつもない。

卒業5年目が他よりも高いのは「責任をもってやりとげる」、「問題解決すべく計画を推進しながら、想定外の事態に応じて行動を修正できる」となっている。そのほかの項目はいずれも卒業3年目がもっとも高くなっている。

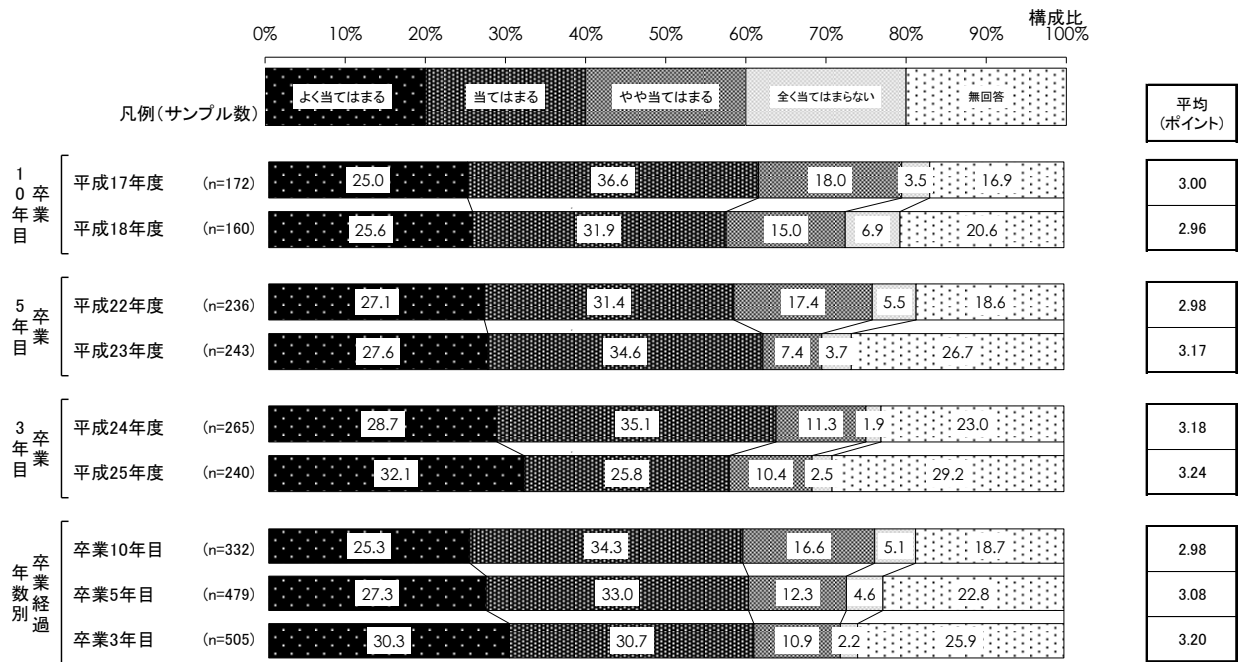
本来、社会人経験が長くなるほど各種能力は高まるが、その根拠として学生時代の修得を挙げる割合は低くなる傾向がみられる。そうした中で「責任をもってやりとげる」と「問題解決すべく計画を推進しながら、想定外の事態に応じて行動を修正できる」については、ある程度社会人経験を積んでも、学生時代に身についたという意識されている。

図表2-192 誰に対しても、和やかに接することができる（SA）

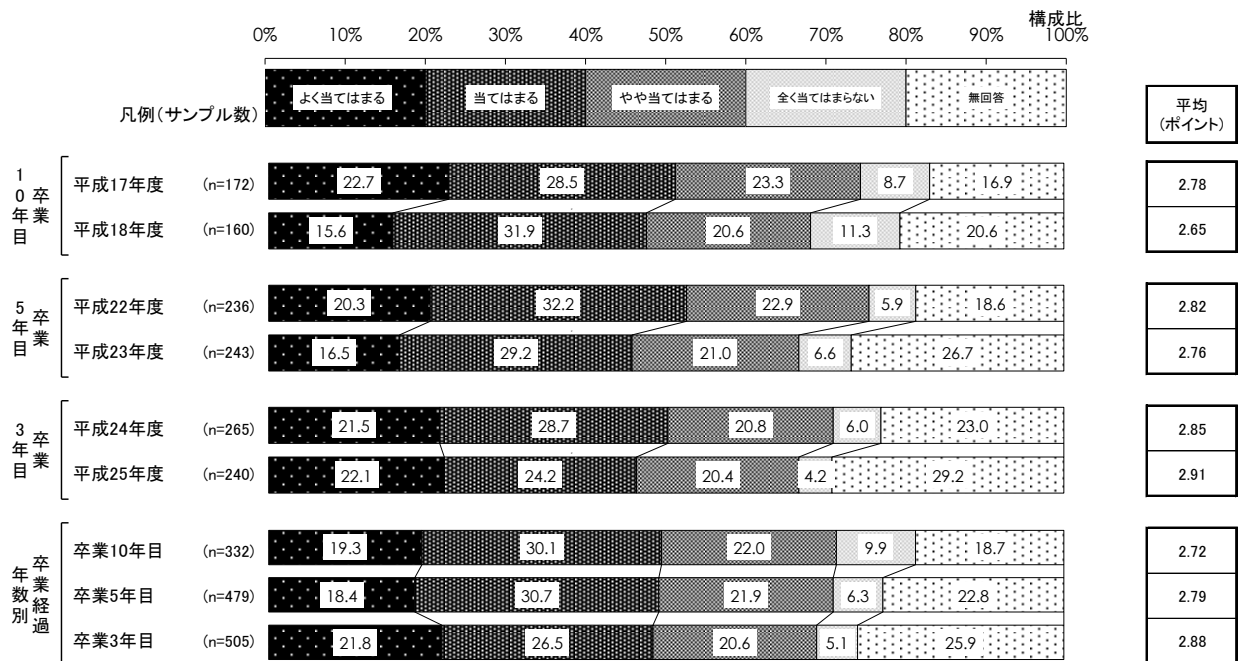


※ 「よく当てはまる」4ポイント、「当てはまる」3ポイント、「やや当てはまる」2ポイント、「全く当てはまらない」1ポイントで平均を抽出。

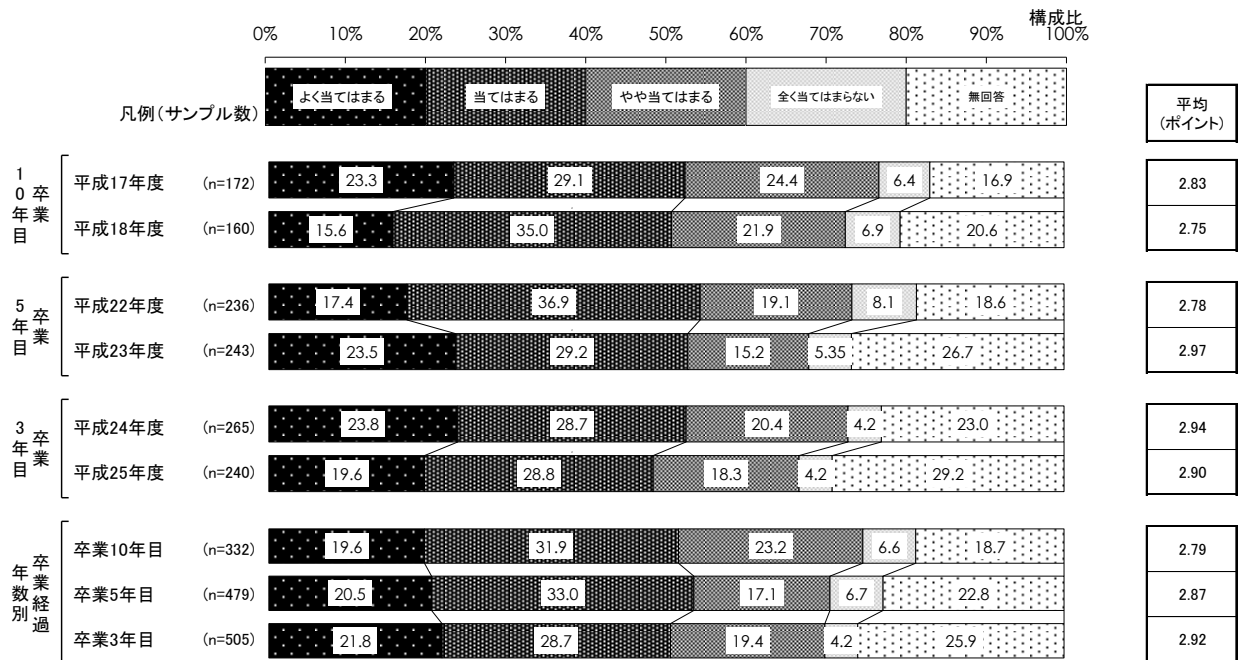
図表 2－193 人から相談された際に、相手の話を真剣に聞ける（S A）



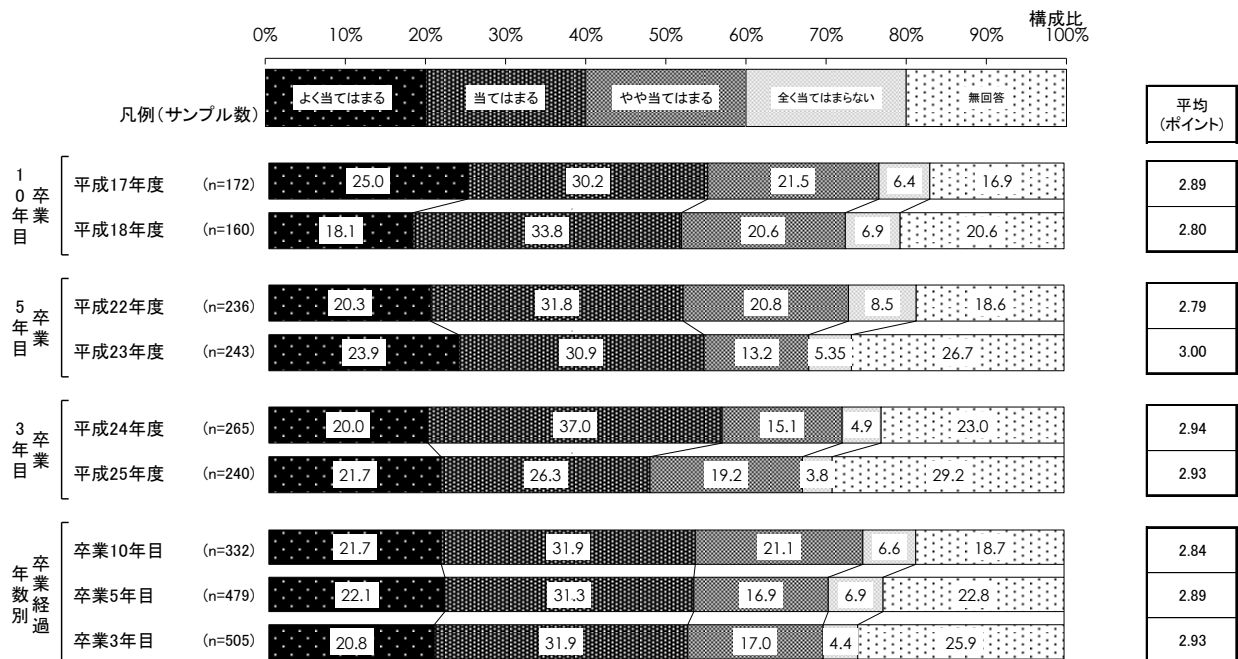
図表 2－194 相手の信頼を得て、豊かな人間関係を築くことができる（S A）



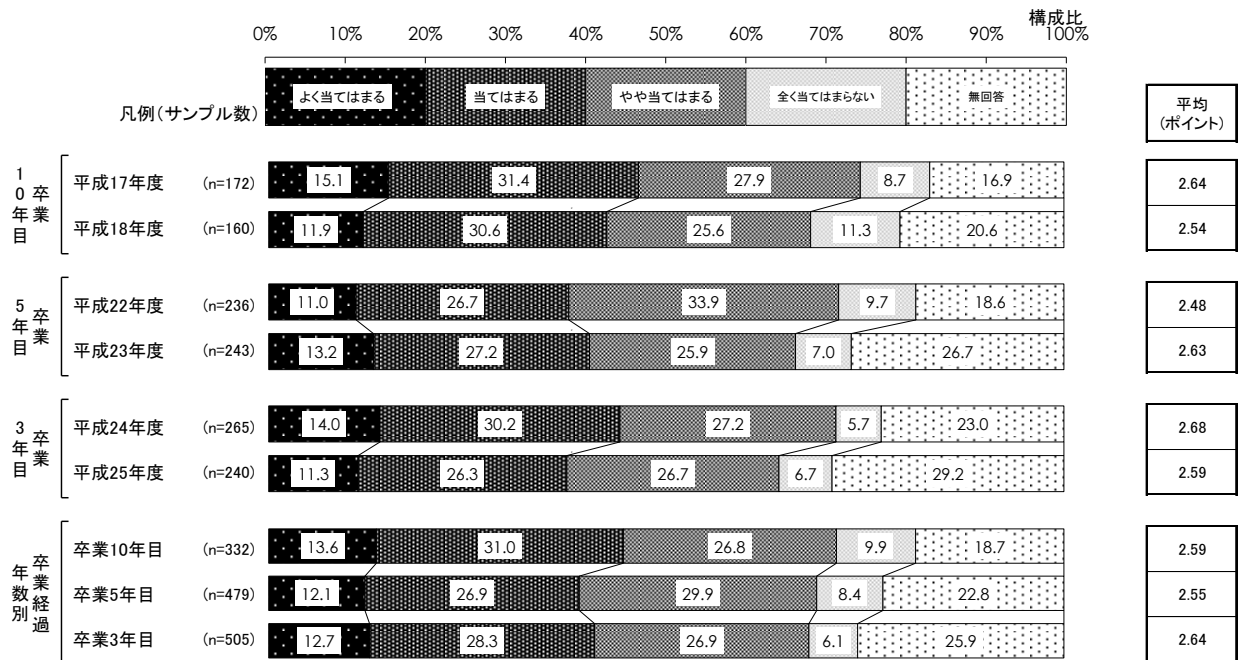
図表 2－195 チームの中で担うべき自分の役割を自覚できる（S A）



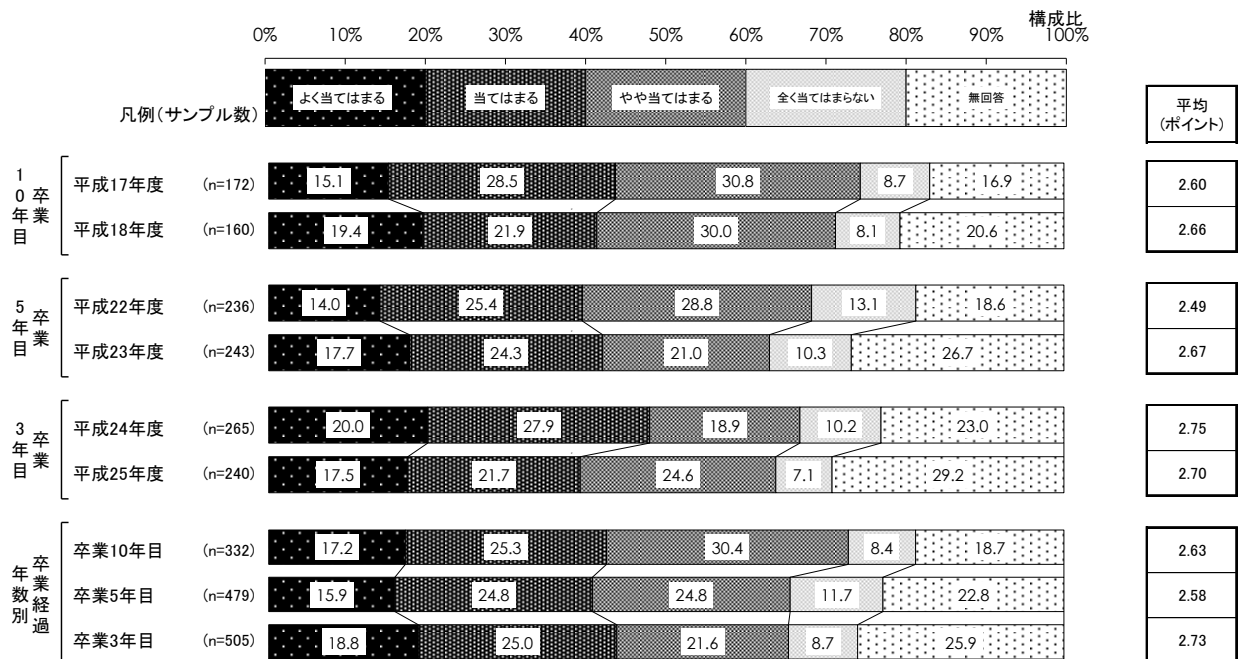
図表 2－196 周囲と連携を図り、協力しながら仕事を進められる（S A）



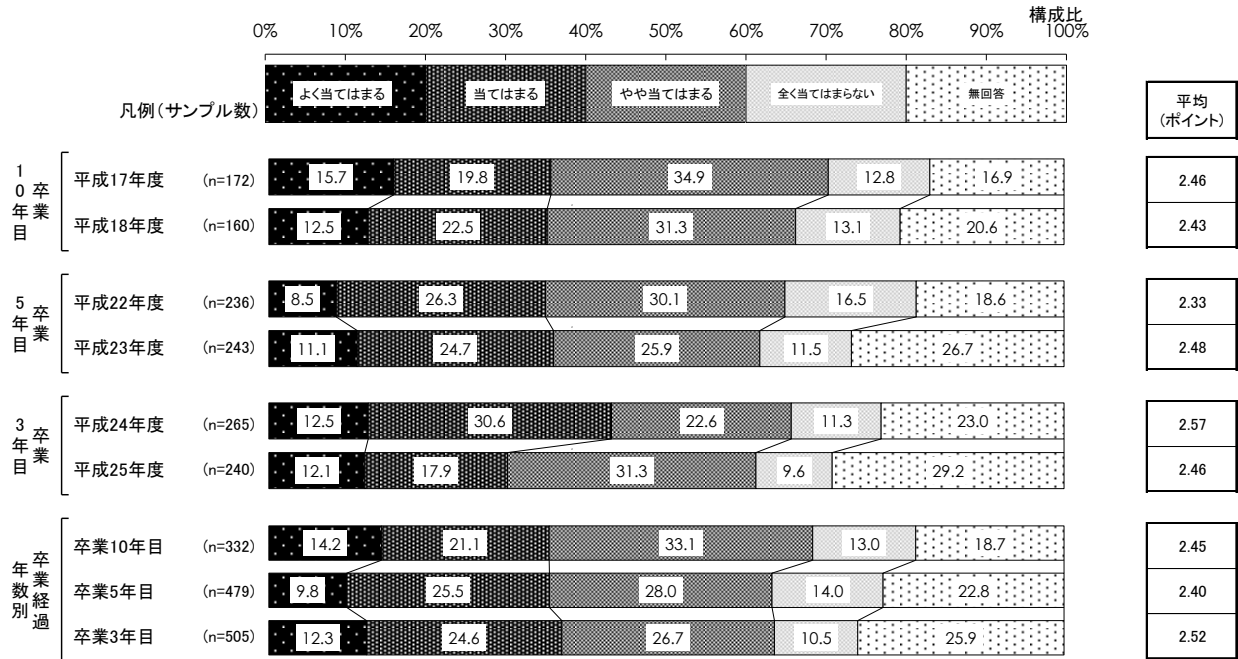
図表 2－197 相手の状況に応じて、適切なアドバイスができる（S A）



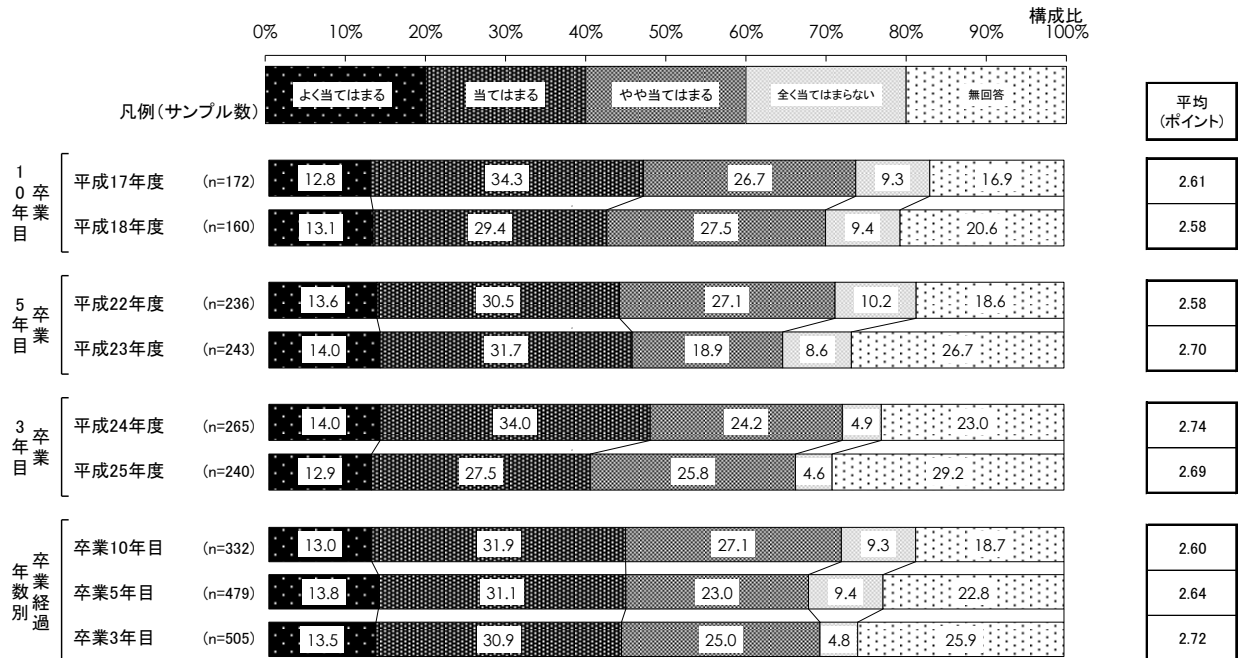
図表 2－198 周りの人と意見が異なる場合でも、自分の意見を述べられる（S A）



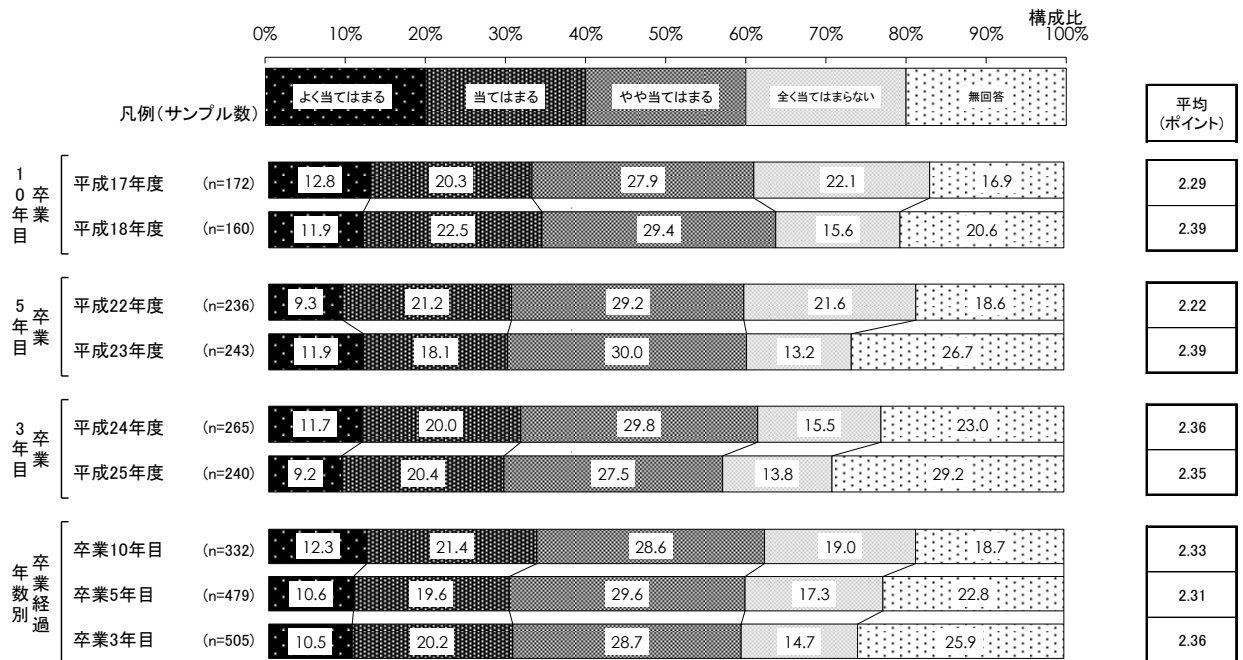
図表 2－199 建設的な議論となるように、チームに働きかけができる（S A）



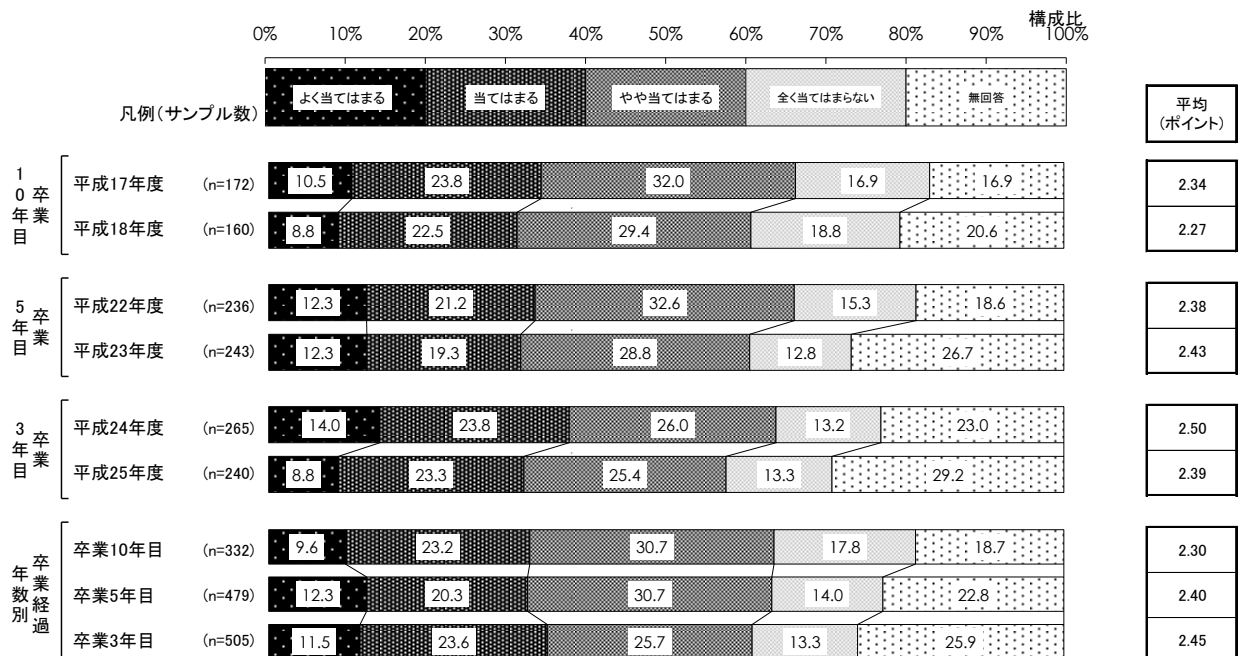
図表 2－200 相手の立場を考慮しながら、意見調整を進められる（S A）



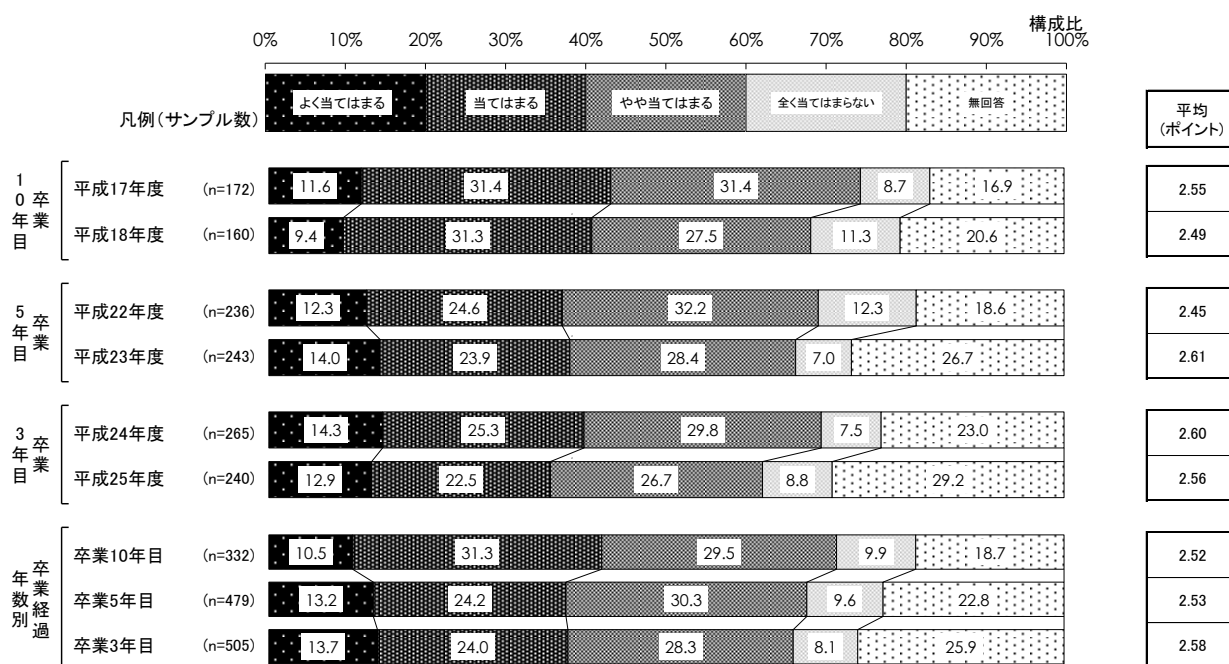
図表２－２０１ プレッシャーがかかる場面でも、落ち着いて対応できる（ＳＡ）



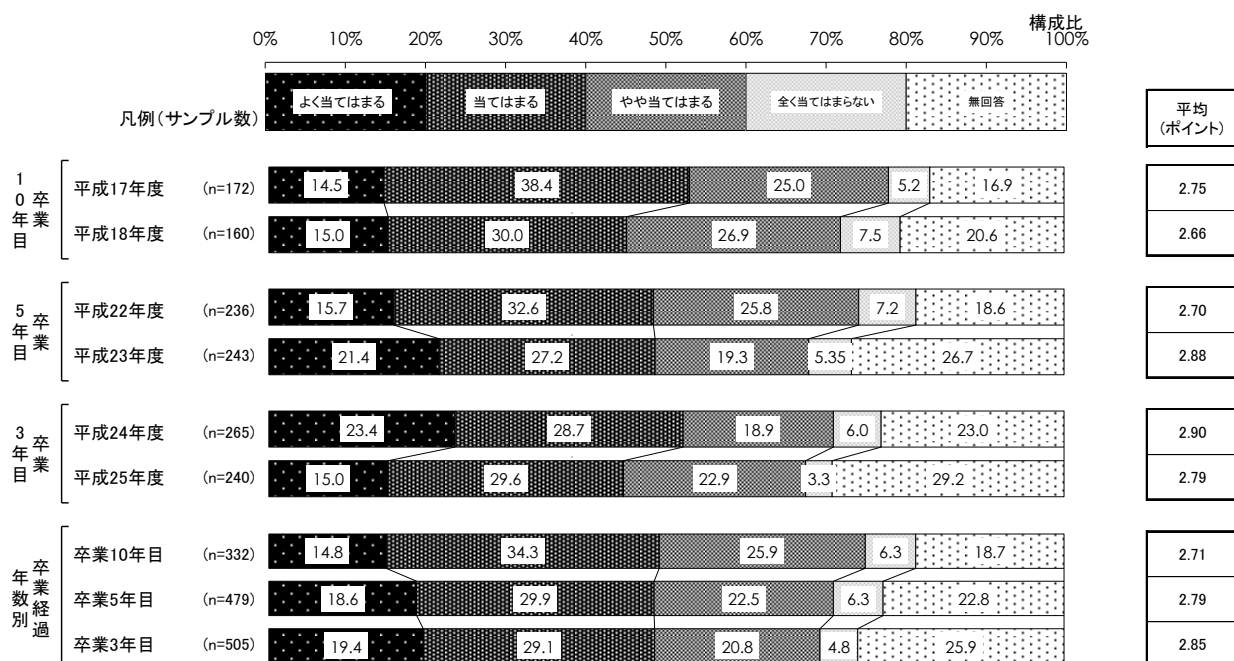
図表２－２０２ ストレスにうまく対処し、感情をコントロールできる（ＳＡ）



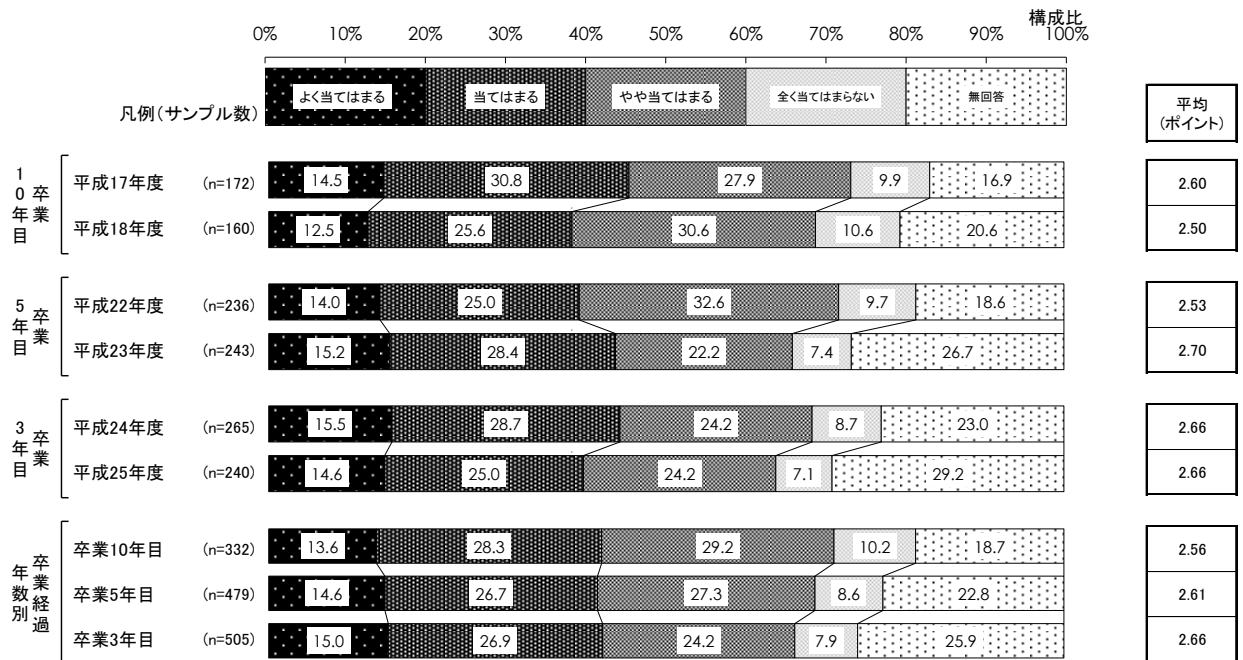
図表 2-203 難しい課題に対しても前向きに取り組める (SA)



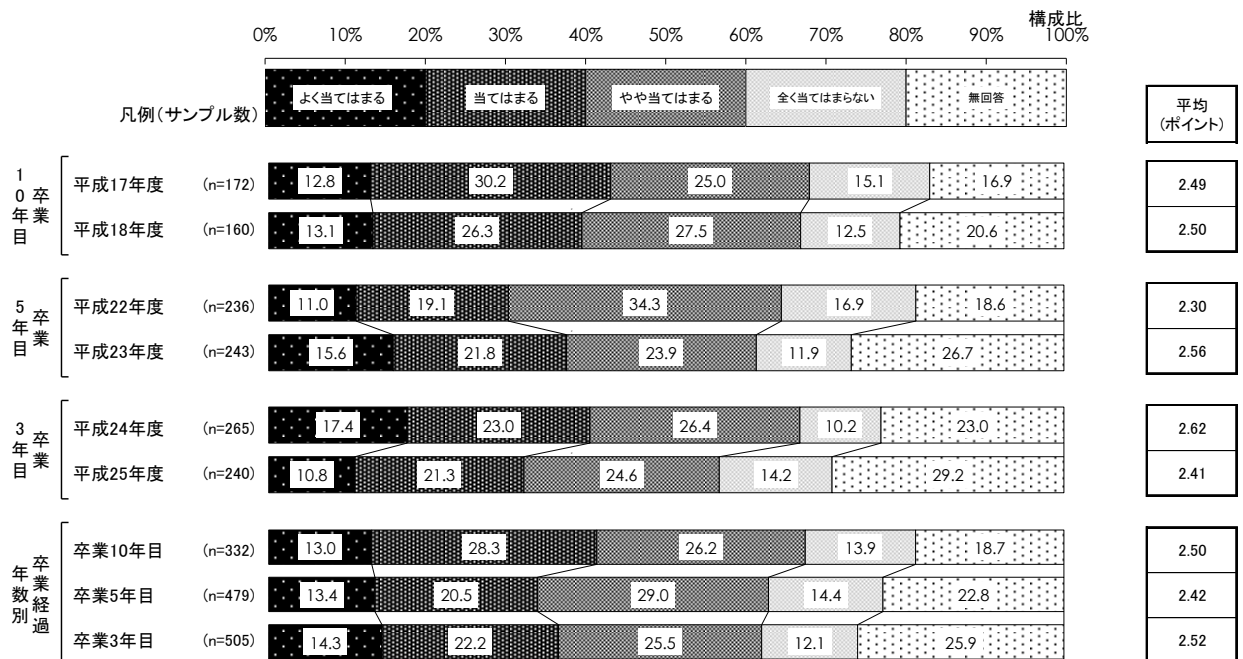
図表 2-204 自分の長所と短所を的確に把握している (SA)



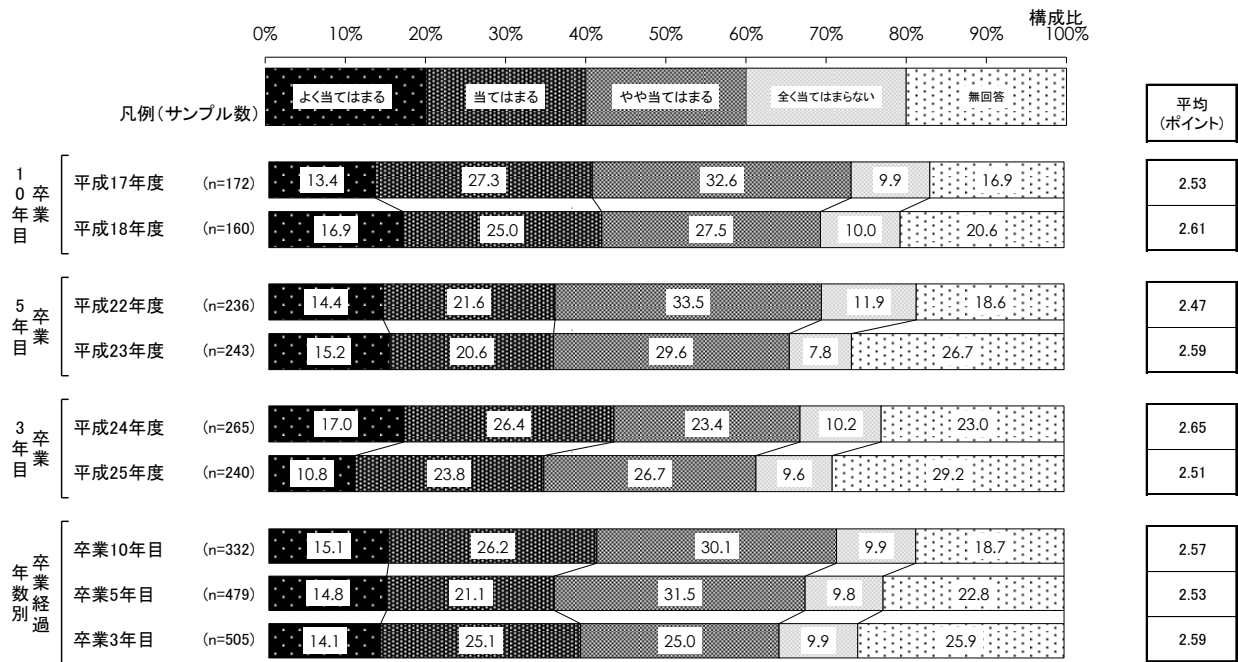
図表 2-205 自分の強みや持ち味を活かすべく行動できる（S A）



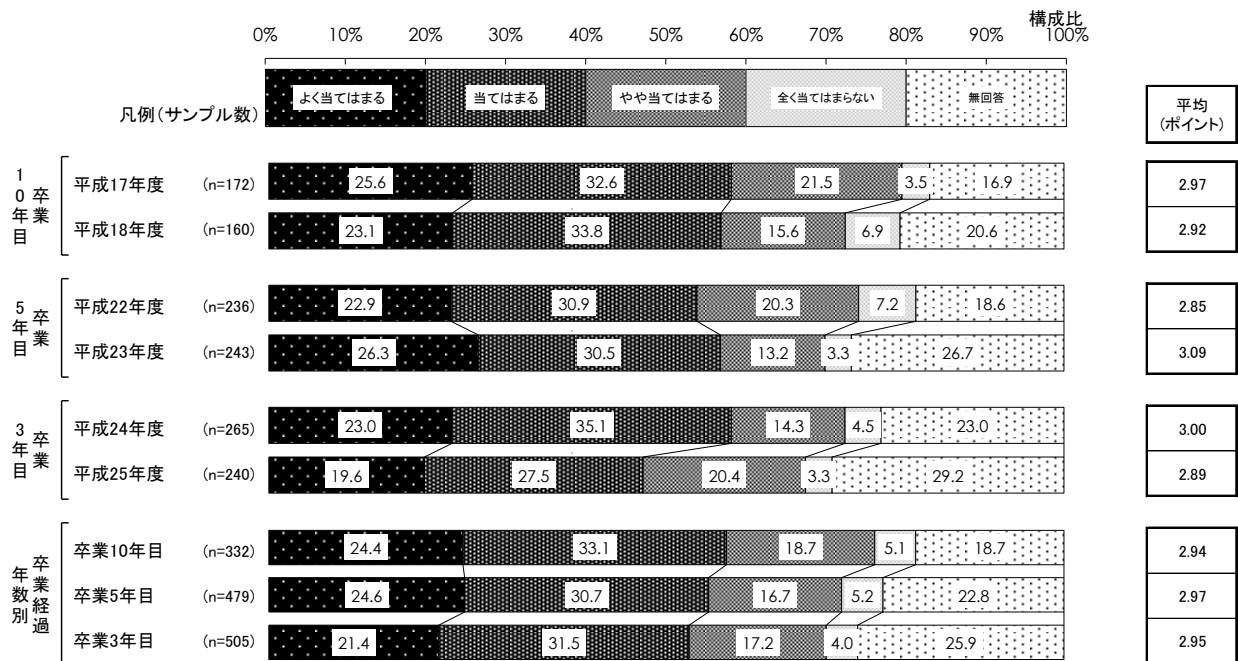
図表 2-206 未経験のことにも、臆せず取り組める（S A）



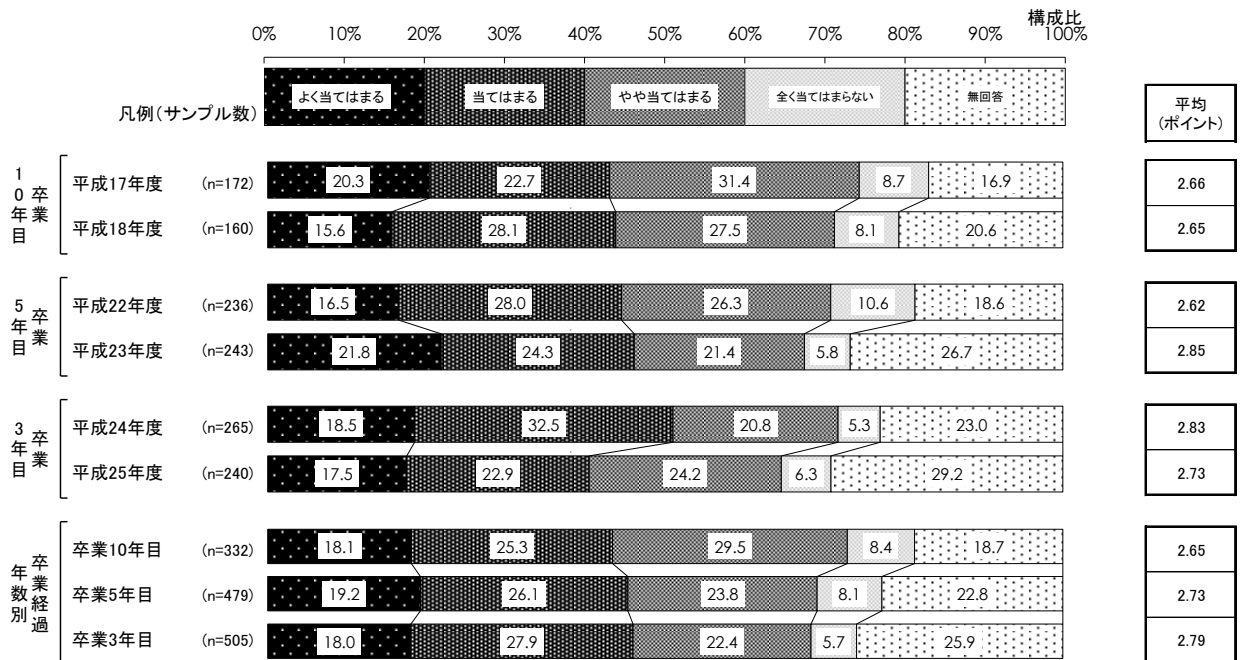
図表 2-207 自発的に行動できる（SA）



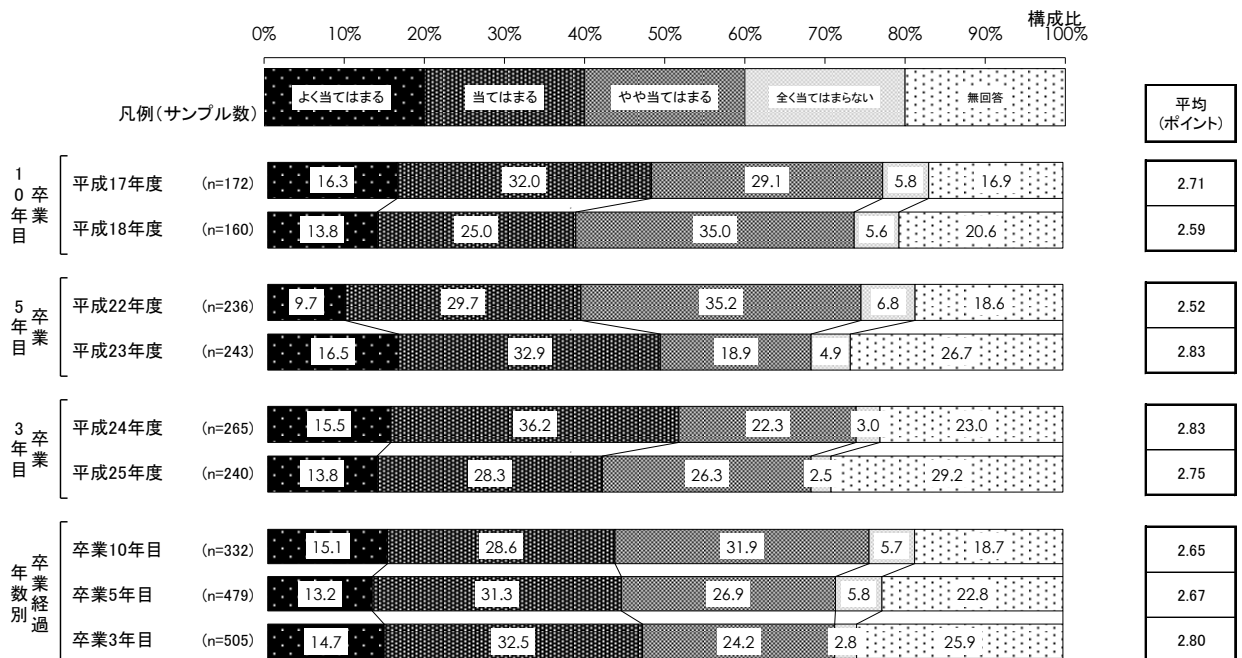
図表 2-208 責任感を持ってやりとげる（SA）



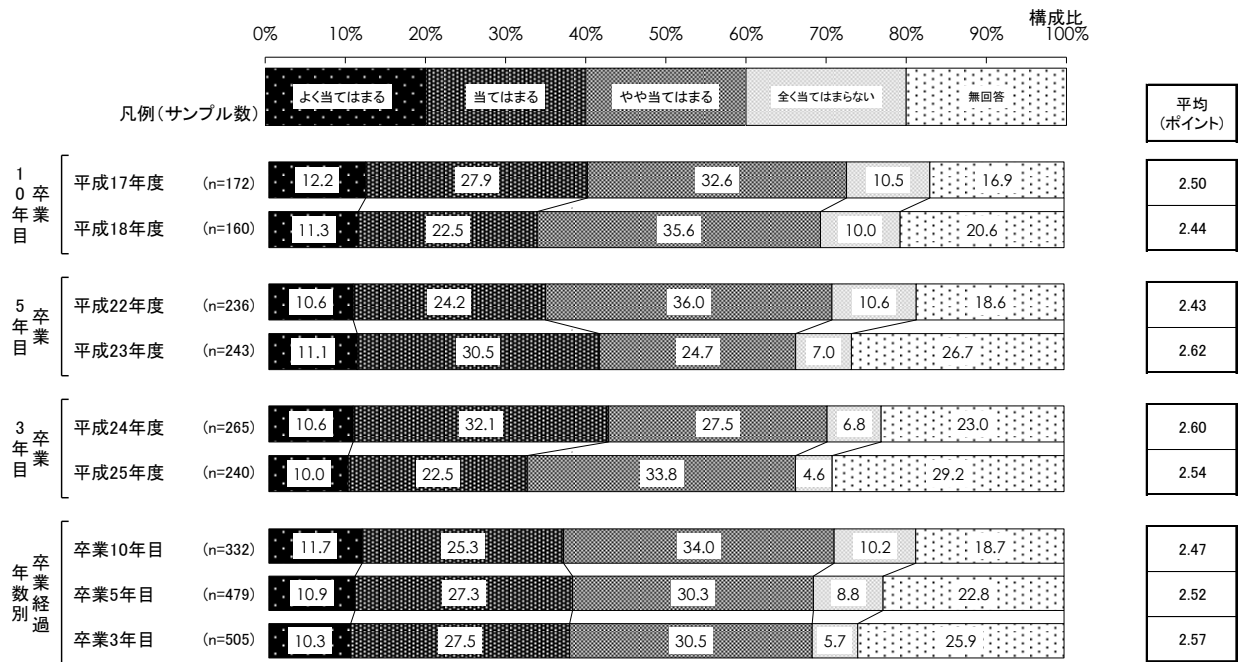
図表 2-209 常に主体的に学び続ける姿勢を持っている（SA）



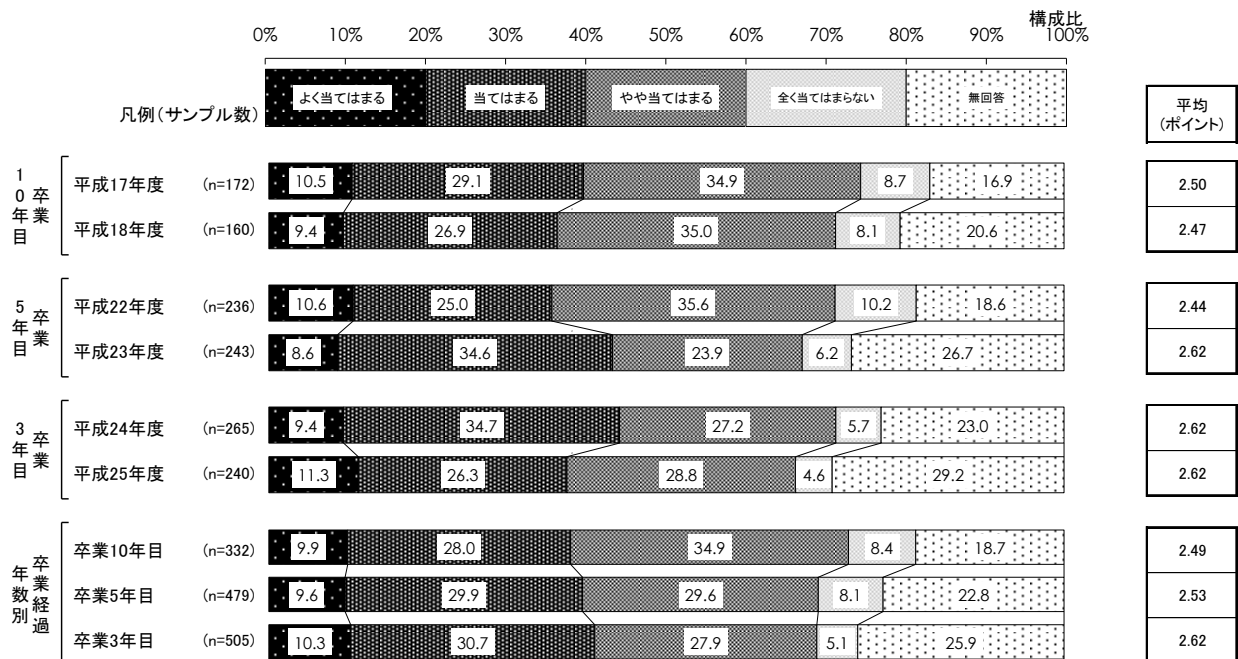
図表 2-210 課題に応じ、適切に情報を収集できる（SA）



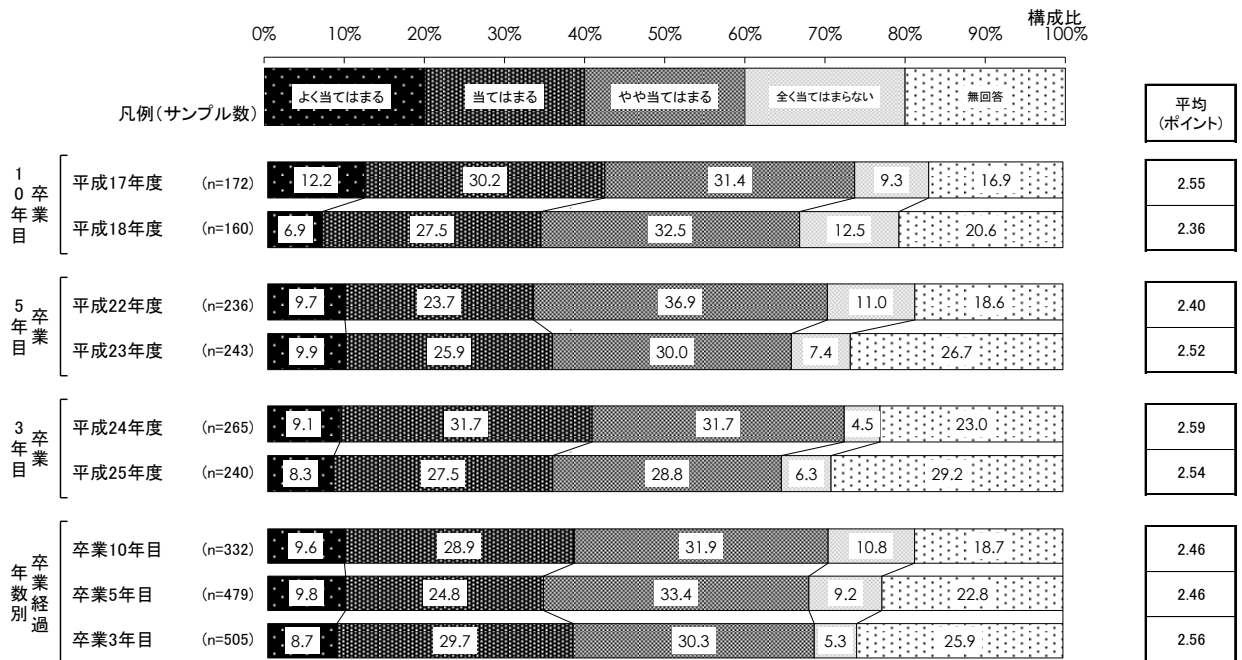
図表 2-2-1-1 客観的な視点でデータを整理・分析し、問題点を把握できる（SA）



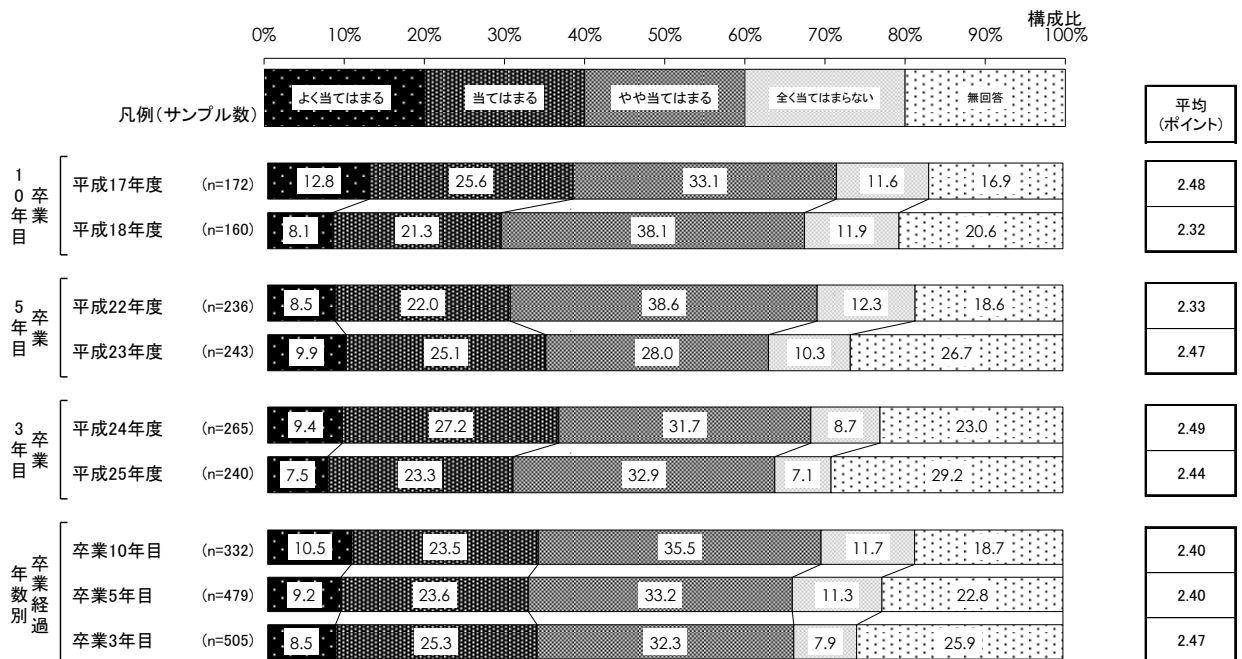
図表 2-2-1-2 問題が生じた原因について、様々な観点から考えられる（SA）



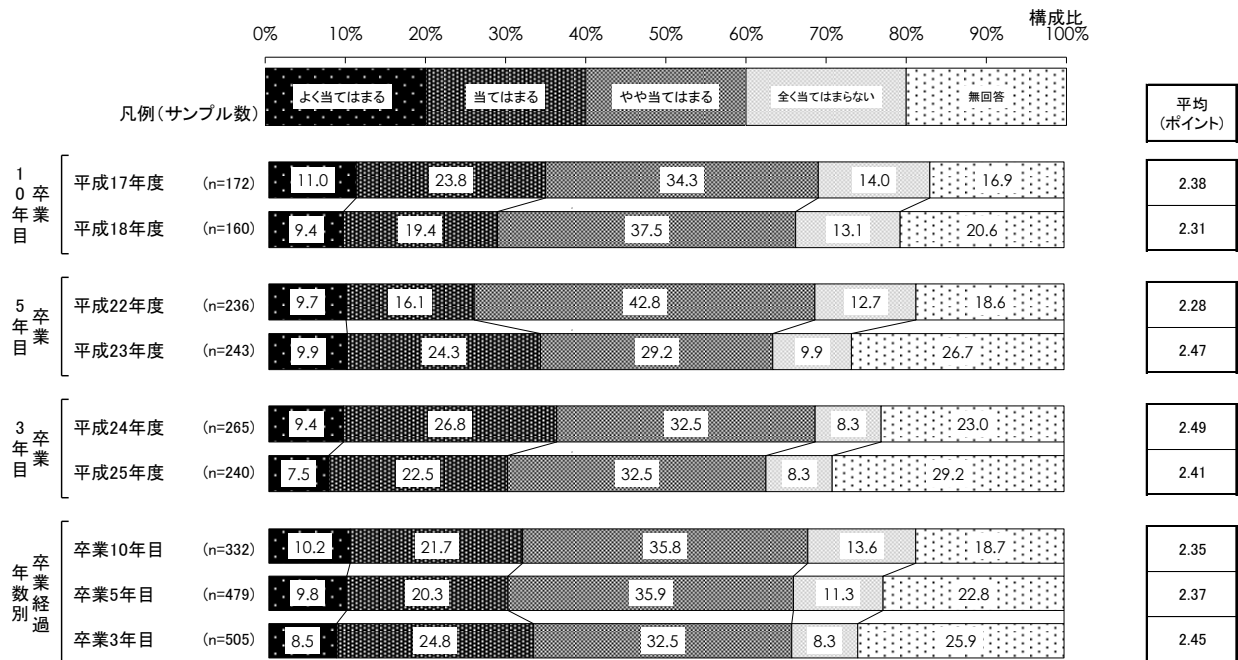
図表 2-213 問題解決に向けて、明確な目標を立てられる（S A）



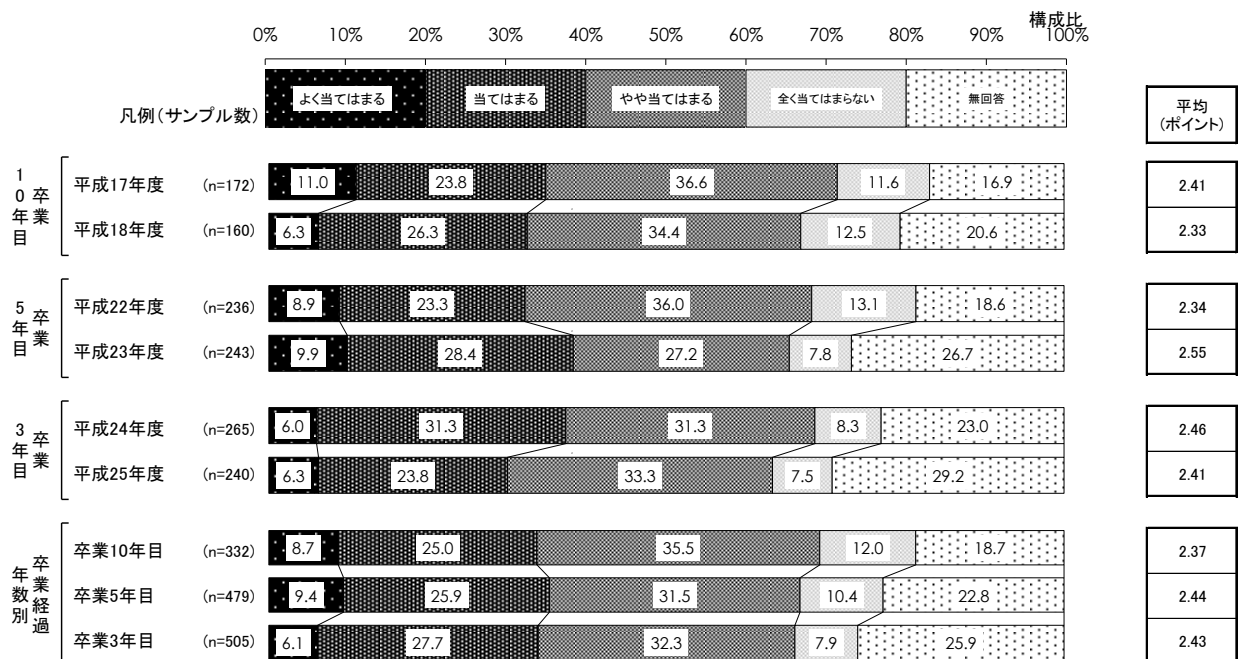
図表 2-214 問題解決に向けて、目標に沿った具体的な計画を立てられる（S A）



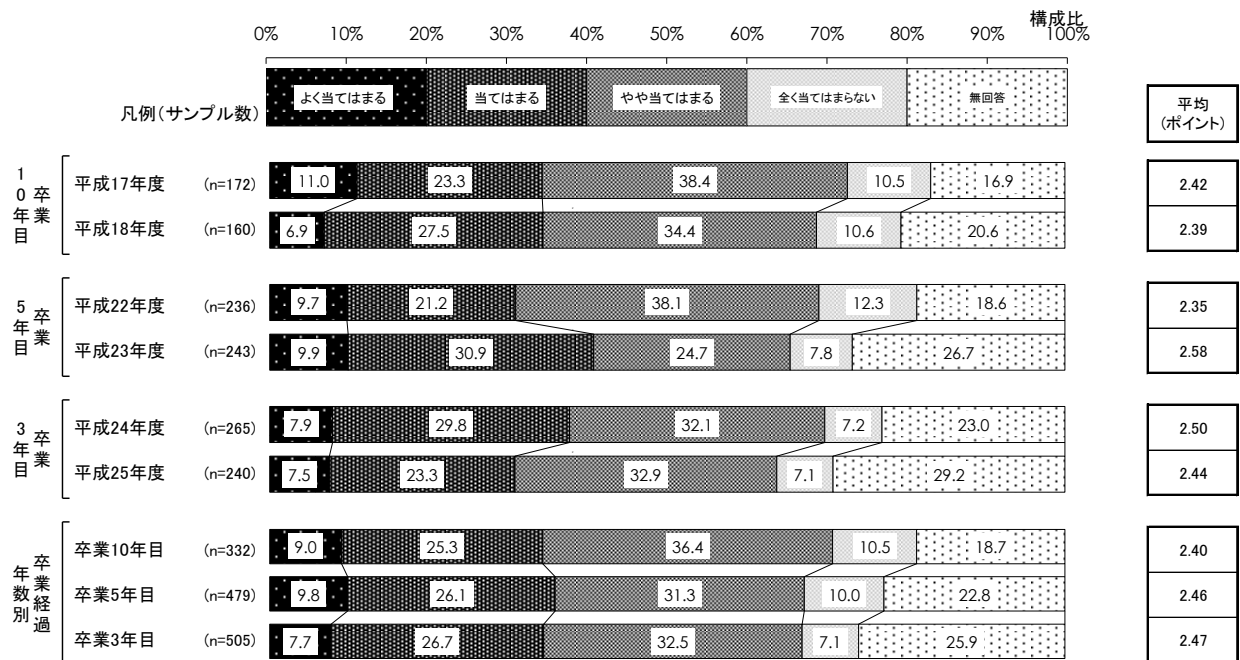
図表 2-215 問題解決に向けて、立案した計画の実現性を吟味できる（S A）



図表 2-216 問題解決すべく計画を推進しながら、
想定外の事態に応じて行動を修正できる（S A）



図表 2-217 問題解決するためにとった行動を振り返り、
課題を把握できる（S A）



図表 2-218 把握した課題を念頭におき、
同様の事態に対して適切に対応できる（S A）

